

## 添加器の作業方法

このホールクロープ用添加器は、乳酸菌や酵素をロールに添加するためのものです、ほかの目的で使用しないでください。

### 1. 仕様

- [1] モータ  
         電圧           DC12V  
         電流           5A
- [2] ポンプ  
         型式           ダイヤフラムポンプ
- [3] タンク容量       50L
- [4] コントローラ   ダイヤル式
- [5] 散布量  
         大量ノズル       1.0~3.1リットル/分  
         中量ノズル       0.5~1.1リットル/分
- [6] ノズルボデー  
                                 液ダレ防止弁付き
- [7] ヒューズ  
                                 管ヒューズ10A(短)

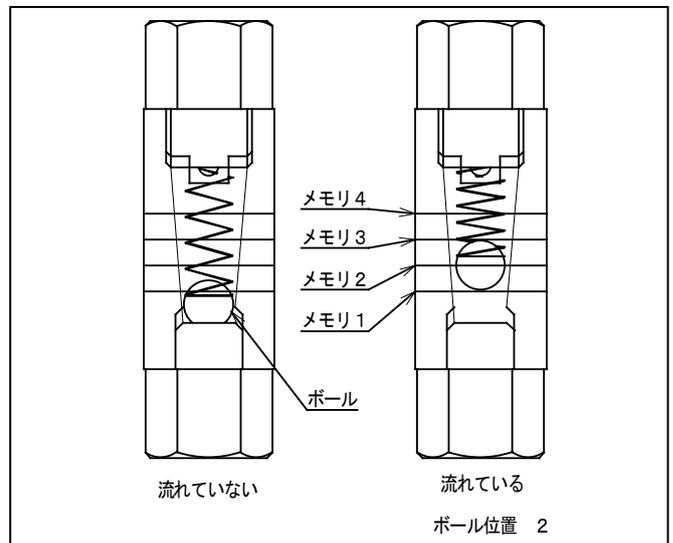
### 2. 作業方法

- [1] 添加量の目安を参考にして、実際の添加量に合わせてノズルチップおよびキャップを選択してください。
- [2] コントローラのノズル選定スイッチを選択したノズルチップに合わせて、A、Bいずれかにセットしてください。
- [3] コントローラの電源をONにしてください。
- [4] 目安表を参考にしてダイヤルを合わせてください。
- [5] 刈り取りを始め、作物がフィードチェーンの後方に送られると穂先センサのスイッチが入り添加されます。作物がなくなればスイッチが切れ、自動的に添加がストップします。

#### 注意

- ・スイッチが切れてもすぐにストップしません。

- ・本機にはウォーターシグナルが付いており、添加剤が流れているか、ボールの位置で流量がわかるようになっています。  
(目安としてください。)



ボールの位置(メモリ)	2	3	4
散布量(リットル/分)	0.4	0.7	1.0

- ・タンクの残量が少なくなるとシグナルに泡が流れます、その時はすぐに添加剤を補給するか、添加器の電源を切ってください。(無水で運転するとポンプ、モータの故障の原因になります)
- ・ホース内にエアーが入ると水が出ないことがあります。図のようにエア抜きを行ってください。

### 3. エアー抜きの方法

タンクが空になりホースにエアーが入った場合、次記の手順に従い、エアー抜きをしてください

- ①バルブのコックを次図のように切り替える。
- ②エアー抜きのスイッチをONにする。
- ③エアー抜きができたならバルブのコックをもとにもどす。

## 添加器の作業方法

### 4. 添加量の目安

ノズル 選定	ノズルチップ No.	ノズルキャップ No.	添加量範囲 (ℓ/分)	添加量調節目盛										
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
A	T11010	T25610	1.0～3.1				1.0			2.0				3.1
B	T11003	T25612	0.5～1.1		0.5				1.0				1.1	
B	T11001	T25612	0.2～0.4	0.2		0.3		0.4						

#### 注意

1. 清水での添加量の目安です。添加剤の種類により添加量が変わることがあります。確認してから作業してください。
2. コントローラの日盛は表の設定を超えても流量は増えず、ポンプに過負荷となります。
3. 目盛が小さいとポンプが動かない場合があります。散布量の多いノズルを使用するか散布する液の濃度を薄くして散布量を多くしてください。
4. ノズルチップ T11001はオプションであり、下記品番で注文が可能です。

31110-9256-100 ショウリョウヨウノズルチップ

ノズルキャップは少量、中量で兼用です。

## 添加器の作業方法

### 5. 不調診断

不調内容	診断	処置
<ul style="list-style-type: none"> <li>●水が出ない</li> <li>●モータが回る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ノズルのつまり</li> <li>●ホース内にゼリー状物質が詰まっている</li> <li>●サクシオンフィルターの詰まり</li> <li>●ホース内にエアが入った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ノズルを分解洗浄する。</li> <li>●ノズルのチップをはずして流し出す。</li> <li>●分解して洗浄する。</li> <li>●ノズル横のキャップを緩めエア抜きをする。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●水がでない</li> <li>●モータが回らない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ダイヤルの目盛が小さい</li> <li>●配線が抜けている</li> <li>●ヒューズが切れている</li> <li>●モータ故障</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ノズルを変更する。</li> <li>●散布液の濃度を薄くする。</li> <li>●配線をチェック修正する。</li> <li>●ヒューズを交換する。</li> <li>●モータを交換する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●水は出るが、噴霧状態が正常でない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サクシオンフィルター、ノズル、チップの部分的な詰まり</li> <li>●溶液中に不純物が混ざっている</li> <li>●ポンプ、調圧弁、循環ホース内にゼリー状物質が詰まっている</li> <li>●ポンプの故障</li> <li>●ホース内にエアが入った</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●分解して洗浄する。</li> <li>●不純物を取り除く。</li> <li>●分解洗浄する。</li> <li>●ポンプを交換する。</li> <li>●ノズル横のキャップを緩めエア抜きをする。</li> </ul>

### 6. メンテナンス

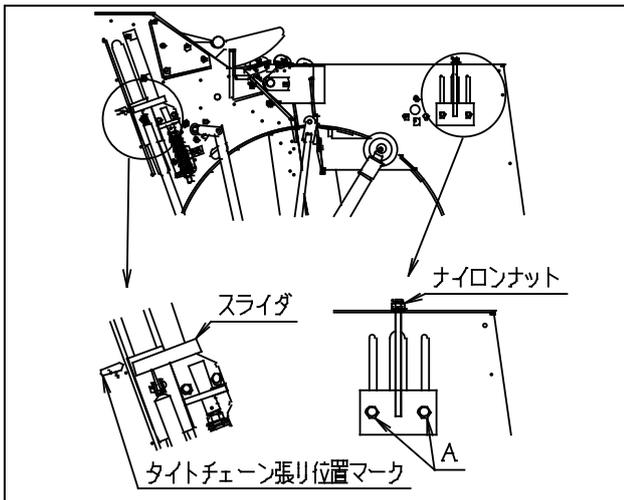
[1] 長期間使用しないときは、タンク、ポンプ、ストレーナー、ウォーターシグナル内を清水で掃除し、寒冷地では必ず水抜きをしてください。しないと故障、破損の原因になります。

# 簡単な手入れと処置

## 1. タイトチェーンの張り調整

タイトチェーンが伸び、シメツケプレートが標準位置より前へ出てきたら、次の要領で調整してください。

- ①Aボルトを緩める。
- ②ナイロンナットを締め込みスライダが次図の位置になるように調整する。
- ③Aのボルトでロックする。



- ④86号機以降は、キースイッチを入れ、キャビン内のコントロールボックスのリセットボタンを長押ししてください。  
下記画面が表示されたら設定完了です。

ポテンショ	シヨキチホゾン
セッテイチ	2. 10V

85号機以前は、表示切換ボタン、戻るボタンを各1回押した後リセットボタンを長押ししてください。

下記画面が表示され電圧値が変わったら設定完了です。

17.ポテンショ	シヨキチ
セッテイチ	2. 10V

### 注意

チェーン張り調整は、チャンバーを閉じた状態で行ってください。調整後は空回しして、上図のようにになっていることを確認してください。

## 2. シェアボルトの交換

各部に過負荷がかかったときボルトがせん断され、本機の損傷を防止します。

### ◆シェアボルトのサイズおよび場所

76ページを参照してください。

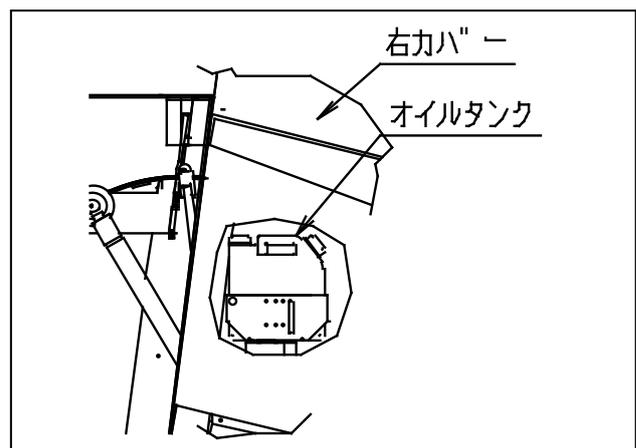
### ◆シェアボルトの交換

- ①カバーを外します。
- ②せん断されたボルトを除去します。
- ③スプロケットを回し、ボルト穴が通る位置にします。
- ④ボルトを入れ、ナイロンナットで締付けます。
- ⑤カバーを取り付けます。

## 3. 自動注油

タイトチェーンには、ロール放出後チャンバーを閉めると5秒間自動注油されます。作業前にベアラを回転させながら注油してください。注油方法は81ページを参照してください。

- ①オイルタンクに約4ℓオイルを入れてください。(右カバー内)  
オイルはエンジンオイルSAE5W-30または10W-30を使用してください。



### 注意

- ・無注油で運転すると、オイルポンプおよびモータの故障になるので絶対に行わないでください。
- ・粘度の高いオイルはモータの故障の原因になるので使用しないでください。

## 簡単な手入れと処置

・注油前に注油ノズル先端のゴミを取り除いてください。

- ①エンジンを低速で回転させてください。
- ②コントロールボックスの注油ボタンを押し20秒程度注油を続け、その後注油ボタンをOFFにします。

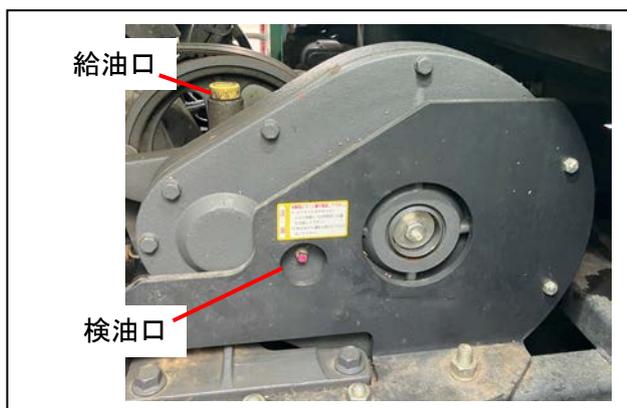
### 4. ミッション給油

使用100時間ごとに全量を交換してください。

オイルはギヤオイル #90を0.8ℓ使用してください。(場所は134ページを参照)

#### ◆点検のしかた

- ①機体を水平にし、検油口のボルトを外し、油面が検油口に達しているか確認してください。(油量は、検油口よりオイルが流れはじめれば、適量です。)



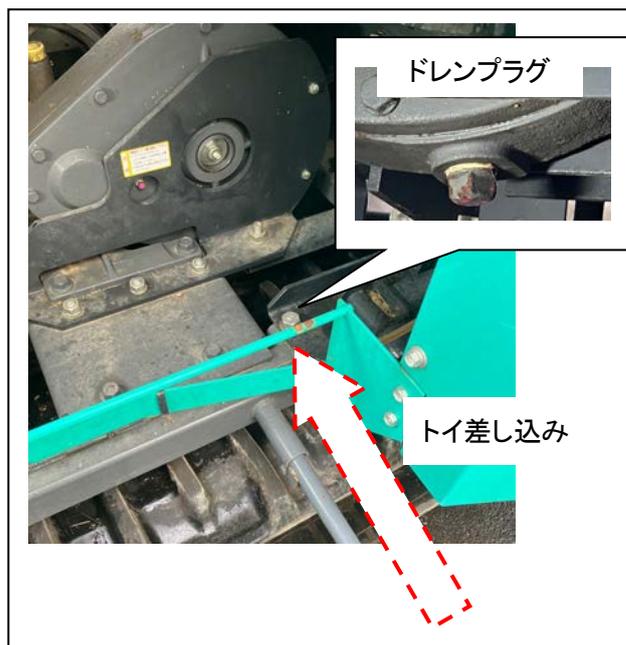
- ②油面が検油口以下の場合は、給油口のふたを外し、給油口からギヤオイルが、検油口に達するまで、補給してください。

#### 注意

- ・ギヤオイルは、検油口以上に入れないでください。
- ③検油口のボルトを締め付けてください。

#### ◆交換のしかた

- ①ドレンプラグの下にトイを差し込んでください。



- ②トイの下に、古いオイルを受ける容器を置いてください。
- ③給油口のふたを外した状態で、ドレンプラグを外し、オイルを排出してください。
- ④オイル排出後、ドレンプラグを締め付け、給油口より規定量に達するまで、オイルを入れてください。
- ⑤給油口のふたを取り付けてください。

# 簡単な手入れと処置

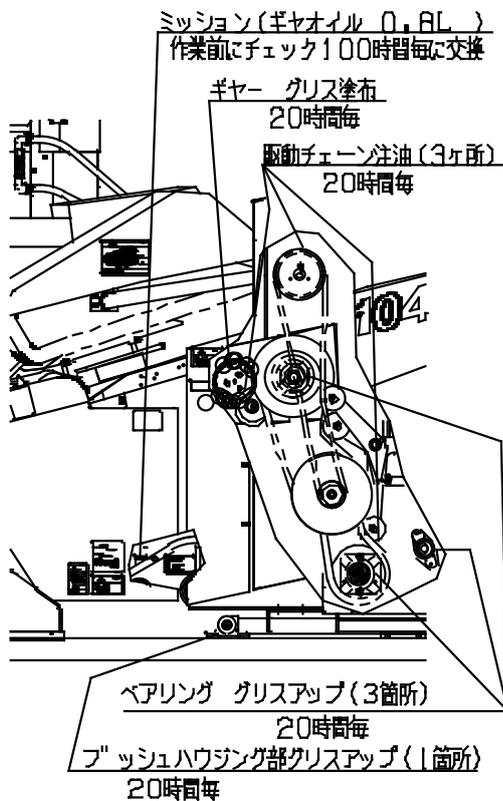
## 5. 各部の注油・グリスアップ

次図に従って各部に注油・グリスアップを行ってください。

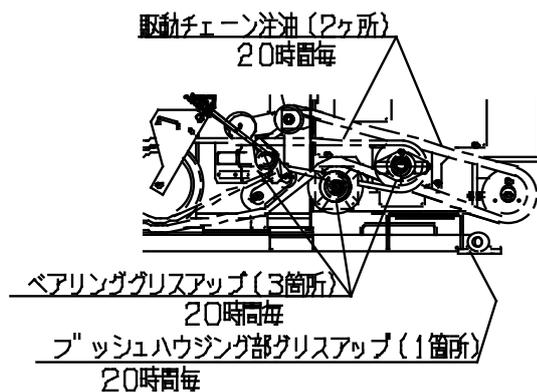
### 警告

点検・調整をするときは、必ずベアラクラッチを切り、エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜いてください。これを怠ると重大な傷害事故を引き起こすおそれがあります。

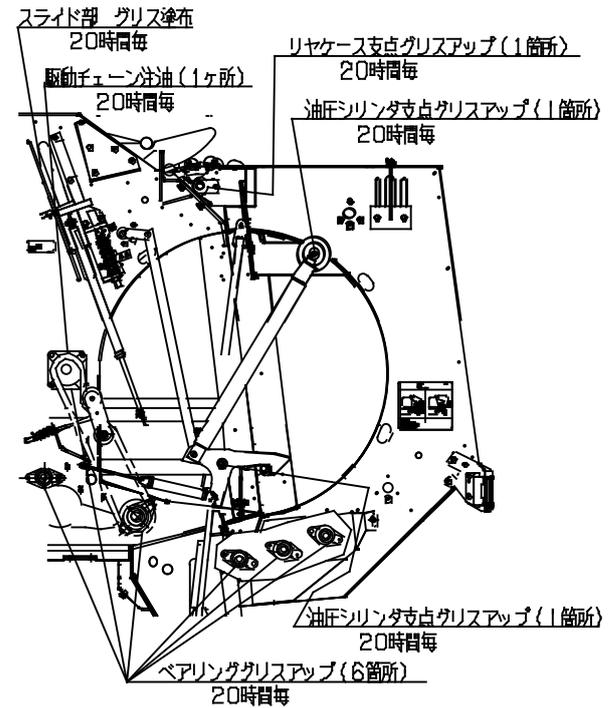
### 〔ロールベアラ左前部〕



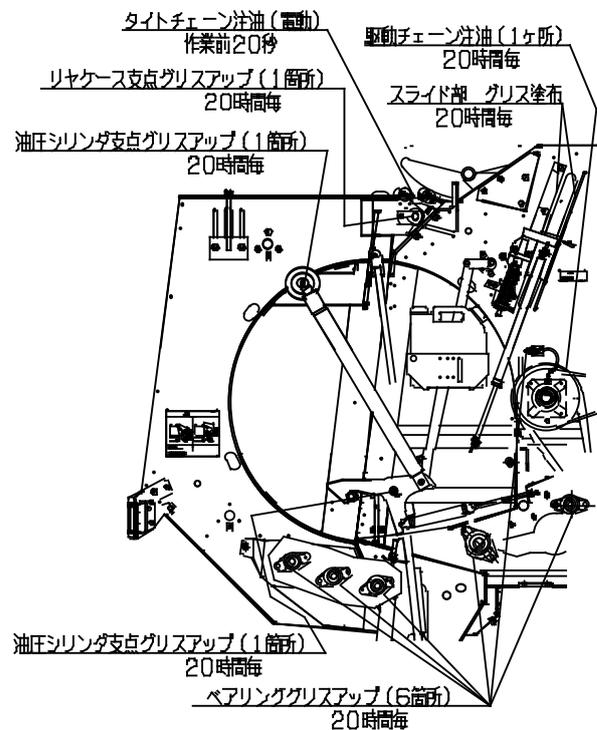
### 〔ロールベアラ右前部〕



### 〔ロールベアラ左後部〕



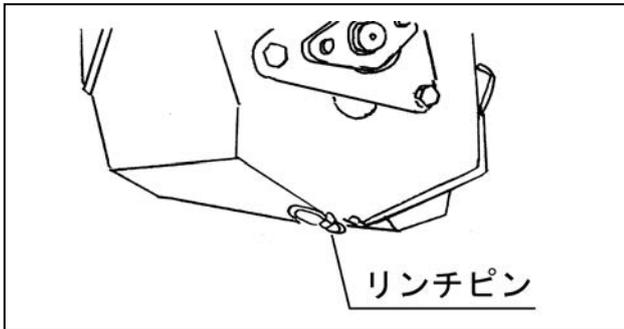
### 〔ロールベアラ右後部〕



## 簡単な手入れと処置

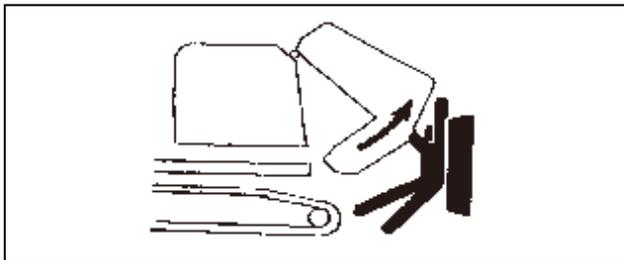
### 6. 各部の清掃のしかた

リアチャンバーを開き、折返し部の左右のリンチピンを取り外し、中に溜まった残留物を取り除いてください。



### 警告

チャンバーの開閉は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認してください。

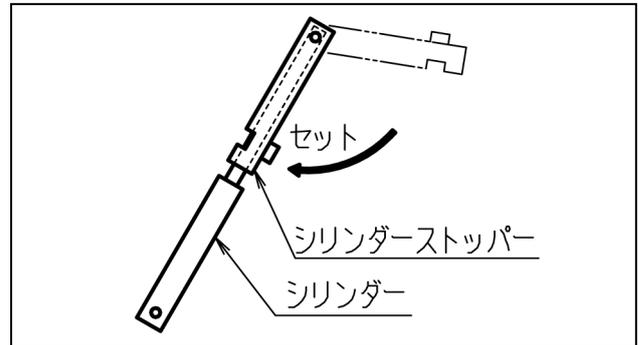


- 刈取部・チャンバーを上げて点検等を行うときは、必ずシリンダーストッパーをセットしてください。  
守らないと傷害事故を引き起こすおそれがあります。

### 注意

- 堆積した収穫物を掃除しないまま放置しておく、雑菌がロールに混入し、サイレージ品質を劣化させるおそれがあります。また、タイトチェーンの油を堆積した収穫物が吸収してしまい耐久性を損なう原因にもなりますので、必ず掃除してください。

- リヤケースを開いたまま点検する時は、必ずシリンダーストッパーをセットしてください。



### ◆電磁バルブ周辺の清掃

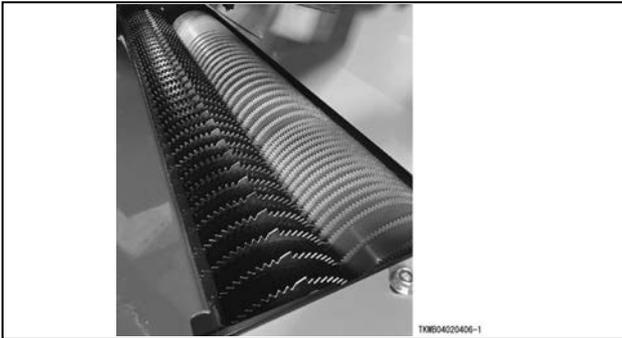
電磁バルブ周辺に溜まったホコリ等をエアガンまたはブロワ等で、除去してください。



## 簡単な手入れと処置

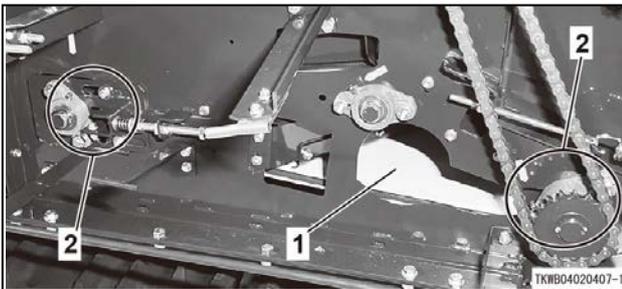
### ◆カッタ部の掃除のしかた

刃と刃の間に太い幹や異物が挟まって残っている場合は、ペンチなどで除去してください。

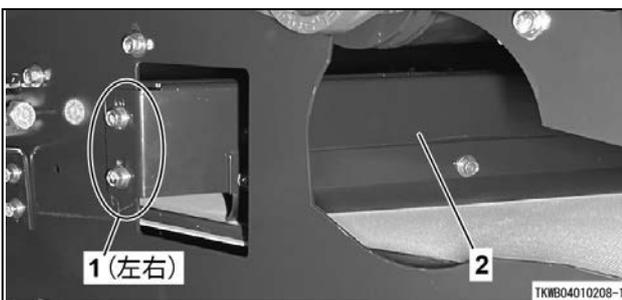


### ◆コンベアベルト内側の掃除のしかた

①コンベアベルト(1)の内側に材料が堆積、コンベアロール(2)に材料が巻き付いている場合は除去してください。

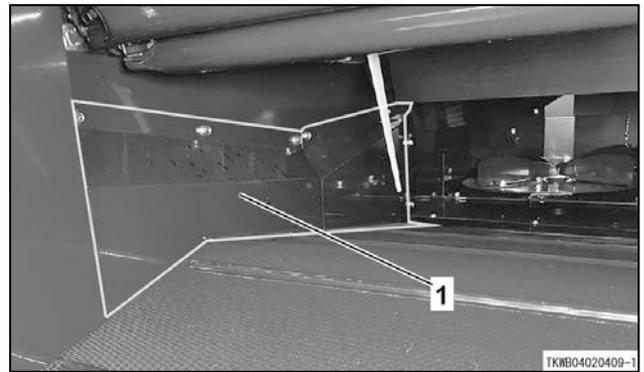


②ボルト8×30(1) (左右 各2箇所)をはずし、スクレパー(2)を取りはずすと掃除がしやすくなります。

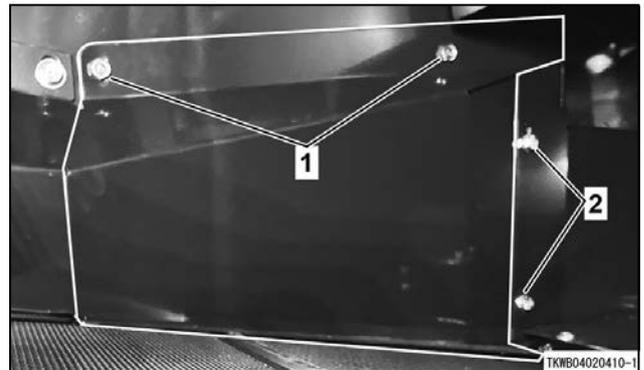


### ◆コンベアベルトカバー内側の掃除のしかた

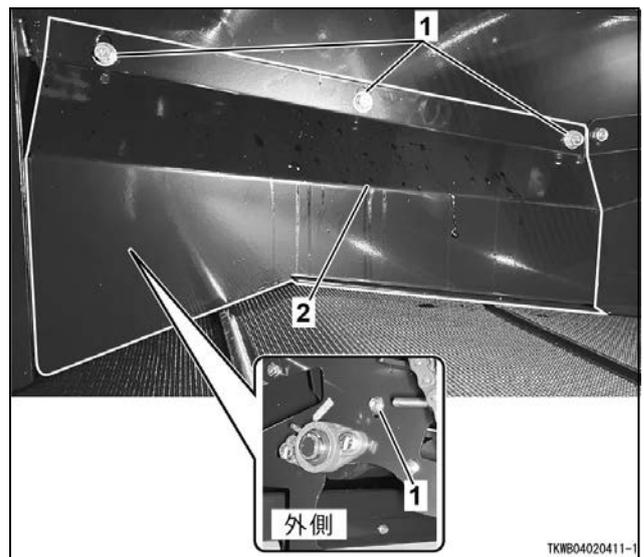
①コンベアベルトカバー(1)の内側に材料が堆積している場合は取り除いてください。



②ボルト8×20(1) (2箇所)、ボルト6×12(2) (2箇所)を外してベルトカバーRF、LF(3)をはずします。

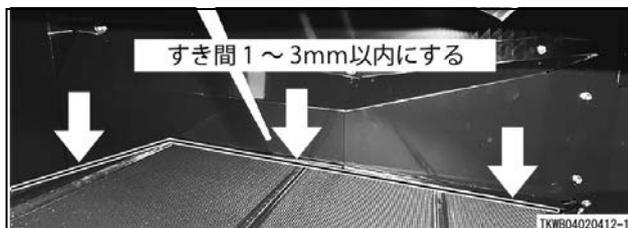


③ボルト8×16(1) (4箇所)を外してベルトカバーL、R(2)をはずします。



## 簡単な手入れと処置

- ④ 堆積した材料を取り除いてカバーをもとに戻します。カバーを戻す時は、カバーとコンベアベルトの隙間を調整してください。



### ⚠ 注意

- \* コンベアベルトにカバーが接触しないように調整してください。  
ベルトが破損するおそれがあります。
- \* コンベアベルトとカバーのすき間は1mmを基準とし、3mmを越えないように調整してください。  
すき間が大きすぎると、材料がコンベアベルトの内側に堆積し、ベルトが破損するおそれがあります。

# メンテナンス

## 1. 定期点検と処置

定期点検は、収穫作業を行う人が定期的に行う点検です。収穫機は使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくとう故障や事故の原因となり、ひいては収穫機の寿命を短くしてしまいます。

収穫機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行いましょう。

## 2. 各部の開閉と着脱のしかた

### 警告

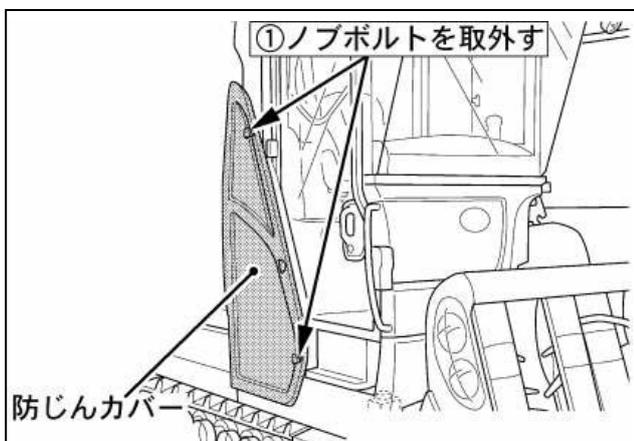
- 平たんな場所で、機械の移動や各部を動かすとき以外は、エンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- 傾斜地では、開閉しないでください。
- 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

### ■ 防じんカバーの開閉と脱着

#### ● 防じんカバーの開閉

#### ◆ 開きかた

ノブボルトを取り外して防じんカバーを開いてください。



### 重要

防じんカバーの網の部分を押すと網が変形します。

#### ◆ 閉じかた

防じんカバーを完全にロックするまで閉じてください。

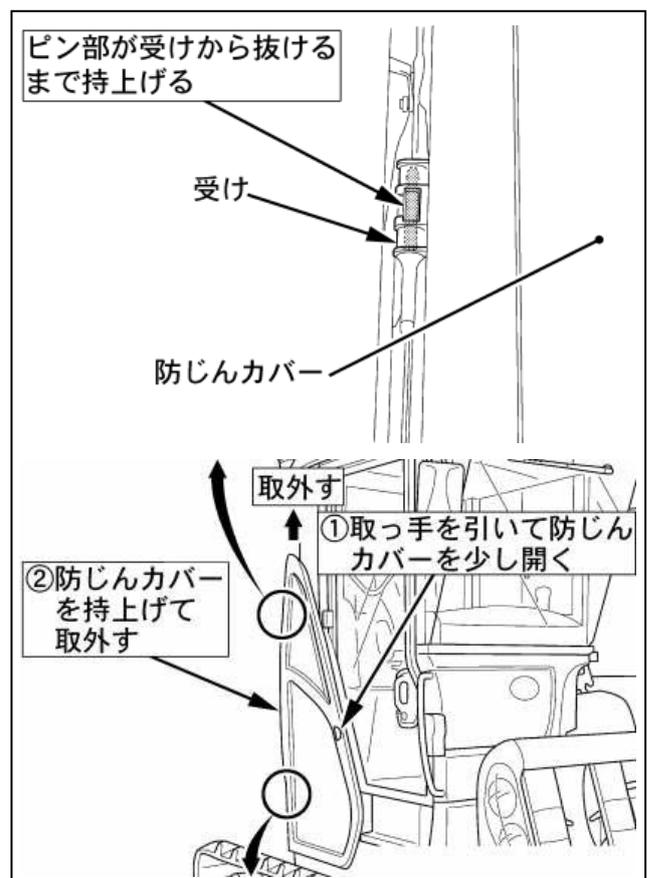
### 重要

防じんカバーにノブボルトを取り付けていない状態で走行すると、防じんカバーが開いて障害物に接触して破損するおそれがあります。

#### ● 防じんカバーの脱着

#### ◆ 取外しかた

ノブボルトを取り外して防じんカバーを開いた状態で、両手で持上げて取り外します。



# メンテナンス

## 重要

防じんカバーの網の部分を持つと網が変形します。

## ◆取付けかた

取り外したときと同じ位置で、防じんカバーの上下の受けをピン部に挿し込んで取り付けたあと、防じんカバーにノブボルトを取り付けます。

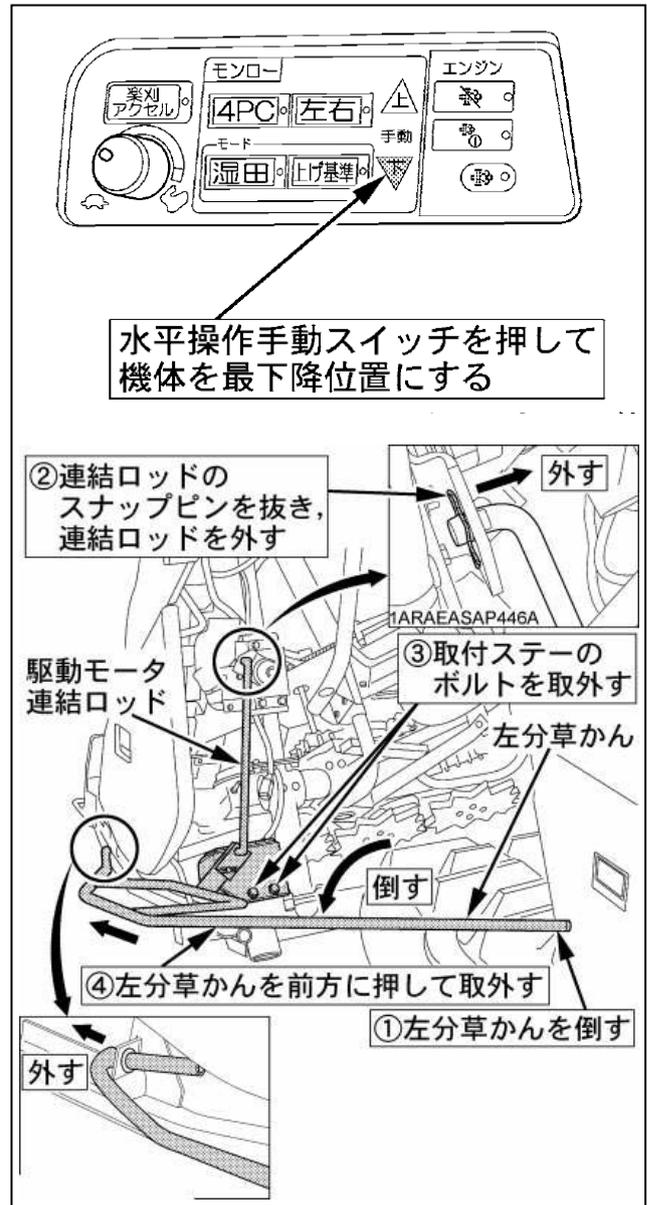
## ■刈取部の開閉

### 警告

- \* 刈取部を開閉するときは、平たんで安全な場所で、刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \* 傾斜地では、刈取部の開閉を行わないでください。
- \* 刈取部を開いた状態で作業を行う場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- \* 刈取部を開いた状態で作業する場合は、刈取部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。刈取部が閉じると体をはさまれてケガをすることがあります。
- \* 刈取部を開いた状態で走行をしないでください。
- \* 刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- \* 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

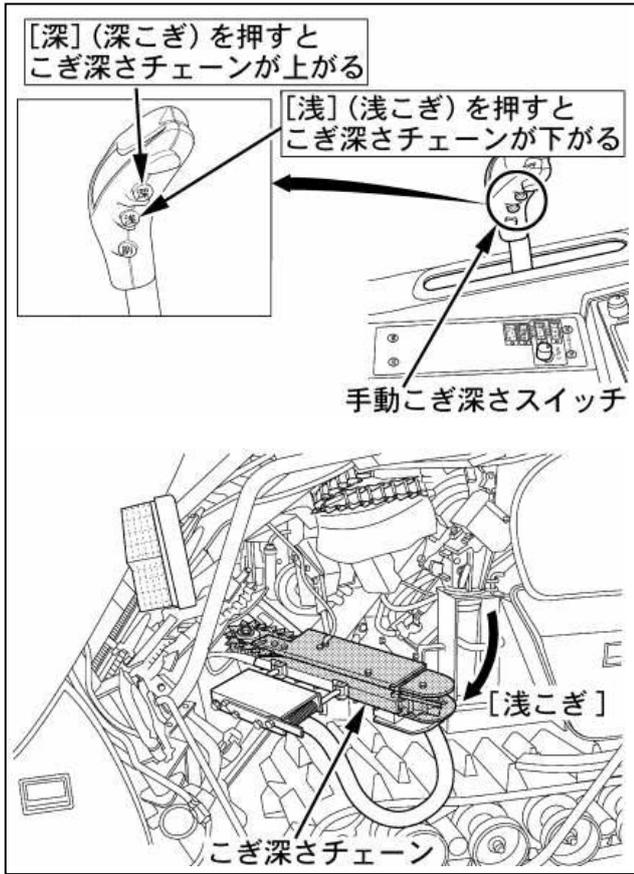
## ◆開きかた

1. エンジンを始動したあと、機体を最下降位置まで下げます。
2. 刈取部を地面まで降ろしたあと、エンジンを停止します。
3. 左分草かん前を取り外します。

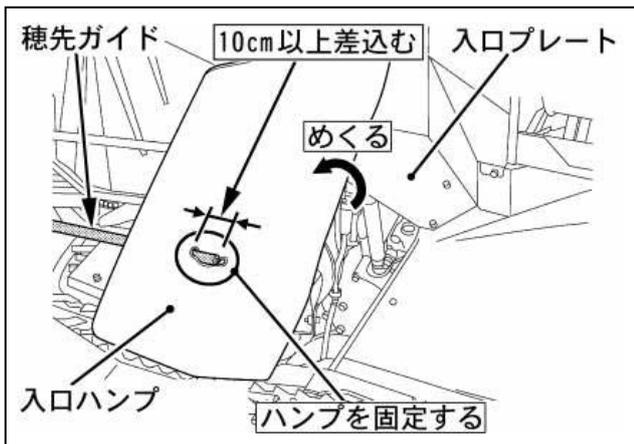


4. メインスイッチのキーを[入]位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチの[浅]を押してこぎ深さチェーンを最下降(浅こぎ側)位置にします。そのあと、メインスイッチのキーを[切]位置にします。

# メンテナンス



5. ベーラ左サイドカバー上1、下1を取り外します。
6. 入口ハンブをめくり、穂先ガイドに10cm以上挿し込みます。



## 重要

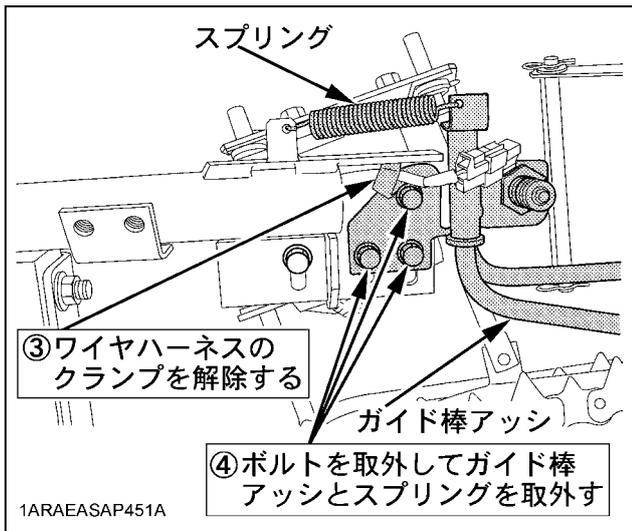
入口ハンブをめくらずに刈取部の開閉を行うと、脱こく入口ハンブと入口プレートが接触し、穂先ガイドカバーが破損するおそれがあります。

7. 株元払出し棒を取り外します。

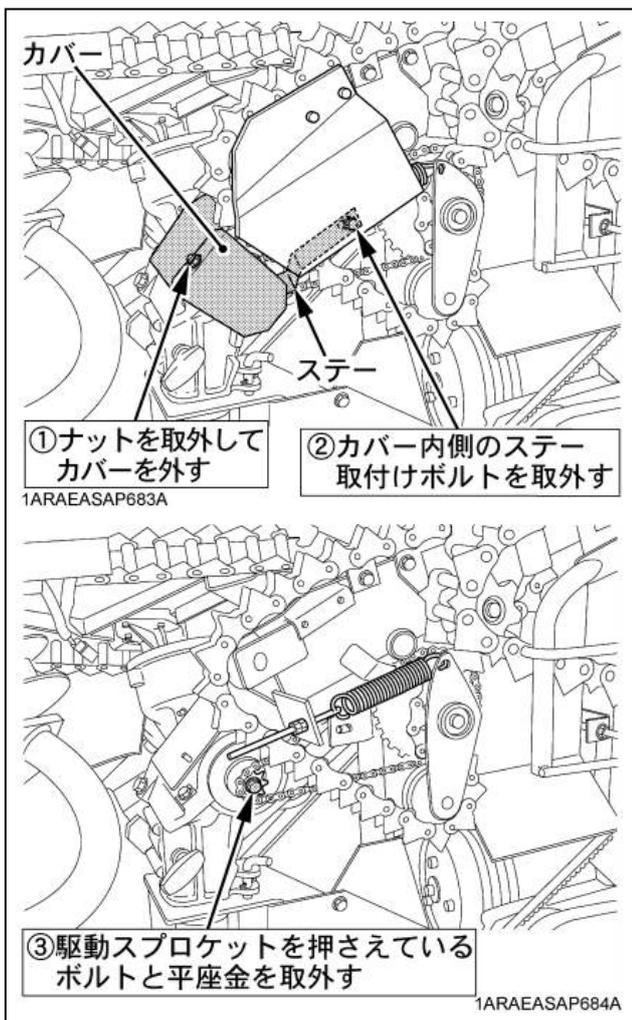


## メンテナンス

8. 板バネ、カプラ、ガイド棒アッシ、スプリングを取り外します。

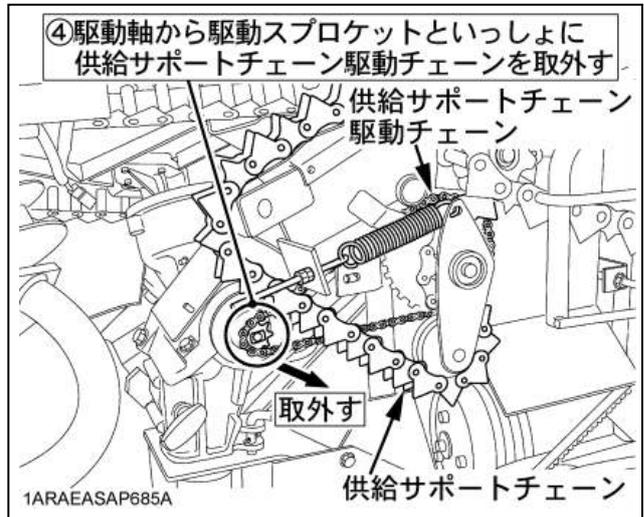


9. 供給サポートチェーン駆動チェーンの駆動スプロケットを取り外します。



### 重要

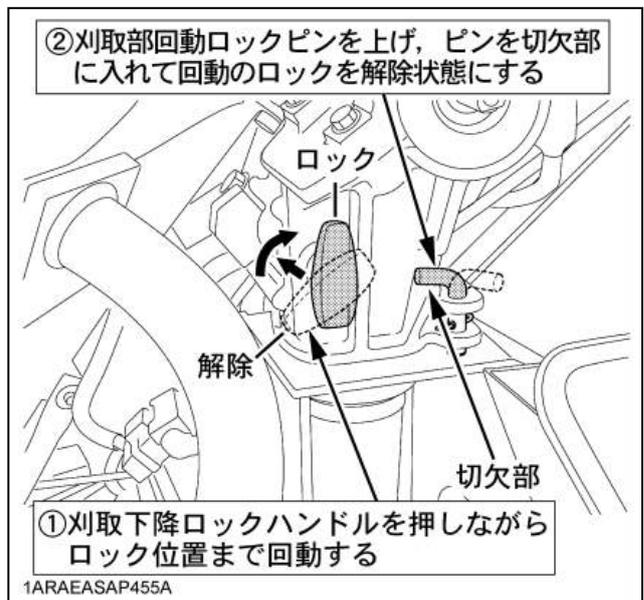
補強ステーを固定しているボルトを取り外し忘れると、刈取部を開くときに補強ステーが引張られて破損するおそれがあります。



### 補足

供給サポートチェーン駆動チェーンは駆動スプロケットに取り付けた状態で、そのまま垂らしておいてください。

10. エンジンを始動したあと、刈取部を最上昇位置にします。
11. 刈取下降ロックハンドルをロック位置にします。



# メンテナンス

## 補 足

回動ロックピンがロック状態で刈取部を回動すると、回動ロックピンが変形したり、ケースが破損するおそれがあります。

- 1 2. パワーステアリングレバーで刈取部の下降が停止するまで下げます。このとき、下降が停止したあとも2～3秒間パワーステアリングレバーを押さえ続けてからエンジンを停止します。

## 補 足

油圧シリンダの残圧が残っていると、閉じるときに刈取フレームと油圧シリンダの取付ピンの穴位置が合わなくなるおそれがあるため、2～3秒間はパワーステアリングレバーを押さえ続けてください。

- 1 3. メインスイッチのキーを[入]位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを最上昇(深こぎ側)位置にします。
- 1 4. 刈取フレームから油圧シリンダを外します。

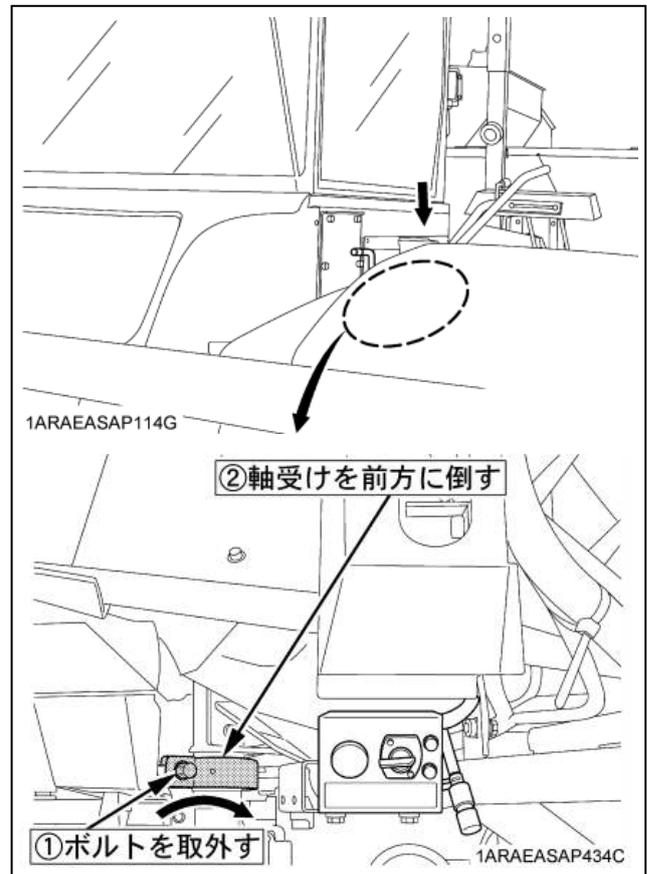


- 1 5. 手動こぎ深さスイッチでこぎ深さチェーンを最下降(浅こぎ側)位置にします。そのあと、メインスイッチのキーを[切]位置にします。

## 重 要

刈取部を開いたとき、こぎ深さチェーンが本機側に接触し、破損するおそれがあります。

- 1 6. 右側の軸受けを外します。

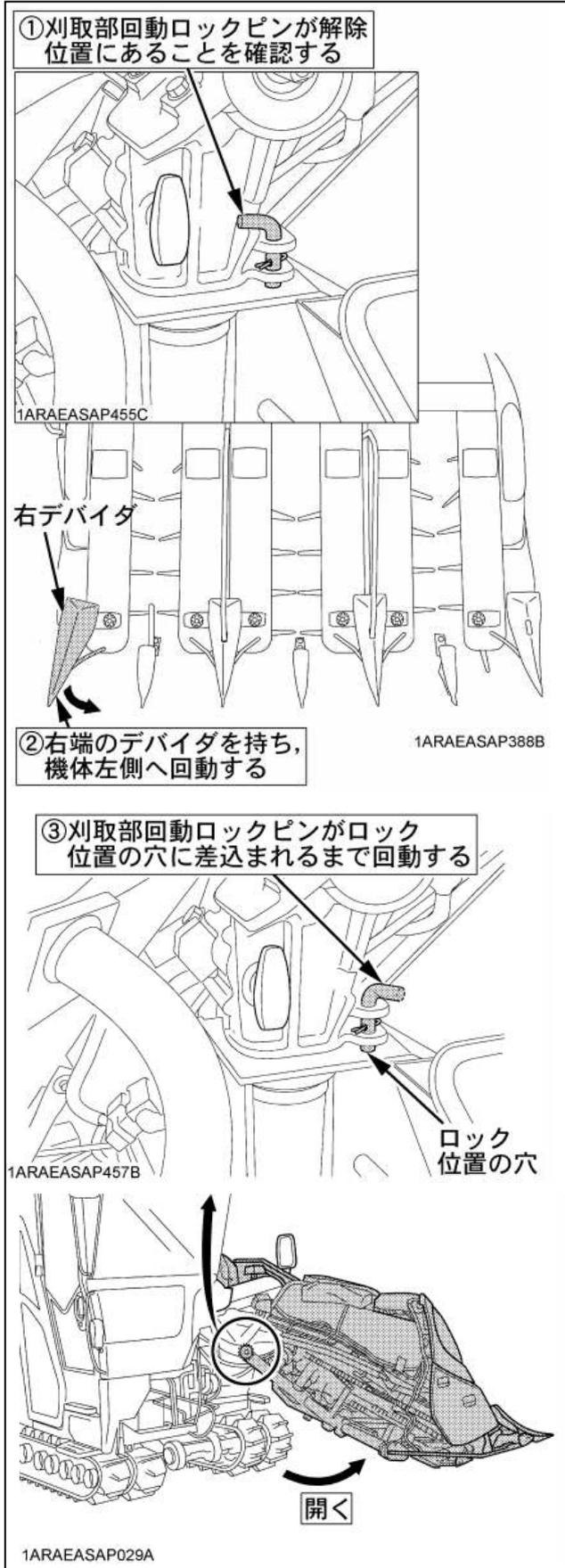


## 補 足

ボルトの取り外し作業は、機体左側から通常工具でも行えますが、運転席左側から行う場合の専用工具については、購入先に相談してください。

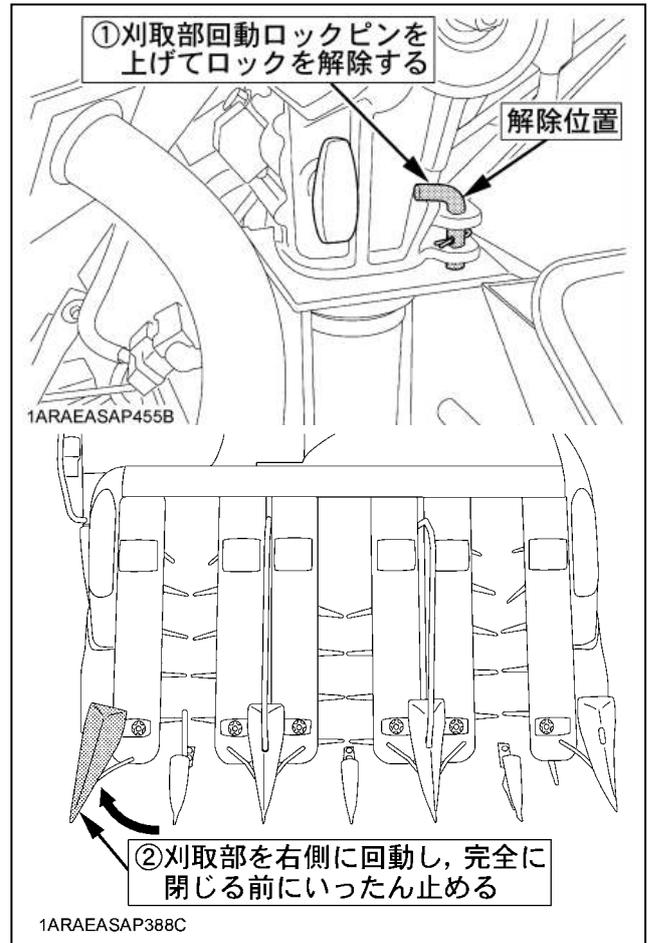
# メンテナンス

## 17. 刈取部を開きます。



## ◆閉じかた

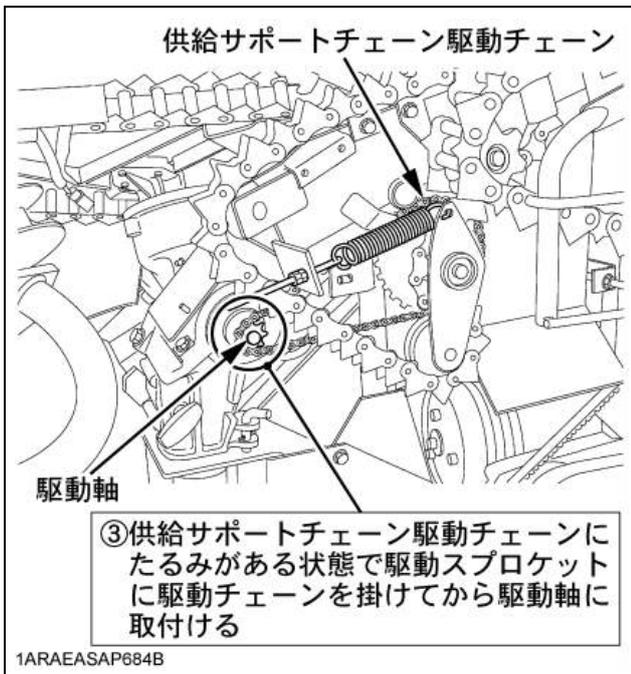
### 1. 刈取部を閉じます。



## 重要

回転ロックピンがロック状態で刈取部を回転すると、回転ロックピンが変形したりケースが破損するおそれがあります。

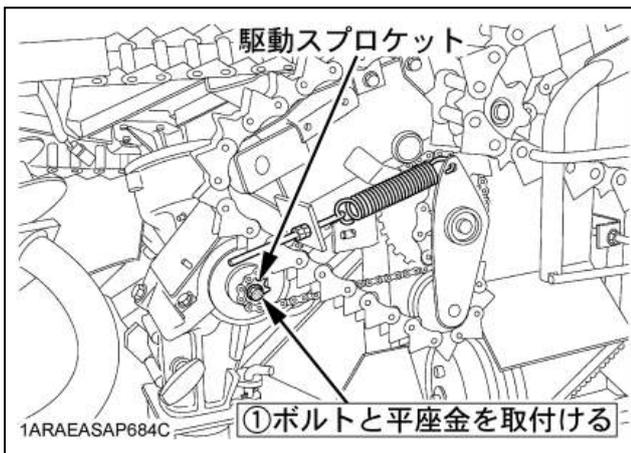
# メンテナンス



## 補 足

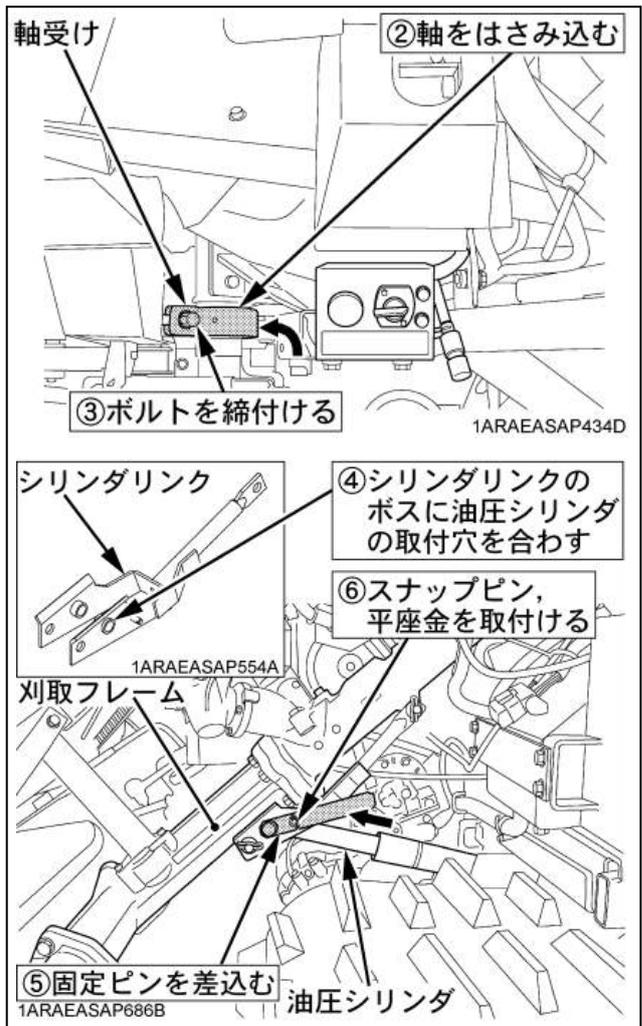
刈取部を完全に閉じると、駆動スプロケットの取り付けが困難となるため、必ず刈取部を閉じる前に駆動スプロケットを駆動軸に取り付けてください。

2. 駆動スプロケットのボルト、平座金の取り付けを行います。



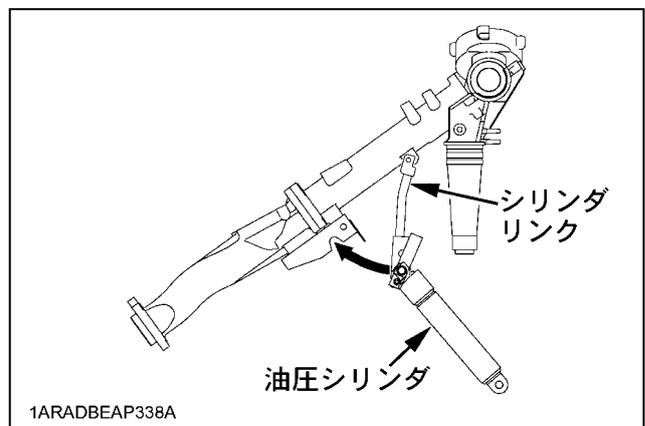
## 補 足

軸受けを上げる前に軸受けにグリスを塗布してください。



## 補 足

油圧シリンダが伸びたりして、穴位置が合わないときは、刈取部を再度開いて、油圧シリンダを最圧縮し、シリンダにシリンダリンクを取り付けてください。



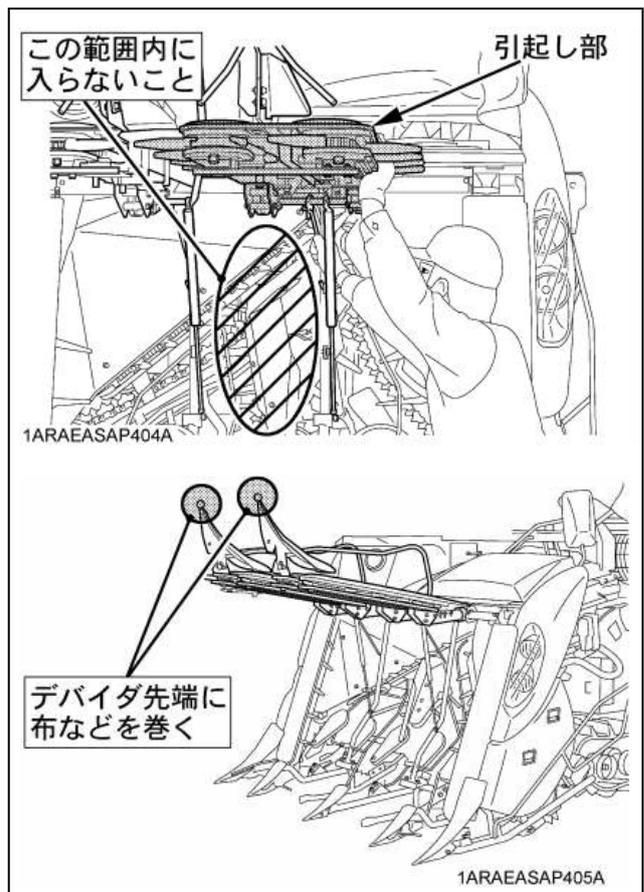
3. 開きかたの逆の手順で各部品やカバー類を取り付けます。

# メンテナンス

## ■ 引起し部の開閉

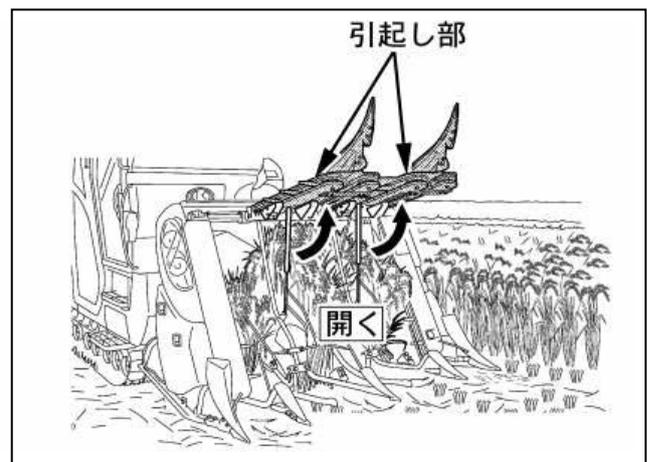
### ⚠ 警告

- \* 引起し部の開閉を行うときは、平たんで安全な場所で、エンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。刈取部が動くとケガをするおそれがあります。
- \* 傾斜地では、引起し部の開閉は行わないでください。
- \* 引起し部を分解した状態で開閉は行わないでください。開くときは、引き起こし部に手を添えた状態で最上昇位置まで持ち上げて固定してください。途中で手を離すと引き起こし部が勢いよくあがり、体に当たるとケガをするおそれがあります。オプション部品のスイスイデバイダを装着している場合は特に注意してください。
- \* 引起し部の開閉作業中は、引起し部の下の位置で作業をしないでください。引起し部が落下すると体をはさまれてケガをするおそれがあります。
- \* 引起し部を開いた状態で作業するときは、デバイダの先端部に布などを必ず巻きつけてください。
- \* 引起し部を開いたときは、引起し部が落下しないようにストッパを必ず掛けてください。引起し部が落下すると体をはさまれてケガをするおそれがあります。
- \* 引起し部を開いた状態で走行をしないでください。
- \* 引起し部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- \* 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。



### 補 足

刈取部にわら詰まりが発生したときは、引起し部を開き、わらを取り除いてください。また、必要に応じて刈取部のメンテナンスを行うときに引起し部を開いてください。



# メンテナンス

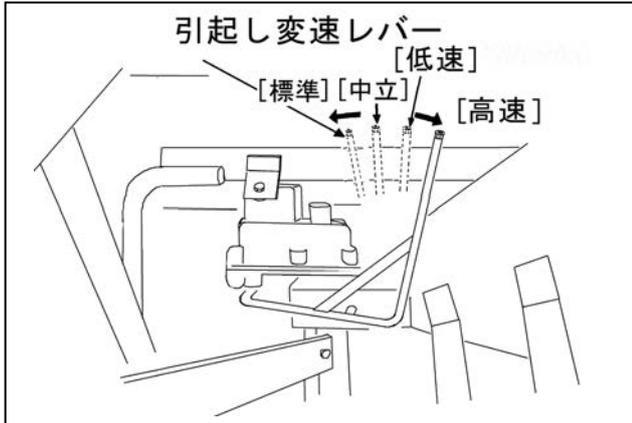
## ◆開きかた

1. 刈取部を地面から5～10cmの高さまで降ろしたあと、エンジンを停止します。

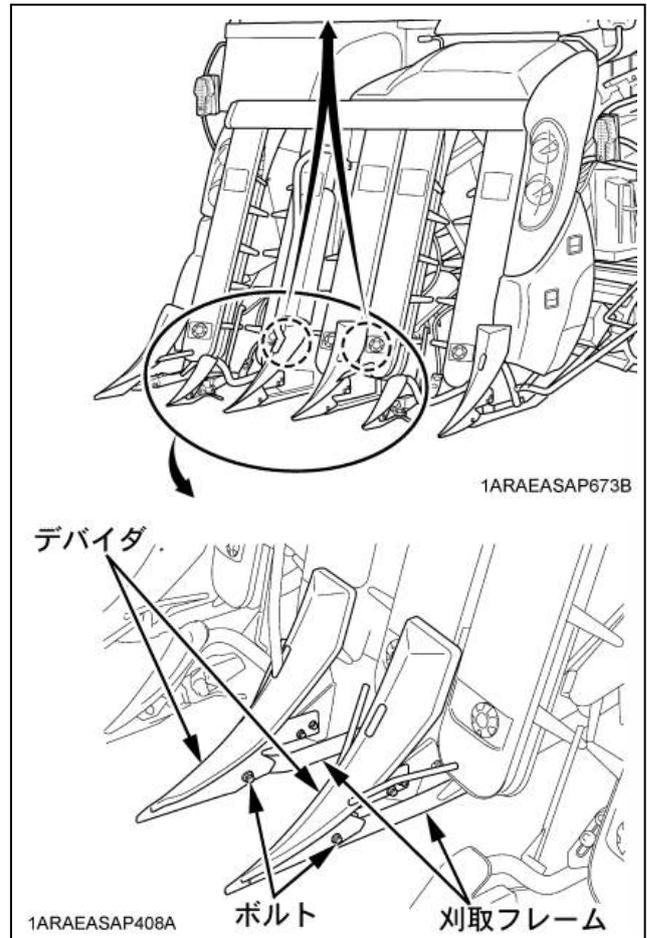
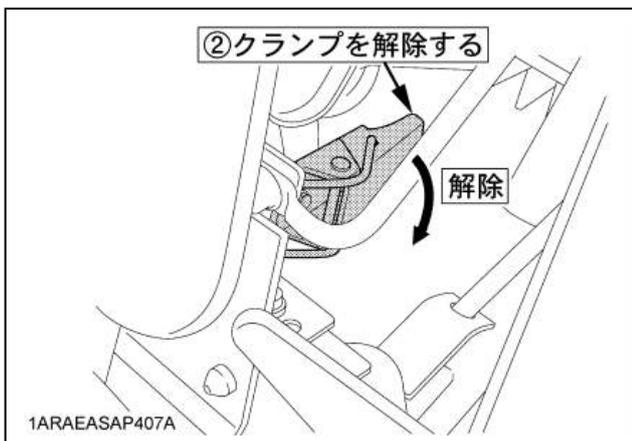
### 補 足

刈取部を地面に着くまで降ろすと、引起し部を開くことができません。

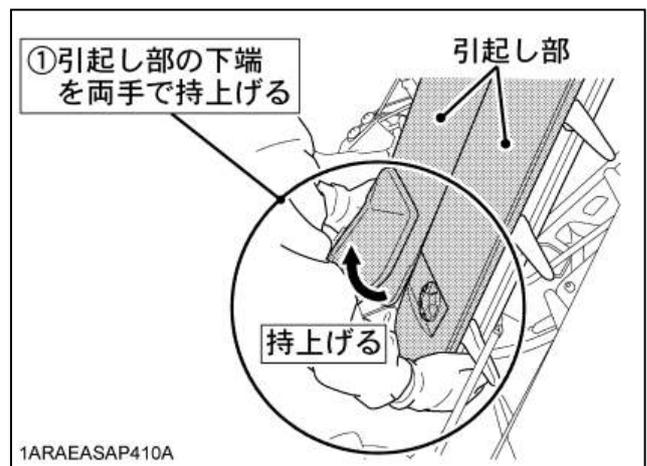
2. 引き起こし変速レバーを[中立]にします。



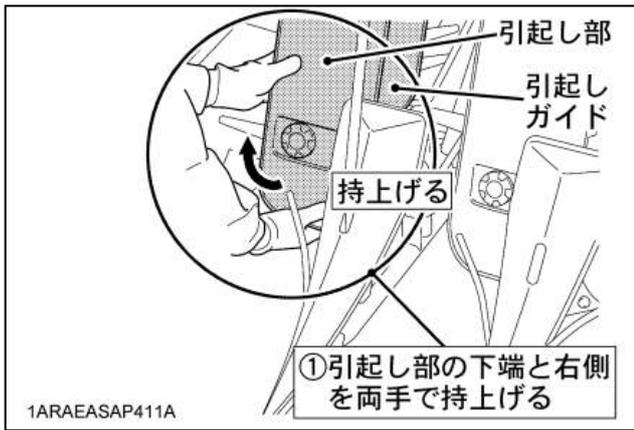
3. 刈取部の中央にある引起し部のデバイダと刈取フレームを固定しているボルト(2箇所)を取り外したあと、クランプを解除します。



4. 引起し部を持上げて開きます。  
引起し部を開くときは、必ず右側の引起し部を先に開いてください。

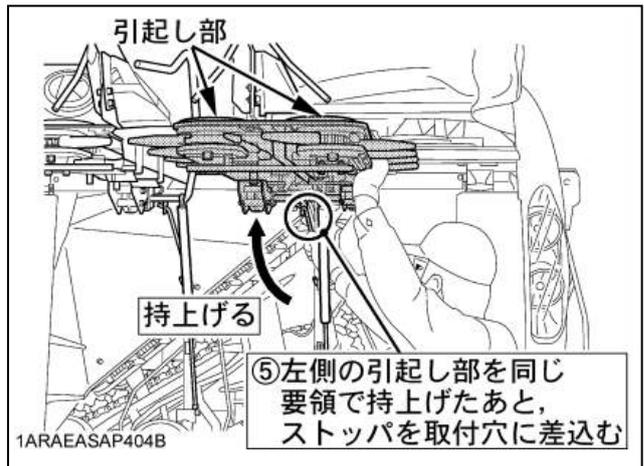
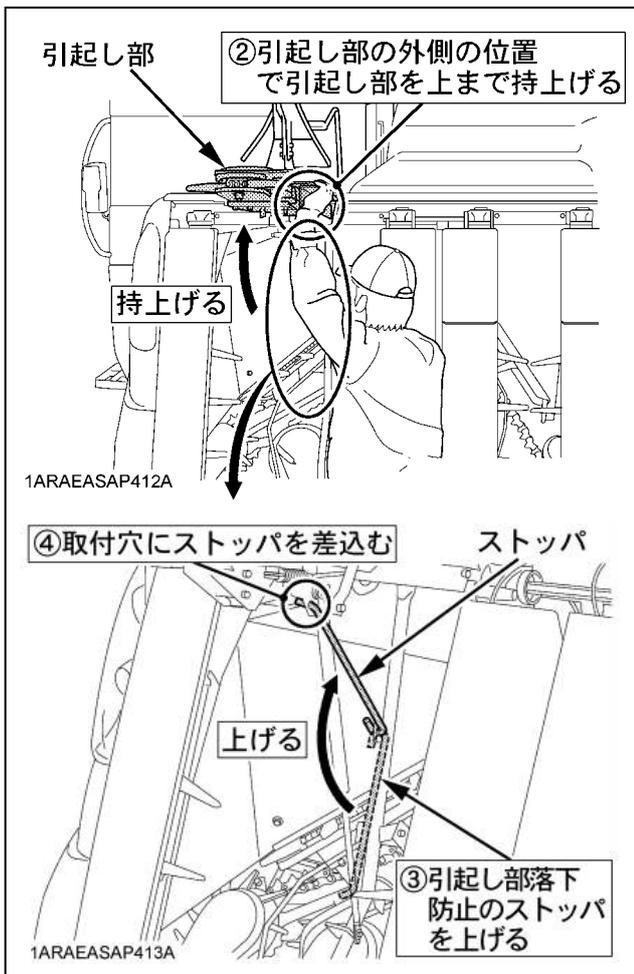


# メンテナンス



## 重要

引きし部を持ち上げるとき、デバイダを持ち上げないでください。デバイダの取付部が曲がるおそれがあります。

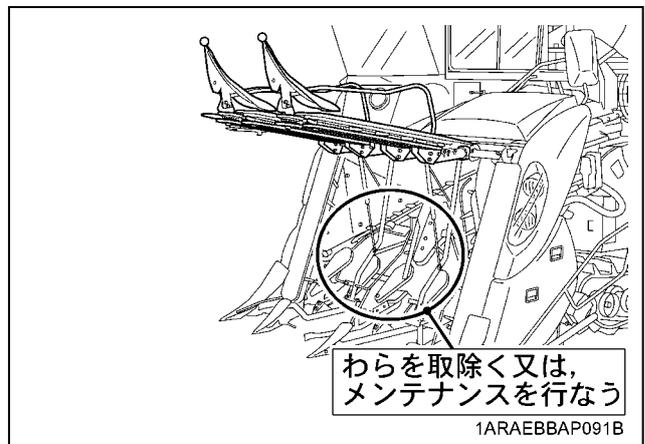


## 重要

左側の引きし部を先に開くと、引きし爪が右側の引きしガイドに接触し、引きしガイドが破損するおそれがあります。

## 補足

詰まったわらを取り除く、またはメンテナンスを行ってください。



# メンテナンス

## ◆閉じかた

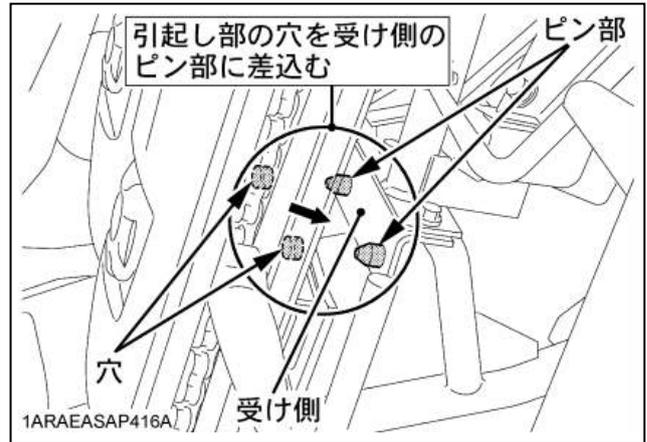
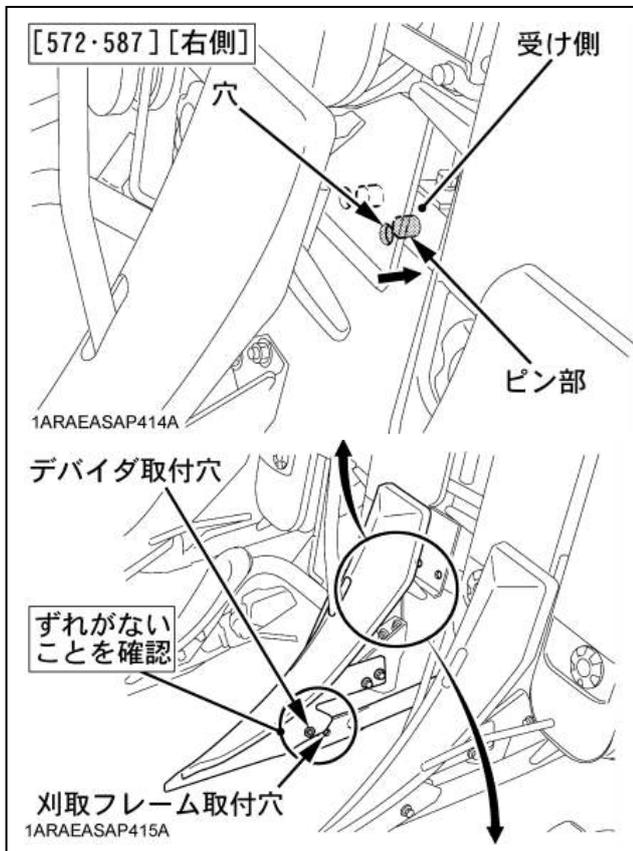
開きかたと逆の手順で閉じてください。

### 重要

- \* 引起し部を閉じるときは、左側から閉じてください。
- \* 引起し部を閉じたときは、クランプとボルトで確実に引起し部と刈取フレームを固定してください。
- \* 引起し部を閉じるときは、ゆっくりと閉じて最後まで手を離さないでください。勢いよく閉じると、引起し爪が刈取フレームの丸棒に接触して破損するおそれがあります。

### 補足

- \* 引起し部を閉じたあと、刈取フレームにデバイダをボルトで固定するとき、取付穴にずれがあるときは、引起し部を受け側にきちんとセットしてください。



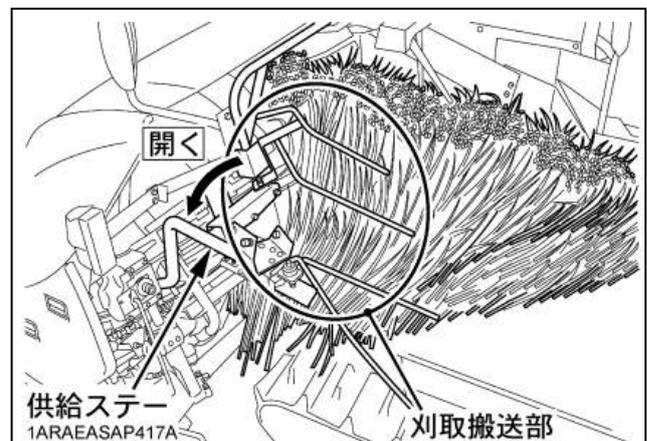
## ■刈取搬送部の開閉

### 警告

- \* 刈取搬送部の開閉を行うときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \* 刈取搬送部を開いた状態で走行をしないでください。

### 補足

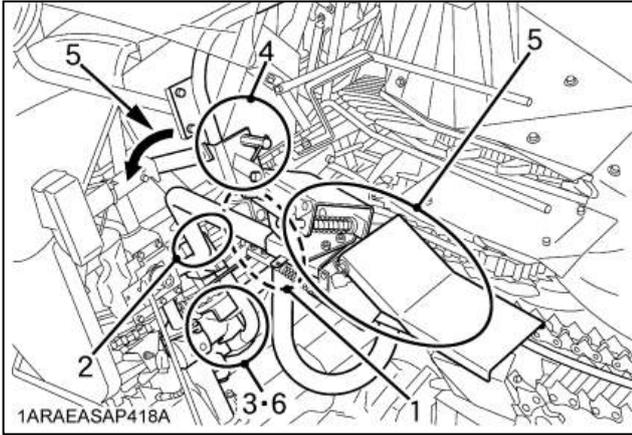
- 刈取搬送部にわら詰まりが発生したときは、供給ステーを開き、わらを取り除いてください。



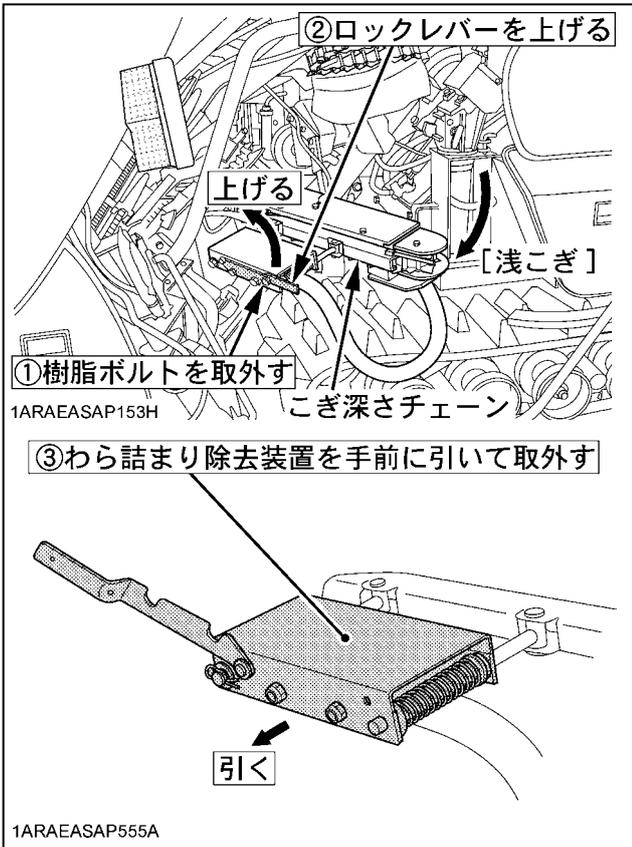
# メンテナンス

## ◆開きかた

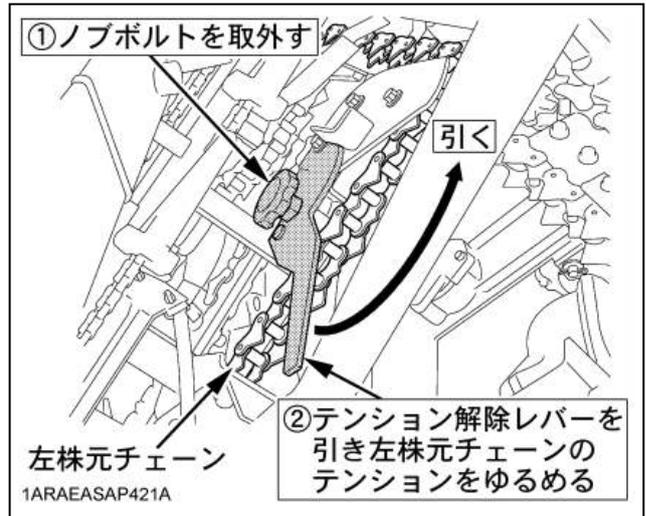
機体、左分草かんおよび刈取部を最下降位置にし、作業レバーを[切]位置にしてこぎ胴を詰まり除去位置にしたあと、こぎ深さチェーンを最下降(浅こぎ側)位置にしてエンジンを停止します。そのあと、次図の手順に従って刈取搬送部を開きます。



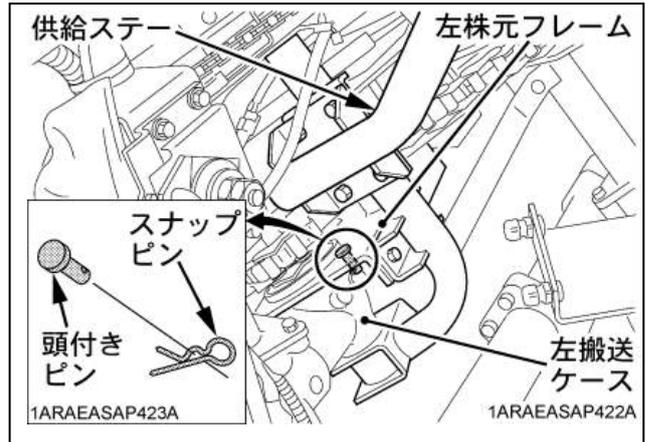
1. こぎ深さチェーンのわら詰まり除去装置を取り外します。



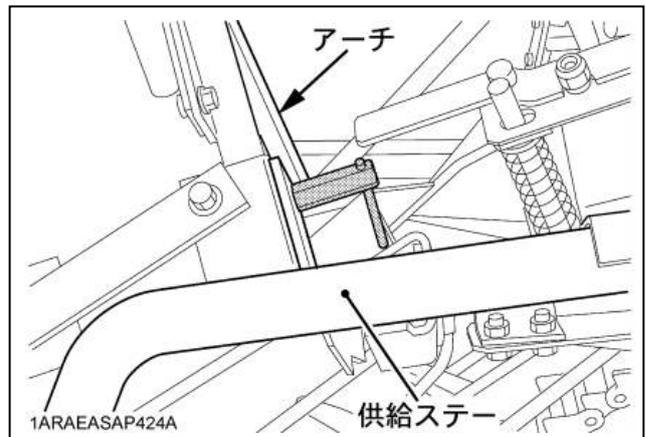
2. 左株元チェーンのテンションを緩めます。



3. 左株元フレームと左搬送ケースを固定している頭付きピンとスナップピンを取り外します。



4. アーチに固定しているジャッキボルトを取り外します。

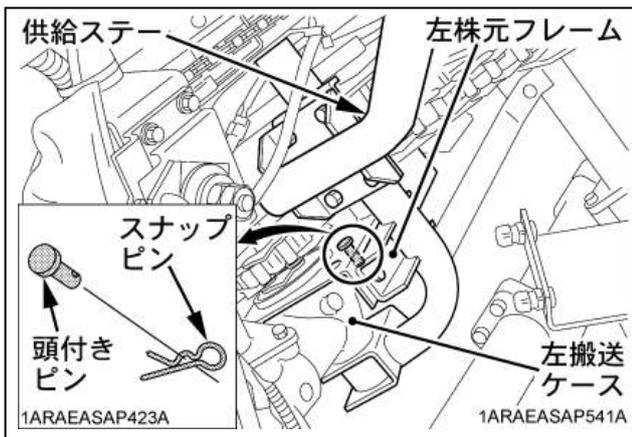


## メンテナンス

5. ガイド棒を前方に少し持ち上げた状態で、供給ステーといっしょに手前に引きます。



6. 供給ステーを開いた状態で左株元フレームと左搬送ケースに頭付きピンとスナップピンを取り付けて供給フレームを固定します。



### 補足

詰まったわらを取り除いてください。

### ◆閉じかた

開きかたと逆の手順で取り付けてください。

### 重要

取り外した各部品やカバー類は必ず取り付けてください。

## ■運転操作部の開閉

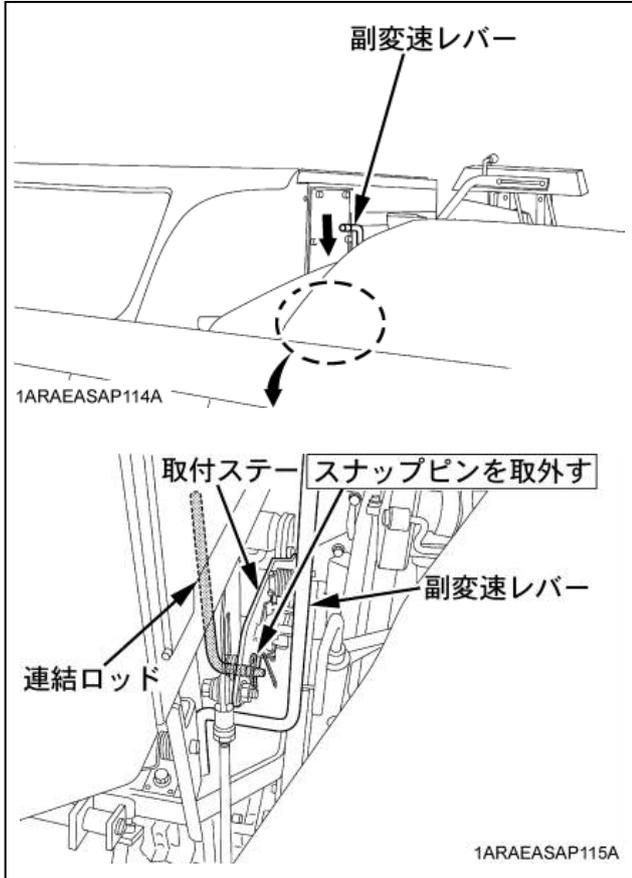
### 警告

- \* 運転操作部を開閉するときは、平坦で安全な場所でエンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \* 取り外したカバー類や部品は、必ず取り付けてください。
- \* 傾斜地では運転操作部の開閉を行わないでください。
- \* 運転操作部を開いたまま走行しないでください。
- \* 運転操作部を開いた状態で運転操作部付近に入らないでください。
- \* 運転操作部を開いたときは、運転操作部が閉じないように頭付きピンを必ず取り付けてください。運転操作部が閉じると体をはさまれてケガをするおそれがあります。
- \* 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認してください。
- \* エンジンが冷えていないとき、運転操作部を開けるとラジエータ部より熱湯の噴出のおそれ、あるいは高温部に接触してヤケドをするおそれがあります。

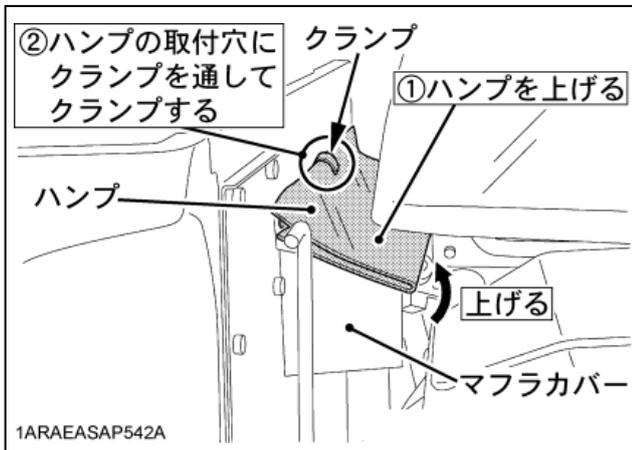
# メンテナンス

## ◆開きかた

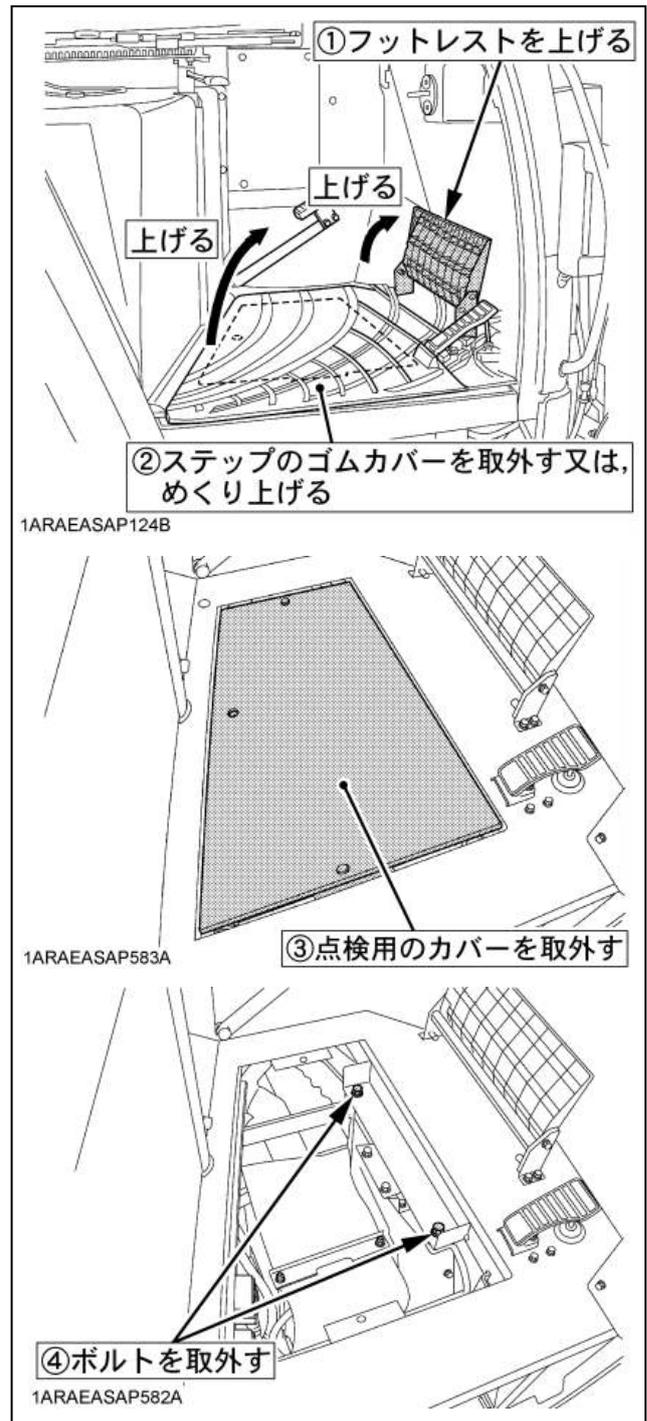
1. 駐車ブレーキを解除します。
2. 副変速レバーの連結ロッドを取り付けステーから取り外します。



3. マフラカバーのハンブを引き上げて、クランプで固定します。

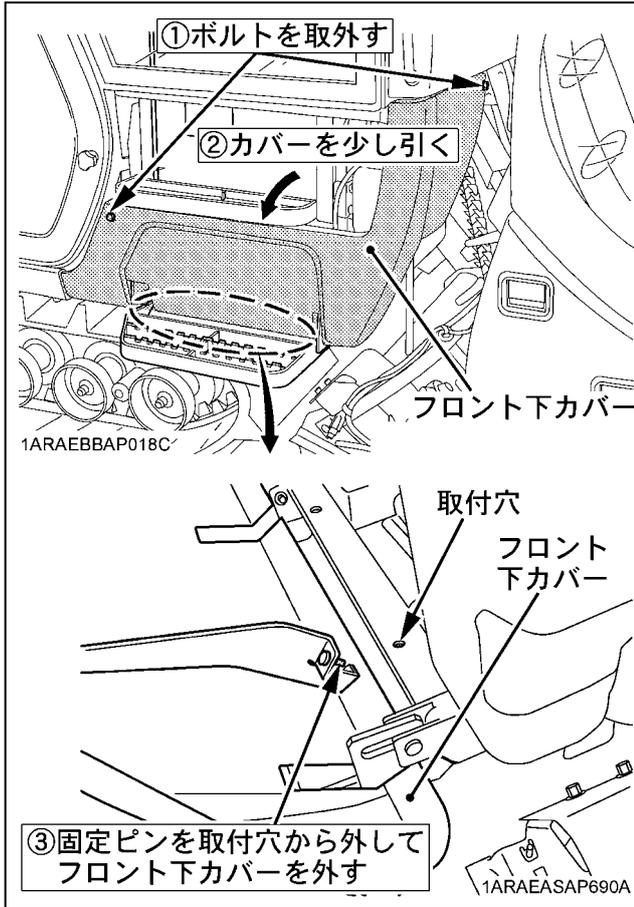


4. ステップ下にある運転操作部と本機を固定しているボルトを取り外します。

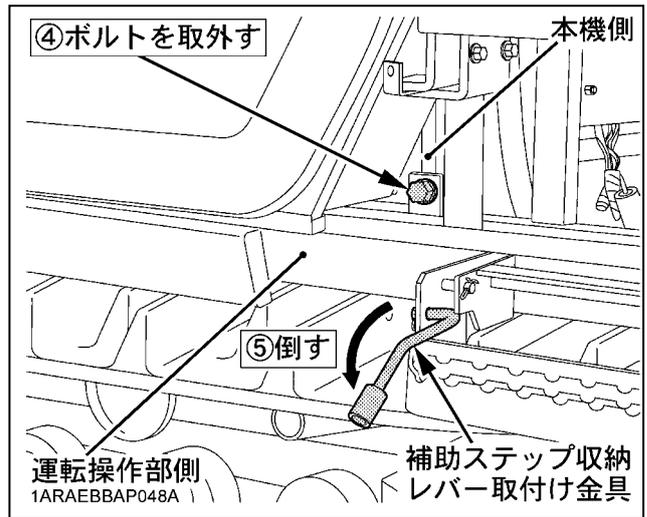
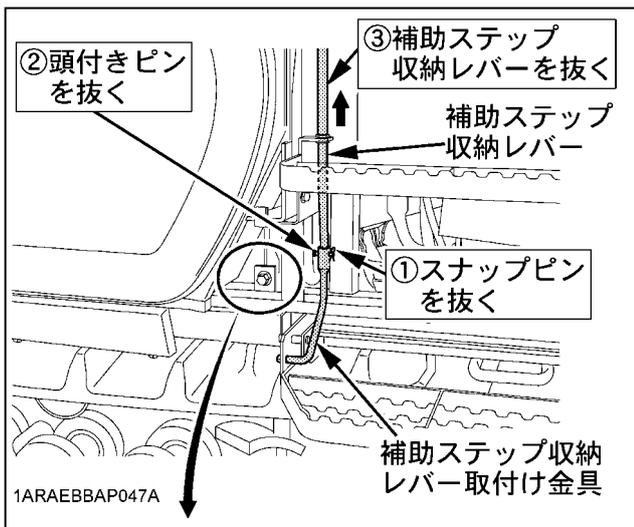


# メンテナンス

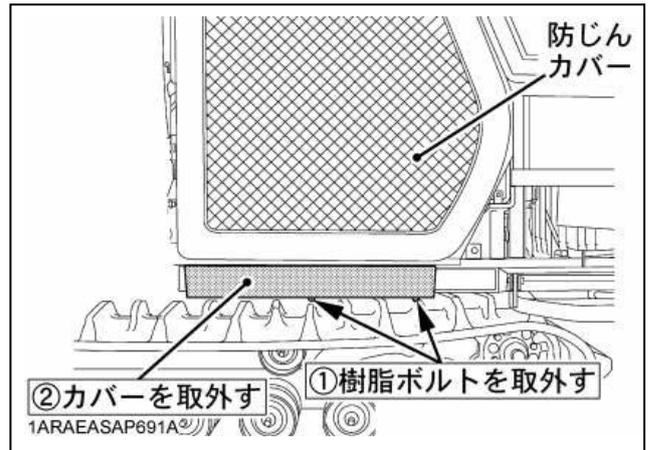
5. フロント下カバーを取り外します。



6. 補助ステップ収納レバーを取り外したあと、運転操作部と本機を固定しているボルトを取り外します。



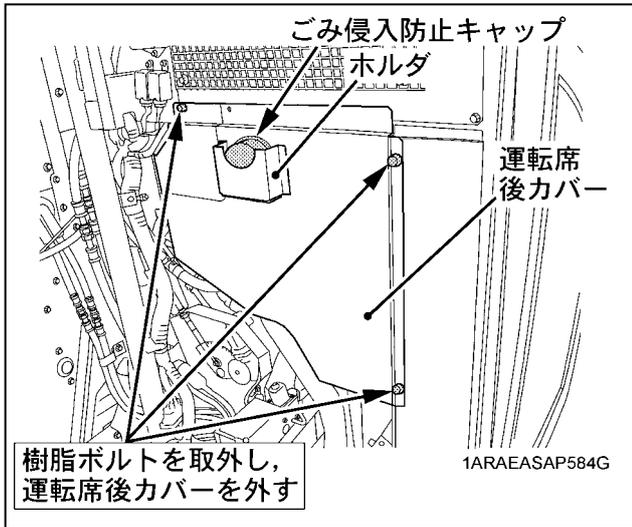
7. 補助ステップ収納レバー取付け金具を手前に倒します。
8. [DX]はドアを閉じたあと、防じんカバーの下側にあるカバーを取り外します。



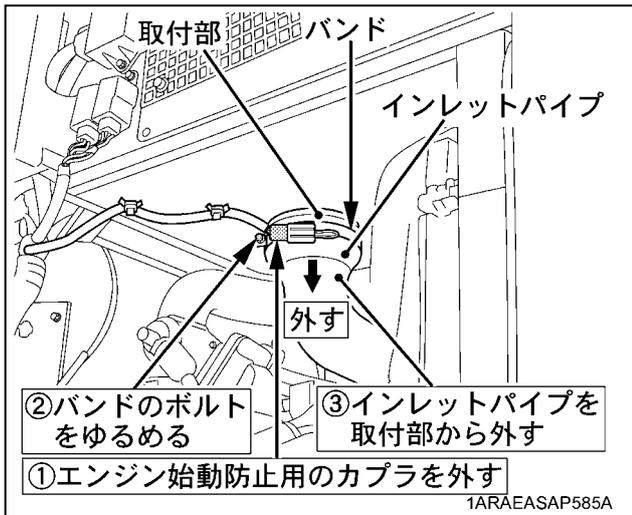
9. 転席後の添加装置のタンク、タンクステー等を外します。

# メンテナンス

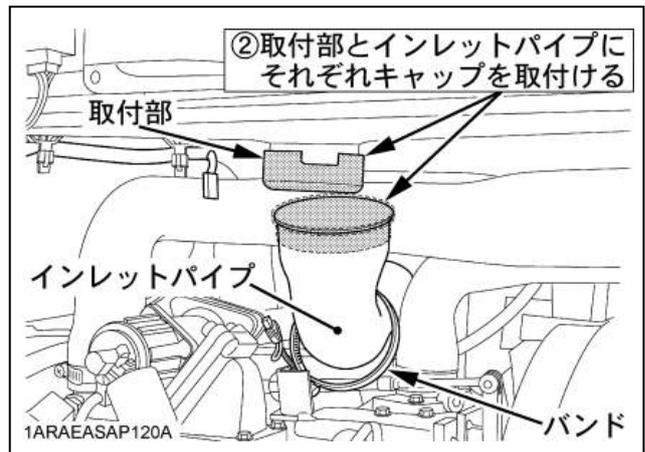
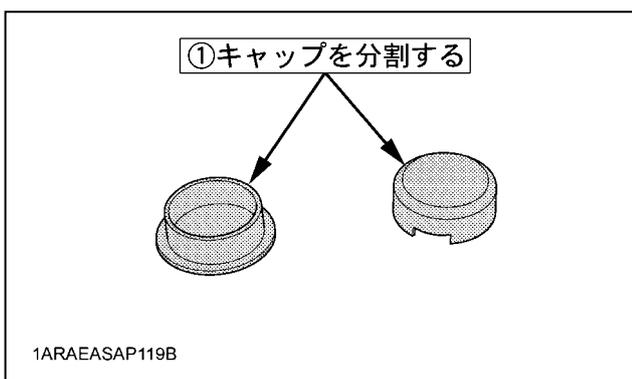
10. 転席後カバーに収納しているインレットパイプのごみ侵入防止キャップをホルダから取り外したあと、運転席後カバーを取り外します。



11. インレットパイプを取付部から外します。



12. ごみ侵入防止キャップを取付部とインレットパイプにそれぞれ取り付けます。



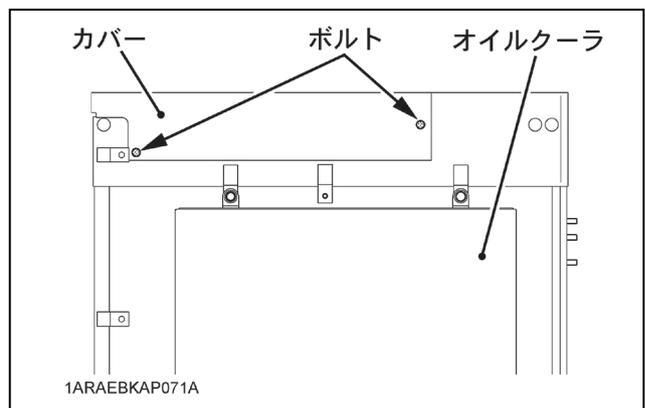
## 重要

\* インレットパイプを脱着するときは、インレットパイプ内にごみなどの異物が入らないように注意してください。エンジンの故障の原因となります。

## 補足

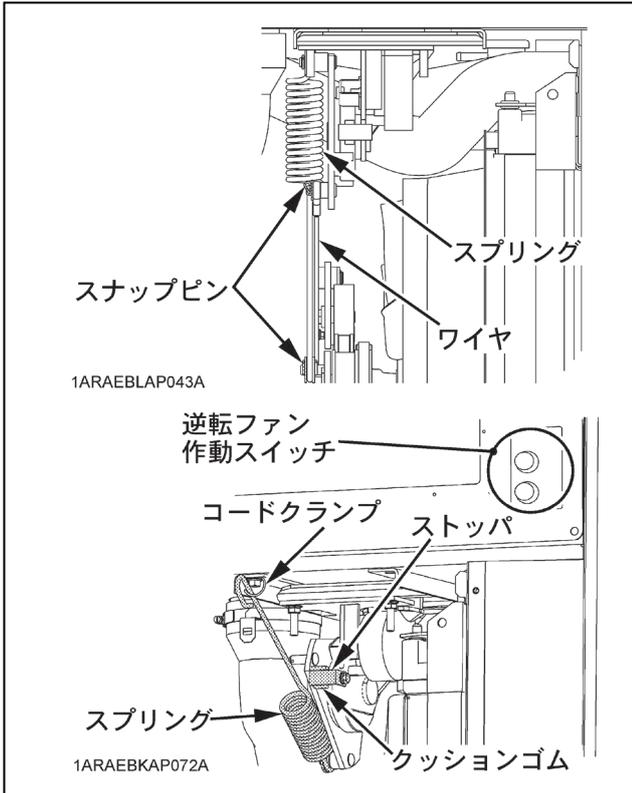
キャップは落下しないようにきちんと取り付けてください。

13. 防じんカバーを開けて、ボルトを取り外して、オイルクーラ上方のカバーを取り外します。



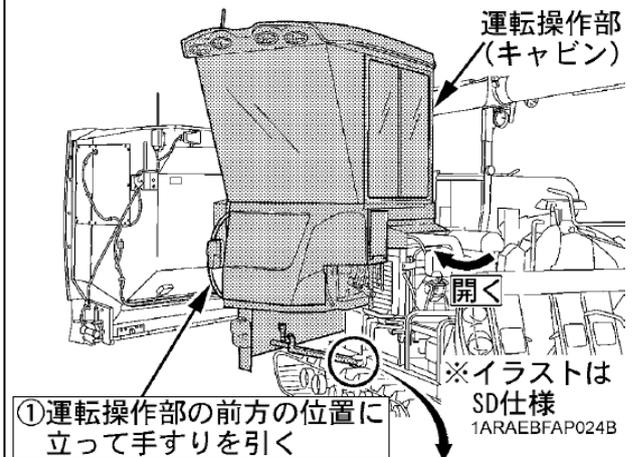
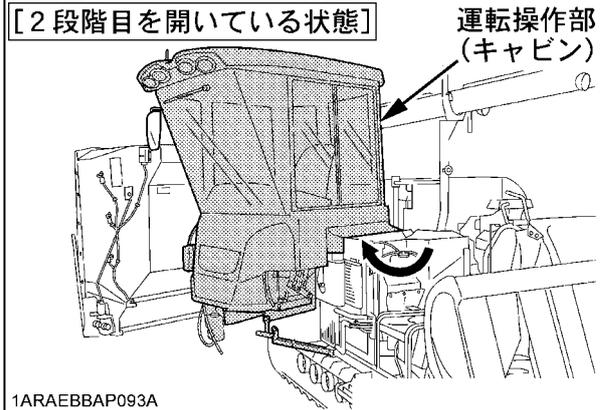
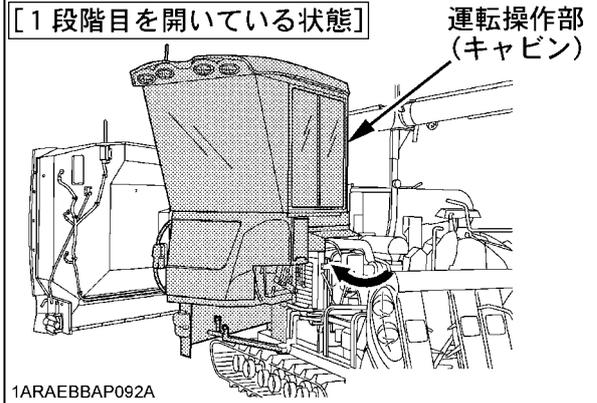
# メンテナンス

- 1 4. 運転席後側から逆転ファン作動スイッチを用いて、スナップピンを取り外し、ワイヤおよびスプリングを取り外します。
- 1 5. 逆転ファン作動スイッチを操作して、ストッパとクッションゴムが軽くあたるまで、モータを逆転側に回したあと、スプリングをコードクランプで固定します。
- 1 6. 運転操作部を開きます。

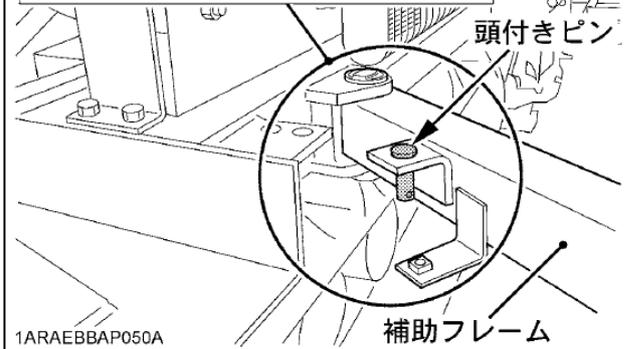


## 補 足

運転操作部は、2段階開きます。メンテナンスなどで必要に応じて開度を選んでください。

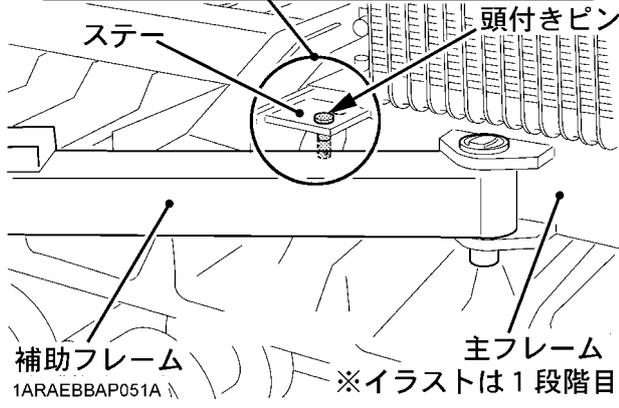


①運転操作部の前方の位置に立って手すりを引く



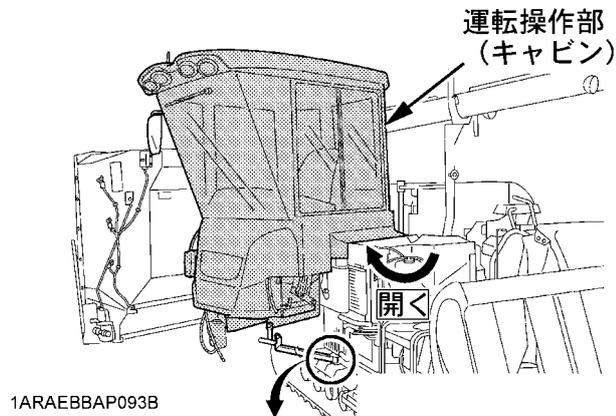
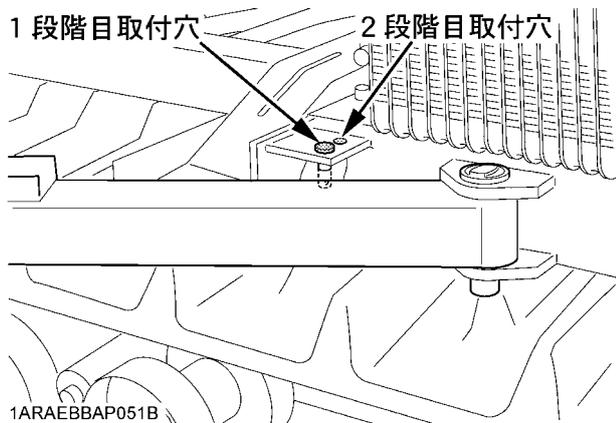
# メンテナンス

③ 運転操作部を主フレーム側に動かし、主フレーム側のステーと補助フレームの取付穴の穴位置を合わせて頭付きピンを差込んで固定する



## 補足

\* 運転操作部を2段階目まで開いたときは、2段階目の取付穴に頭付きピンとスナップピンを挿し込んで固定してください。

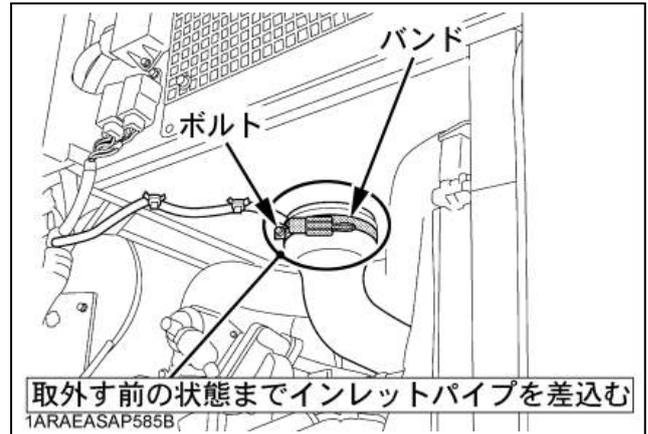


## ◆閉じかた

開きかたと逆の手順で閉じます。

## 重要

インレットパイプを取り付けるとき、取付部にしっかりと挿し込んだあと、バンドのボルトを締めるとき、締め忘れまたは、締め過ぎに注意してください。



## 補足

フロント下カバーを取り付けるときは、取付けピンを機体側の取付穴に必ず挿し込んでから取り付けてください。





# メンテナンス

## 3. 各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行ってください。

### 警告

- \* エンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてください。
- \* 取り外したり、開いた回転部のカバー類は衣服などを巻き込み危険ですので必ず取り付けてください。
- \* 各搬送チェーンやカッタ刃には注意してください。ケガをするおそれがあります。
- \* バッテリー、マフラーやエンジン・燃料タンク周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取り除いてください。
- \* 刈取り部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- \* 空運転するときには、必ず機体各部の開いたところは閉じ、カバー類を取り付けてください。
- \* オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。
- \* 刈刃やカッタの掃除・注油時は、手袋を着用し刈刃に注意しながら行ってください。

### 重要

- \* 水洗いするときは、電装部品に水を掛けないでください。故障の原因になります。
- \* 取り外したボルトやナットは、必ず取り付けてください。トラブルの原因となります。

### 補足

- \* 湿田で作業したあとは、クローラおよび周辺の泥を必ず取り除いてください。

### ■各部の注油

機械のトラブルが発生しないように、各部の手入れを十分行ってください。

### 重要

- \* 水洗いするときは、電装部品に水を掛けないでください。故障の原因となります。
- \* 取り外したボルトやナットは、必ず締め付けてください。トラブルの原因となります。
- \* 機体各部の掃除が終わったあとまたは、刈取り作業を始める前には、各部の注油やグリースの塗布を行ってください。

### ■各部の掃除

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには、機体内ゴミをきれいに取り除いておきましょう。

### ●掃除のしかた

刈取り作業が終わり、ロールの放出が終わった後ベラーを約3分間空運転します。作業レバーを[切]位置にしてエンジンを停止します。掃除するときは各部を開き、カバーを外して行ってください。

### ◆自動集中注油装置による注油

自動集中注油装置の注油スイッチを押して各作動部(刈刃や各チェーン)に注油してください。

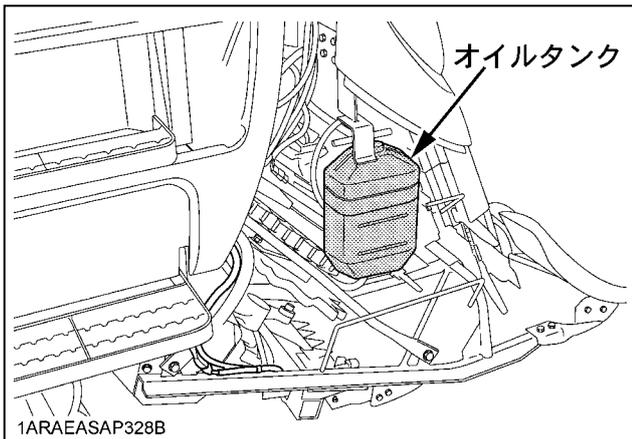
### 補足

- \* 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上がる昼間に注油してください。
- \* 各チェーン部に巻き付いたわらくずやごみは注油の前にきれいに取り除いてください。

# メンテナンス

## ●注油のしかた

1. 平たんな場所に刈取部を地面から5～15cmの位置にしたあと、エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー右を取り外し、オイルタンクのオイル量を確認して不足しているときは補給します。



## 重要

\*指定のオイル以外は使用しないでください。また、廃油などゴミの混入しているオイルを使用すると、ノズルの詰まりやバルブ不良の原因となります。

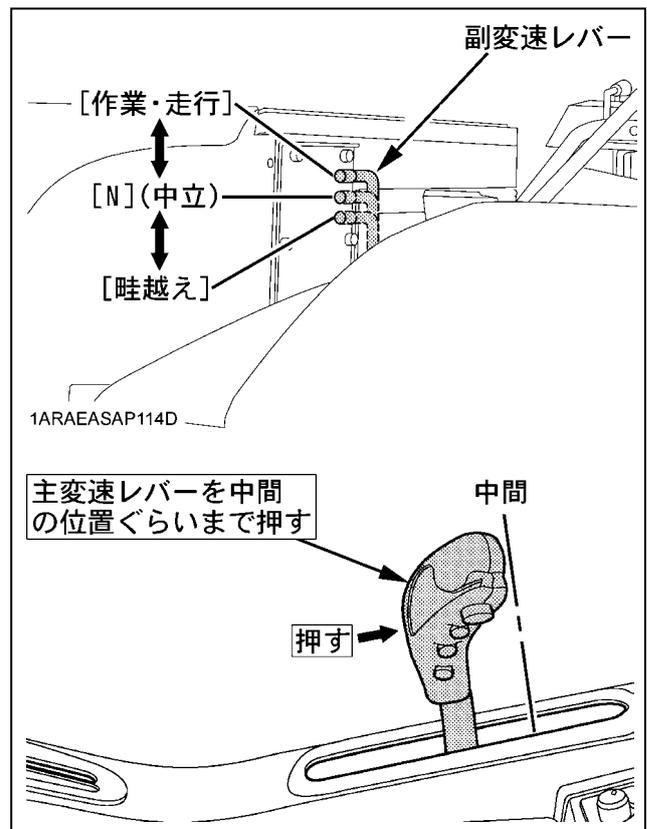
オイルの種類	オイルタンク量
クボタ純正オイル D30またはD10W-30	約40

3. エンジンを再始動したあと、楽刈アクセルスイッチを[切]にして自動アクセル制御を解除します。
4. アクセルダイヤルを回して、エンジン回転数を中速回転(約2000rpm)にしたあと、作業レバーを刈取[入]位置にして刈取部・脱こく部を動かします。

## 補足

\*チェーンは中速回転で注油してください。  
\*注油したときチェーンが停止していると、オイルが1箇所に集中するため、ベルトやカバーにオイルが付着したり、チェーンのスリップの原因となります。

5. 副変速レバーを[N](中立)位置にしたあと、駐車ブレーキを解除して主変速レバーを前進側へ中間の位置ぐらいまで押します。



6. 注油スイッチを押して各部チェーンと刈刃の両方共に行います。

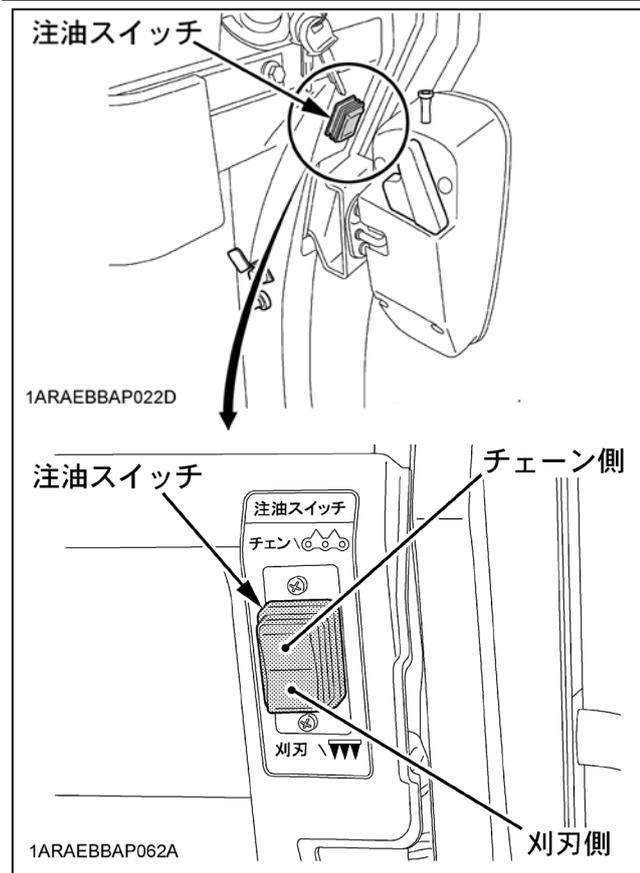
\*各部チェーンの注油…

注油スイッチを上側へ7～10秒間連続で押す。

\*刈刃の注油…

注油スイッチを下側へ5～7秒間断続で押す。

# メンテナンス



## 重要

- \* オイルタンク内のオイルが空の状態  
注油スイッチを押すと、ポンプモータの故障の原因となります。
- \* 万一ポンプとオイルタンク間のホースに  
エアが入り、注油スイッチを押しても  
オイルが送られない場合は、エア抜き  
キャップを押し、エア抜きしてから作動  
してください。
- \* 必要以上に注油しないでください。機械  
が汚れるばかりでなく、故障の原因に  
なります。

7. エンジンを停止したあと、各部チェー  
ンや刈刃に注油されていることを確認  
します。

## 補足

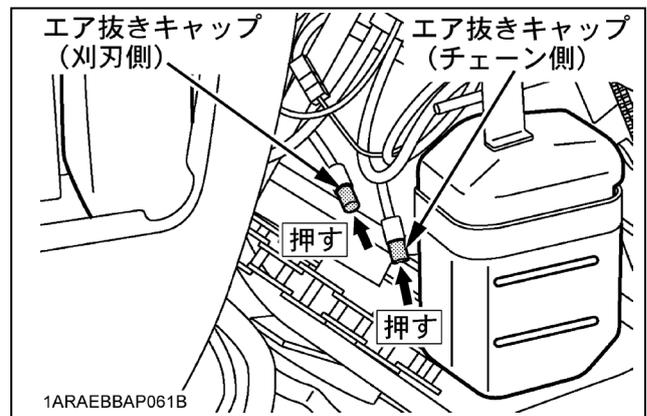
- \* 注油されていないときは、各注油ホース  
のノズルの掃除を行ってください。

\* 最初の1回目は配管内部にオイルがゆき  
わたり、配管内部にオイルが充満したこ  
とを確認したあと注油してください。  
配管内にオイルがゆきわたるまで約30  
秒かかります。

8. 主変速レバーを[停止]位置にしたあと  
副変速レバーを[作業・走行]位置にし  
ます。

## ◆エア抜きの方法

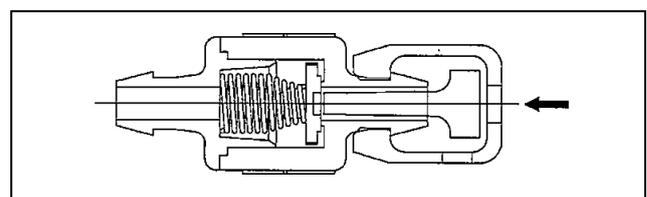
チェーン側と刈刃側のエア抜きキャップを  
それぞれ押してから、注油スイッチを押して、  
油を送出してください。



1. 注油後2～3分間そのままの状態  
で運転します。
2. 主変速レバーを[停止]位置にし、エン  
ジンを停止したあと、引起しサイドカバ  
ー右を取り付けます。

## 補足

\* エア抜きを行うときは、次図の矢印の方  
向から断続的にキャップを押してくださ  
い。強く押しすぎると、エアが抜けにく  
くなります。



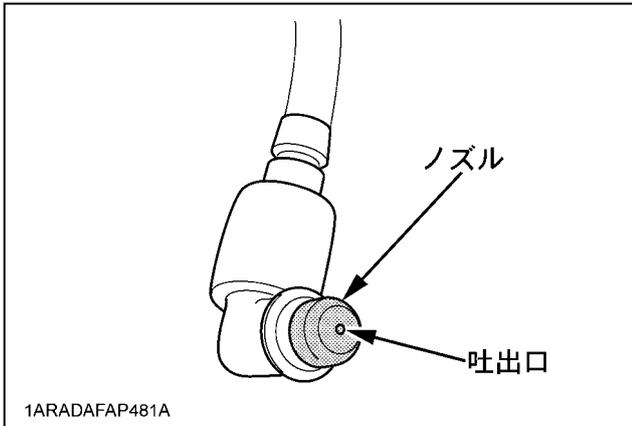
# メンテナンス

◆注油箇所・集中注油ノズルの掃除・グリース塗布自動集中注油で注油が行える箇所以外の注油は、油差しで行ってください。

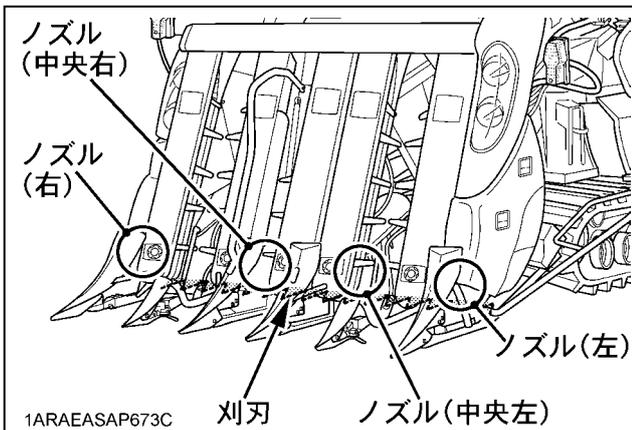
1. 自動集中注油箇所と掃除のしかた  
ノズルからオイルが出ていないときは、エンジンを必ず停止し、各ノズルの吐出口の掃除を行ってください。掃除を行うときは、水洗いまたは圧縮空気などを使用してください。

## 補 足

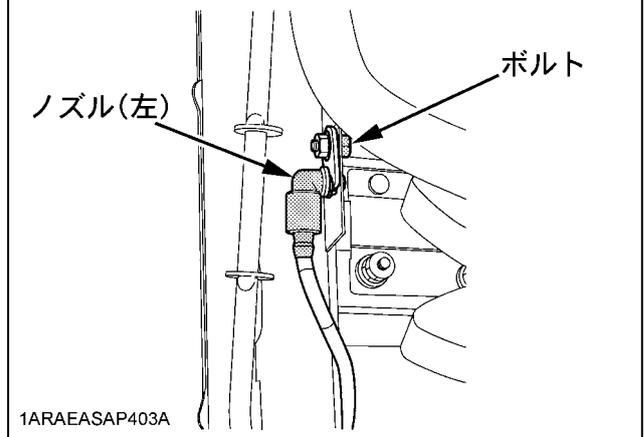
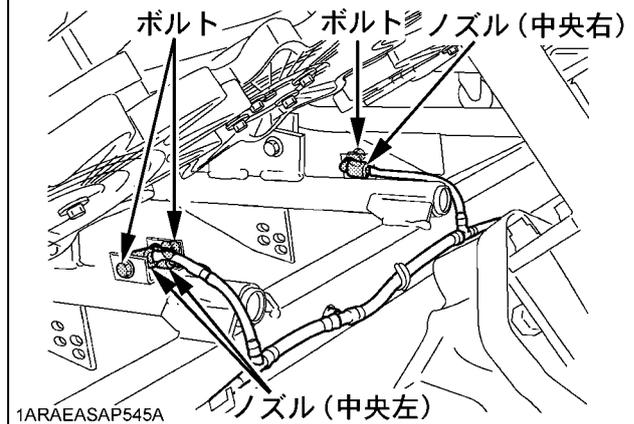
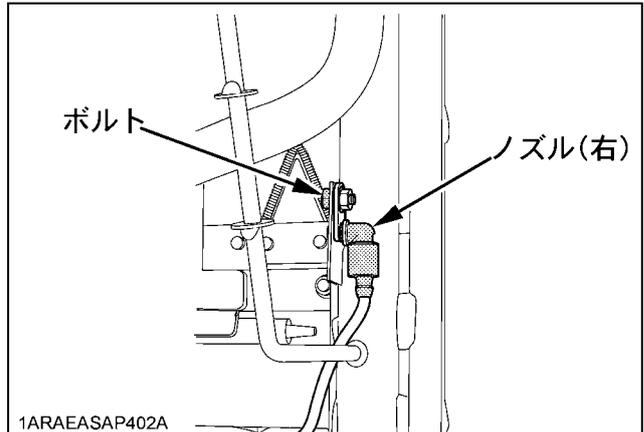
\*ノズル先端部の吐出口の掃除を行うときは、必ず針などを使用してください。つまようじなど折れやすい物を使用すると詰まりの原因となります。また、各ノズルの先端を固定している金具・ボルト・スナップピンなど各固定部品を取り外すと掃除が容易に行えます。



## ● 刈刃

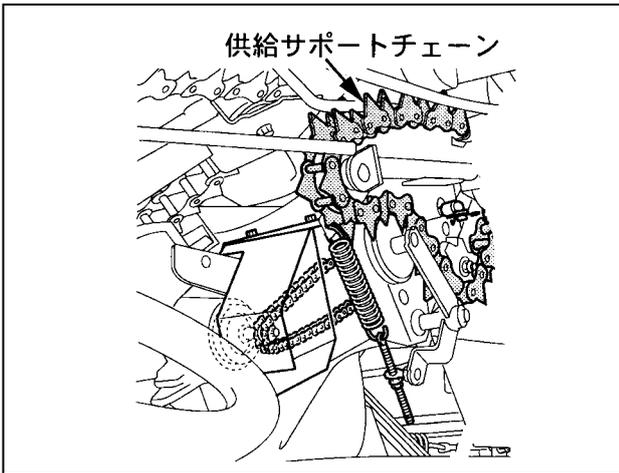
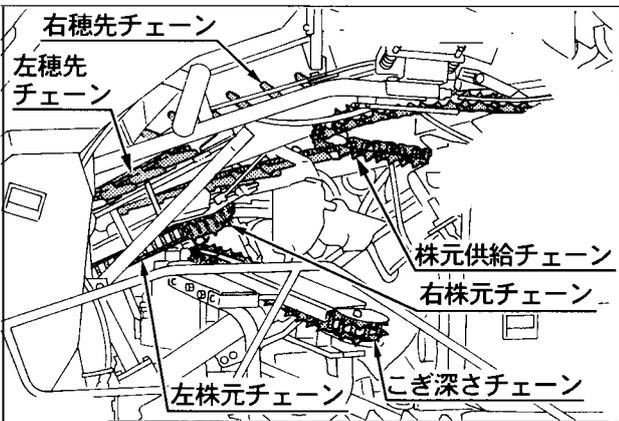
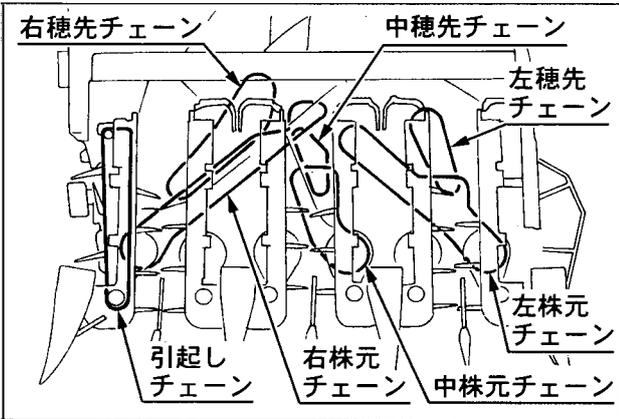


刈取部を最上昇したあと刈取下降ロックをし、泥などの異物を取り除いてください。また、引起しサイドカバー左右を取り外したあと、ボルトを取り外してノズルを外して掃除してください。掃除後はノズルを取り付けたあと、引起しサイドカバー左右を取り付けてください。



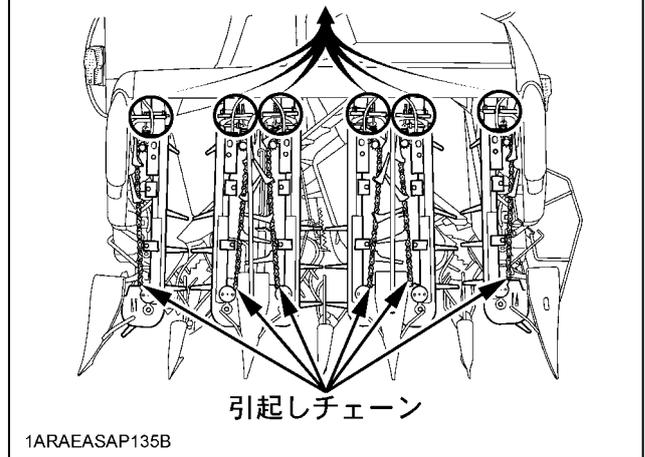
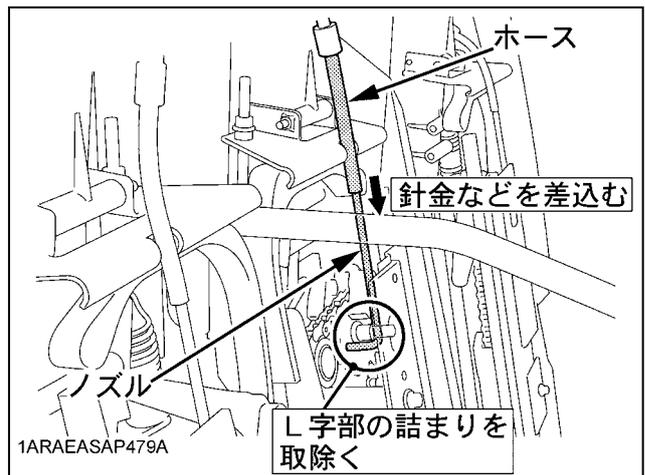
# メンテナンス

- 右穂先チェーン・右株元チェーン・中穂先チェーン  
中株元チェーン・左穂先チェーン・左株元チェーン  
引起しチェーン・株元供給チェーン  
こぎ深さチェーン・フィードチェーン



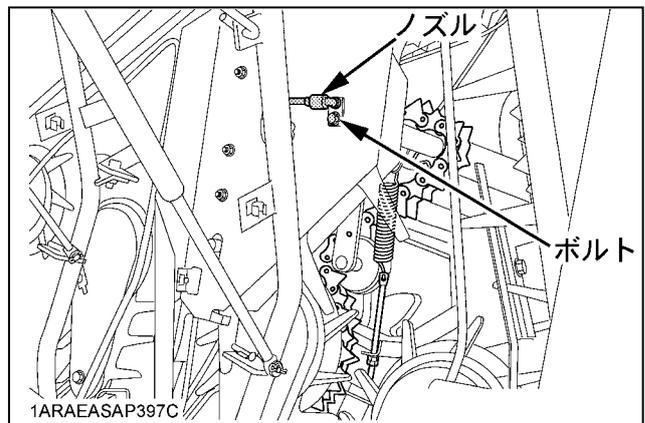
## ● 引起しチェーン

各引起しカバーを取り外したあと、ホースをノズルから抜き取り、針金などでL字部の詰まりを取り除いてください。掃除後は、各引起しカバーを取り付けてください。

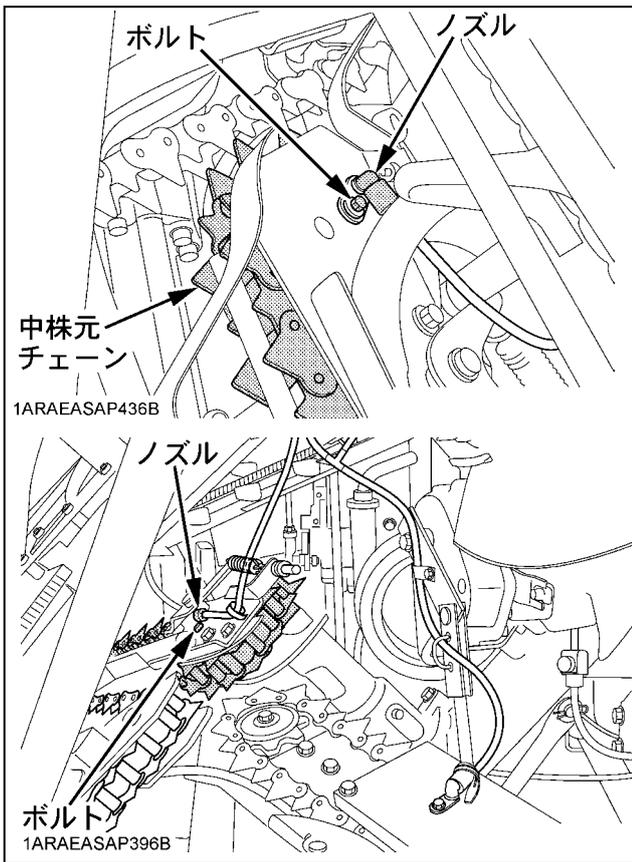


## ● 右穂先チェーン

ボルトを外して右穂先カバー上を取り外したあと、ボルトを取り外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取り付けたあと、右穂先カバー上を取り付けてください。

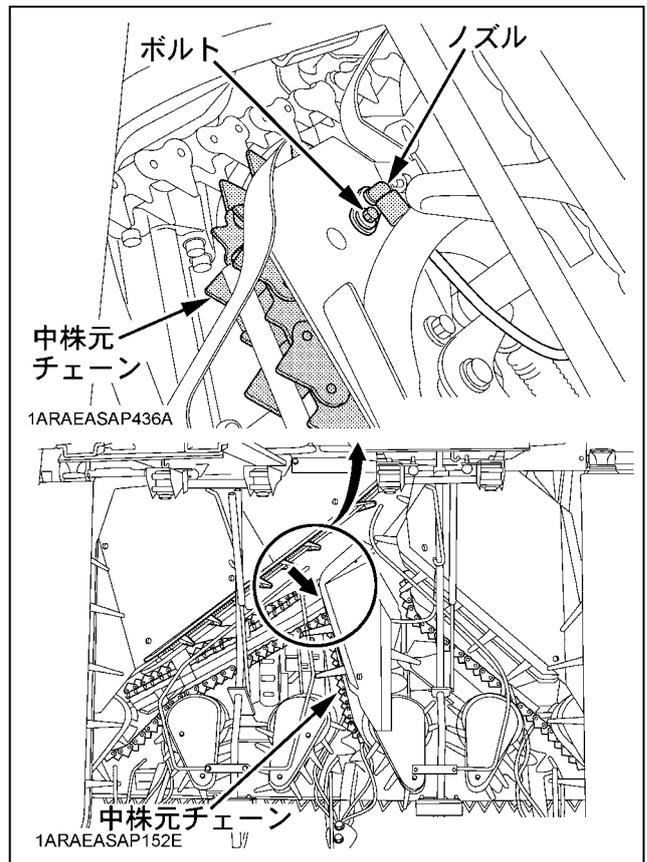
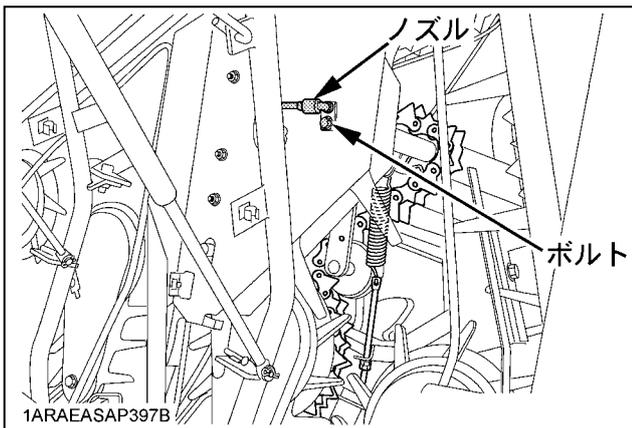


# メンテナンス



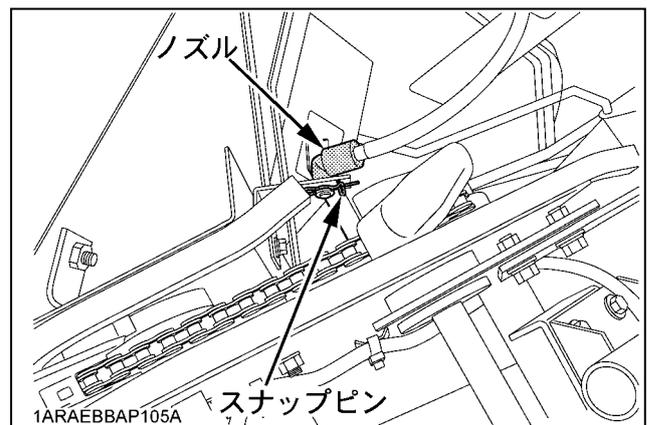
## ●中穂先チェーン・中株元チェーン

引起し部を開いたあと、ボルトを取り外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取り付けたあと、引起し部を閉じてください。

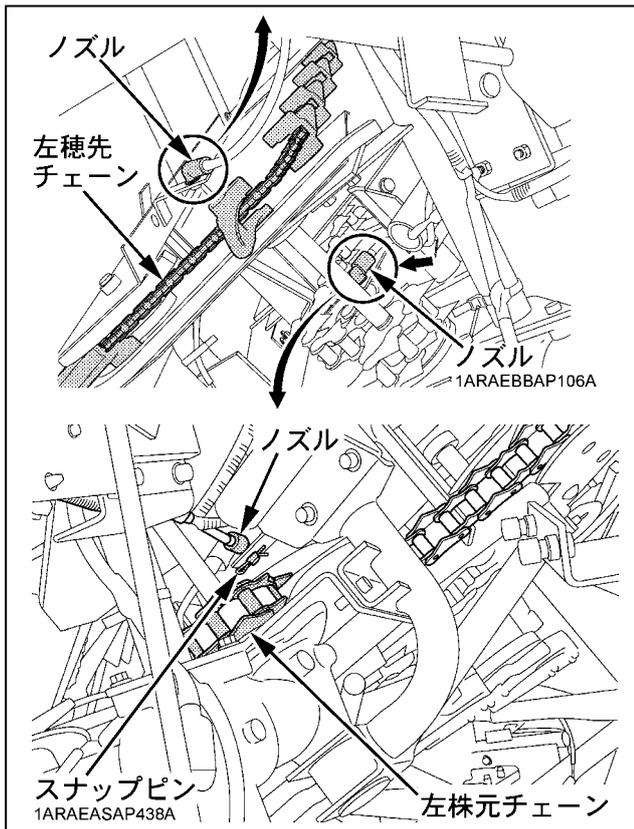


## ●左穂先チェーン・左株元チェーン

刈取左サイドカバーを取り外したあと、スナップピンを取り外してノズルを外して掃除してください。掃除後は、スナップピンを取り付けたあとノズルを取り付け、刈取左サイドカバーを取り付けてください。

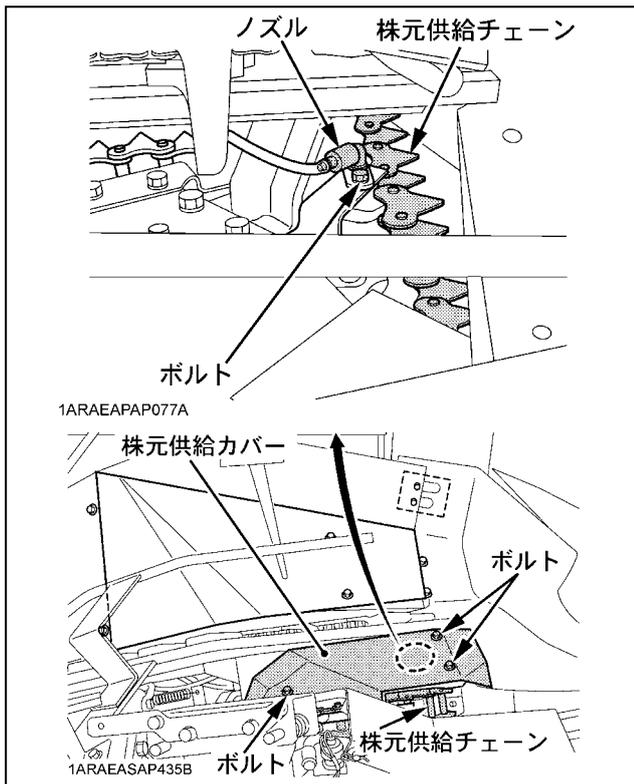


# メンテナンス



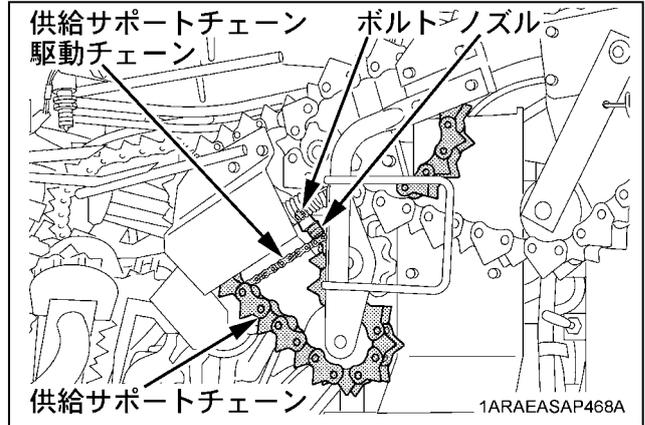
## ●株元供給チェーン

ボルトを外し、株元供給カバーを取り外したあと、ボルトを取り外してからノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取り付けたあと、株元供給カバーを取り付けてください。



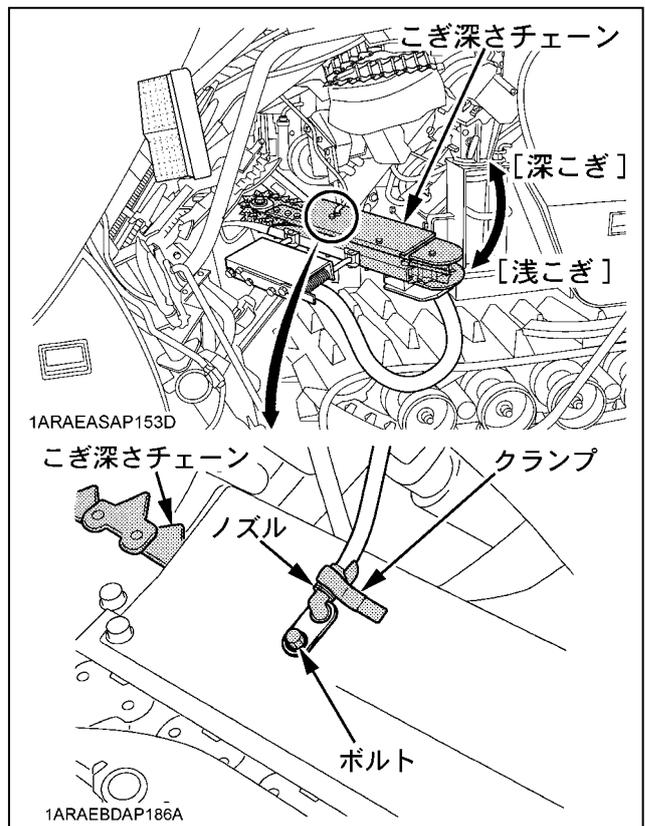
## ●供給サポートチェーン

左サイドカバー上1を取り外したあと、ボルトを取り外し、ノズルを外し掃除してください。掃除後は、ノズルを取り付けたあと、左サイドカバー上1を取り付けてください。



## ●こぎ深さチェーン

こぎ深さチェーンを浅こぎ位置にしたあと、クランプを外し、ボルトを取り外したあとノズルを外して掃除してください。掃除後は、ノズルを取り付けたあと、クランプをしてください。

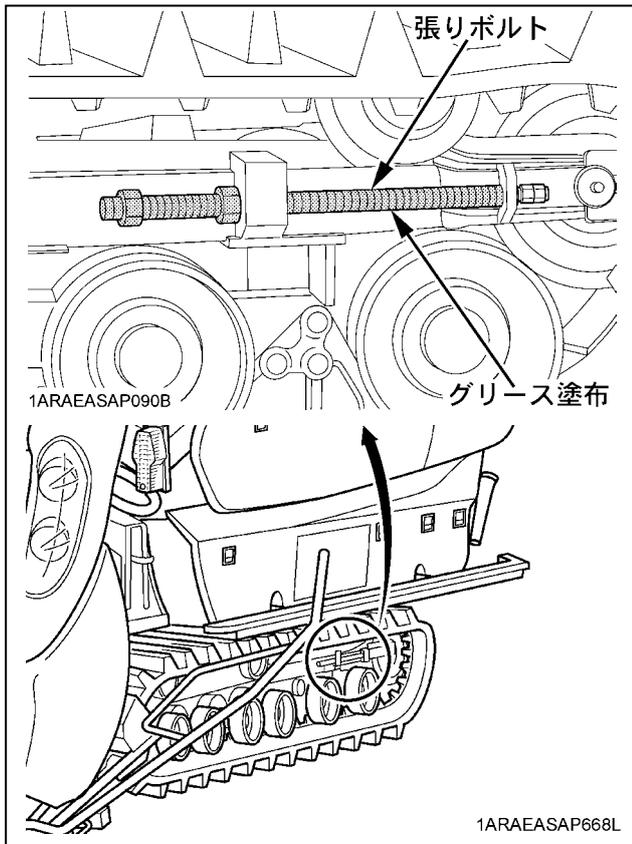


## メンテナンス

### 2. グリース塗布

グリースを塗布してください。

#### ●クローラ張りボルト（左、右）



#### ◆注油・掃除後の処置と確認

注油・掃除終了後は、取り外したり開閉した掃除口カバーや安全カバーは必ず取り付けてください。

### 4. 定期点検

定期点検は、収穫機作業を行う人が定期的に行う点検です。

収穫機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくとう故障や事故の原因となり、ひいては収穫機の寿命を短くしてしまいます。

収穫機の持つ性能がいつまでも十分発揮できるように、定期的に点検を行いましょう。

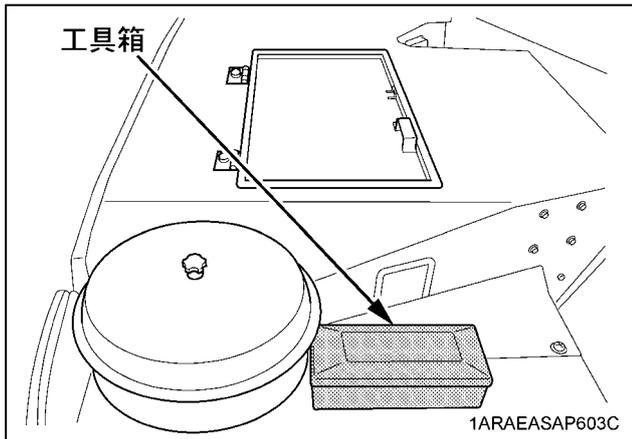
## 警告

- \*各部の調整・点検・交換を行うときは、エンジンを必ず停止し、各レバー類を[切]位置にして、回転部を止め、メインスイッチのキーを抜いてから作業をしてください。
- \*取り外した回転部のカバー類は、衣服などを巻き込み危険ですので、点検後は必ず取り付けてから作業してください。
- \*点検・作業するときは、駐車ブレーキを掛けてください。また刈取部は一番下まで降ろしてください。刈取部を上げた状態で作業するときは、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。
- \*エンジンルーム内の点検のためカバーを外すときは、内部が十分冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。
- \*オイル交換中は火気厳禁。
- \*刈刃やカッタの掃除や注油時は、手袋を着用し刃部に注意しながら行ってください。
- \*機械は平たんで、周りにわらくずなどの燃えやすいごみのない場所へ停めてください。バッテリー、マフラーやエンジン周辺部にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因となります。
- \*燃料、オイルがこぼれた場合は、きれいに拭き取ってください。

# メンテナンス

## 補 足

- \* 専門的な技術や特殊工具を必要とする場合、および定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先または整備工場で行ってください。
- \* 点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目安として早めの点検をお願いします。
- \* 工具箱は次図の位置にあります。



## 5. オイル、フィルタ類の交換と

### チェーン、ベルト、クローラの張り調整

1. 新車時は収穫機の回転・しゅう動部の各部品はなじみがついていませんので、ならし運転期間中に細かい金属粉が生じ、部品の極度な摩耗につながるおそれがあります。よってオイル・フィルタ類は初期50時間で交換してください。
2. チェーンやベルト類・クローラはならし運転中に初期伸びが発生します。初期20または、50時間で張り調整をしてください。  
(交換したときも同様です。)

## 6. 廃棄物の処理について

### 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。

廃棄物を処理するときは

- \* 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- \* 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- \* 廃油、燃料、冷却水(不凍液)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリー、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、もしくは産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

# メンテナンス

## 7. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると、人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

### ⚠ 注意

機械を損傷させないように洗浄ノズルを拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

1. 電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。
2. 油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。
3. 機械の破損・損傷・故障の原因になります。

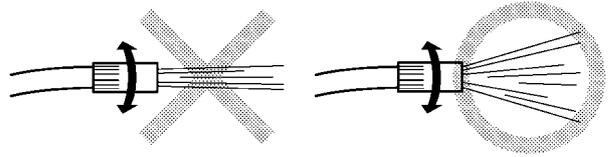
### 重要

\* 洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。

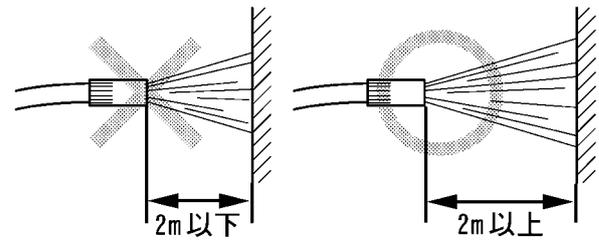
例)

- (1) シール・ラベルの剥がれ
- (2) 電装部品、エンジン・ラジエータ室内への浸入による故障
- (3) クローラ、タイヤ、オイルシール等のゴム類、化粧カバー等の樹脂部品、ガラス等の破損
- (4) 塗装、メッキ面の皮膜剥がれ

### 直射洗車厳禁



### 近距離洗車厳禁



1AGACBRAP068A

### ■使用者が行ってはいけない修理

次記部位に異常があるときは、購入先に必ず連絡して修理を依頼してください。

- エンジン本体
- トランスミッション
- ギヤ(ベベルギヤを含む)  
を内蔵したケース類
- 油圧系統(HST含む)
- 電気部品と電気系統
- 刈取部の動力伝達系統

### 重要

分解・調整・交換などを自ら行うと機械のトラブルの原因となります。また、メーカー保証の対象外となりますのでご注意ください。

# メンテナンス

## 8. 定期点検一覧表

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け(バンド)・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
<b>◆エンジン部</b>			
ファン駆動ベルト(1)	交換	500時間ごと	204 ☆
ファン駆動ベルト(2)	調整	500時間ごと	204 ☆
	交換	500時間ごとまたは2年ごとの早い方	
エアクリーナエレメント	掃除	50時間ごと(外側のみ)	189
	交換	300時間ごとまたは1年ごとの早い方 (内側は外側と同時に交換)	
インレットパイプ (エアクリーナ)	締付け	150時間または、 6ヵ月月ごとの早いほうで点検・処置	190
	交換	300時間または、2年ごとの早いほうで交換	
インレットパイプ (ターボ)	締付け	50時間または、 6ヵ月月ごとの早いほうで点検・処置	190
	交換	300時間または、2年ごとの早いほうで交換	
燃料フィルタカートリッジ	交換	400時間ごと	193
油水分離器	掃除	400時間ごと	192
エンジンオイルフィルタ カートリッジ	交換	初回:50時間、それ以降200時間ごと (エンジンオイルの交換と同時に交換)	193
燃料ホース	締付け	150時間または、 6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	190 ☆
	交換	300時間または、2年ごとの早いほうで交換	
燃料こしあみ	掃除	100時間ごと	☆
オイルドレーンゴムホース	締付け	150時間または、 6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	190 ☆
	交換	300時間または、2年ごとの早いほうで交換	
ラジエータホース	締付け	200時間または、 6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	190 ☆
	交換	400時間または、2年ごとの早いほうで交換	

●参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先または、整備工場で行ってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により異なる場合があります。

### 重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。

# メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
排水ホース	締付け	200時間または、 6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	190 ☆
	交換	400時間または、2年ごとの早いほうで交換	
オイルクーラーホース	締付け	200時間または、 6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	190 ☆
	交換	400時間または、2年ごとの早いほうで交換	
	締付け	200時間または、 6ヵ月ごとの早いほうで点検・処置	
オイルクーラーホース オイルセパレータ内のPCV バルブ	交換	400時間または、2年ごとの早いほうで交換	190 ☆ ☆
	点検	1500時間ごと	
防じんあみ、 ラジエータフィン、 HSTオイルクーラーフィン、 トランスミッション オイルクーラーフィン 燃料クーラーフィン	掃除	50時間ごと	191
コンデンサフィン	補給	50時間ごと	191
オイルセパレータエレメント	交換	1500時間ごと	☆
オイルセパレータエレメント のゴムホース	交換	2年ごと	☆
DPF差圧センサーホース	交換	2年ごと	☆
ブーストセンサーホース	交換	2年ごと	☆
EXマニホールド	点検	1年ごと	☆
EXマニホールド取付ボルト	点検	1年ごと	☆
DPF差圧配管	点検	1年ごと	☆
EGRシステム配管	点検	1年ごと	☆
EGRクーラー	点検	1500時間ごと	☆
インジェクタ、アッシの ノズル	点検	1500時間ごと	☆
ターボチャージャー、アッシ	点検	3000時間ごと	☆
EGRシステム	点検	3000時間ごと	☆
フィルタ、コンプ(DPF)	点検	3000時間ごと	☆

●参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先または、整備工場で行ってください。

●上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により異なる場合があります。

## 重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。

# メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
<b>◆走行・操作部</b>			
ミッション駆動ベルト	調整	初回または、交換後:20時間後、 それ以降100時間後	205 ☆
	交換	500時間ごと	
駐車ブレーキワイヤ	調整	50時間ごと	199 ☆
	交換	300時間ごと	
ブレーキディスク	交換	500時間または、2年ごとの早いほうで点検	☆
HSTオイルフィルタ カートリッジ	交換	初回:50時間後、それ以降300時間ごと (油圧オイルタンクオイルの交換と 同時に交換)	194 ☆
油圧オイルタンクフィルタ	洗浄	300時間ごと	194 ☆
	交換	初回:50時間後、それ以降600時間ごと (油圧オイルタンクオイルの交換が 2回目に交換)	
トランスミッションオイル フィルタカートリッジ	交換	初回:50時間後、それ以降300時間ごと (油圧タンクオイルの交換と同時に交換)	194 ☆
クローラ	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	232 ☆
	交換	800時間ごと	
反射器	交換	破損しているとき	☆
クローラガイド	交換	800時間ごと	☆
トラックローラ、イコライザボス	点検	100時間ごと	233
	交換	800時間ごと	
キャリアローラ、 ボールベアリング 及びシール、 モンローリンク部のブッシュ	交換	800時間ごと	☆
車軸のオイルシール	交換	1000時間ごと	☆
ドライブローラ (スプロケット)	点検	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	233 ☆
	入換え	200時間ごと	
	交換	400時間ごと	
主変速レバー連結ロッドの リンクボール	交換	500時間ごと	☆

- 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先または、整備工場で行ってください。
- 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により異なる場合があります。

## 重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。

# メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け（バンド）・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
<b>◆刈取部</b>			
刈取駆動ベルト	調整	初回または、交換後:20時間後、 それ以降50時間ごと	205 ☆
	交換	500時間ごと	
補助搬送(突起付)ベルト	調整	初回または、交換後:50時間後 それ以降100時間ごと	206 ☆
	交換	500時間ごと	
引起しチェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	208 ☆
	交換	300時間ごと	
引起し爪	交換	300時間ごと	
引起し65ローラのベアリング	交換	500時間ごと	☆
引起しスプロケット、 引起しテンションスプロケット、 引起し駆動シャープピン	交換	500時間ごと	☆
引起しフレーム、引起しカバー	交換	1000時間ごと	☆
スライドレール、クッションゴム	交換	1000時間ごと	☆
供給サポートチェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	212 ☆
	交換	300時間ごと	
供給サポートチェーン駆動 チェーン	交換	300時間ごと	213 ☆
供給サポートチェーンの 駆動シャープピン、 ローラベアリング	交換	500時間ごと	☆
供給サポートチェーンの駆動 スプロケット	交換	300時間ごと	☆
右穂先チェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	209 ☆
	交換	300時間ごと	
右穂先爪	交換	300時間ごと	

- 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先または、整備工場で行ってください。
- 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により異なる場合があります。

## 重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。

## メンテナンス

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
右株元チェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	210 ☆
右株元チェーンのローラ ボールベアリング	交換	500時間ごと	☆
右穂先チェーンのローラ ボールベアリング、 アイドルsprocket	交換	500時間ごと	☆
右穂先カバー、 右穂先フレーム	交換	1000時間ごと	☆
右株元当て板、 左穂先フレーム(上、下)	交換	1000時間ごと	☆
左株元レール、 供給フレームガイド、 供給ガイド、 株元押え	交換	800時間ごと	☆
中穂先チェーン	交換	400時間ごと	209 ☆
中穂先チェーン	交換	400時間ごと	209
中穂先爪	交換	400時間ごと	☆
中株元チェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	210
中株元チェーン	交換	300時間ごと	☆
中株元チェーンのローラ ボールベアリング	交換	500時間ごと	
中穂先チェーンのローラ ボールベアリング、 アイドルsprocket	交換	500時間ごと	☆
中穂先フレーム	交換	1000時間ごと	☆

- 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先または、整備工場で行ってください。
- 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により異なる場合があります。

### 重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。

# メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け(バンド)・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
株元供給チェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	209 ☆
	交換	300時間ごと	
株元供給チェーンのローラ ボールベアリング、 テンションローラボール ベアリング	交換	500時間ごと	☆
左穂先チェーン	交換	400時間ごと	209 ☆
左穂先爪	交換	400時間ごと	
左株元チェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	210 ☆
	交換	300時間ごと	
左株元チェーンのローラ ボールベアリング	交換	500時間ごと	☆
左穂先チェーンのローラ ボールベアリング、 アイドルスプロケット	交換	500時間ごと	☆
こぎ深さチェーン	調整	初回または、交換後:50時間後、 それ以降100時間ごと	213 ☆
	交換	300時間ごと	
こぎ深さテンションローラの ボールベアリング	交換	500時間ごと	☆
こぎ深さチェーン押え	交換	800時間ごと	☆
こぎ深さフレームガイド	交換	1000時間ごと	☆
刈刃	調整	100時間ごと	220 ☆
	交換	200時間ごと	
刈刃クランクピン、 ローラ、 ベアリング、 ベアリングホルダ、 オイルシール	交換	600時間ごと	☆
株元センサ	交換	500時間ごと	☆
穂先センサ (株元側、穂先側)	交換	500時間ごと	☆
パッカ	交換	800時間ごと	☆
刈取軸受部のブッシュ	交換	800時間ごと	

# メンテナンス

※処置項目：点検・調整・掃除・締付け(バンド)・充電

点検項目	点検 処置 ／交換	点検・交換時期 (アワメータ表示時間)	参照 ページ
<b>◆カッタ部</b>			
カッタ駆動ベルト	調整	初回または、交換後：20時間後、 それ以降100時間ごと	206 ☆
	交換	400時間ごと	
カッタ刃	調整	200時間ごと	216 ☆
	交換	400時間ごと	
供給軸と切断軸のナット	増締め	初回または、交換後：50時間後、 それ以降200時間ごと	☆
各ベアリング	交換	1000時間ごと	☆
<b>◆キャビン（DXのみ）</b>			
コンプレッサ駆動ベルト	調整	作業シーズン前または、後	207 ☆
	交換	2年ごと	
冷媒ガス	点検	作業シーズン前または後	197 ☆
内気・外気フィルタ	掃除	使用時間が30時間ごと	196
エアコンの簡易点検	点検	3ヵ月ごと	—
<b>◆電装部</b>			
バッテリー	充電	インジケータの色が黒色のとき	224
	交換	インジケータの色が透明のとき	
ワイヤハーネス、 バッテリーコード	点検	50時間ごと	229 ☆
	交換	破損しているとき	
ヒューズ・ スローブローヒューズ	点検	100時間ごと	229 ☆
	交換	破損しているとき	
ランプ(電球)	点検	100時間ごと	231 ☆
	交換	破損しているとき	
ホーンスイッチ	点検	100時間ごと	231 ☆
	交換	破損しているとき	

- 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先または、整備工場で行ってください。
- 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により異なる場合があります。

## 重 要

各ベルト・チェーン・各ワイヤを交換したあとは、ならし運転後の点検と調整を行ってください。

# メンテナンス

## 9. 給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・処置時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量 (L)	種類	参照 ページ
			点検	処置			
燃料	燃料タンク	給油		—	・容量…約100	ディーゼル軽油	176
オイル	エンジン	補給 ・ 交換	作業前 または 作業後	・初回… 50時間目 ・2回目以降 …200時間 ごとまたは、 1年ごとの早 いほうで交 換	・容量…約12.3  規定量 オイルゲージ の下限と上限 の間	クボタ純オイル  DH-2 又は、 D10W-30	177
	集中注油オイルタンク	補給		—	・容量…約4	クボタ純オイル D10W-30	158
	トランスミッションケース	補給 ・ 交換	50時間 ごと	・初回… 50時間目 ・2回目以降 …300時間 ごと	規定量 …約12 検油口から オイルがにじむ まで	クボタ純オイル NEW UDT 又は、 スーパーUDT	179
	油圧オイルタンク				規定量 …約28 検油口から オイルがにじむ まで		180
	刈取 HST ギヤケース	交換	—	・初回… 50時間目 ・2回目以降 …300時間 ごと	・容量…約0.14		180
	HST 入力フランジ	交換	—		・容量…約0.2		181 ☆
	刈刃駆動ケース	補給 ・ 交換	—	分解時	・容量 …2.2~2.3		180 ☆
フィードチェーン駆動ケース							

- 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先または、整備工場で行ってください。
- 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により、異なる場合があります。

### 重 要

#### [各部への補給と交換]

- ・点検するときは機体が水平となる場所で行ってください。傾いていると正確な量を示しません。
- ・使用するオイル・グリースは、指定のクボタ純オイル・クボタ純正グリース・共同油脂(株)製耐熱グリース(パワーライトWR No. 1)を使用してください。
- ・補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

# メンテナンス

種類	点検箇所	点検・処置時期 (アワメータ表示時間)		容量・規定量 (L)	種類	参照 ページ
		点検	処置			
水・液	冷却水 (リザーブタンク)	補水・ 交換	作業前または作業後 2年ごと(冬季停止時 は排出または、不凍 液を入れる)	* 規定量 タンク側面のL(下限) とF(上限)の間 L(LOW)・・・0.15 F(FULL)・・・1.1	清水	185
	ウォッシャー液 【DX】	補給	—	・容量・・・約1.2	自動車用 ウォッシャー液	188
<b>◆エンジン部</b>						
	エンジン正逆流 ファン部	補給	500時間ごと	適量	共同油脂(株)製耐熱 グリース (パワーライト WR No. 1)	184
<b>◆走行部</b>						
グ リ ー ス	揺動転輪部	補給	作業シーズン終了後	適量	クボタ純正グリース No. 2	183
	固定転輪部					
	可動転輪部					
	スイングアーム 部					
	トラックフレーム 部					
	ボス支点部					
<b>◆刈取部</b>						
	刈取駆動ギヤ カバー部	補給	分解時	適量	クボタ純正グリース No. 2	185
	刈取部各ケース					
	刈取軸受					

- 参照ページに☆印のある整備項目(交換)については、購入先又は、整備工場で行ってください。
- 上記の時間は作業・作物条件やメンテナンス(保守・点検)により、異なる場合があります。

## 重 要

### [各部への補給と交換]

- ・点検するときは機体が水平となる場所で行ってください。傾いていると正確な量を示しません。
- ・使用するオイル・グリースは、指定のクボタ純オイル・クボタ純正グリース・共同油脂(株)製耐熱グリース(パワーライトWR No. 1)を使用してください。
- ・補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。

# メンテナンス

## 10. 燃料、オイル、グリースの 点検・補給・交換

### ▲ 注意

- 燃料やオイル補給中は火気厳禁です。
- 燃料を補給する前に給油口やタンク周辺のごみを取り除いてください。
- 燃料やオイル補給または交換した後、こぼれた燃料やオイルは必ずきれいに拭き取ってください。また燃料漏れや油漏れがあるときは購入先に連絡してください。

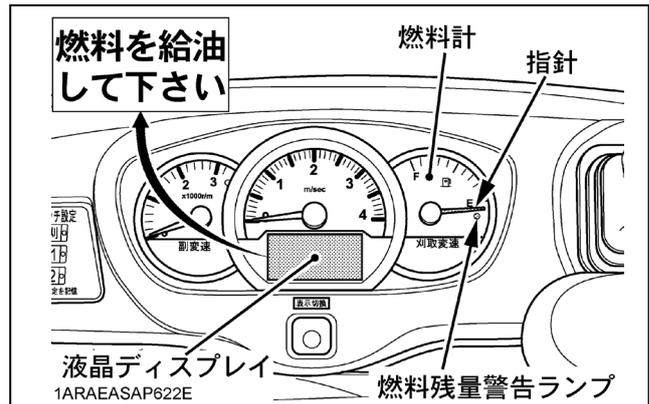
### 重 要

- \*点検するときは、収穫機を水平で平坦な場所に移動してから行ってください。傾いていると正しいオイルの量が測定できません。
- \*収穫機の故障の原因となりますので下記事項を守ってください。
  - ・廃油は使用しないでください。
  - ・オイルを補給するときは、現在使用しているオイルと同じメーカー・同じ品質(粘度など)のオイルを補給してください。また、異なるメーカー・異なる品質(粘度など)のオイルを使用するときは、オイルを全て排出してから新しいオイルと交換してください。
  - ・燃料やオイルを補給・交換するときはゴミや異物の混入を防ぐため、給油口付近を掃除してください。また、給油口からゴミなどの異物を入れないでください。
  - ・オイルを補給するとき、規定量の上限以上にオイルを補給しないでください。
  - ・使用するオイル・グリースは、必ず指定のクボタ純オイルを使用してください。クボタ純オイルが入手困難な場合は推奨オイルを使用してください。また、クボタ純正オイルや推奨オイル以外のオイルを使用して収穫機の機能が低下

したり事故が起こった場合は、弊社は責任を負いませんので注意してください。

### ■燃料の補給

燃料計の指針が[E](空)に近づくと、燃料残量警告ランプが点灯すると同時にマルチナビの液晶ディスプレイに[燃料を給油して下さい]と表示します。ブザーが鳴ったとき(燃料警報)は給油してください。



### ◆補給

燃料を給油するときは平坦な場所でエンジンを停止し、燃料キャップを外してください。また、メインスイッチのキーを[入]位置にすると、燃料が満タン近くになったとき満タンお知らせ機能がはたらき、ブザーが鳴ります。また、ブザーが鳴ると同時に液晶ディスプレイに[燃料が満タンです]と表示します。給油後は燃料キャップを取り付けてください。

燃料の種類	燃料タンク容量
ディーゼル軽油	約100ℓ

### 補 足

- \*給油が終わったあとは、必ずキーをロックして抜き取ってください。
- \*満タンお知らせ機能は、ブザーが5回鳴ると停止します。
- \*ブザーが鳴ったあと、あふれさせないように注意してください。
- \*満タンお知らせ機能は次記の条件のときははたらかない場合があります。

# メンテナンス

- エンジン停止後約20秒間
- 給油中に機体を揺らしたり、急激に給油したとき
- 給油量が少ないとき
- 機体が極端に傾いているとき

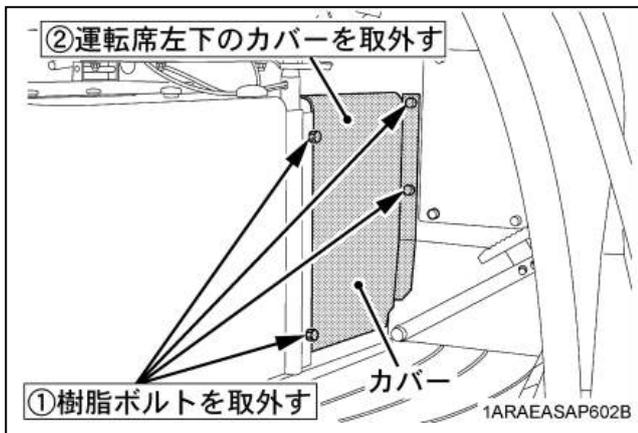
## ■エンジンオイルの点検・補給・交換

### ⚠ 警告

\*交換をするときは、必ずエンジンを停止して、エンジンが十分冷えてからメインスイッチのキーを抜いて行ってください。ヤケドするおそれがあります。

エンジンのオイル量を点検・補給・交換するときは、運転席左下のカバーを取り外してください。

点検・補給・交換後は、運転席左下のカバーを取り付けてください。

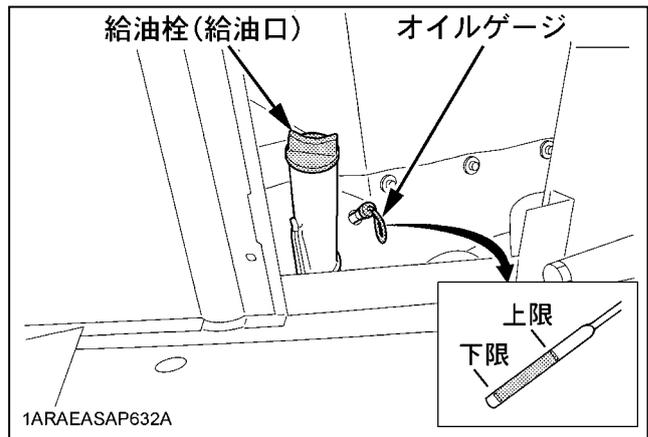


### 重要

エンジンオイルをオイルゲージの上限以上給油しないでください。エンジントラブルの原因となります。

### ◆点検・補給

エンジン停止後、数分たってからオイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ります。もう一度いっぱいまで挿し込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、運転操作部を開いて給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油漏れのないことも調べてください。

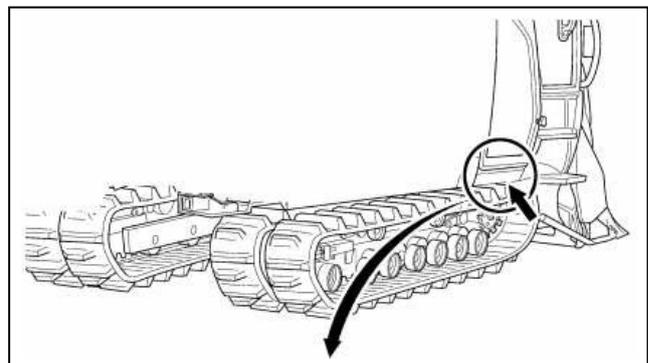


### ◆交換

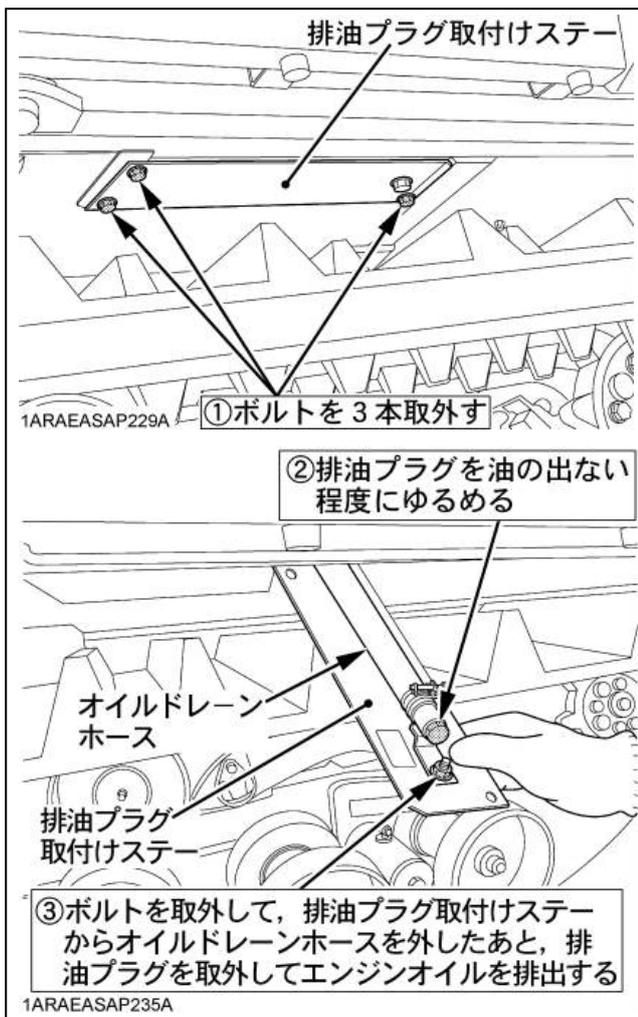
オイルの交換と同時に、エンジンオイルフィルタカートリッジも交換してください。

### ●排油のしかた

1. ボルトを3本取外し、排油プラグ取り付けステーを機体から取り外したあと、排油プラグ取り付けステーをオイルドレーンゴムホースと一緒に引き出して、準備している容器の上で排油プラグを外し、オイルを排出します。



# メンテナンス



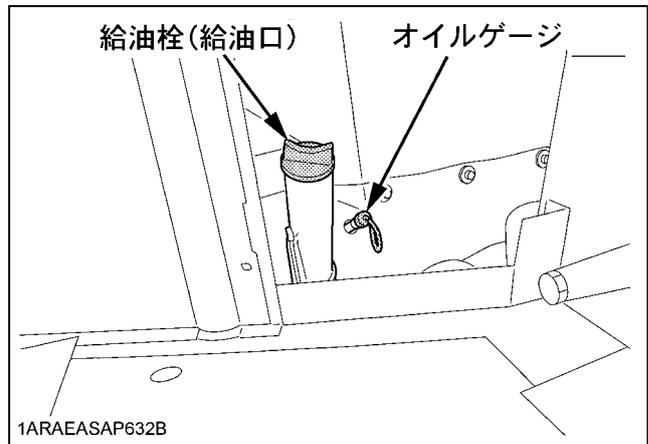
2. 排油プラグを取り付けます。
3. ホースと一体となっている排油プラグを排油プラグ取付けステーに取り付けます。
4. 排油プラグ取付けステーを機体に取り付けます。

## 重要

排油プラグを締め忘れると油漏れが発生したり、取付けステーを付け忘れると、ホースがクローラと接触して破損するおそれがあります。

## ●給油のしかた

1. 運転席左下のカバーを取り外します。
2. 給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締め付けます。



## 重要

指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。また、気温によりオイルを選んでください。

オイルの種類	規定オイル量
クボタ純正オイル (ディーゼルエンジン用) D10W-30DH-2	12.30

3. エンジンを始動し、アイドリング状態で約1分間運転します。
4. エンジンを停止したあと、5分間以上たってからオイル量の点検を行います。
5. オイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給します。
6. 運転席左下のカバーを取り付けます。

# メンテナンス

## ■ トランスミッションケースオイルの 点検・補給・交換

### 警告

- \* 刈取部の開閉を行うときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いて行ってください。
- \* 傾斜地では、刈取部の開閉は行わないでください。
- \* 刈取部を開いた状態で作業を行う場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- \* 刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- \* 刈取部各部の開閉範囲に人がいないことを確認してください。

トランスミッションケースのオイル量を点検するときは、刈取部を最上昇位置にしたあと、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ってください。また、オイルの補給・交換を行うときは、刈取部を開いてください。点検後は、刈取部を降ろし、補給・交換後は刈取部を閉じてください。

### ◆ 点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油漏れのないことも調べてください。

### ◆ 交換

#### 補 足

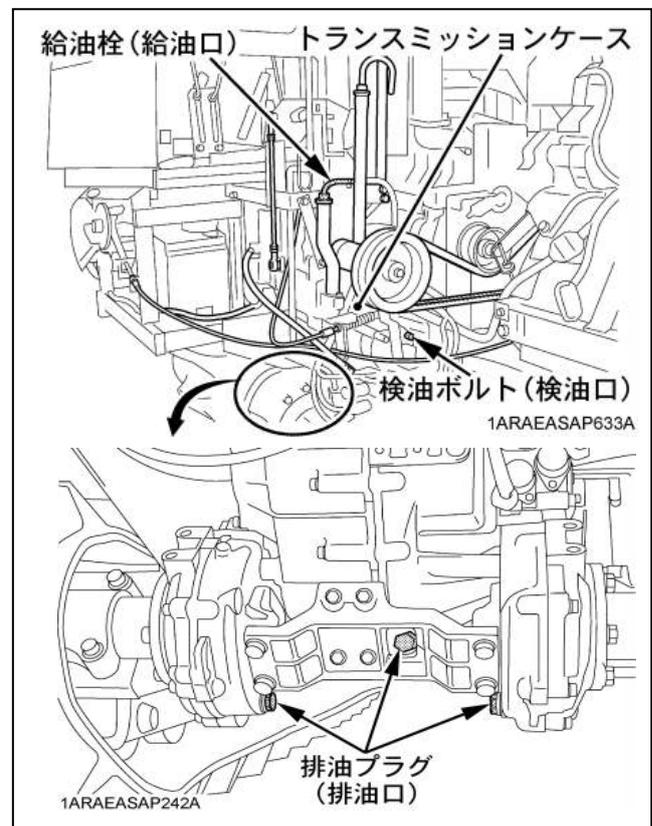
オイルの交換と同時に、HSTオイルフィルタカートリッジ・トランスミッションオイルフィルタカートリッジも交換してください。

#### ● 排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

#### ● 給油のしかた

排油プラグを締付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓と検油ボルトを締め付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT-2	約120

### 重 要

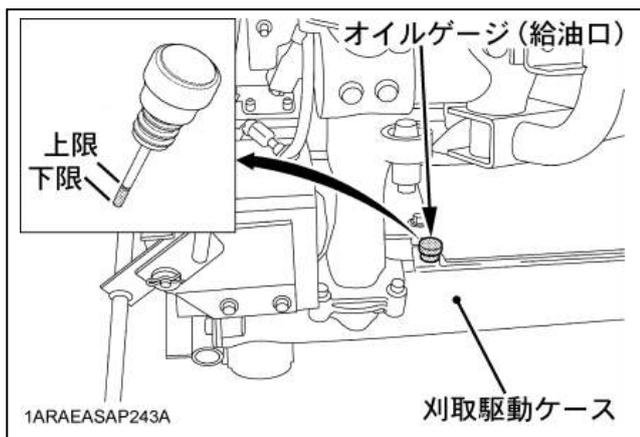
給油したあと、エンジンをアイドリング状態で約1分間運転してエンジンを停止し、5分間以上たってから再度点検を行い検油口からオイルが出ないときは、オイルを追加補給してください。

# メンテナンス

## ■刈刃駆動ケースオイルの補給

### ◆給油

刈取部を接地させたあと、オイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ります。もう一度挿し込み、オイルゲージをいっぱいまで押し込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油漏れのないことも調べてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT-2	2.2~2.3ℓ

## ■刈取HSTギヤケースオイルの 点検・補給・交換

### ◆点検・補給

検油ボルトを外してオイルが検油口から出てくれば適正量です。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油漏れのないことも調べてください。

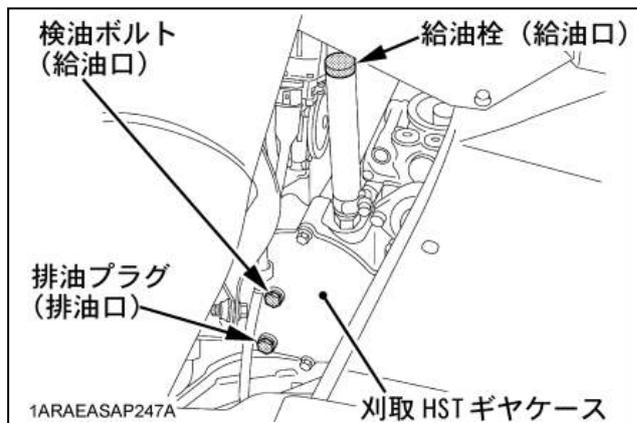
### ◆交換

### ●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

### ●給油のしかた

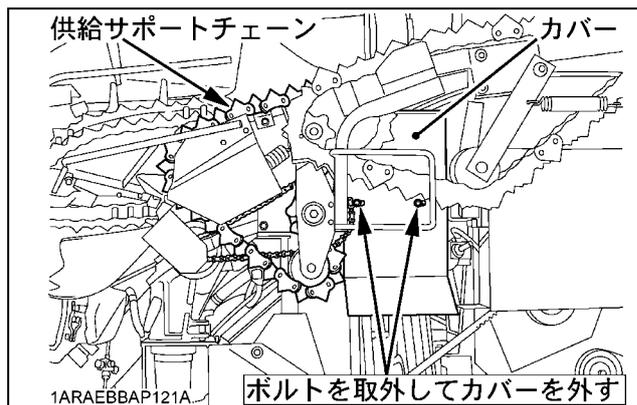
排油プラグを締め付けて、検油口からオイルが出てくるまで給油口から給油し、給油栓と検油ボルトを締め付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT-2	約0.14ℓ

## ■油圧オイルタンクオイルの 点検・補給・交換

油圧オイルタンクのオイル量を点検するときは、供給サポートチェーン内側のカバーを取り外してください。点検・補給・交換後は、カバーを取り付けてください。



オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT-2	約28ℓ

# メンテナンス

## 重要

給油したあと、エンジンをアイドリング状態で約1分間運転してエンジンを停止し、5分間以上たってから再度点検を行いオイルが不足しているときは、規定量になるまでオイルを追加補給してください。

## 補足

規定オイル量は工場出荷時の給油量です。オイル交換後の実際に補給するオイル量は、ホース内などに残っているオイルにより、少し減少します。

### ◆点検・補給

オイルゲージを抜いて、先端をきれいに拭き取ります。もう一度挿し込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油漏れのないことも調べてください。

### ◆交換

## 補足

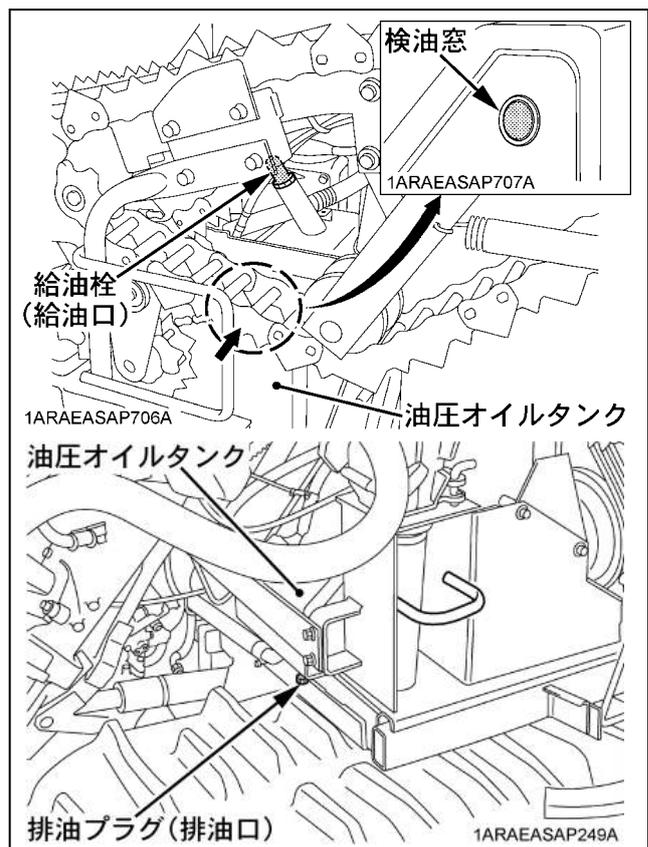
オイルの交換と同時に、HSTオイルフィルタカートリッジ、トランスミッションオイルフィルタも交換してください。

### ●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

### ●給油のしかた

排油プラグを締め付けて、給油口から規定量オイルを給油し、オイルゲージを差し込んでください。



## ■HST入力フランジのオイルの補給・交換

### 警告

- \*刈取部の開閉を行うときは、平たんで安全な場所で、機体を最下降位置にしてエンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \*傾斜地では、刈取部の開閉は行わないでください。
- \*刈取部を開いた状態で作業を行う場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- \*刈取部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- \*刈取部各部の開閉範囲に人がいないことを確認してください。

# メンテナンス

HST入力フランジのオイルを補給・交換するときは、刈取部を開いてください。補給・交換後は刈取部を閉じてください。

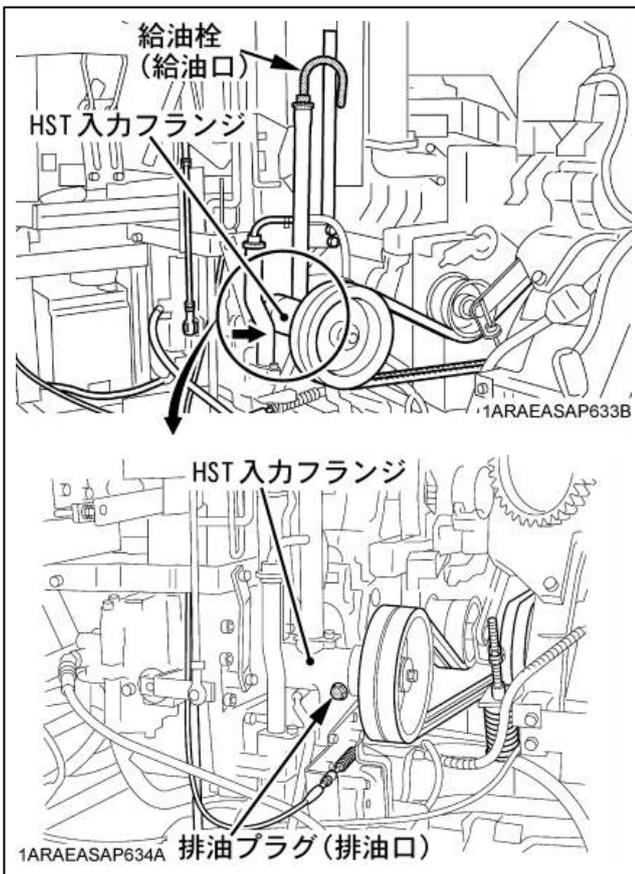
## ◆交換

### ●排油のしかた

給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

### ●給油のしかた

排油プラグを締め付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、給油栓を締め付けてください。

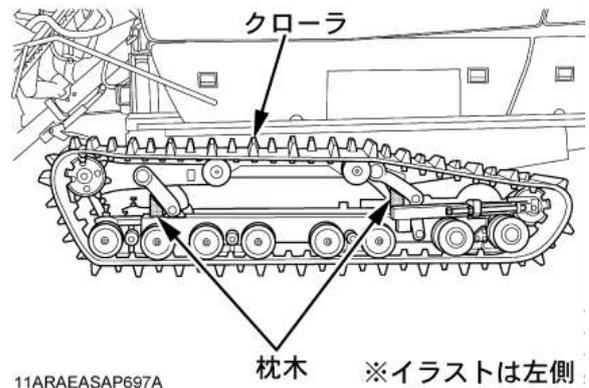


オイルの種類	規定オイル容量
クボタ純オイル スーパーUDT-2	約0.20

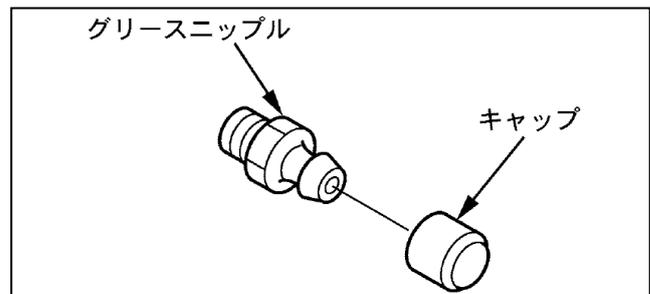
## ■各部のグリース

### ⚠ 警告

- \*グリースの補給を行うときは、エンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \*クローラ周辺部にグリースを補給するときは、平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。



クボタ純グリースNo. 2グリースニップルから補給してください。また、走行部(転輪・後輪・スイングアーム部)にグリースの補給を行うときは、各グリースニップルのキャップを外してください。また補給が終わったあと、各グリースニップルにキャップを取り付けてください。



# メンテナンス

## 補 足

\* グリースニップルにはストレートタイプとL字タイプがあります。

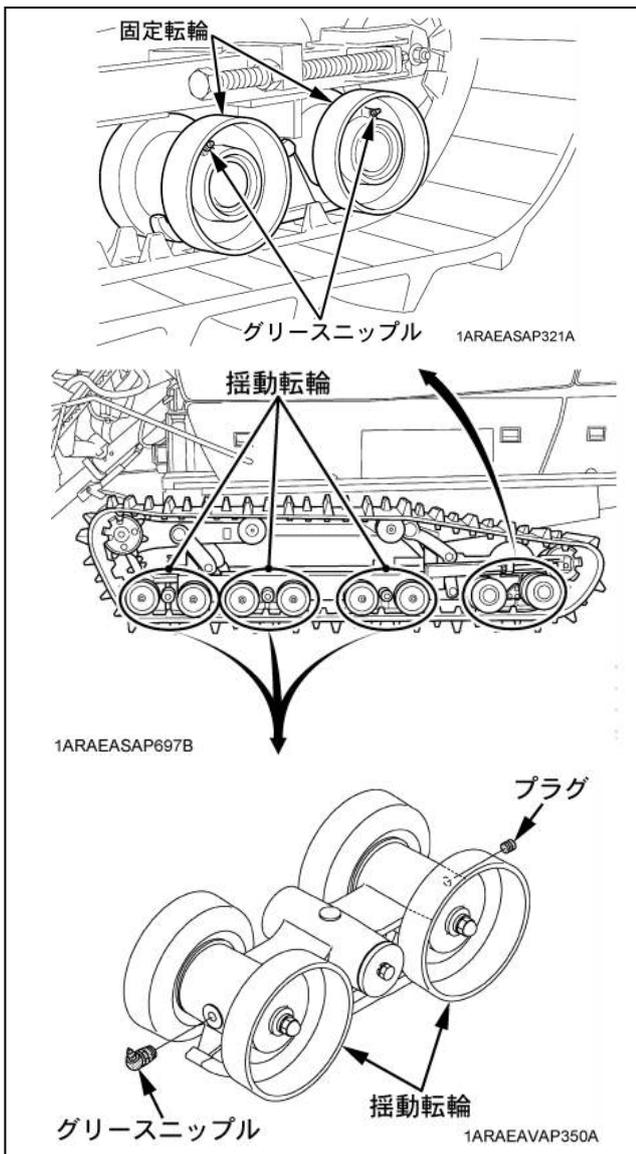
\* グリース注入後は、グリースニップルのキャップを必ず取り付けてください。洗車時に水が浸入するおそれがあります。

◆ 揺動転輪部 (左、右各 3 箇所)

◆ 固定転輪部 (左、右各 2 箇所)

揺動転輪部のグリース補給は、六角レンチでプラグを取り外してから行ってください。また、プラグを取り外した穴からグリースがはみ出してきたら補給を中止してください。

プラグにシールテープ巻をきつけて、取り付けてください。



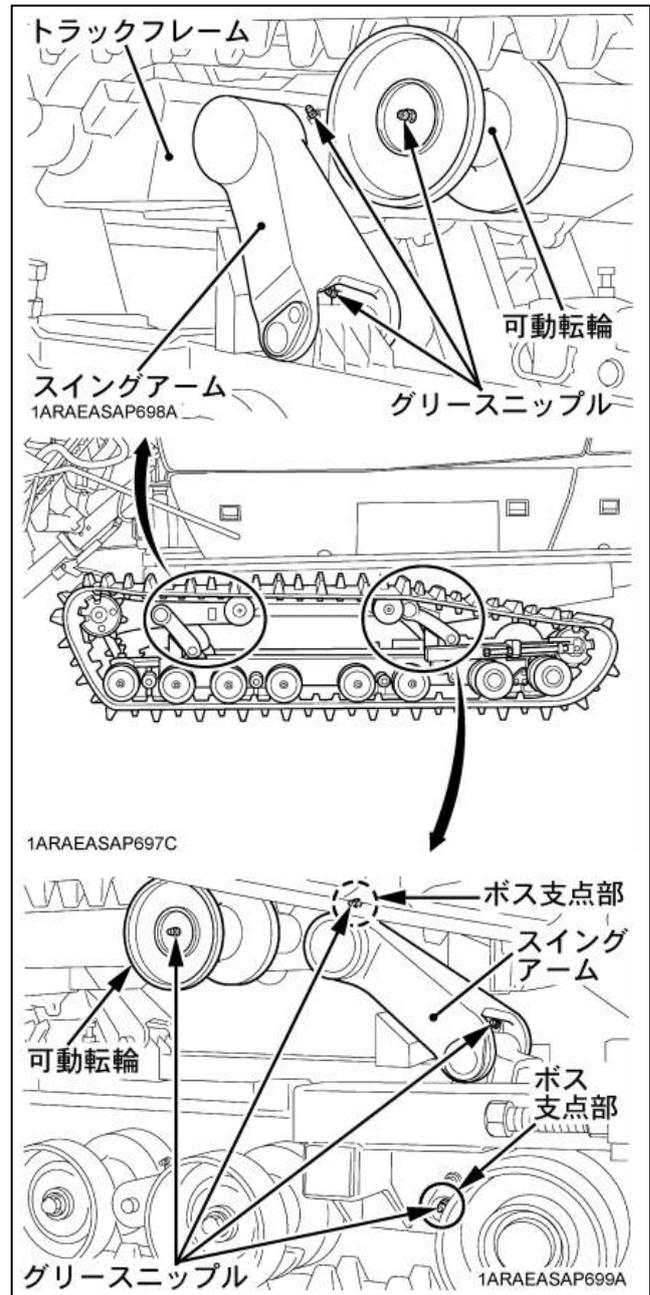
◆ ボス支点部 (左、右各 2 箇所)

◆ 可動転輪部 (左、右各 2 箇所)

◆ スイングアーム部 (左、右各 2 箇所)

◆ トラックフレーム部 (左、右各 1 箇所)

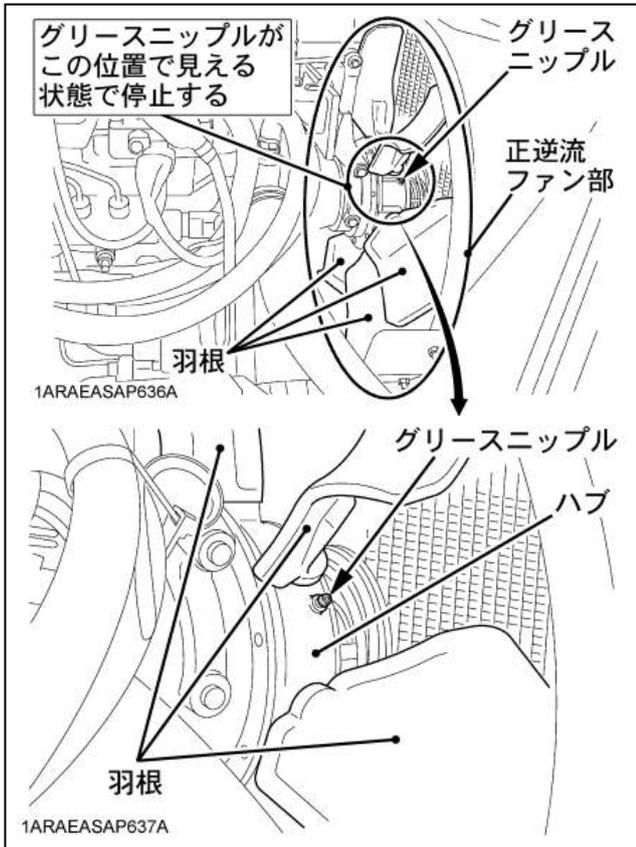
水平操作手動スイッチの[上]を押して機体を最上昇位置にしてください。



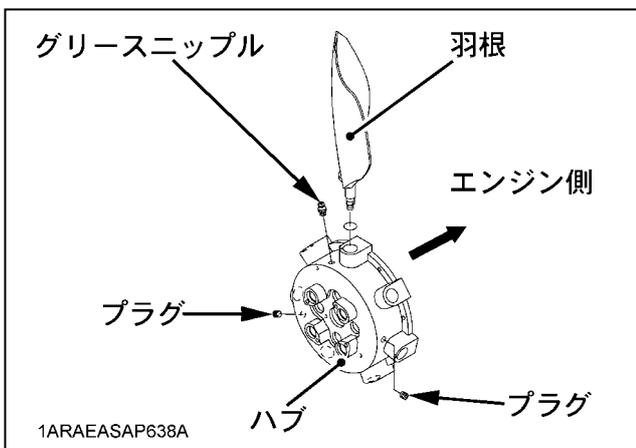
# メンテナンス

## ◆エンジン正逆流ファン部

1. 運転席後カバーを取り外します。
2. エンジンを始動したあと、逆流ファンの羽根を取り付けているハブにあるグリースニップルを、次図の位置付近で停止するようにエンジンを停止します。



3. ハブに2箇所あるプラグのどちらかをとり外したあと、グリースニップルからグリースを補給します。



## 重要

補給するグリースは、必ず指定の協同油脂(株)製耐熱グリース(パワーライトWR NO.1)を使用してください。指定の耐熱グリース以外のグリースを使用すると、エンジン正逆流ファン部が故障するおそれがあります。

## 補足

補給する耐熱グリースの協同油脂(株)製耐熱グリース(パワーライトWR NO.1)については購入先に連絡してください。

4. 取り外したプラグの取付穴からグリースを補給し、はみ出してくると同時に補給を中止し、シールテープをプラグに巻いて、取り外したところにプラグを取り付けます。

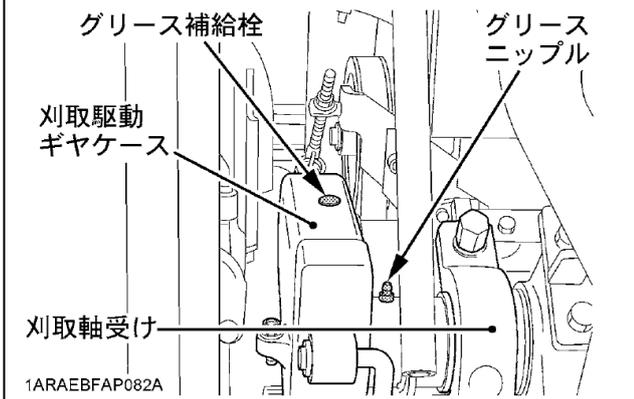
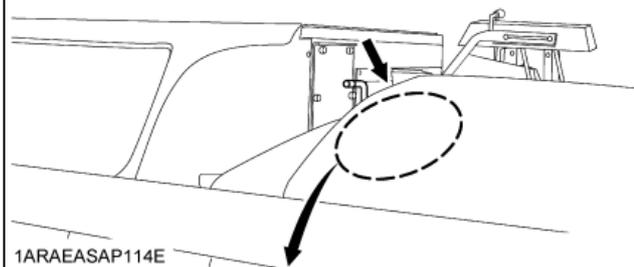
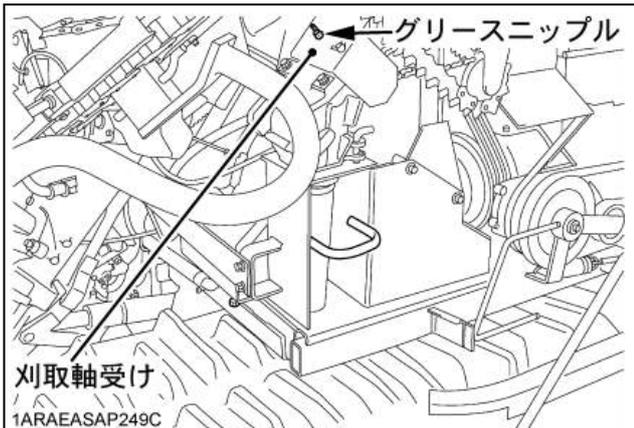
## 補足

\*シールテープについては購入先に連絡してください。  
\*グリースを補給したあと、エンジンをしばらく動かすと逆流ファンの周りにグリースがにじみ出ることがありますが異常ではありません。

5. 運転席後カバーを取り付けます。

# メンテナンス

## ◆刈取部



### 補足

\*刈取駆動ギヤケースのグリース補給栓を取り外してグリースを補給してください。

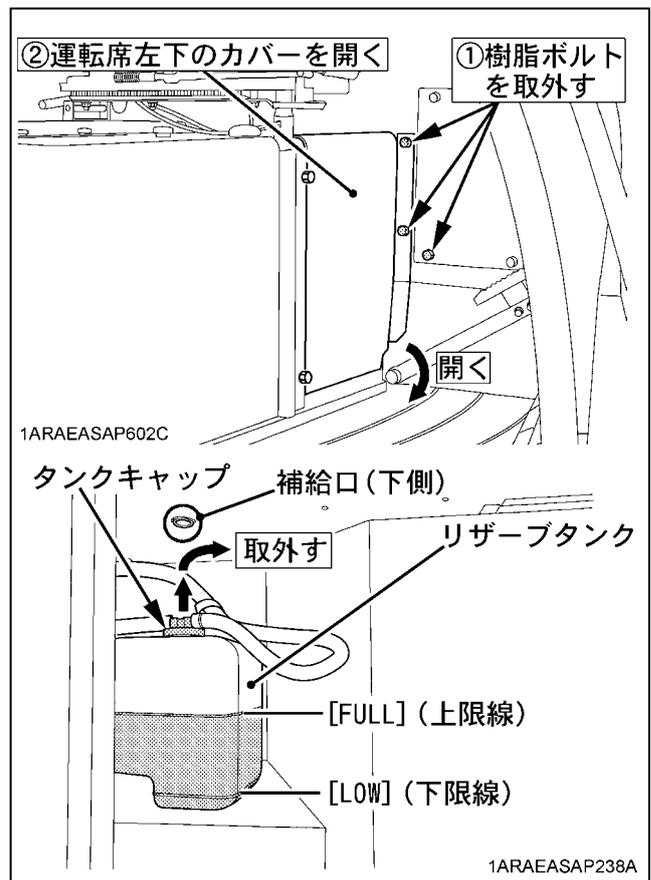
## 11. ラジエータ冷却水の点検・補給・交換

### 警告

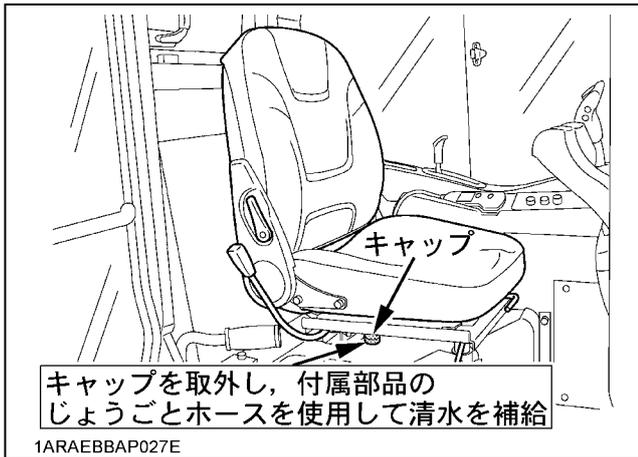
\*ラジエータキャップは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後じゅうぶん冷えてからメインスイッチのキーを抜いてください。

## ◆点検・補給

1. 運転席左下のカバーを開きます。
2. リザーブタンク内の冷却水が[LOW] (下限線)と[FULL] (上限線)の間にあるか確かめます。
3. リザーブタンク内の冷却水が[LOW] (下限線)より少ないときは、清水を補給します。
  - (1) リザーブタンクのタンクキャップを取り外します。
  - (2) 運転席下側にある冷却水補給口のキャップを取り外します。
  - (3) 付属部品のじょうごとホースを使用して清水を補給します。



# メンテナンス



4. 冷却水補給口のキャップを取り付けたあと、運転席左下のカバーを閉じます。

## 重要

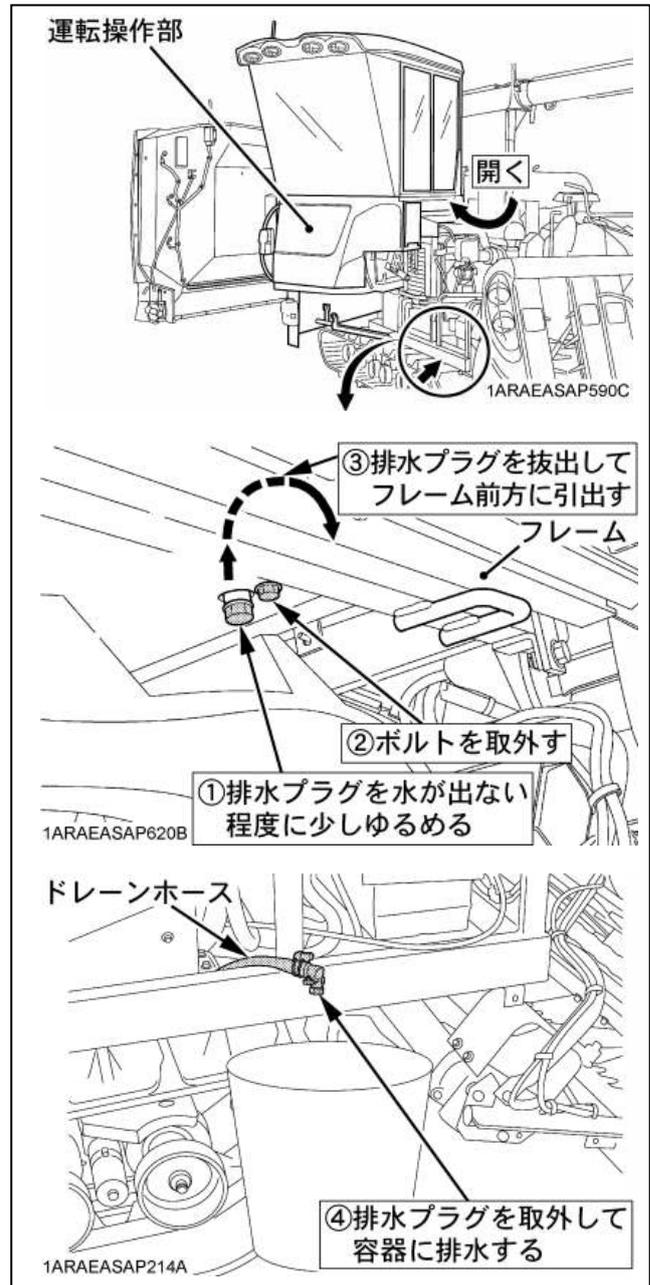
- \*オーバーヒートしたときは、ラジエータ内の水量を確認してください。水量が不足しているときは、清水を補給してください。
- \*冷却水が自然に不足したときは、必ず清水を補給してください。不凍液を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。

## 補足

[FULL] (上限線) の線以上は補給しないでください。

## ◆交換

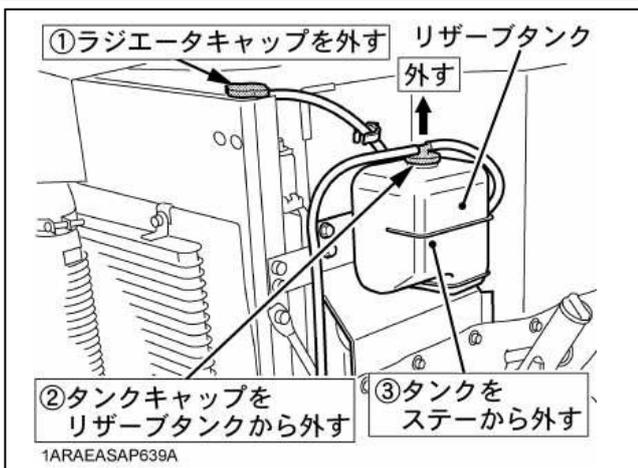
1. 運転操作部を開きます。
2. ボルトを取り外し、排水プラグを排水ホースと一緒に引き出して、準備している容器の上で排水プラグを外し、排水します。



3. ラジエータキャップを外します。

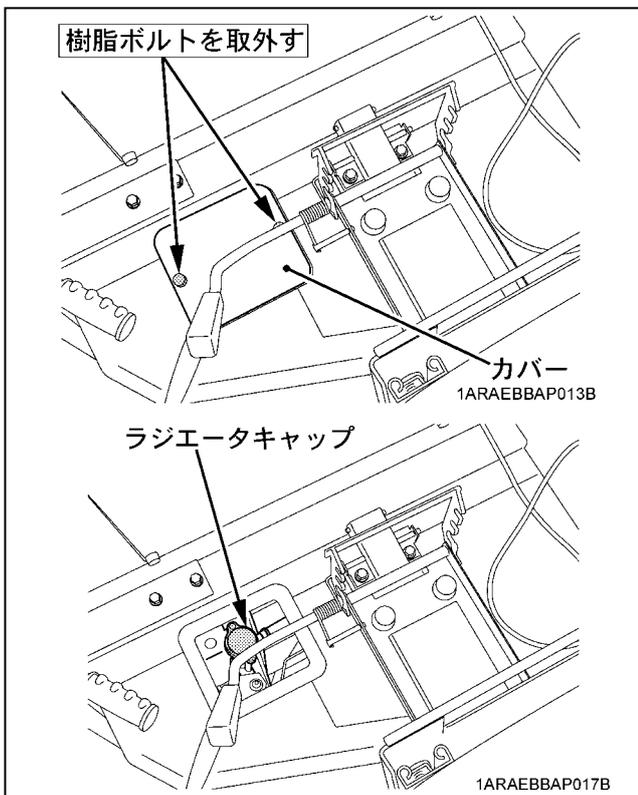
4. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ(吸引パイプ付)を取り外したあと、ステーからリザーブタンクを外して排水します。

# メンテナンス



## 補足

ラジエータキャップは、運転操作部が閉じているとき、運転席右下にあるカバーを取り外すと見えます。



5. 水道水でごみや錆が出なくなるまで洗います。
6. リザーブタンクを取り付けます。
7. ドレーンホース側の排水口をボルトで取り付けて、排水プラグを締め付けたあと、目標温度(外気温)の比率分(混合比)の不凍液をラジエータおよびリザーブタンクに入れます。

## 重要

- \* 不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- \* 不凍液を使用する場合は、ラジエータ保淨を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保淨剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- \* クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。
- \* 異なるメーカーの不凍液を混合しないでください。エンジン故障の原因となります。
- \* 排水プラグを締め忘れると水漏れが発生したり、排水プラグ部を機体に取り付け忘れると、ホースが破損するおそれがあります。

## 補足

- \* 不凍液混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して、下表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はエチレングリコール(EG)タイプのロングライフクーラントをご使用ください。

### ●不凍液混合比率表

外気温度(℃)	-5	-8	-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-43	
比	水(%)	85	80	75	70	65	60	55	50	45
率	不凍液(%)	15	20	25	30	35	40	45	50	55

※出荷標準：不凍液50%

※ラジエータ容量：7.9L

(リザーブタンク容量は含まない)

- \* 新しい冷却水と交換を行ったあとは、必ず不凍液を入れて、5分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、冷却水が冷えてからラジエータキャップを取り外して冷却水の補給とリザーブタンクの水量をたしかめておいてください。

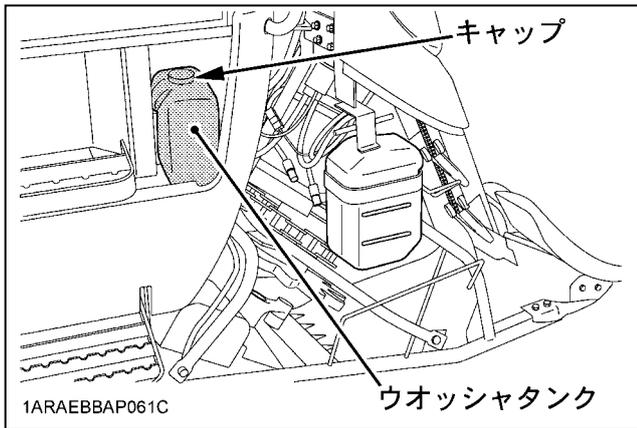
# メンテナンス

8. ラジエータキャップおよびリザーブタンク、キャップを取り付けます。
9. 運転操作部を閉じます。

## 12. ウオッシャ液の補給

### ■ウオッシャ液の補給

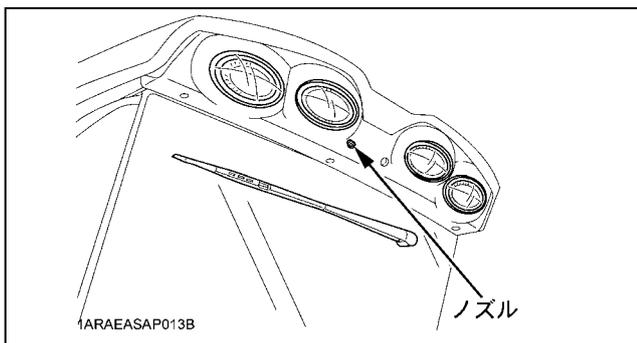
ウオッシャタンクのキャップを取り外して、自動車用のウオッシャ液を補給してください。補給後はキャップを取り付けてください。



ウオッシャ液の種類	ウオッシャタンク容量
自動車用ウオッシャ液	約1.2ℓ

### 重要

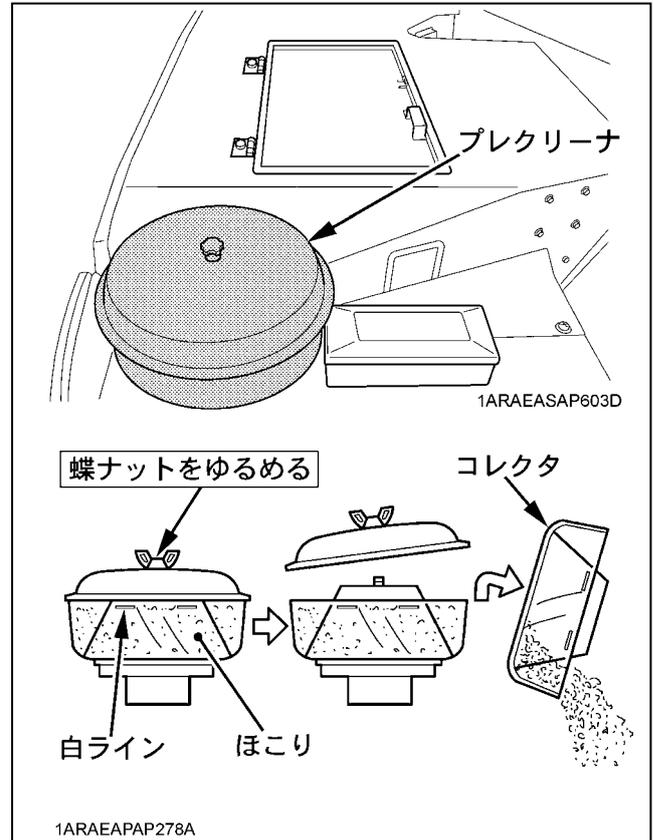
- \*ウオッシャタンクに清水などウオッシャ液以外の液体を入れないでください。寒冷時に凍結して故障の原因となります。
- \*ウオッシャ液が入っていない状態で、ワイパ・ウオッシャスイッチを押さないでください。ポンプの故障の原因となります。
- \*ウオッシャタンク内にごみが混入すると、ノズルが詰まりウオッシャ液が出なくなるおそれがあります。



## 13. クリーナの点検・掃除・交換

### ■プレクリーナの点検・掃除

ほこりの量がプレクリーナのコレクタ側面の白ラインを越えているときは、蝶ナットを緩めて次の要領でほこりを取り除いてください。



### 重要

乾式のフィルタなのでオイルは入れないでください。

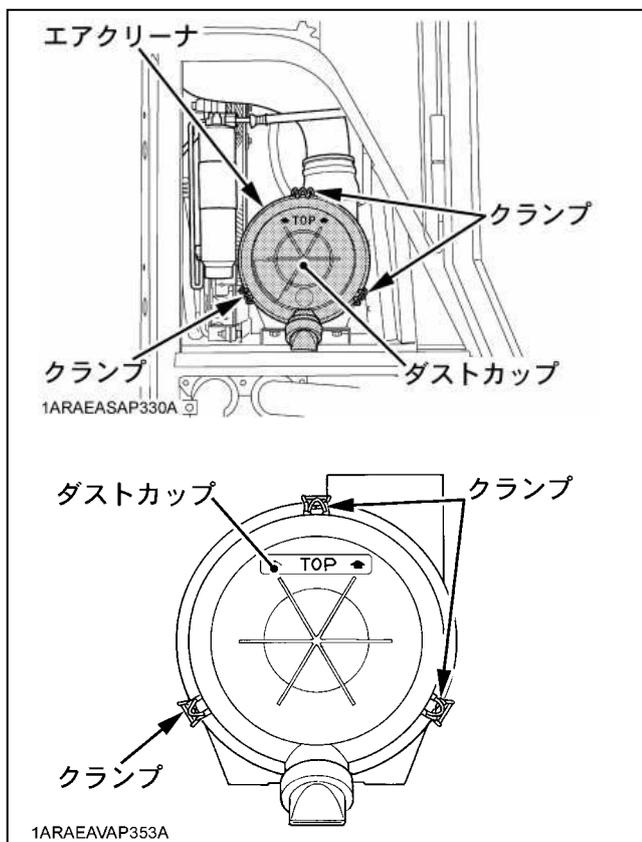
### 補足

ほこりが溜まるとエアクリーナの詰まりの原因となります。

# メンテナンス

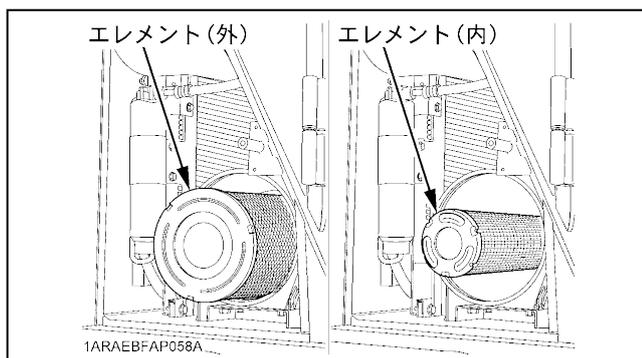
## ■エアクリーナの点検・掃除・交換

防じんカバーを開くまたは、取り外したあと、クランプ3箇所を外してダストカップを取り外してください。



## ◆点検・掃除・交換

エアクリーナエレメントの点検を行い、掃除または、交換を行ってください。エレメントを掃除するときは、エレメントを引き抜いて取り外したあと、エレメントの内側から空気を吹きつけるか、または軽く振ってゴミを取り除いてください。汚れのひどい場合や300時間経過しているときは、交換してください。作業終了後は、ダストカップを取り付けて、防じんカバーを閉じてください。

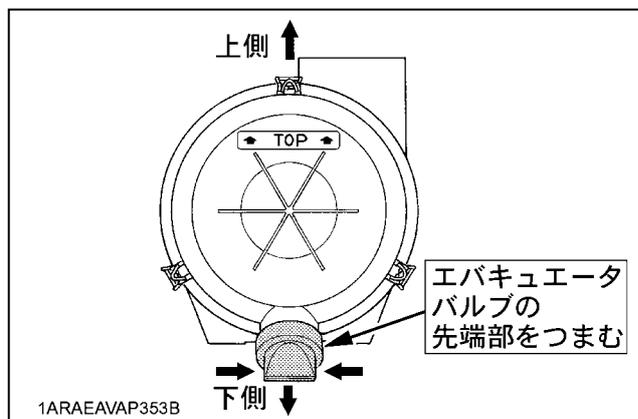


## 重要

- \*高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。
- \*エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。点検は運転前に欠かさず行ってください。
- \*エレメントは傷がつかないように取り扱いしてください。特に掃除時は、叩いたり固い物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますので絶対にやめてください。
- \*エレメントを掃除する場合、エアの圧力は205kpa(2.1kgf/cm<sup>2</sup>)をこえないよう注意し、エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また、エアはエレメントの内側から外側に通してください。

## 補足

- \*エアクリーナの点検を行ったときは、ダストカップのエバキュエータバルブの先端部をつまんでダストカップ内に溜まったゴミを排出してください。
- \*ダストカップを取り付けるときは[**TOP**]の文字を上側にしてください。



# メンテナンス

## 14. パイプ、ホース類の点検・交換

### 警告

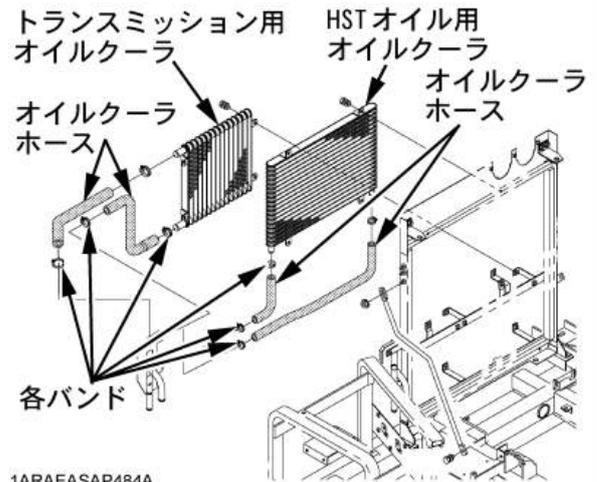
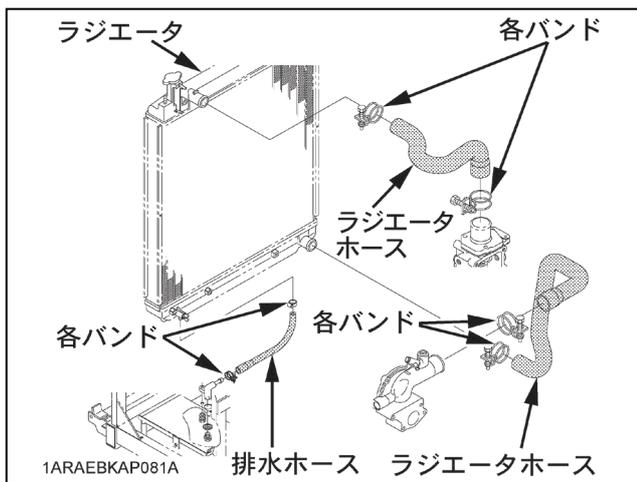
- \* 運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあります。
- \* 燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起こし火災の原因となります。
- \* 使用者は交換作業を行わないでください。

### 点検

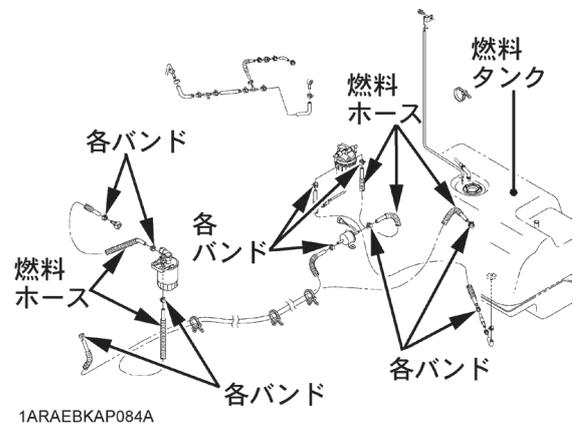
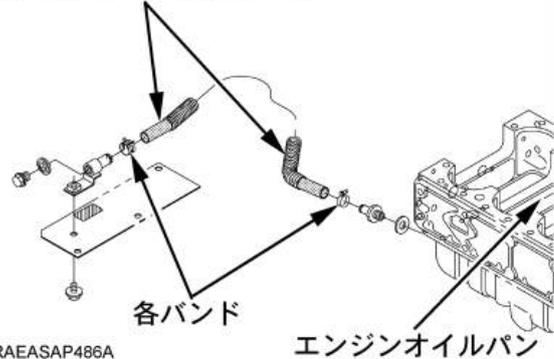
エンジン、エアクリーナ、プレクリーナ、ラジエータ、各オイルクーラ、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、油漏れや水漏れが発生しているときや緩んでいるときは、パイプやホースの交換やバンドを締め付けてください。

### 重要

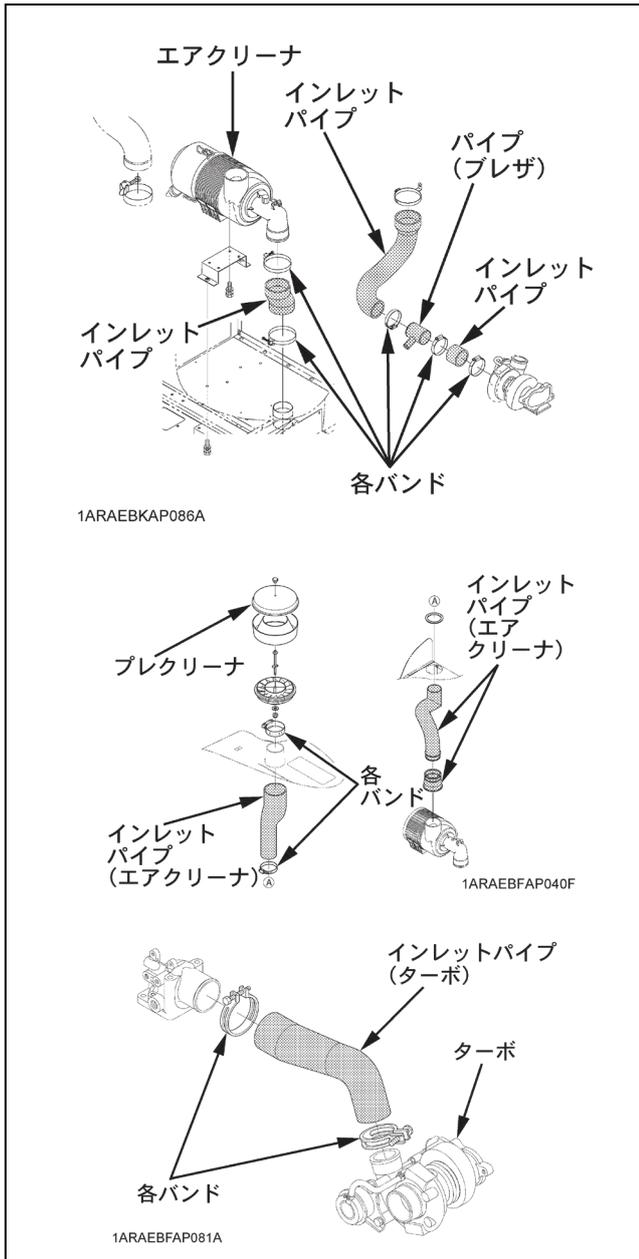
- \* オイルドレインゴムホースが破損していると、エンジンが焼き付けを起こします。
- \* 油もれや水もれをしていなくても、2年経過しているときや劣化の激しい場合は購入先に連絡して交換してください。



### オイルドレインゴムホース



# メンテナンス

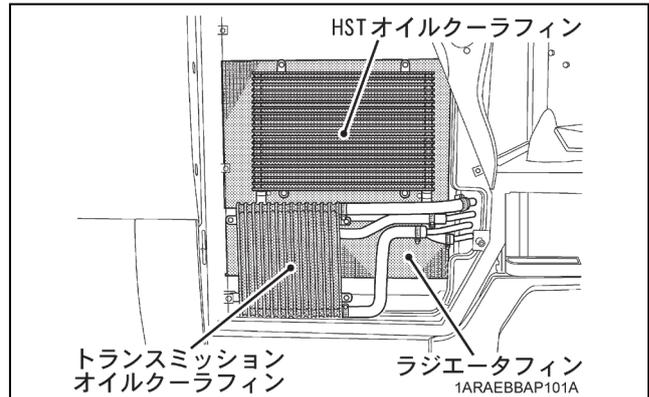


## 15. 防じんあみ、各フィンの掃除

### ◆掃除

防じんカバーを取り外したあと、圧縮空気を使用するなどして防じんあみやラジエータ部およびエンジンに付着しているゴミなどを掃除してください。

### ●エンジン部



### 重要

ヘラやドライバーなど固いものや高圧洗車機を使用して、各フィンの掃除をしないでください。ラジエータフィンを傷めると、ラジエータの機能を低下させる原因になります。

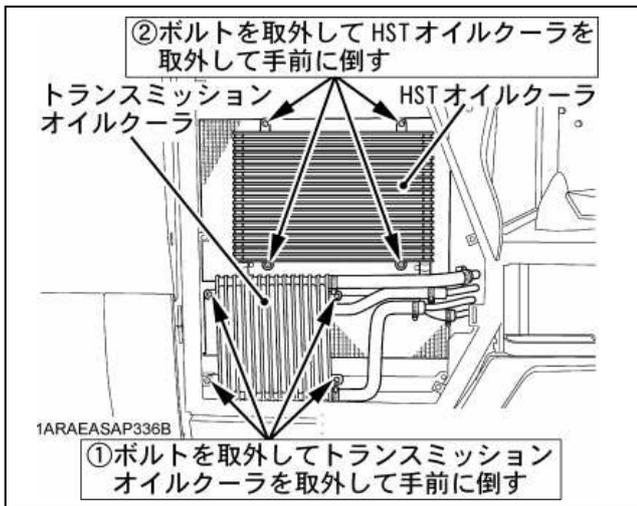
### 補足

ラジエータフィンのほこりが取れにくい場合は、ボルトを取り外して各オイルクーラを手前に倒してから掃除してください。

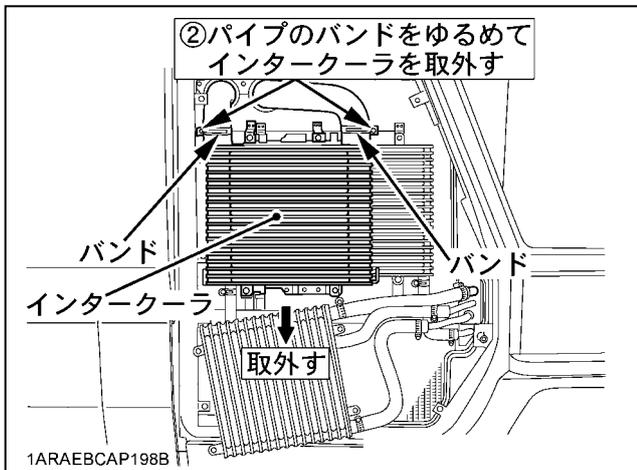
### ●取り外しかた

1. ボルトを取り外したあと、各オイルクーラを手前に倒します。

# メンテナンス



2. 逆の手順で取り付けしたあと、防じんカバーを取り付けます。



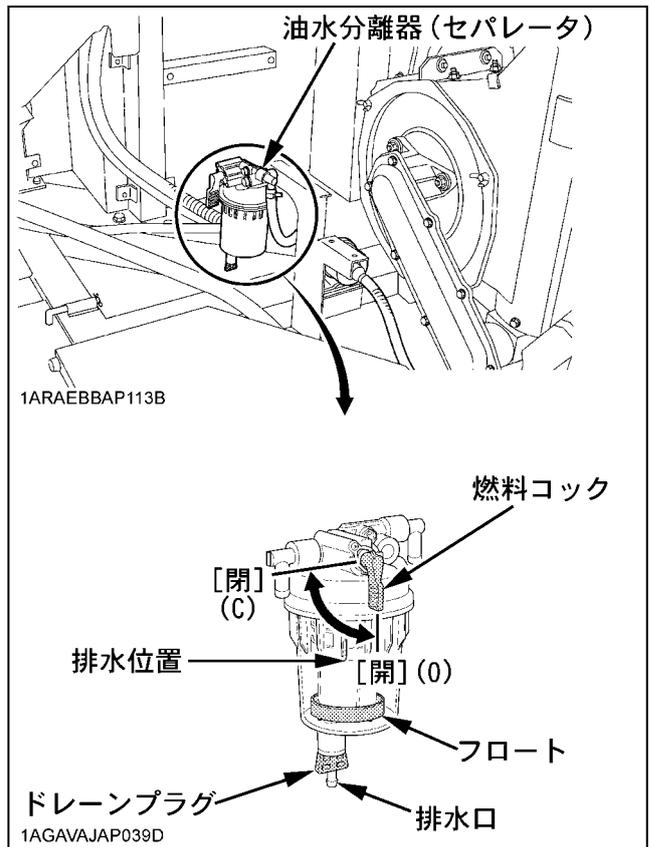
## 16. 油水分離機(セパレータ)の点検・排水

### ◆点検

点検を行ったとき、セパレータのカップに水が貯まり、赤いフロート(浮輪)が排水位置(白線)まで上昇したときは排水してください。

### ◆排水

1. セパレータの燃料コックを[閉](C)位置にします。
2. エアプラグとドレーンプラグを緩めて水を排出します。
3. エアプラグとドレーンプラグを締め付けたあと、燃料コックを[開](O)位置にします。



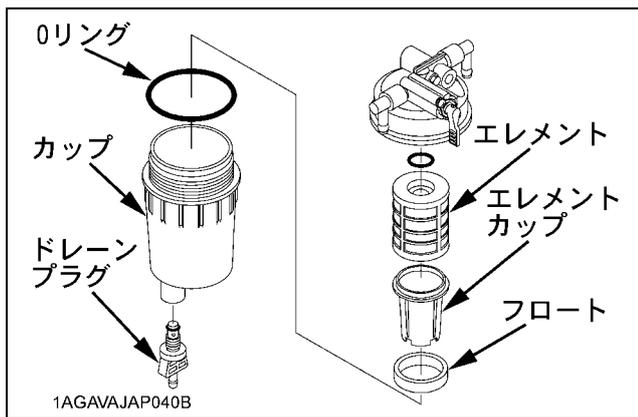
### ◆掃除

1. 排水の手順でカップ内の水を排出します。
2. 水位センサのコネクタを外します。
3. カップを緩めて取り外します。
4. カップやエレメントなどを軽油で洗浄します。
5. 取り外した逆の手順でセパレータを取り付けます。
6. ドレーンプラグを締め付けたあと、燃料コックを[開](O)位置にします。
7. 水位センサのコネクタを取り付けます。

### 重要

組み付けるときは、チリやホコリが附着しないように注意してください。

## メンテナンス



Oリングは傷付けないようにしてください。また、カップに正しく入れて組み付けてください。

### 補 足

- \*赤いフロートを捨てないでください。
- \*排水後は、スイッチキーを[入]位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

## 17. フィルタカートリッジ類の洗浄・交換

### ■燃料フィルタカートリッジの交換

交換は燃料を給油する前に行ってください。

### 重 要

燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し、エンジンの故障の原因となります。

### 補 足

交換後は、メインスイッチのキーを[入]位置にすると5～10秒で自動的にエア抜きされます。

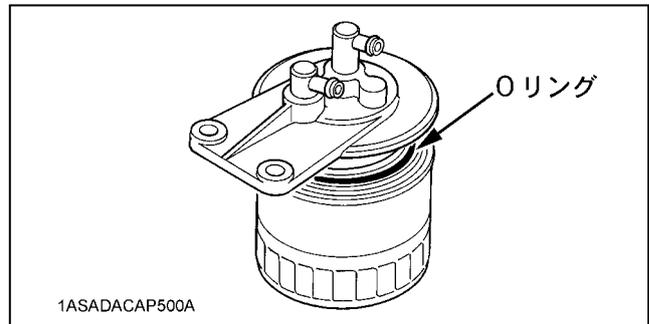
### ◆交換

1. セパレータの燃料コックを[閉]位置にします。
2. 専用工具を使ってカートリッジを取り外します。

### 補 足

取り外しかたや専用工具については、購入先へご相談ください。

3. 新しいカートリッジはOリングに燃料を薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。



### 重 要

\*燃料内にゴミなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなります。また燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗し、エンジンの故障の原因となります。

4. セパレータの燃料コックを[開]位置にします。

### ■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

#### ◆交換

### 補 足

エンジンオイルフィルタカートリッジは、エンジンオイルの交換と同時に交換してください。

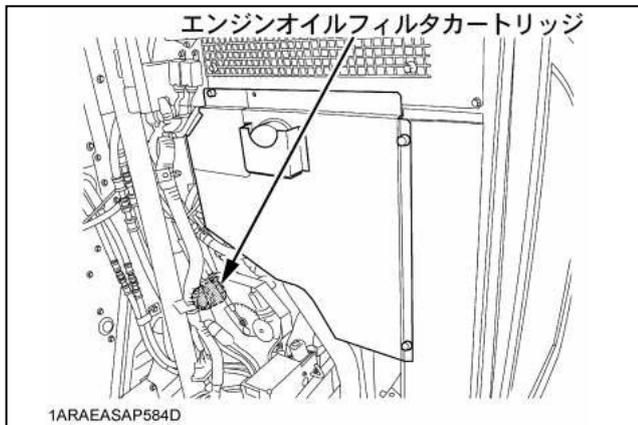
1. 専用工具を使ってカートリッジを取り外します。

# メンテナンス

## 補 足

取り外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

2. 新しいフィルタカートリッジを取り付けます。
3. オイルゲージの上限線までオイルを補給したあと、5分程度エンジンを運転して各部および油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから、エンジンを停止し、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。



## 重 要

- \*新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。
- \*エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。

## 補 足

オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

## ■HSTオイルフィルタカートリッジ、 トランスミッションオイル フィルタカートリッジの交換、 HST油圧オイルタンクフィルタの 洗浄・交換

### 警告

- \*運転操作部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。
- \*運転操作部の開閉を行うときは、平坦で安全な場所で、エンジンを必ず停止してメインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \*傾斜地では、運転操作部の開閉は行わないでください。
- \*刈取部を上げて洗浄・交換を行うときは、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに枕木などを使用して落下防止の歯止めをしてください。

### ◆交換

## 補 足

HSTオイルフィルタカートリッジとトランスミッションオイルフィルタカートリッジは同時に交換を行ってください。また、油圧オイルタンクフィルタの洗浄または、交換も同時に行ってください。

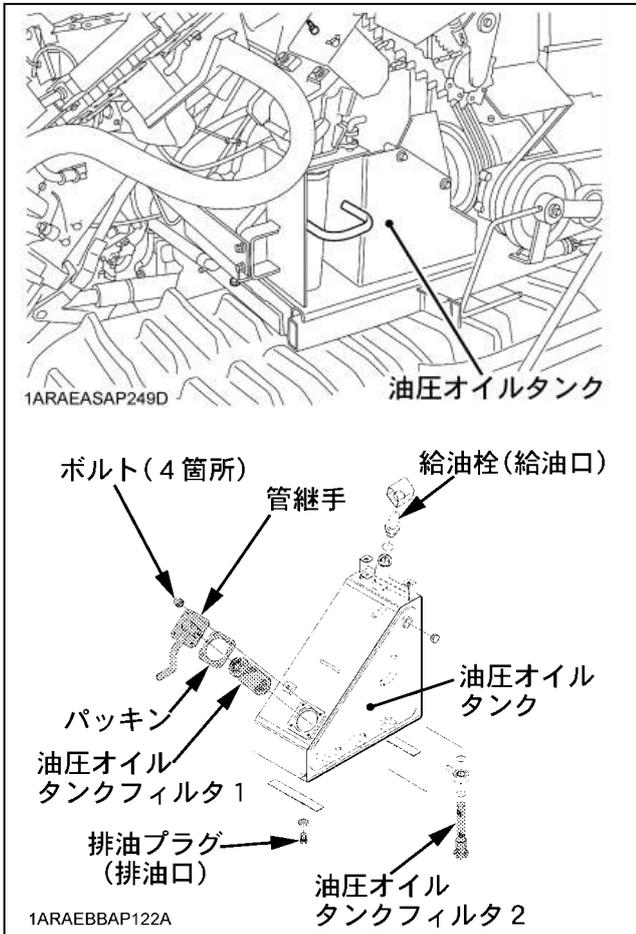
1. 供給カバーを取り外します。
2. 油圧オイルタンクの給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出します。
3. ボルトを取り外して管継手を外します。

## 重 要

- \*管継手を取り外すとき、パッキンが破れないようにゆっくりと外してください。

# メンテナンス

4. 油圧オイルタンクフィルタを取り外したあと、フィルタが汚れているときは、軽油などで洗浄し、破損しているときは交換します。

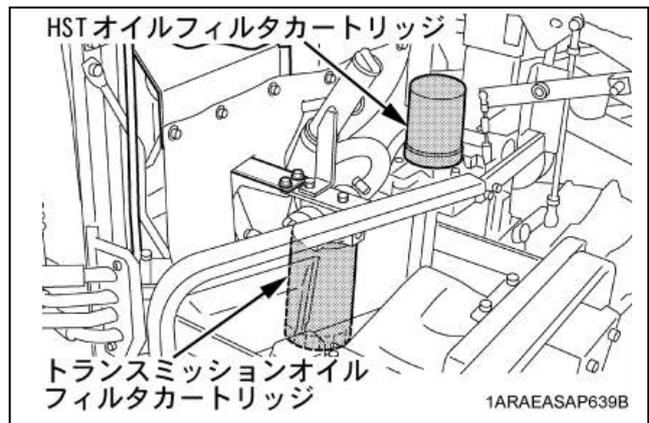


5. 取り外した逆の手順で油圧オイルタンクフィルタ、管継手を取り付けます。

## 補足

管継手を取り付けるときは、液状パッキンを塗布してください。液状パッキンについては、購入先に連絡してください。

6. 排油プラグを締め付けます。  
 7. 運転操作部を開きます。  
 8. 専用工具を使ってHSTオイルフィルタカートリッジおよびトランスミッションオイルフィルタカートリッジを取り外します。



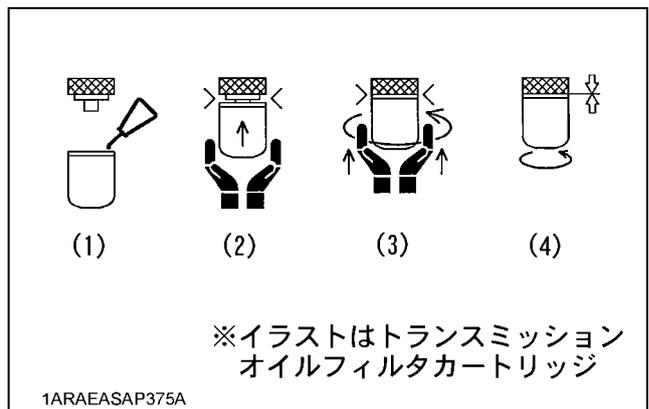
## 補足

取り外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。

9. 新しいオイルフィルタカートリッジを取り付けます。

## 重要

- \*新しいカートリッジを取り付けるときは、フィルタレンチを使用せず手で締め付けてください。また、オイルフィルタカートリッジを交換するときに、ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、HSTの故障の原因となります。
- \*新しいオイルフィルタカートリッジを取り付けるときは、次記の手順で取り付けてください。



- ※イラストはトランスミッションオイルフィルタカートリッジ
- (1) オイルフィルタカートリッジを取り付ける面にオイルを薄く塗る。
  - (2) オイルフィルタカートリッジが傾かないように、両手で持ちながら取り付ける。

# メンテナンス

- (3) 緩まない程度まで締め付ける。
- (4) オイルフィルタカートリッジと取付部にすき間がないことを確認する。

10. 運転操作部を閉じます。

11. 182ページの項を参照し、オイルを規定量給油します。

## 補足

オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけ油圧タンクオイル、トランスミッションオイルの油面が下がります。

12. 供給カバーを取り付けます。

## 重要

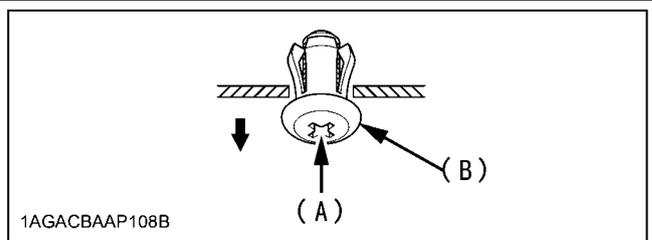
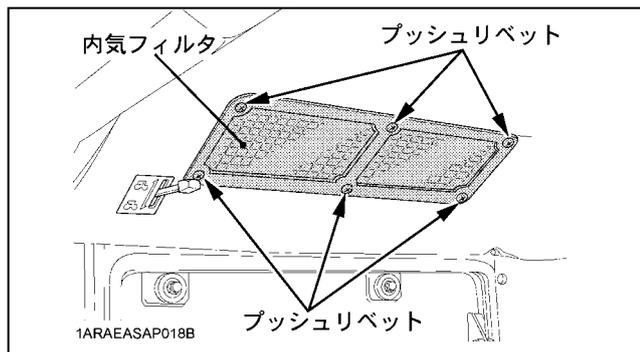
給油したあとエンジンを約1分間以上負荷をかけずに回転させて、オイルゲージで点検を行い、下限より少ないときは、オイルを追加補給してください。

## ■キャビン内気、外気フィルタの掃除・交換

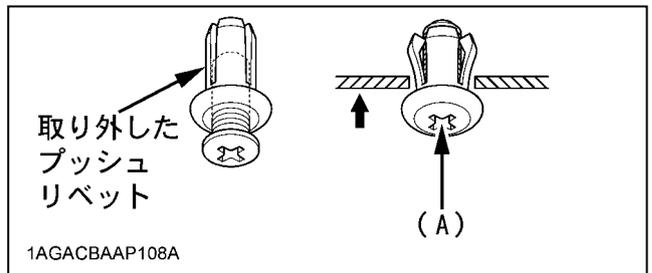
フィルタが目詰まりするとエアコンの効率が低下します。フィルタを損傷させないように掃除してください。

### ◆内気フィルタの掃除・交換

1. プッシュリベットを取り外して、内気フィルタを取り外します。取り外すときは、プッシュリベットの周辺(B)部を手で押さえて(A)部を(+ )ドライバーで左に回します。

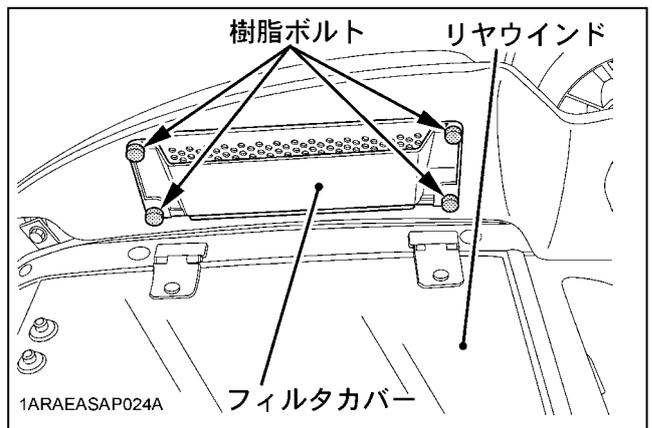


2. 内気フィルタを掃除します。掃除を行っても汚れが取れないときや、損傷しているときは交換してください。
3. 内気フィルタを取り付けます。取り付けるときは、プッシュリベットを内気フィルタに挿し込み、(A)部を押しプッシュリベットを固定します。

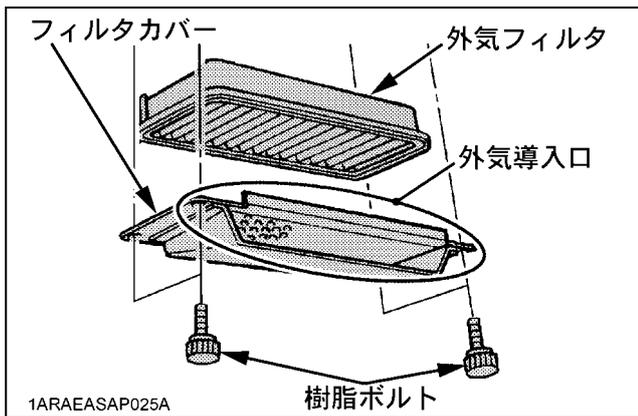


### ◆外気フィルタの掃除・交換

1. 樹脂ボルトを取り外して、フィルタカバーと外気フィルタを取り外します。
2. 外気フィルタを掃除します。掃除を行っても汚れが取れないときや、損傷しているときは交換してください。



## メンテナンス



3. 外気フィルタとフィルタカバーを取り付けます。

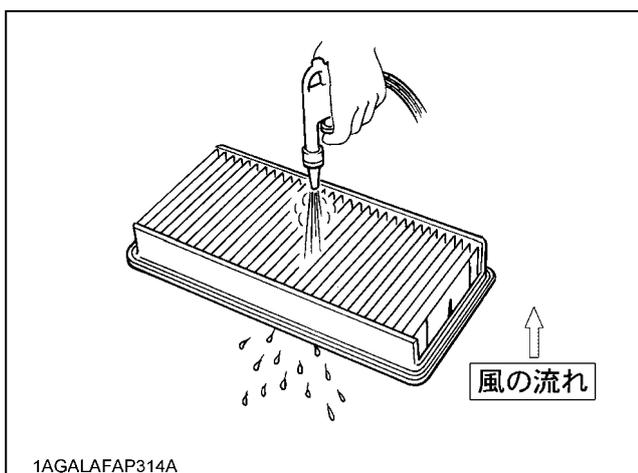
### 重要

\*エレメントは傷がつかないように取り扱いください。特に掃除時は、叩いたり固い物に当てて変形させるとエアコンの故障の原因となりますので絶対にやめてください。

\*外気フィルタを取り付けるときは、傾きが出ないように確実に取付部に挿し込んでください。

### 補足

\*風の流れ方向の逆方向よりエアブローしてください。



\*汚れが著しいときは、家庭用中性洗剤を溶かしたぬるま湯につけて上下左右に動かしながら洗浄し、清水でよくすすいだ後完全に自然乾燥させてください。

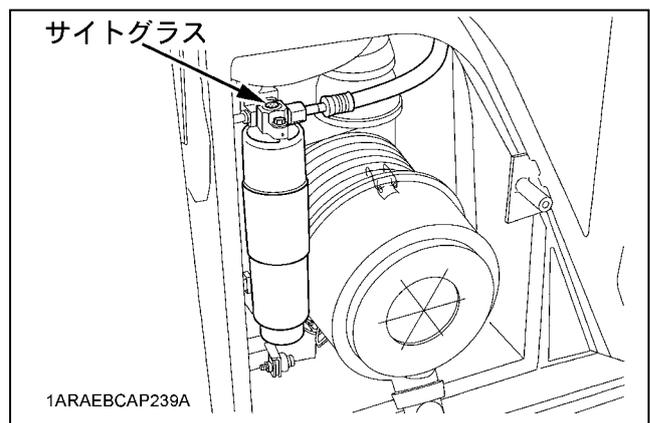
\*フィルタカバーの空気導入口を外側に向けて組み付けてください。

### ■冷媒（ガス）量の点検

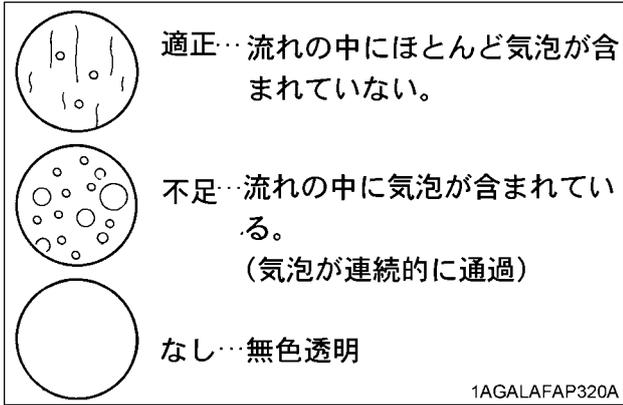
冷媒が不足するとエアコンが冷えなくなります。下記要領で点検し、冷媒が不足しているときは、購入先に連絡して補充してください。

#### ◆点検

1. エアコンを次の条件で運転します。
  - 外気温：30度以上
  - エンジン回転数：約1500rpm
  - 内外気切換えレバー：[内気循環]位置
  - 温度調整つまみ：左端(最強冷位置)
  - ファンスイッチ：[3](風力最強位置)
  - エアコンスイッチ：[入]位置
  - 窓(左、後)を全開、ドア全開
2. 防じんカバーを開きます。
3. サイトグラスにより、冷凍サイクルを流れている冷媒の状態を確認します。
4. レシーバに流れている冷媒ガスを、サイトグラスから確認します。



# メンテナンス



5. エンジンを停止し、ファンスイッチとエアコンスイッチを[切]位置にします。
6. 防じんカバーを閉じます。

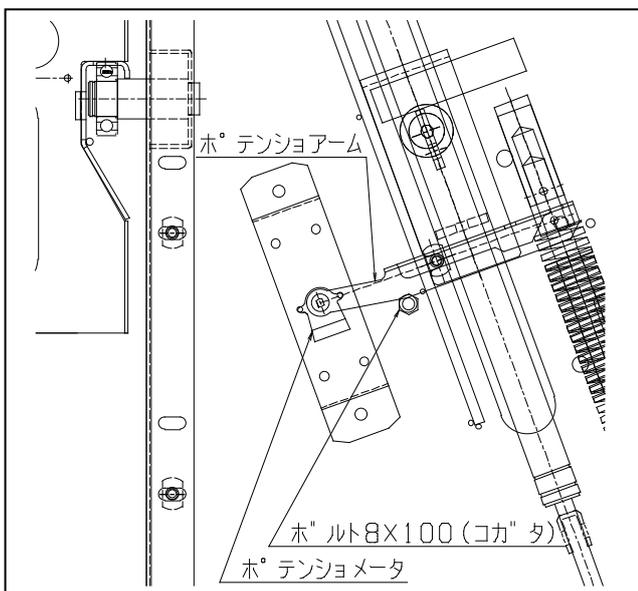
## ■エアコン機器の簡易点検

当機搭載のエアコン機器は、フロン排出抑制法により3ヶ月に1回以上の簡易点検が義務付けられています。点検を行い、その記録を残してください。当機を譲渡する場合は、譲渡先に点検記録を渡してください。冷媒ガスの漏えいを発見した場合は、速やかに購入先に漏えい個所の修理を依頼してください。

## 18. 感知装置の点検・調整

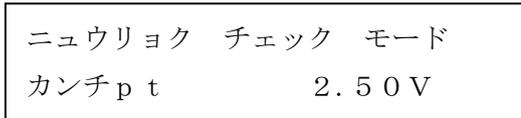
### ◆満了感知装置の装備位置

下図に示すように進行方向左側のカバーの内側に装備しています。



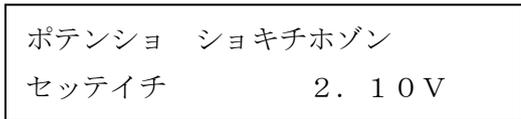
### ◆満了感知装置の調整方法

- ①感知に使用するボルト8×100(コガタ)を外し、左図の位置で固定し、ポテンショアームをボルト8×100の上に乗せます。
- ②コントロールボックスの[表示切替ボタン]を3回押し入力チェックモードに入り、[次](ボタン)を繰り返して押し、下記画面が表示されたら、感知ポテンシオメータの電圧値が2.4V～2.6Vになるようにポテンシオベースの長穴を調整します。2.4V～2.6Vに入っているとブザーが鳴ります。



- ・86号機以降は、調整後コントロールボックスの表示切替ボタンを1回押して、作業画面に戻り、リセットボタンを長押ししてください。

下記画面が表示されたら設定完了です。



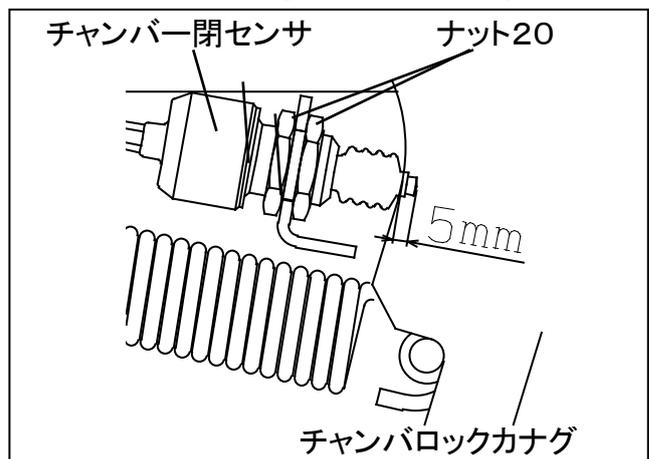
- ・85号機以前は表示切換ボタン、戻るボタンを各1回押した後リセットボタンを長押ししてください。下記画面が表示され電圧値が変わったら設定完了です。



## 19. チャンバー閉センサの点検・調整

### ◆チャンバー閉センサの装備位置

次図に示すように進行方向左側のチャンバーロック部に装備しています。



# メンテナンス

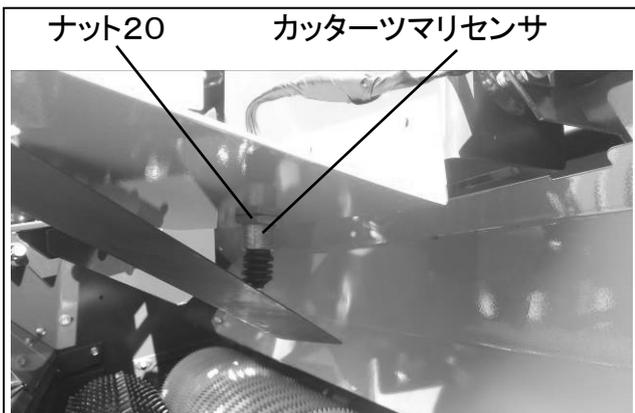
## ◆チャンバー閉センサの調整方法

- ①チャンバーを完全に閉じます。
- ②ナット20を緩めます。
- ③チャンバー閉センサの先端がチャンバラックカナグに5mm押された位置にし、ナット20で固定します。

## 20. カッターツマリセンサの点検・調整

### ◆カッターツマリセンサの装備位置

次図に示すように、進行方向左側のカッターの上方に装備しています。

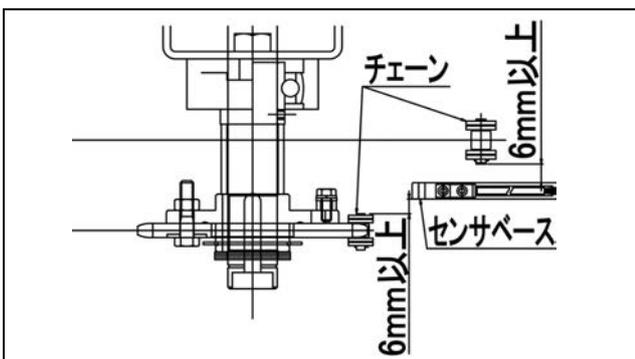


### ◆カッターツマリセンサの調整

カッターツマリセンサを一番下に下げた位置にし、ナット20で固定してください。

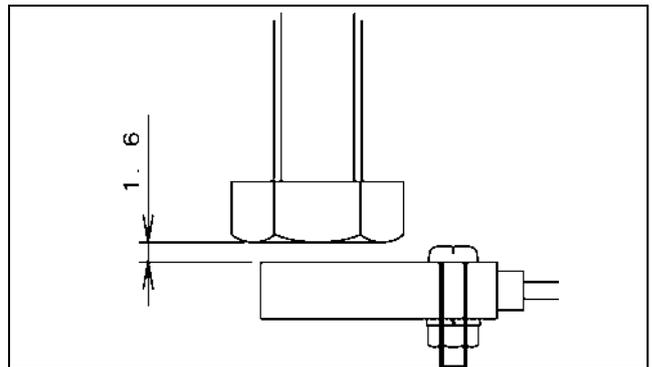
## 21. シャーボルト切れセンサの点検・調節のしかた

各チェーンとセンサベースとの距離が6mm以上になるように調節してください。



## 22. ネットカムセンサ1・2、ネットカウントセンサの点検・調整

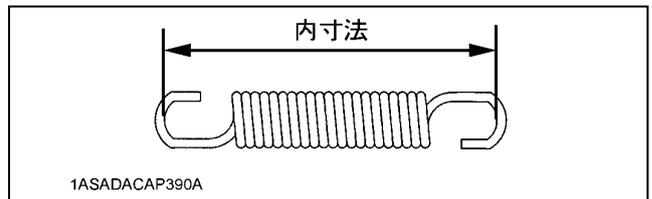
各近接センサは、反応させるボルトとの距離が1.6mmになるように調節してください。



## 23. 各部ワイヤの点検・調整

### 補足

スプリングの取り付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



## ■駐車ブレーキワイヤの点検・調整

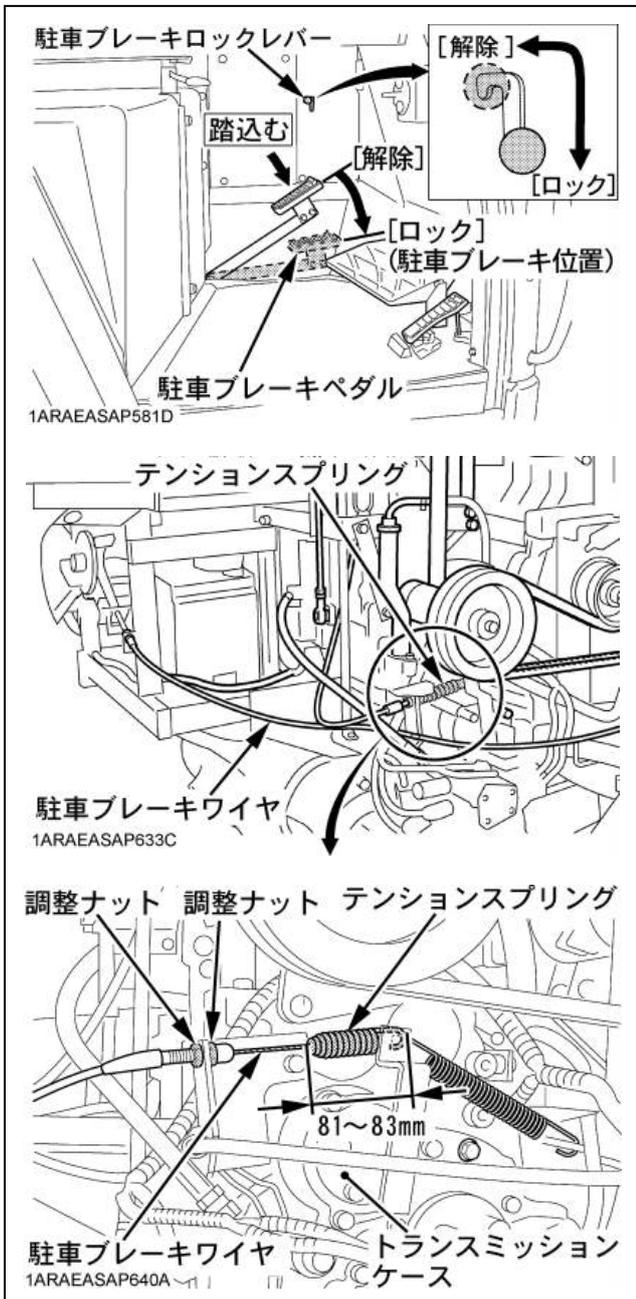
### 警告

- \*刈取部を開閉するときは、平たんで安全な場所で、刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず停止して行って、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \*傾斜地では、刈取部の開閉を行わないでください。
- \*刈取部を開いた状態で作業を行う場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- \*刈取部を開いた状態で作業する場合は、刈取部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- \*刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

テンションスプリングの長さを81~83mmに調整します。

# メンテナンス

1. 駐車ブレーキを掛けます。
2. 刈取部を開きます。
3. 調整ナット2個を緩めて調整します。



4. 調整ナットを締め付けます。
5. 刈取部を閉じます。
6. 駐車ブレーキを解除します。

## ■ ロールベアラクラッチワイヤ

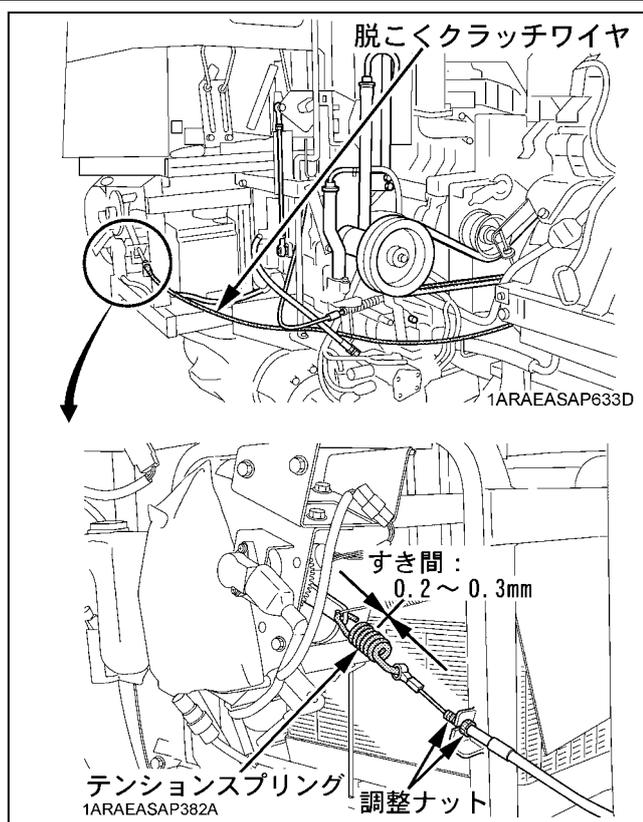
(脱穀クラッチワイヤ)の点検・調整

### 警告

- \* 刈取部を開閉するときは、平たんで安全な場所で、刈取部の昇降操作以外はエンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \* 傾斜地では、刈取部の開閉を行わないでください。
- \* 刈取部を開いた状態で作業を行う場合は、枕木などで刈取部の下降防止の歯止めをしてください。
- \* 刈取部を開いた状態で作業する場合は、刈取部が閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- \* 刈取部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

1. 刈取部を開きます。
2. メインスイッチのキーを[入]位置にしたあと、ロールベアラ・刈取クラッチレバーを刈取[入]の位置にします。
3. メインスイッチのキーを[切]位置にします。
4. 調整ナットを2個緩めて、テンションスプリングのすき間を0.2~0.3mmの範囲の内に調整します。

## メンテナンス



5. ロールベアラ・刈取クラッチレバーを[切]の位置にします。
6. 調整ナットを締め付けたあと、刈取部を閉じます。

### 24. 各部ベルトの点検・調整

#### **警告**

\*刈取部、引起し部、運転操作部、ロールベアラなどの各部を開いて作業を行うときは、下記事項を遵守してください。

- 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- 傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。
- 刈取部、引起し部、ロールベアラカバーを開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- 各部を開いた状態で走行しないでください。
- 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

\*刈取部を開いた状態で作業するときは、枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

\*刈取部の開閉を行うときは、機体を最下降位置にしてください。

\*取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

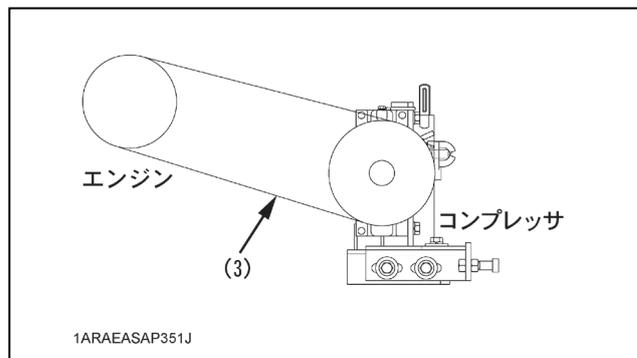
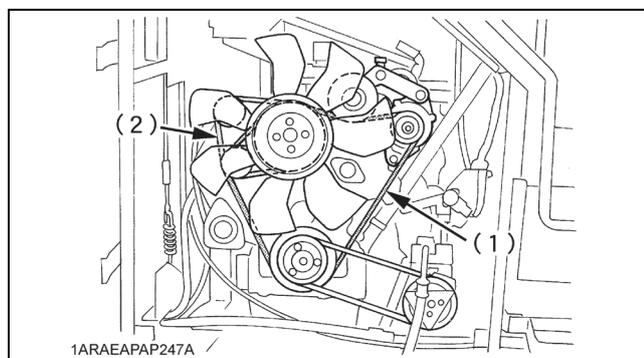
# メンテナンス

下表を参照して、各部ベルトの張り調整を行ってください。

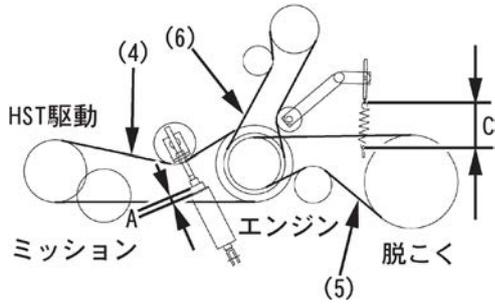
点検箇所	図番	名称	サイズ	本数 (本/台)	張り調整		
					テンションスプリング 取付け長さ (mm)	たわみ量 (mm)	
エンジン・刈取部周辺	(1)	ファン駆動ベルト(1)	ブイリブ ベルト (1315mm)	1	—	—	
	(2)	ファン駆動ベルト(2)	ブイリブ ベルト (670mm)	1	—	3~4	
	(3)	コンプレッサ駆動ベルト	A37	1	—	3~5	
	(4)	ミッション駆動ベルト	特 C61 コグ	2	A	20~23 (テンションロッドの出代)	—
	(5)	ベアラ駆動ベルト	特 B60 コグ	3	B	0.2~0.3 (すき間)(200ページ参照)	—
	(6)	刈取駆動ベルト	特 A49	2	C	140~144	—
	(7)	補助搬送(突起付)ベルト	—	5	—	—	10~15

## 重要

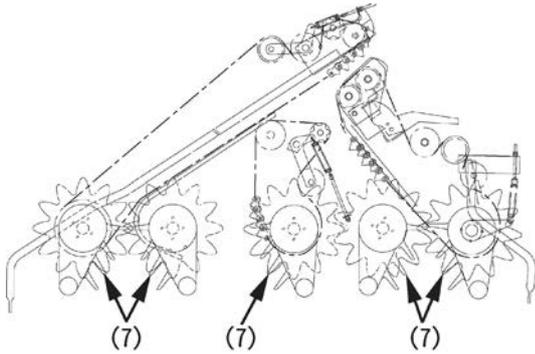
ベルトの交換を行うときは、2本または、3本同時に交換してください。単品で交換すると、新しく交換したベルトの寿命が短くなるおそれがあります。



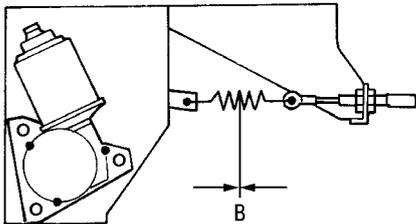
# メンテナンス



1ARAEASAP352D



1ARAEASAP353D



1ARAEAPAP202F

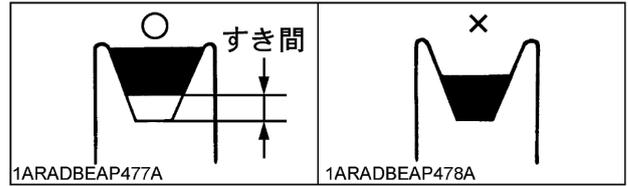
## ◆点検

各部のベルトを点検するときは、次記の事項をよく確認してください。

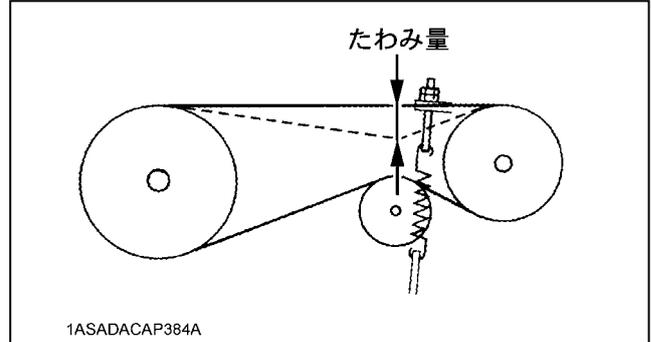
### 1. ベルトの焼付きや摩耗、被覆の剥がれ、亀裂やひび割れ

焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
1ARADBEAP474A	1ARADBEAP475A	1ARADBEAP476A

### 2. ベルトの底部とプリー溝部のすき間



### 3. ベルトの伸び (たわみ量)



1ASADACAP384A

上記の事項を確認したとき、異常があればベルト交換または、ベルトの張り調整を行ってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

## 重要

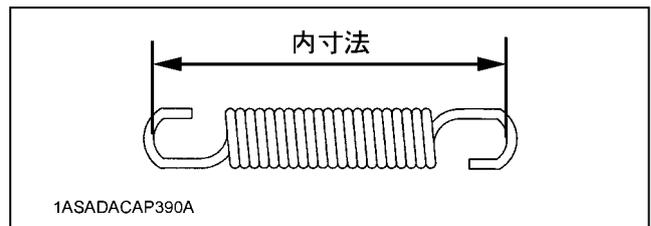
ベルトは必ずクボタ純正品を使用してください。

## ◆調整

ベルトが伸びているとき(スリップが発生しやすい)は、張り調整を行ってください。

## 補足

スプリングの取り付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



1ASADACAP390A

# メンテナンス

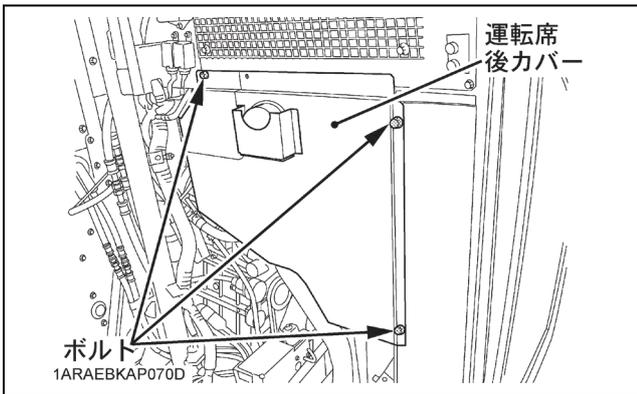
## ■ファン駆動ベルトの点検・調整

指先でファン駆動ベルト(2)の中央部を  
 押したとき(約98N{10kgf}の荷重)の  
 たわみ量を3~4mmに調整します。

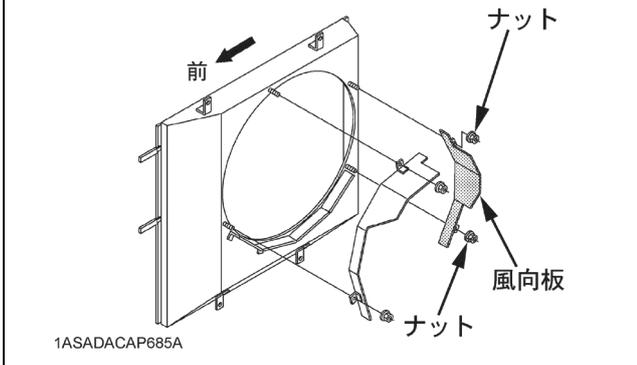
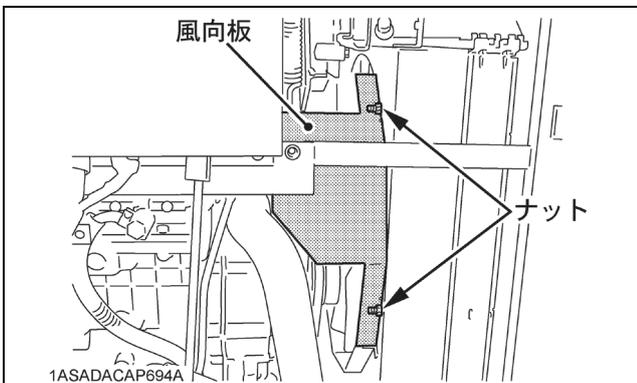
### 補 足

ファン駆動ベルト(1)は自動テンションの  
 ため調整不要です。

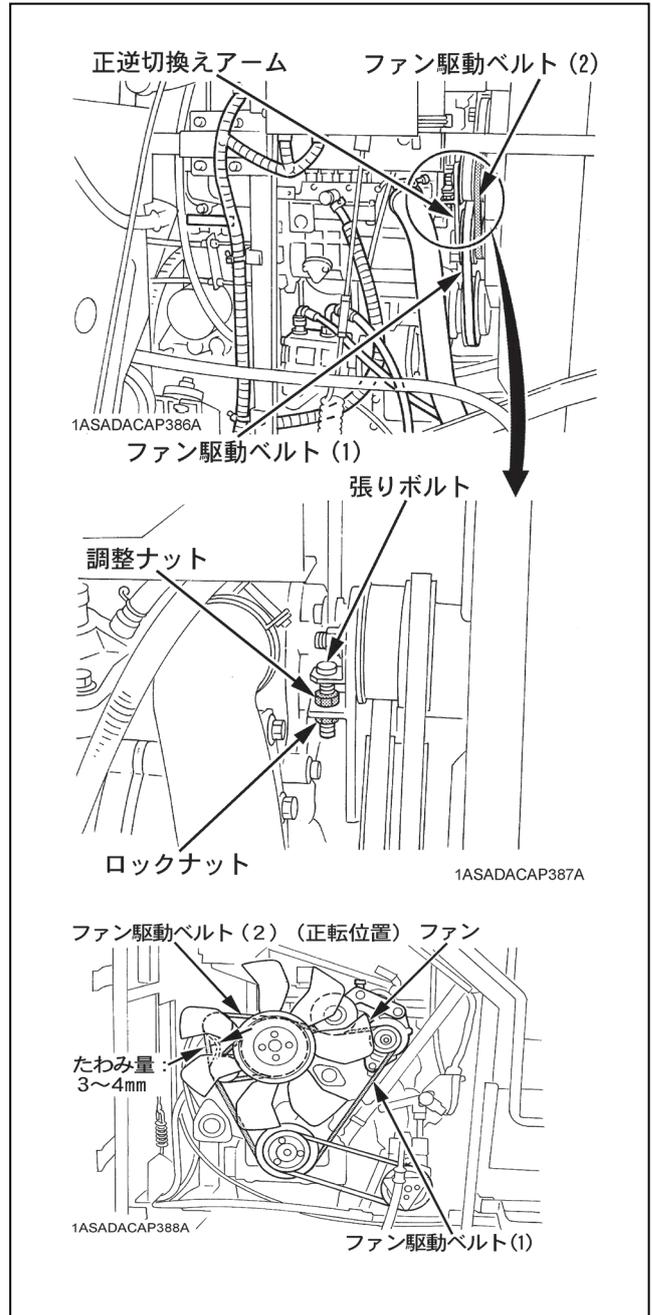
1. ボルトを取り外して運転席カバーを  
 外します。



2. ナット2個を外して風向板を外します。



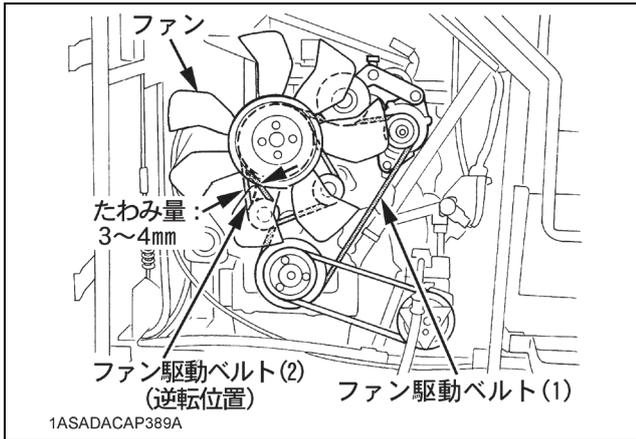
3. 張りボルトのロックナットを緩め、調整  
 ナットで調整します。
4. ロックナットを締め付けます。



### 補 足

※ファン駆動ベルト(2)は、エンジン冷却  
 ファンの正転・逆転を切り換えるベルト  
 ですが、エンジン停止時、逆転位置の  
 ときは次図のようになります。

# メンテナンス



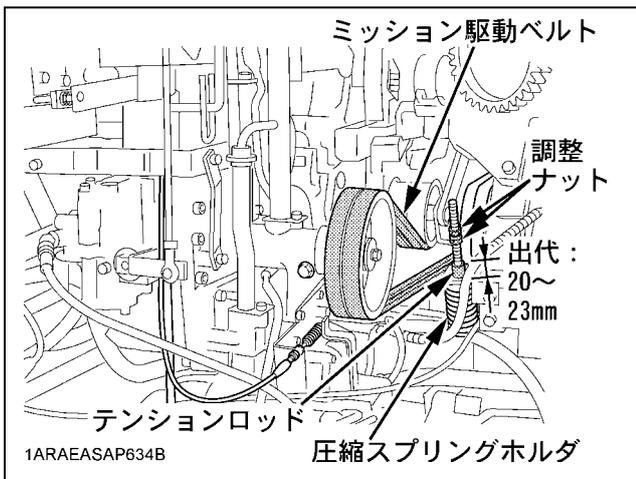
※エンジン正逆転ファンは、一定時間エンジンを冷却したあと、防じんカバーに付着した塵やごみを吹き飛ばすため、ファンが一定時間逆転します。

5. 風向版を取り付けたあと、運転席後カバー下側をきちんとはめ込んでから運転席後カバーを取り付けます。

## ■ミッション駆動ベルトの点検・調整

テンションロッドの出代を20~23mmに調整します。

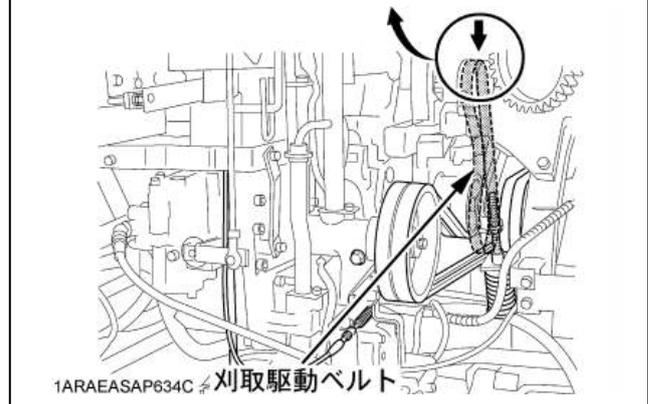
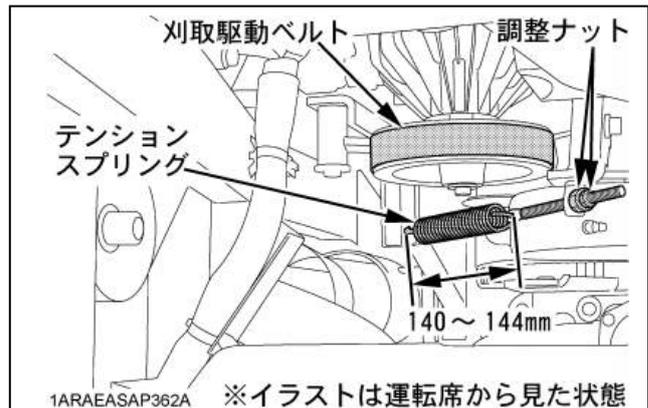
1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット2個を緩めて、調整を行います。
3. 調整ナットを締め付けたあと、刈取部を閉じます。



## ■刈取駆動ベルトの点検・調整

テンションスプリングの長さを140~144mmに調整します。

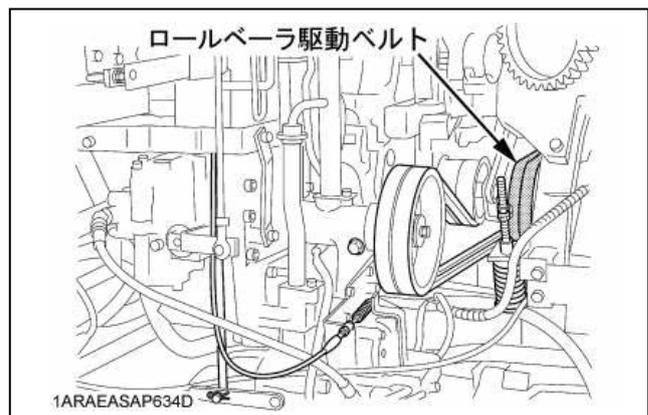
1. 刈取部を開きます。
2. 調整ナット2個を緩めて、調整を行います。
3. 調整ナットを締め付けたあと、刈取部を閉じます。



## ■ロールベア駆動ベルトの点検・調整

調整については、200ページを参照してください。

(ワイヤとベルトの張り調整は同じです。)

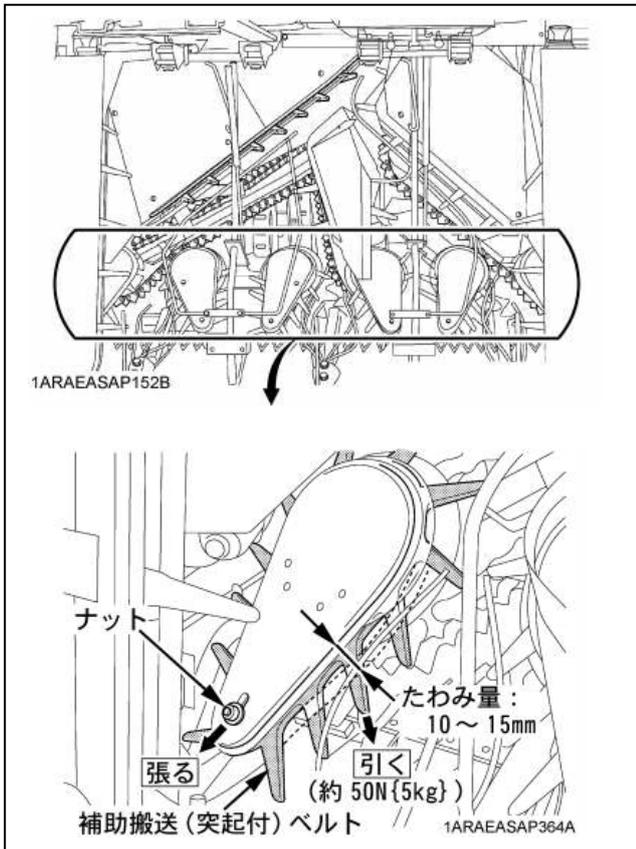


# メンテナンス

## ■補助搬送（突起付）ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を引いたとき（約 50N { 5 kgf } の荷重）のたわみ量を 10～15 mm に調整します。

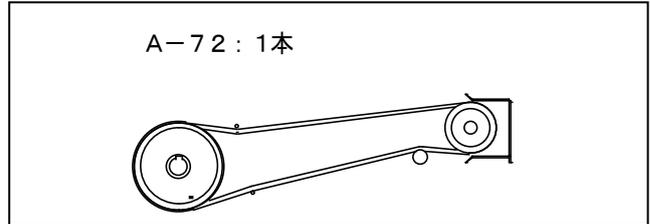
1. 引起しサイドカバー左、右を取り外します。
2. 引起し部を上側に開きます。
3. ナットを緩めます。
4. 張り方向に押しながらレンチでナットを締め付けます。
5. 同じ要領で全てのベルトの調整を行います。
6. 引起しサイドカバー左、右を取り付けます。
7. 引起し部を閉じます。



## ●ロールベアラ部のベルトの調整

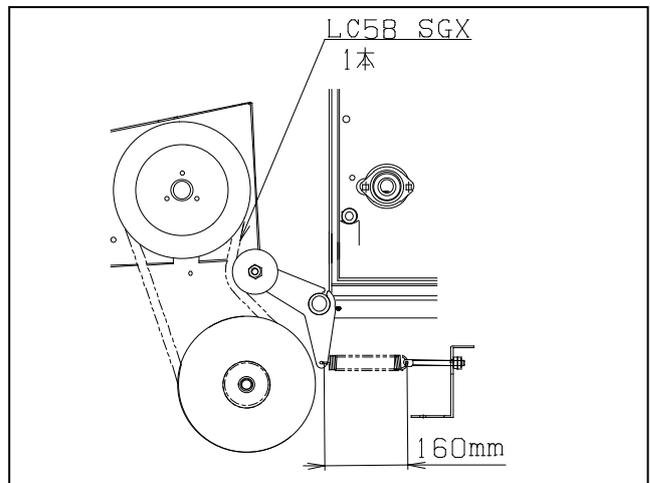
次図のように組み付けてください。

- ・ ネット駆動ベルト



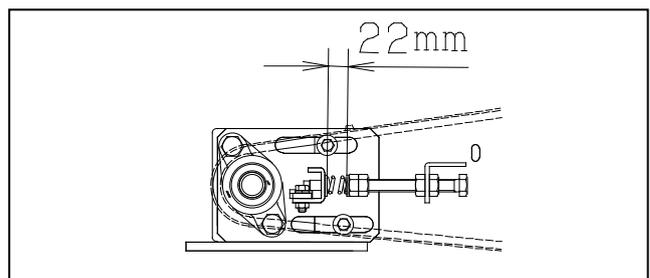
- ・ カッター駆動ベルト

バネの長さが 160mm になるように調整してください。



- ・ コンベアーベルト

バネ長を 22mm に調整してください。

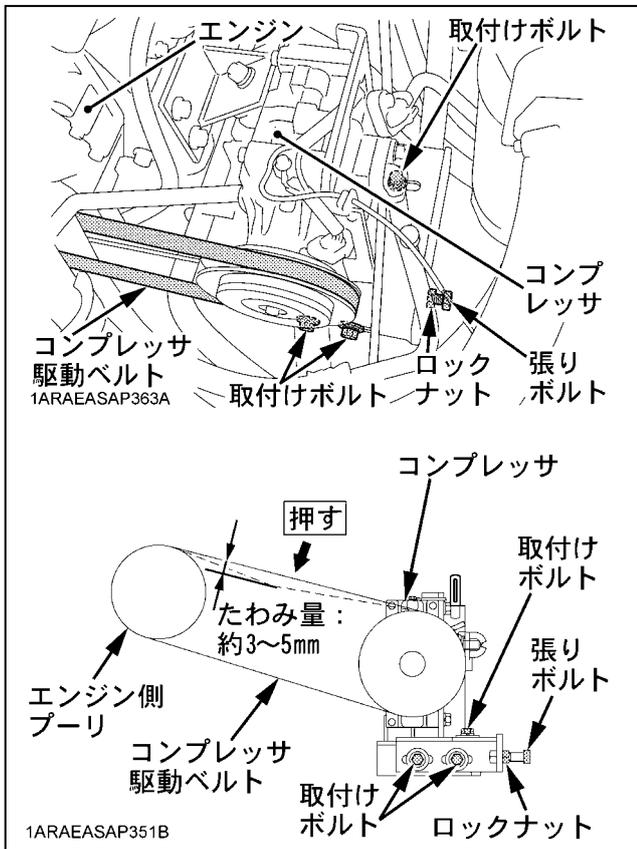


# メンテナンス

## ■コンプレッサ駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき(約16N{1.6kgf}の荷重)のたわみ量を3~5mmに調整します。

1. 運転操作部を開きます。
2. コンプレッサの取り付けボルトを緩めます。
3. 張りボルトのロックナットを緩めたあと、張りボルトで調整します。
4. 張りボルトのロックナットを締め付けたあと、コンプレッサの取付けボルトを締め付けます。
5. 運転操作部を閉じます。



## 25. 各部チェーンの点検・調整

### 警告

\*刈取部、引起し部などの各部を開いて作業を行うときは、下記事項を遵守してください。

- 平たんで安全な場所で、エンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- 傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。
- 刈取部、引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- 各部を開いた状態で走行しないでください。
- 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

\*刈取部を開いた状態で作業するときには枕木などで刈取部の落下防止の歯止めをしてください。

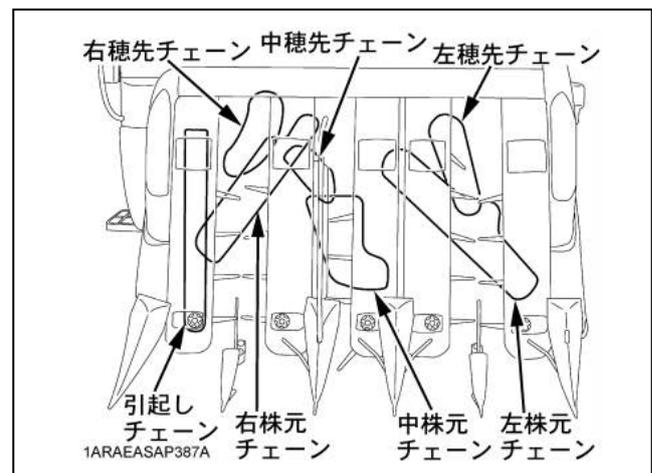
\*刈取部の開閉を行うときは、機体を最下降位置にしてください。

\*取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

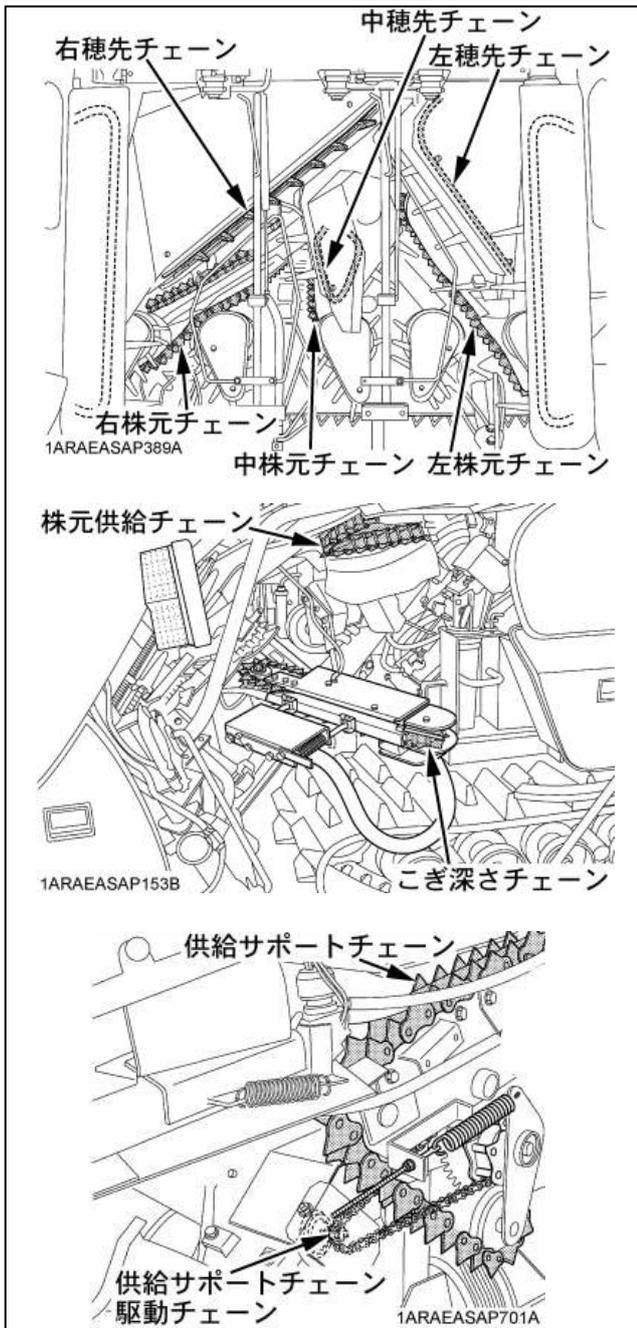
### ◆点検

各部のチェーンを点検して、緩みがあるときは調整してください。

### ●点検箇所



# メンテナンス

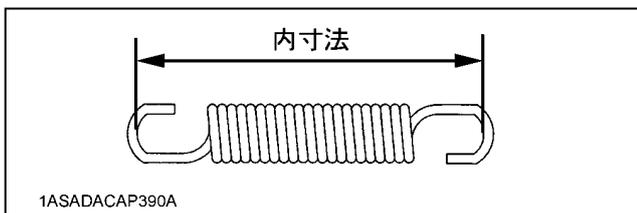


## ◆調整

チェーンが伸びているときは、張り調整を行ってください。

## 補足

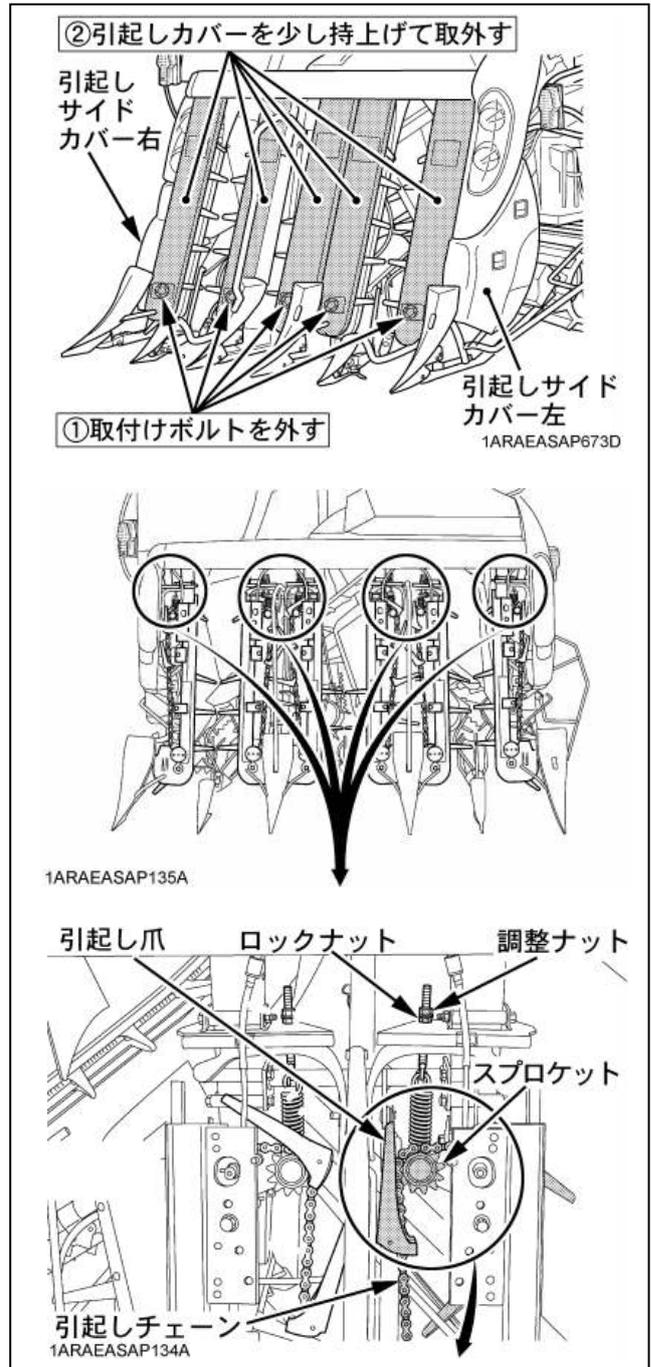
スプリングの取り付け長さは、フックの内寸法を測定してください。



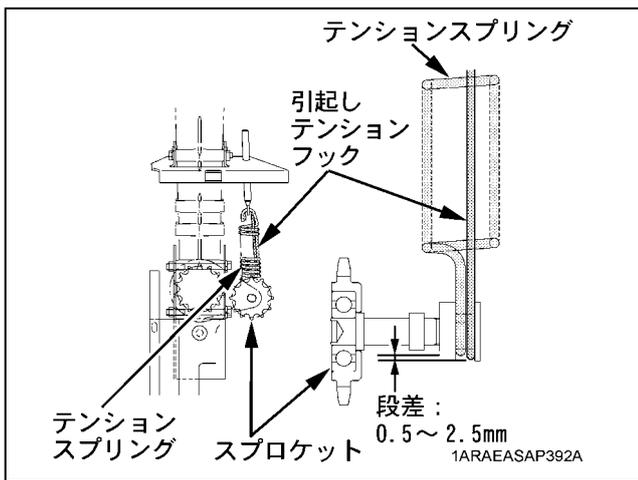
## ■引きしチェーンの点検・調整

引きしテンションフックとテンションスプリングの段差を0.5～2.5mmに調整します。

1. 引きしカバーおよび引きしサイドカバー 左、右を取り外します。
2. ロックナットと調整ナットを緩めて、調整ナットで調整します。
3. ロックナットを締め付けます。



# メンテナンス



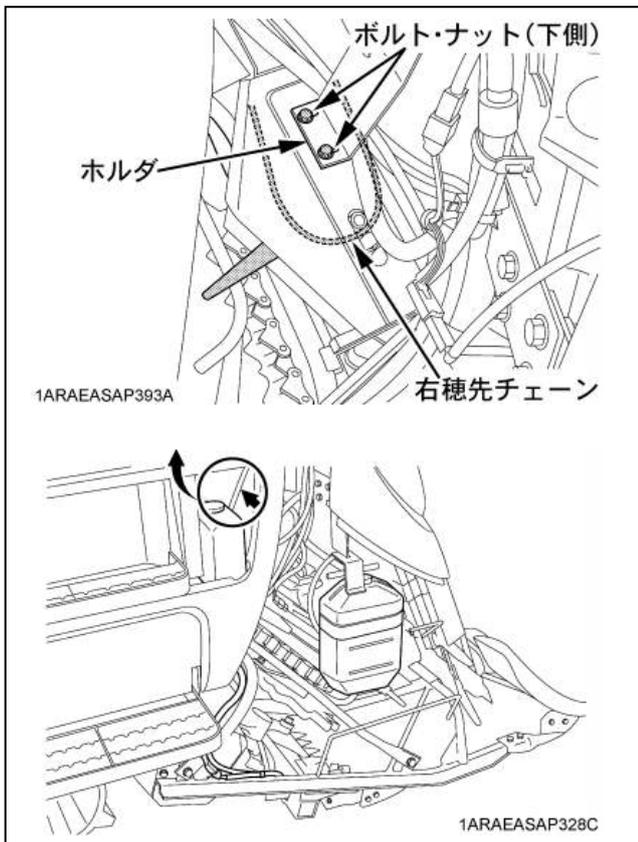
## 補足

\*調整は全条行ってください。

4. 引起しカバーを取り付けたあと、引起しサイドカバー左、右を取り付けます。

## ■右穂先チェーンの点検・調整

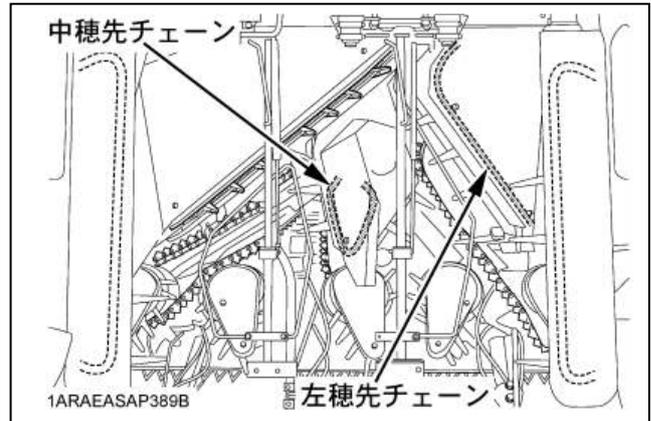
自動テンションになっていますが、チェーンが伸びたときは、引き起し部を開き2箇所のボルト・ナット(下側)を緩めてホルダを前方に張ってください。また、ホルダの調整ができなくなったときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。



## ■中穂先チェーン、左穂先チェーンの点検

自動テンションになっていますが、チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。

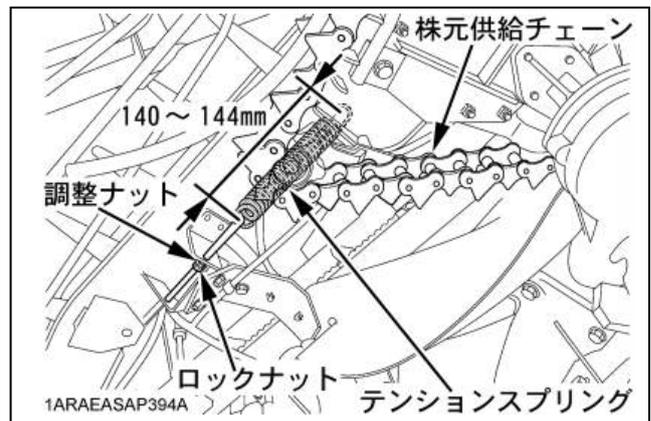
1. 引起し部を開きます。
2. 点検を行ったあと、引起し部を閉じます。



## ■株元供給チェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを140~144mmに調整します。

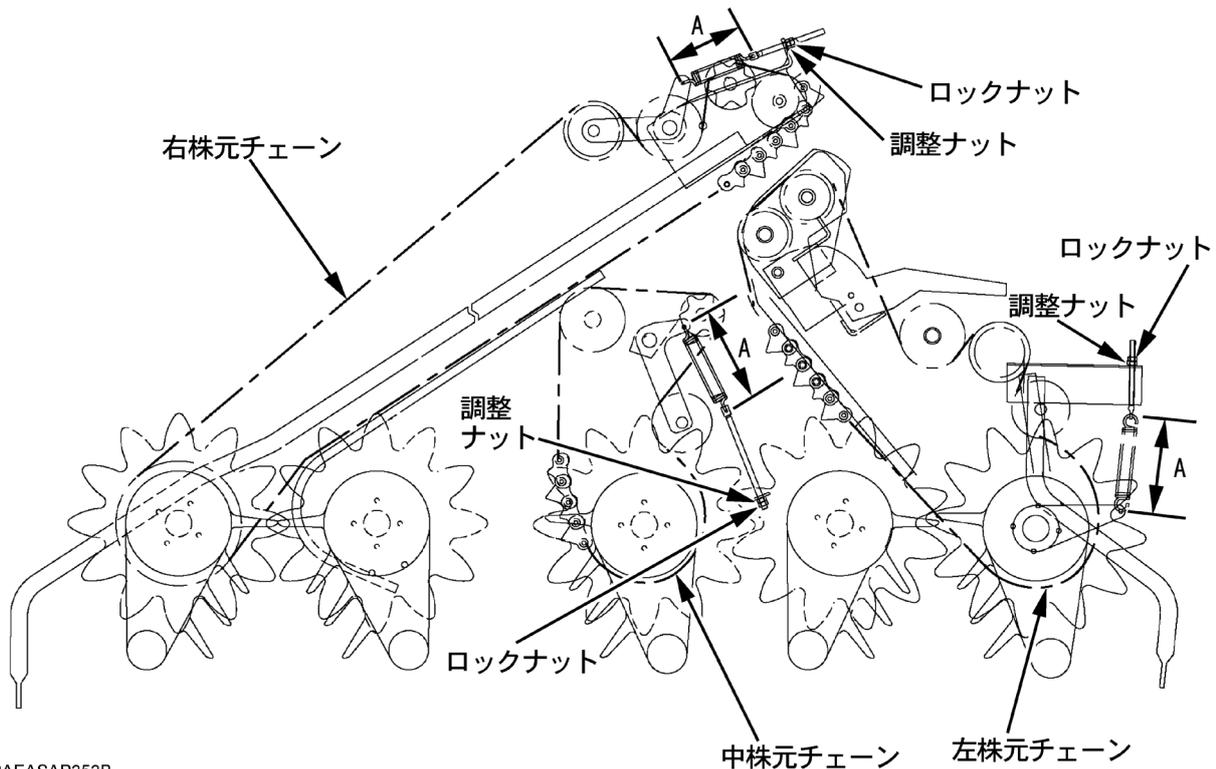
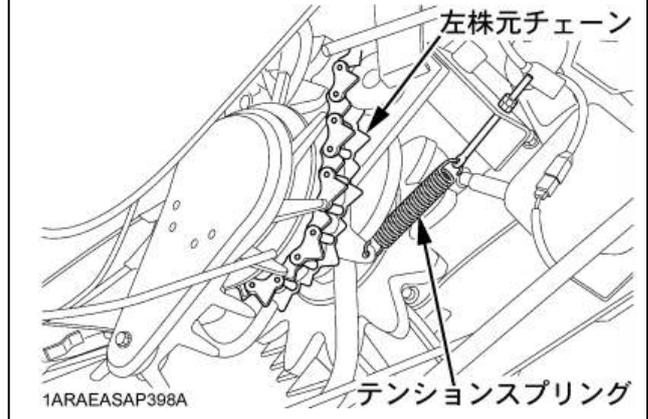
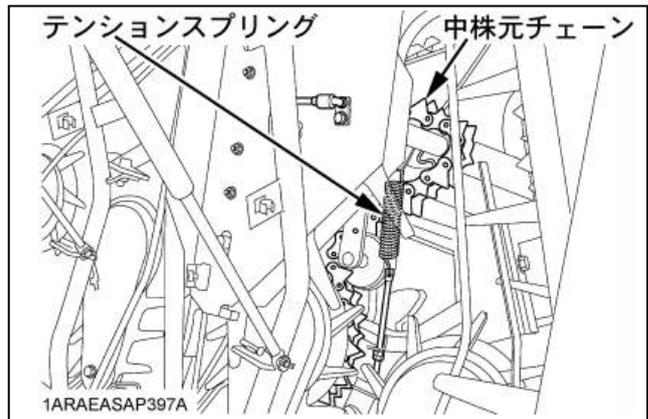
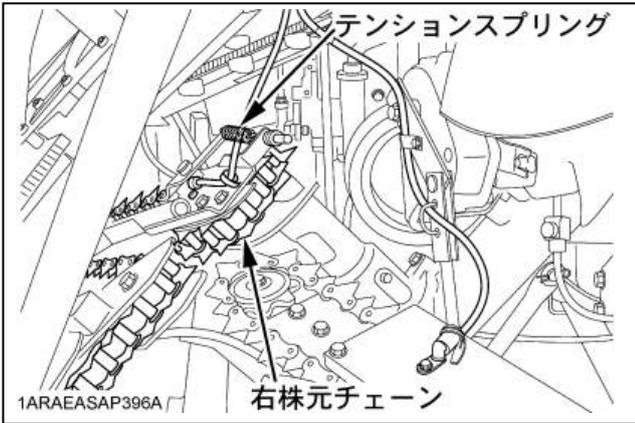
1. ロックナットと調整ナットを緩めて、調整ナットで調整を行います。
2. ロックナットを締め付けます。



# メンテナンス

■右株元チェーン、中株元チェーン、  
左株元チェーンの点検・調整  
テンションスプリングの長さA寸法を140～  
144mmに調整します。

1. 引きし左サイドカバーを取り外したあと、  
引きし部を開きます。
2. ロックナットと調整ナットを緩めて、  
調整ナットで調整を行います。
3. ロックナットを締め付けたあと、引きし  
部を閉じ、引きし左サイドカバーを閉じ  
ます。



1ARAEASAP353B

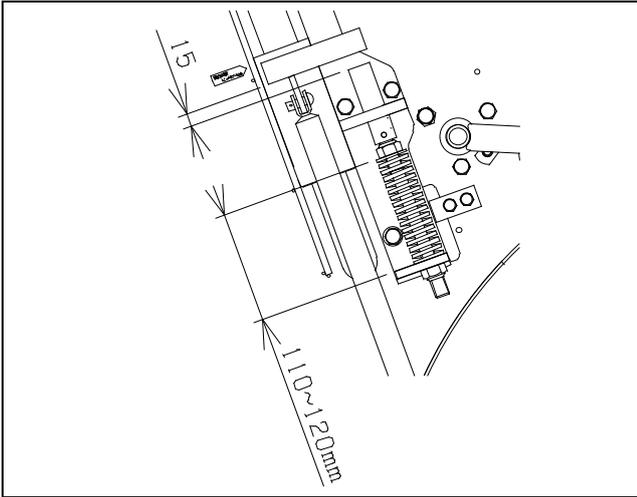
# メンテナンス

## ■ ロールベアラ部チェーンの点検・調整

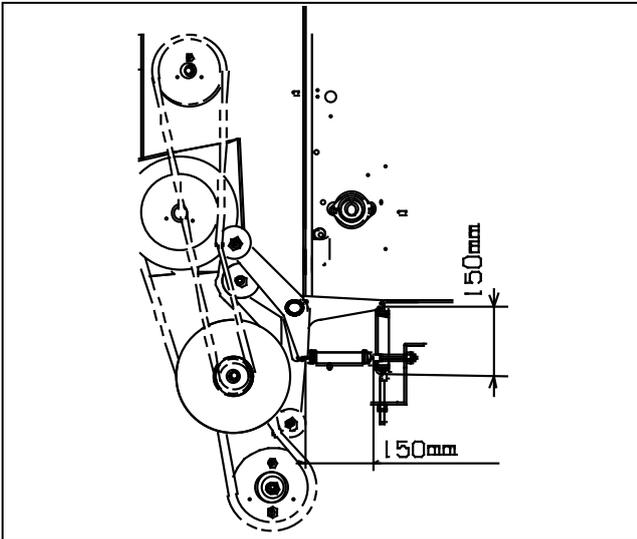
### ● タイトチェーン

チェーンの張り調整は簡単な手入れと処置(132ページ)を参照してください。

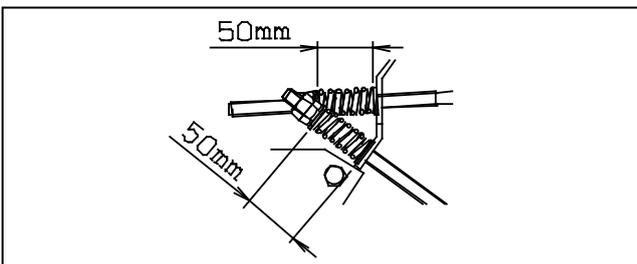
セカンドテンションの隙間とバネの長さは次図のようにセットされています。  
(工場出荷時)



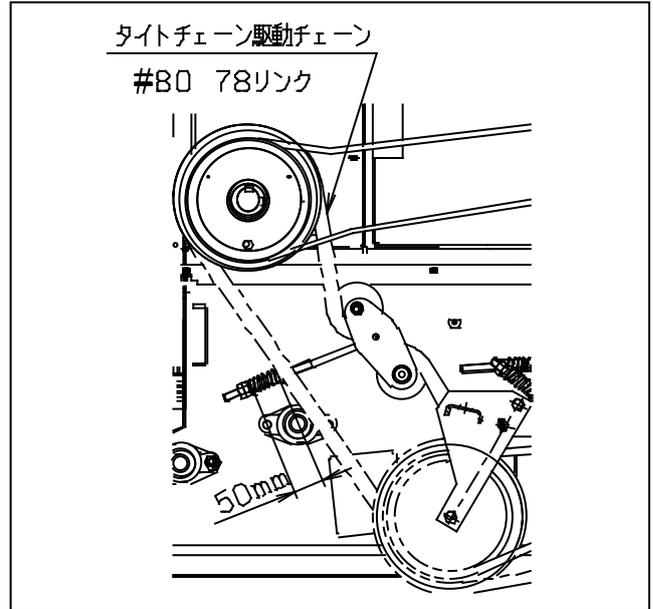
### ● ロールベアラ、攪拌ディスク駆動チェーン



チェーンが伸びたときはバネの長さを次図のように調整してください。

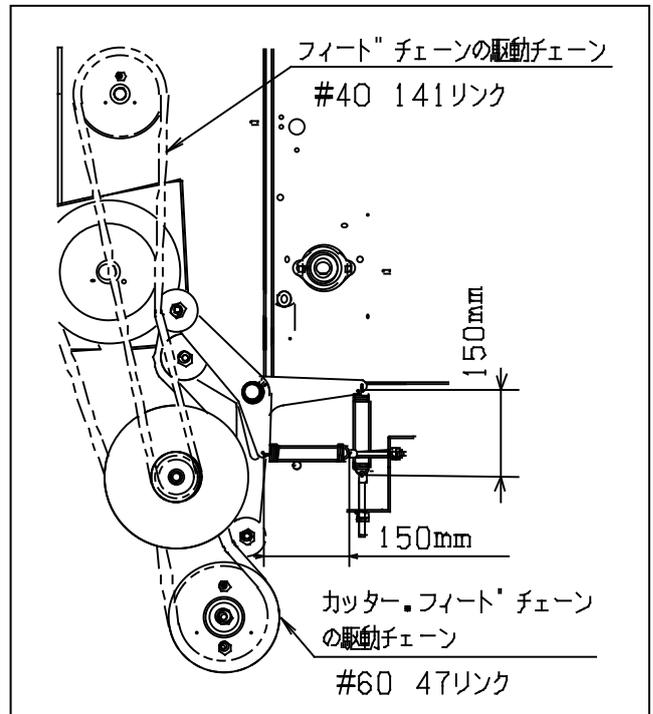


## ● タイトチェーンの駆動チェーン



チェーンが伸びたときはバネの長さを50mmにしてください。

## ● カッター、フィードチェーンの駆動チェーン

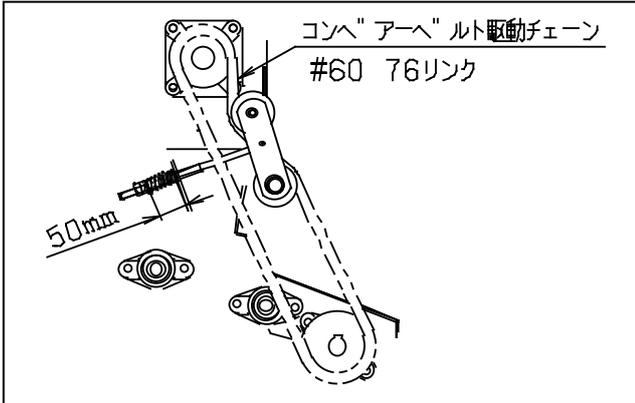


チェーンが伸びたときはバネの長さをいずれも150mmにしてください。

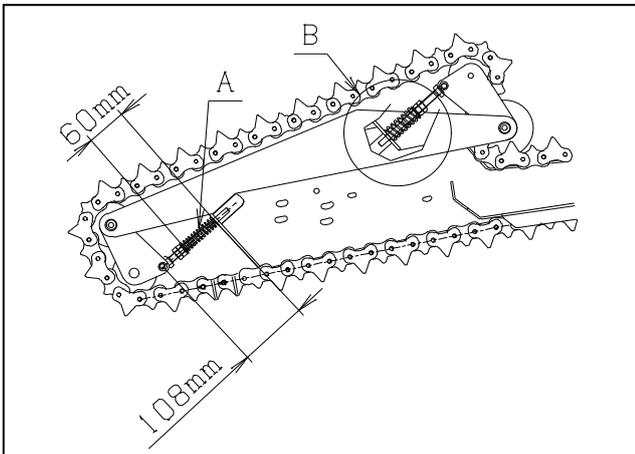
# メンテナンス

## ●コンベアベルト駆動チェーン

チェーンが伸びたときはバネの長さを50mmにしてください。

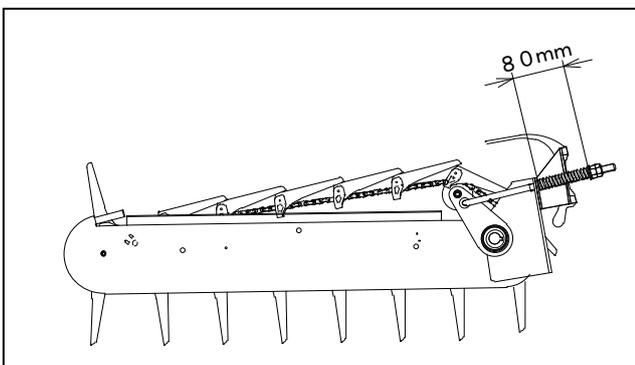


## ●ギャザリングチェーン



チェーンが伸びたときはバネAの長さを60mmになるようにバネB部で調整してください。

## ●穂先チェーン

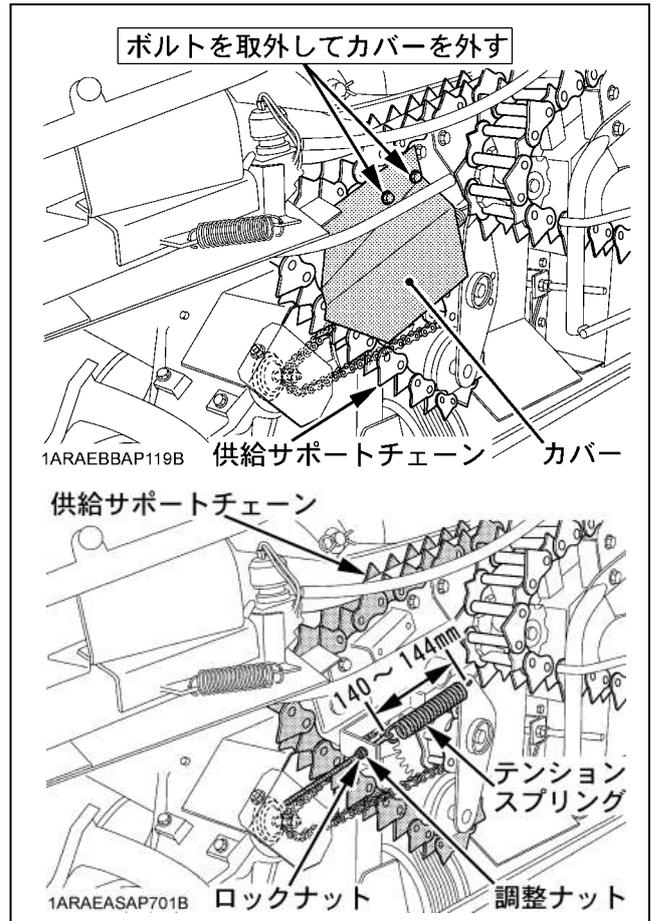


チェーンが伸びたときはバネの長さを80mmになるように調整してください。

## ■供給サポートチェーンの点検・調整

テンションスプリングの長さを140～144mmに調整します。

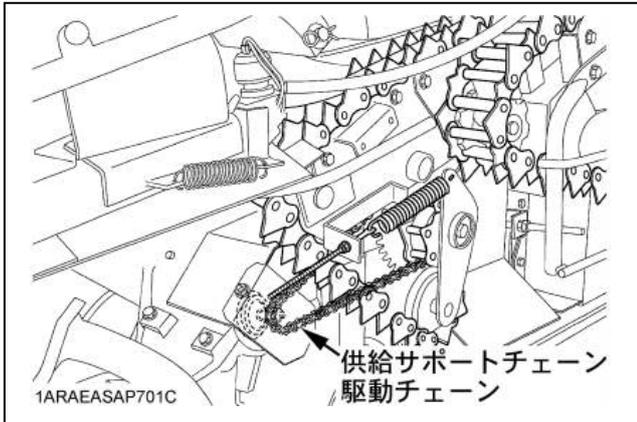
1. ロックナットと調整ナットを緩めて、調整ナットで調整を行います。
2. ロックナットを締め付けたあと、供給サポートチェーンのカバーを取り付けて左サイドカバー上1を取り付けます。



# メンテナンス

## ■供給サポートチェーン駆動チェーンの点検

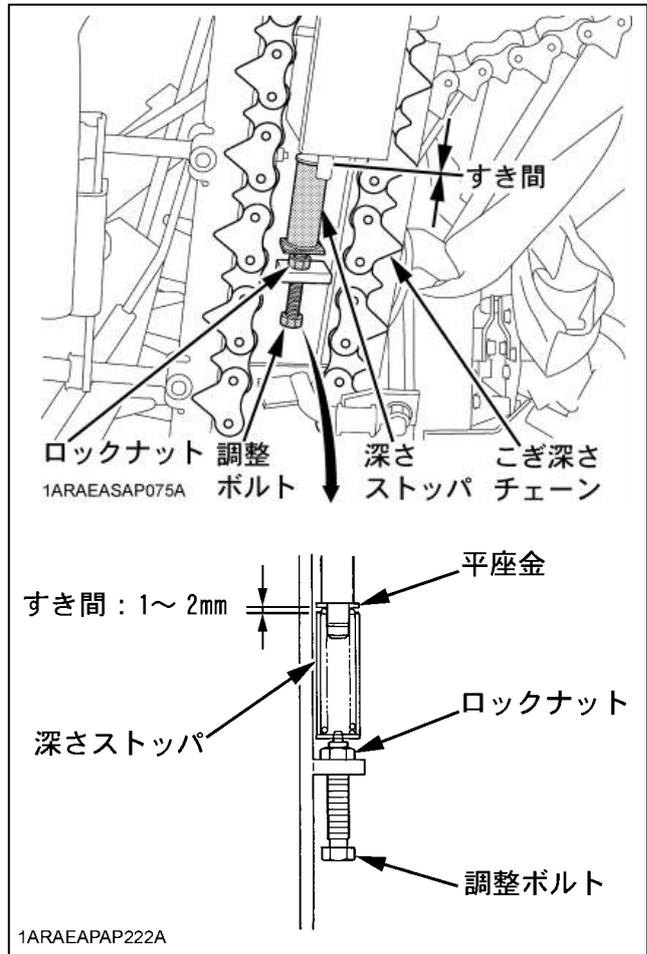
チェーンが伸びたときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。



## ■こぎ深さチェーンの点検・調整

深さストッパとテンションアームの平座金のすき間を1~2mmに調整します。

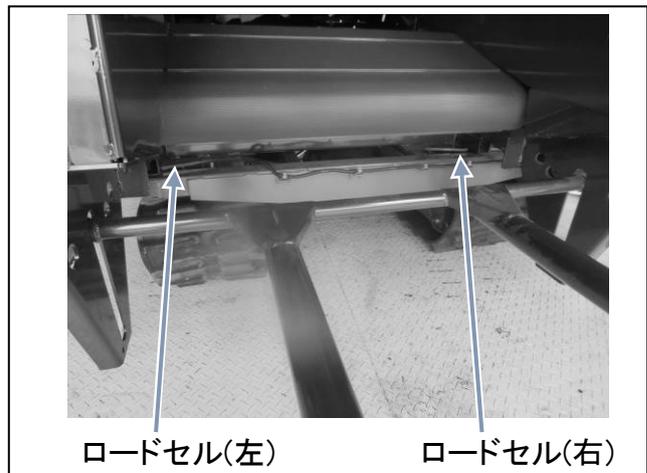
1. メインスイッチのキーを[入]位置にしたあと、手動こぎ深さスイッチを操作してこぎ深さチェーンを最深こぎ位置(こぎ深さチェーン最上昇位置)にします。
2. メインスイッチのキーを[切]位置にします。
3. ロックナットを緩めて、調整ボルトで調整を行います。
4. ロックナットを締め付けます。



## 26. ベール重量測定用センサ

### ◆ロードセル

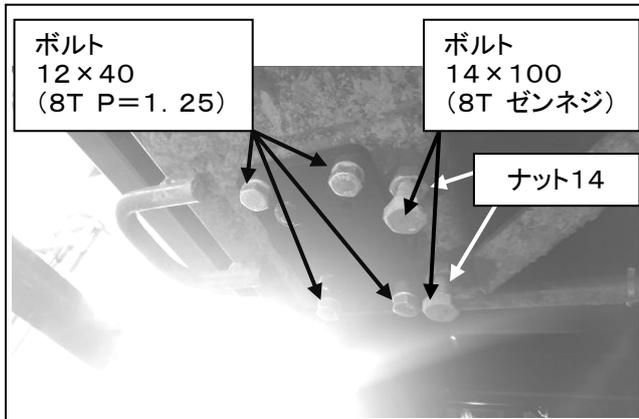
ベールの重量を測るセンサです。



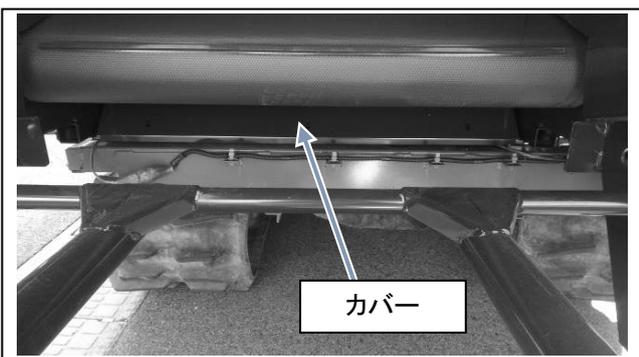
ロードセルを交換する際は次の手順で行ってください。

# メンテナンス

- ①ロードセルに機体重量がかからないようにナット14を緩めて、ボルト14×85(8T ゼンネジ)を上部機体に当たるまで締め込みます。



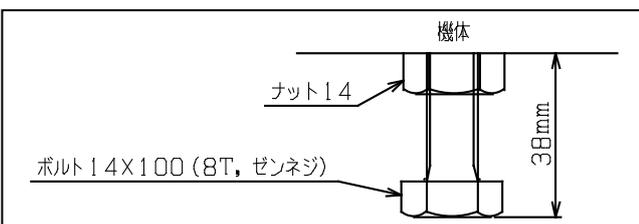
- ②カバーを外して、交換するロードセルのコネクタを外します。



- ③ボルト12×40(8T P=1.25)を外してロードセルを交換します。

- ④コネクタを接続し、カバーを長穴いっぱいを持ち上げて固定します。

- ⑤ボルト12×40(8T P=1.25)を締め込んだ後、機体からのボルト14×85(8T ゼンネジ)の長さが38mmになる位置でナット14を固定します。



## ◆重量測定履歴の確認

フロントパネルの表示切替えスイッチを一度押して以下の表示にし、表示切替えスイッチを表示が変わるまで長押しします。

カウント	10
ウェイト	300kg
トータル	3000kg

「リレキ」に矢印が合っている状態で表示切替えスイッチを表示が変わるまで長押しします。

リレキ	←
リセット	
モデル	

表示切替えスイッチを押すと新しい順にベール重量が表示されます。

リレキ	No.1
カウント	22
ウェイト	300kg

測定履歴はNo.1～30まで保存されています。最新の重量測定の結果がNo.1に保存されており30個以上重量測定すると重量測定するごとにNo.30より前のデータが消去されます。表示切替えスイッチを表示が変わるまで長押しすると元の表示に戻ります。

# メンテナンス

## ◆重量測定履歴のリセット方法

表示切替えスイッチを一度押して、以下の表示にし、表示切替えスイッチを表示が変わるまで長押しします。

カウント	10
ウエイト	300kg
トータル	3000kg

表示切替えスイッチを1度押して「リセット」に矢印を合わせてから表示切替えスイッチを表示が変わるまで長押しします。

リレキ	
リセット	←
モデル	

再度、「リレキリセット」に矢印が合っている状態で表示切替えスイッチを表示が変わるまで長押しします。

リレキリセット	←
サイクテイ	
モデル	

# メンテナンス

## 27. カッター部の点検・調整

### 警告

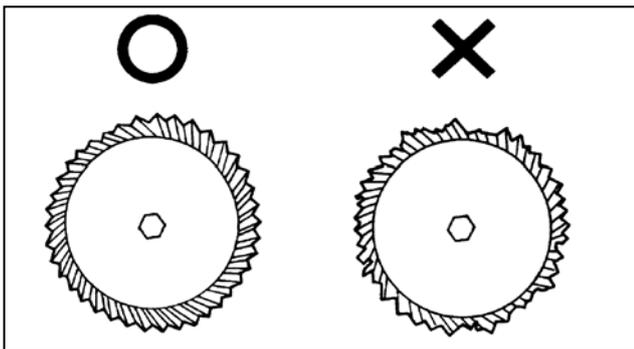
- \* 平坦な場所でエンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \* 直接カッター刃に触れないように手袋をしてください。

### 補足

- \* わらくずなどは取除いてください。

カッターの駆動ベルトを外し、プーリーを手で回転させ、刃先の磨耗状態を確認します。

刃先が磨耗したり、欠けているときは交換してください。



カッターの刃の交換、調整はカッターをローラベアラから引き抜いて行ってください。

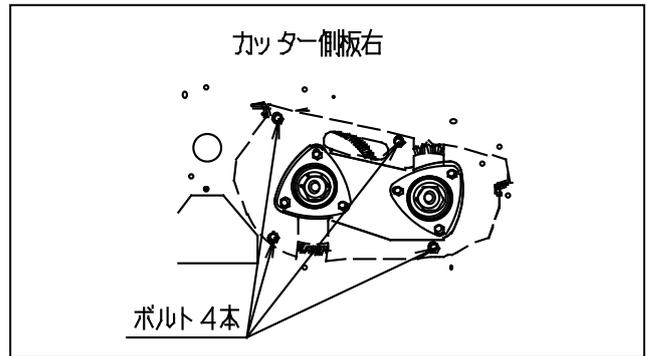
### 注意

カッターの引出しは、クレーンのあるところで行ってください。人手で行う時は4人で作業してください。必ず手袋をして、直接カッターの刃に触れないでください。

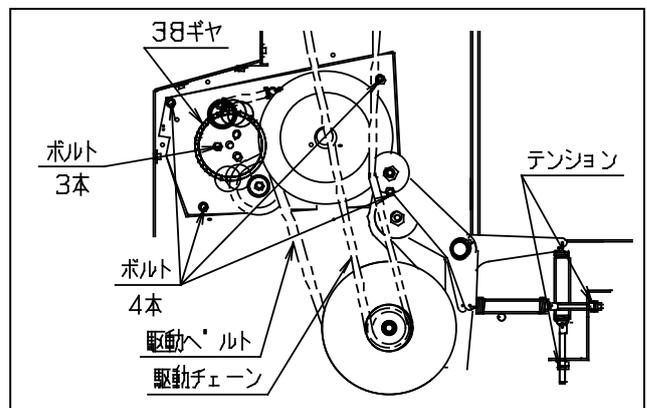
### ●カッターの外し方

1. カッターカバー外を外し、サイドカバーRを開いてください。

2. ローラベアラ右の下図のボルト4本を外してください。

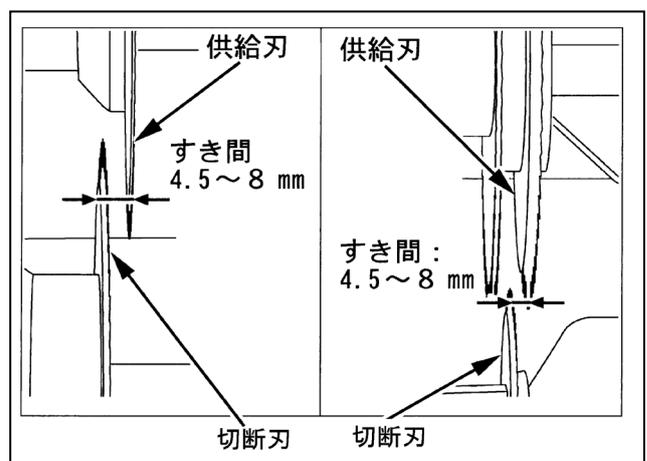


3. 駆動チェーンと駆動ベルトのテンションを緩め、チェーンとベルトを外してからボルト4本を外し、カッターを引き出してください。



### ●点検

1. 両端部の切断刃と供給刃のすき間を確認し、4.5～8.0mmの範囲から外れているときは調整を行ないます。



# メンテナンス

## ●調整

1. 38ギヤのボルトを3本外します。
2. 38ギヤを左または、右に回して切断刃と供給刃の隙間を調整します。隙間は左に回すと大きくなり右に回すと小さくなります。  
\*この調整は、カッタをロールベアラに固定した状態で行ってください。

## 重要

- \* 38ギヤを左に回した場合（すき間を大きくした場合は、38ギヤとボス部にすき間ができるため、38ギヤを軸方向に必ず押込んだ状態ですき間を調整してください。
- \* すき間は、株元側と穂先側の両端部で測定してください。

## ◆切断軸と供給軸の増締め

1. 2人作業で株元側から切断軸と供給軸をそれぞれ増締めをします。

## 重要

- \* 軸の締付けトルクは  $98.0 \sim 117.6\text{N}\cdot\text{m}$  ( $1000 \sim 1200\text{kgf}\cdot\text{cm}$ ) です。確実に締付けてください。組付け時、刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと、刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

- (1) カッタフレーム内側から切断軸又は、供給軸の終端部の六角部にそれぞれスパナを掛けて固定します。
- (2) カッタフレーム外側から切断軸又は、供給軸の六角部にそれぞれスパナを掛けて増締めします。このとき、供給軸は時計方向、切断軸は反時計方向に締付けます。

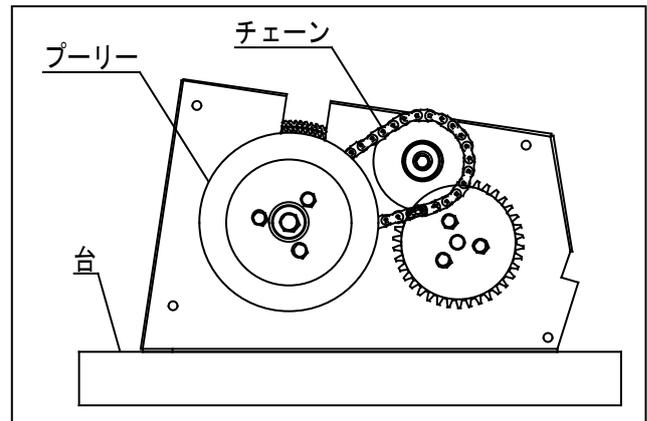
## ■カッタ刃の交換



## 警告

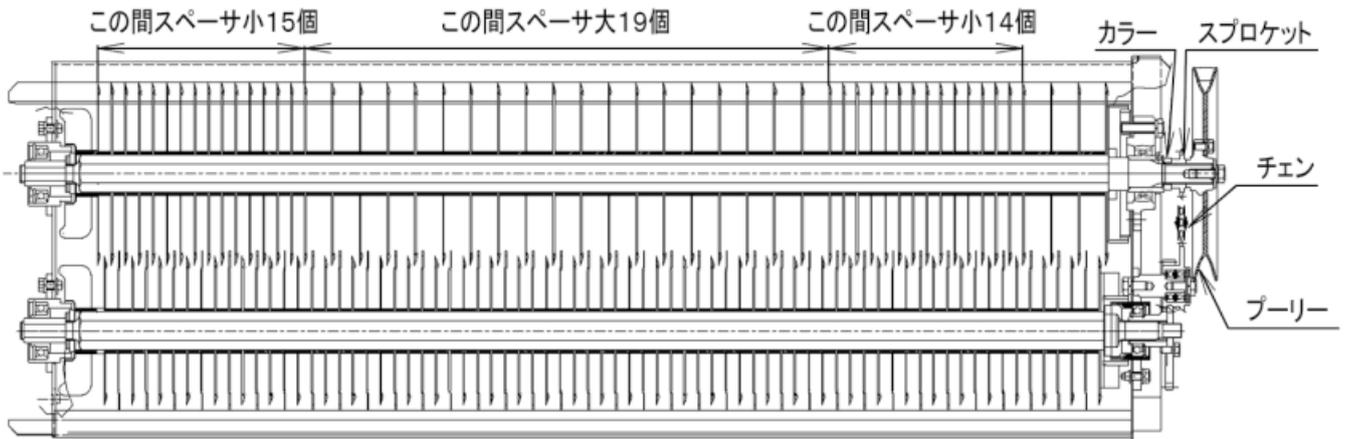
- \*カッタ刃を交換するときは、エンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \*手袋をし、直接カッタ刃に触れないでください。
- \*切断軸アッシを外すときは、二人でカッタ刃のない両端を持って脱着作業をしてください。
- \*切断軸アッシの分解・組立は二人作業で行ってください。

1. カッタをロールベアラから外したら上下逆さまに台に置いてください。



## メンテナンス

2. プーリー、チェーン、スプロケット、カラーをはずします。



3. 切断軸アッシを取り外します。

4. カッタ刃(切断刃)の交換を行います。交換作業を行うときは、必ず補助者と共に2人作業で行ってください。

(1) 切断軸アッシを安定した場所に置き、穂先側のロックナット、調整ナットと順番に取り外して分解します。

(2) 切断軸の穂先側を上向きにして垂直に立てた状態で、カッタ刃の取り付け方向(刃先の向き)や大きさ(大、小)に注意しながら交換を行います。

### 重要

\*組み付け後にカッタ刃が切断軸の垂直方向に対して傾いていると、切断軸が軸振れを起こして異音が発生したり破損する原因となります。

\*組み付け時にカッタ刃やパイプの端面に砂などの異物が付着すると、カッタ刃と供給刃のすき間およびカッタ刃両端の寸法が規定値の範囲から外れ、上記の軸振れを起こすことや、わらの切断性能が悪くなるおそれがあります。

5. 切断軸アッシをカッターフレームに組み付けます。

6. 切断軸ナットを増締め要領(217ページ)で締め付けます。

### 重要

\*軸の締め付けトルクは $98.0 \sim 117.6 \text{ N}\cdot\text{m}$  ( $1000 \sim 1200 \text{ kgf}\cdot\text{cm}$ )です。確実に締め付けてください。カッタ刃と供給刃が接触していないかを手で切断軸を軽く回して確かめてください。

7. 取り外した逆の手順で各部品の取り付けを行います。

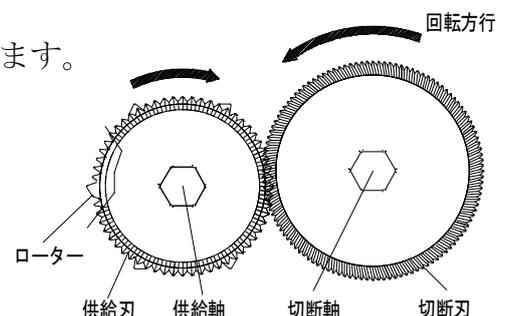
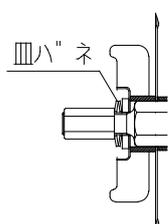
8. カッターを本体に組み付けます。

### 補足

\*取付方向(刃先やローターの向き)を間違えると切断性能や送り性能が悪くなります。

\*サラバネ2枚は次図のように組み付けてください。

\*刃、ローターの向きと回転方向は次図のようになります。

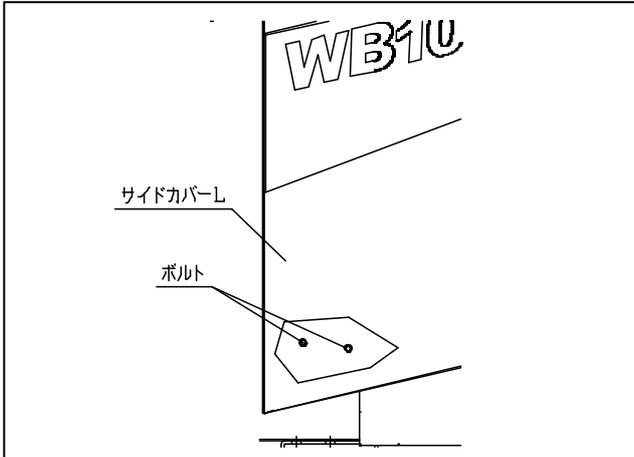


# メンテナンス

## 28. スピナー部の点検・調整

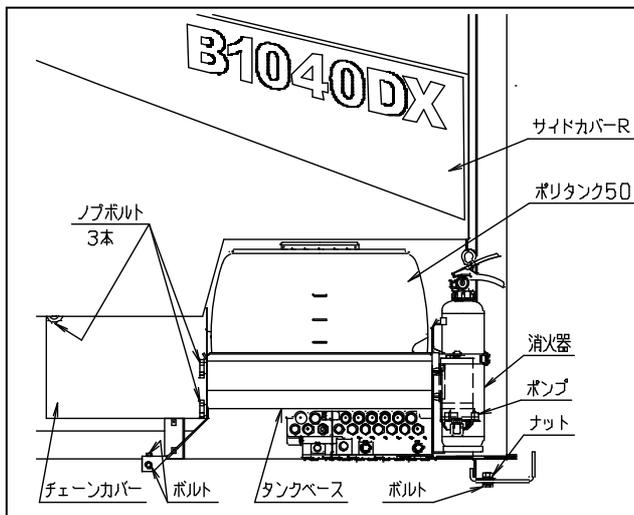
スピナー部アッシを本体から引き抜いて点検調整してください。

- ① サイドカバーL内のボルトを2本外します。

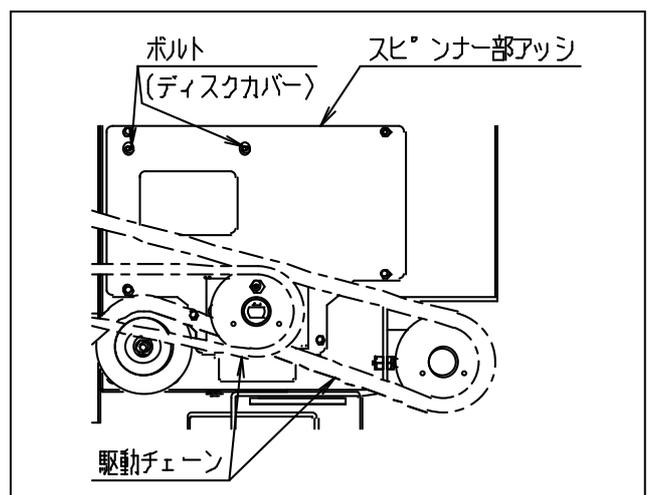


- ② サイドカバーRを開き、チェーンカバーを外します。

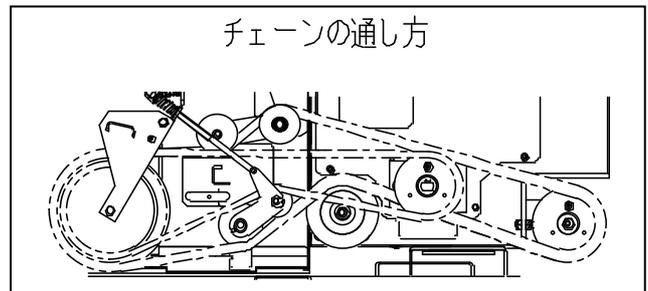
- ③ タンクベースをポリタンク50、消火器、ポンプごと外します



- ④ 駆動チェーンを2本外します。
- ⑤ カバーのボルト2本、ディスク側板のボルト6本とディスクを外し、スピナー部アッシを本体から引き抜きます。
- ⑥ スピナーやスピナー根が磨耗したり変形すると攪拌性能が悪くなる場合があります。そのときは交換してください。



- ⑦ 組付けるときは、チェーンの通し方に注意してください。



# メンテナンス

## 29. 刈刃の点検・調整

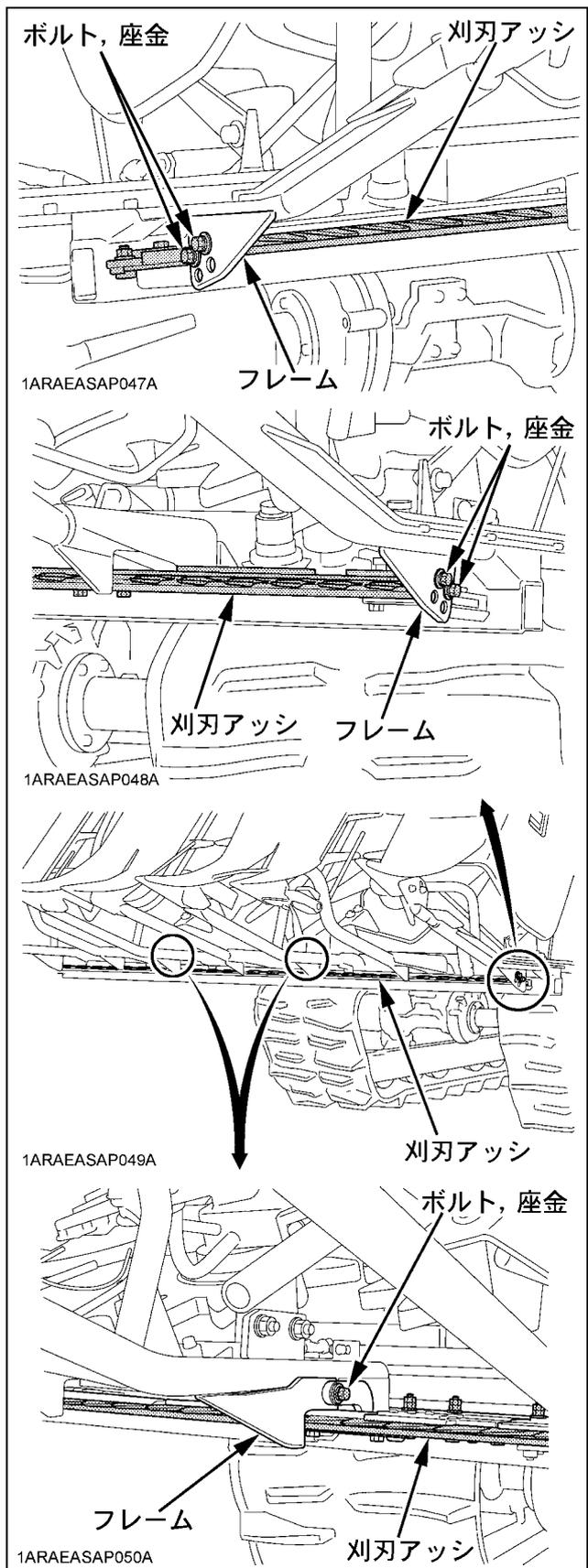
### 警告

- \* 平たんな場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
- \* エンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \* 刃部に手を掛けないでください。不用意に刃が動くと危険です。
- \* 脱着作業は手袋をして、2人で刈刃の両端を持って行ってください。

刈刃の刃先が摩耗してきたり、欠けてくると作物の刈跡が悪くなったり、引き抜きを起こすことがありますので、早目の点検・調整・交換を行ってください。

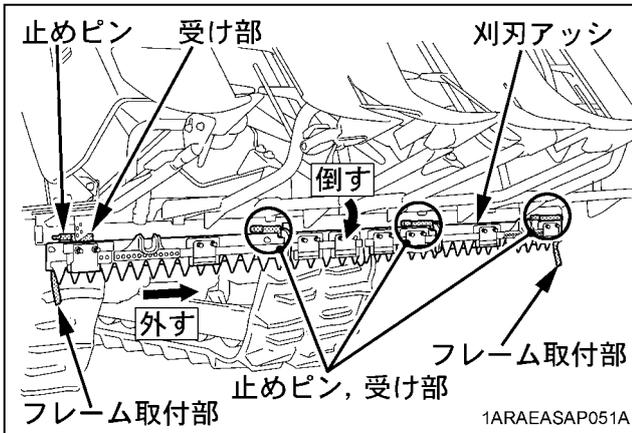
### ◆点検・取外し

1. 自動車体水平制御の手動スイッチの[上]を押して、機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を最上昇させたあと、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にし、スイッチロック金具をセットして、刈取部の下降防止を行ったあと、エンジンを停止します。さらに枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
3. 刈刃アッシをフレームに取り付けているボルト、座金各6個を外して、刈刃アッシを下側に倒します。(刈刃オープン)

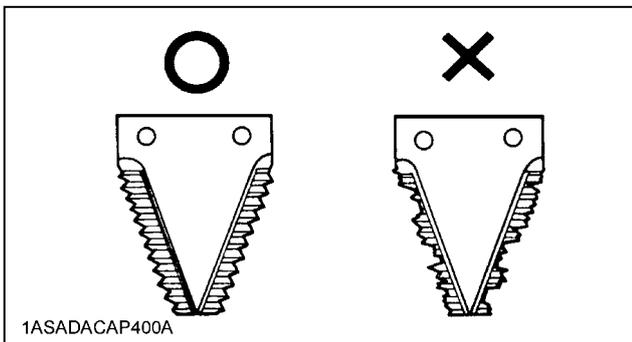


# メンテナンス

4. 左、右のフレーム取付部と刈刃アッシを持ち、2人作業で刈刃アッシを左側に移して、止めピンを受け部から外して刈刃アッシを取り外します。



5. 刈刃の刃先と刈刃の動きを確認し、動きが固いときは、注油、グリース塗布やすき間調整を行います。また、刃先が摩耗したり欠けているときは、購入先に連絡して修理を依頼してください。



## ◆すき間調整

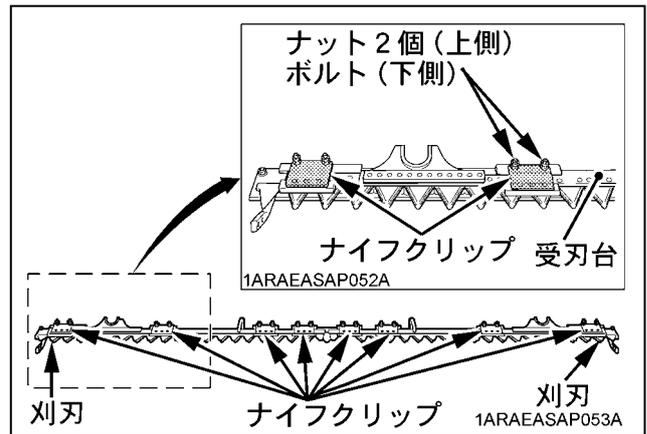
すき間を測定するときは、すき間ゲージを使用してください。

## 補足

専用工具については、購入先にご相談ください。

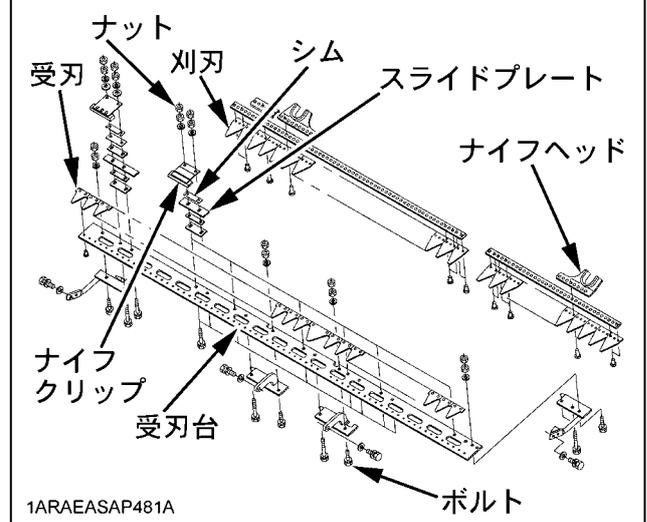
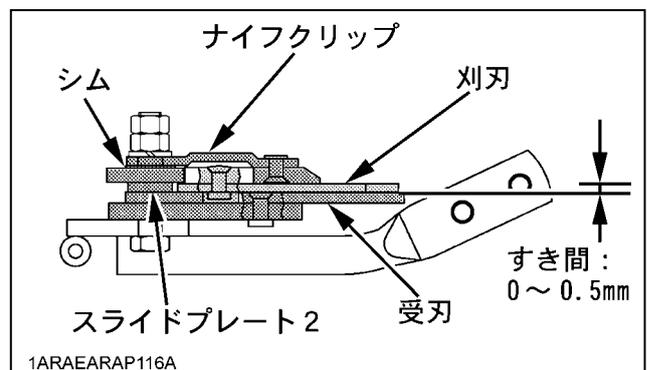
1. ボルト・ナットを取り外して各ナイフクリップを受刃台から外します。

2. 刈刃を取り外したあと、ワイヤブラシなどで泥や錆びを取り除きます。



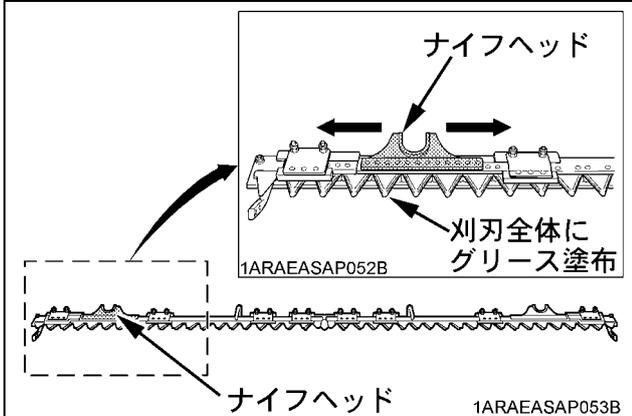
3. 刈刃と受刃のすき間を0～0.5mmに調整します。

- (1) ナイフクリップとスライドプレート2の間にあるシムを増減して調整したあと、ボルト・ナットを締め付けたときの刈刃と受刃のすき間を0～0.5mmに調整します。



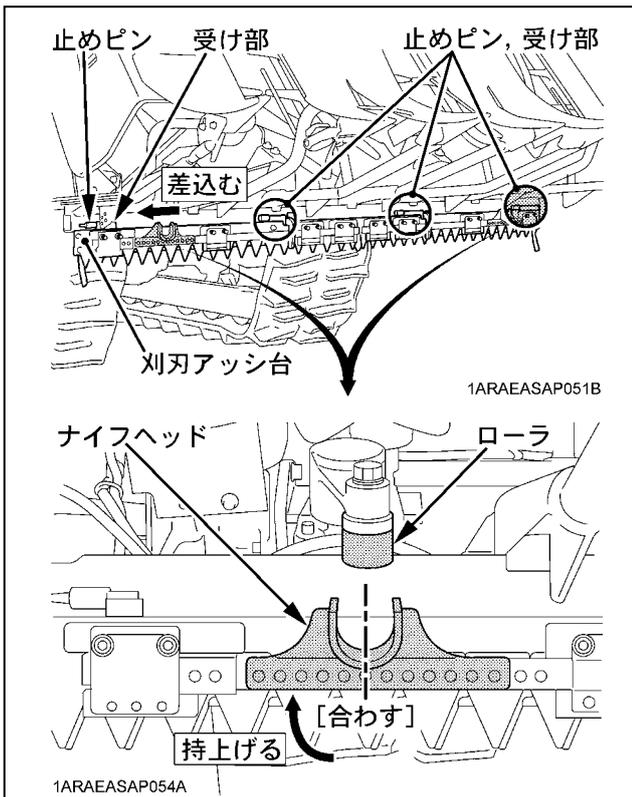
# メンテナンス

(2) ナイフヘッドを持ち、刈刃を左、右に動かします。動かないときや軽く動くときは再調整を行い、異常がなければ刈刃全体にグリースを塗布します。



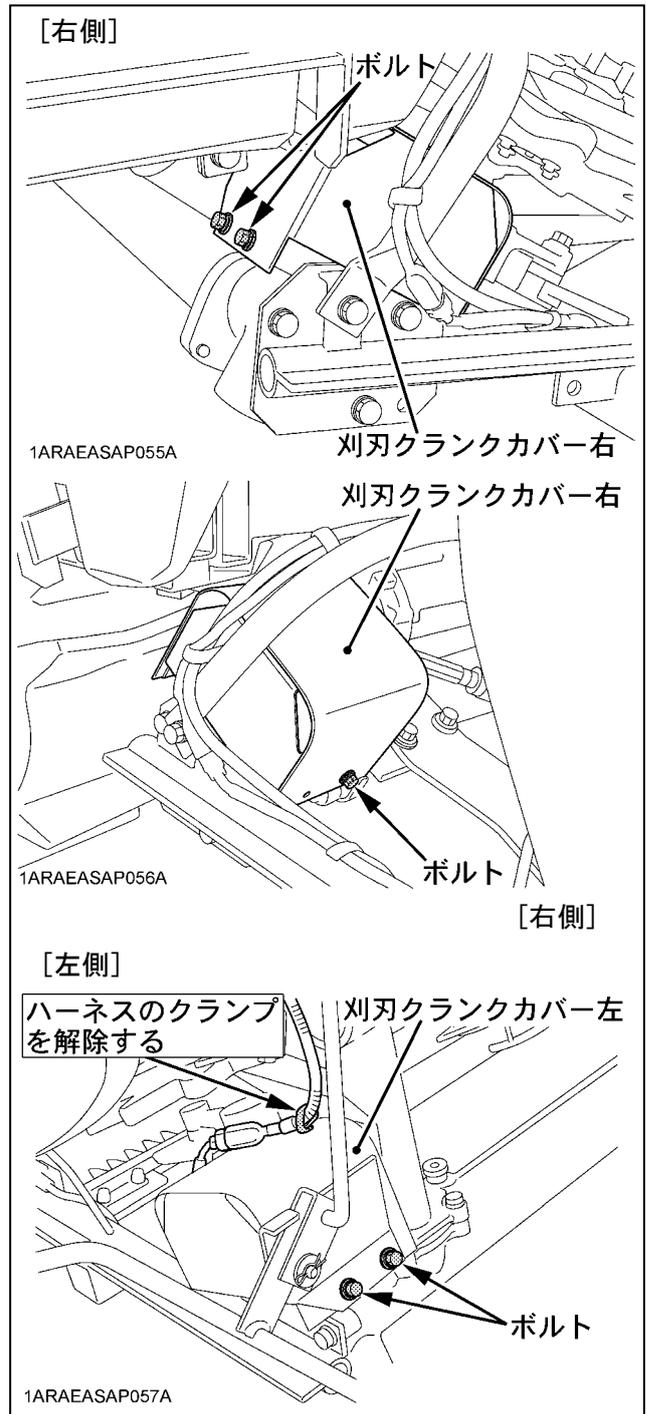
## ◆取り付け

1. 2人作業で刈刃アッシを垂直の状態にして持ち、右側の止めピンを少し受け部に挿し込み、中央・左側の止めピンを受け部の穴に合わせてから、刈刃全体を右側に移動して刈刃アッシを取り付けます。
2. 刈刃アッシの左右のナイフヘッドとローラの位置を合わせてから、刈刃アッシを水平状態まで持上げて、ボルト、座金各6個で刈刃アッシを取り付けます。

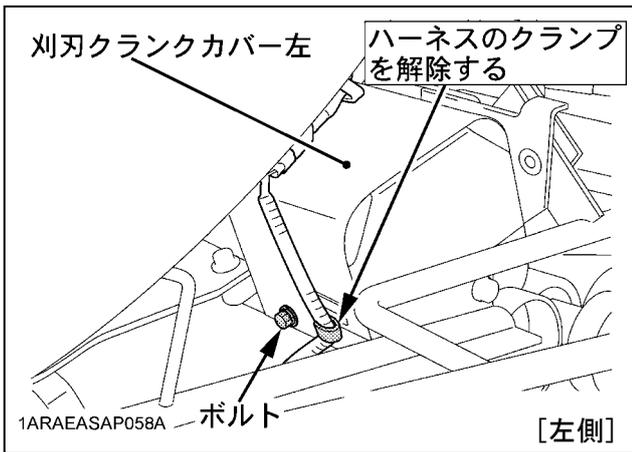


## ◆刈刃クランクロッドの調整

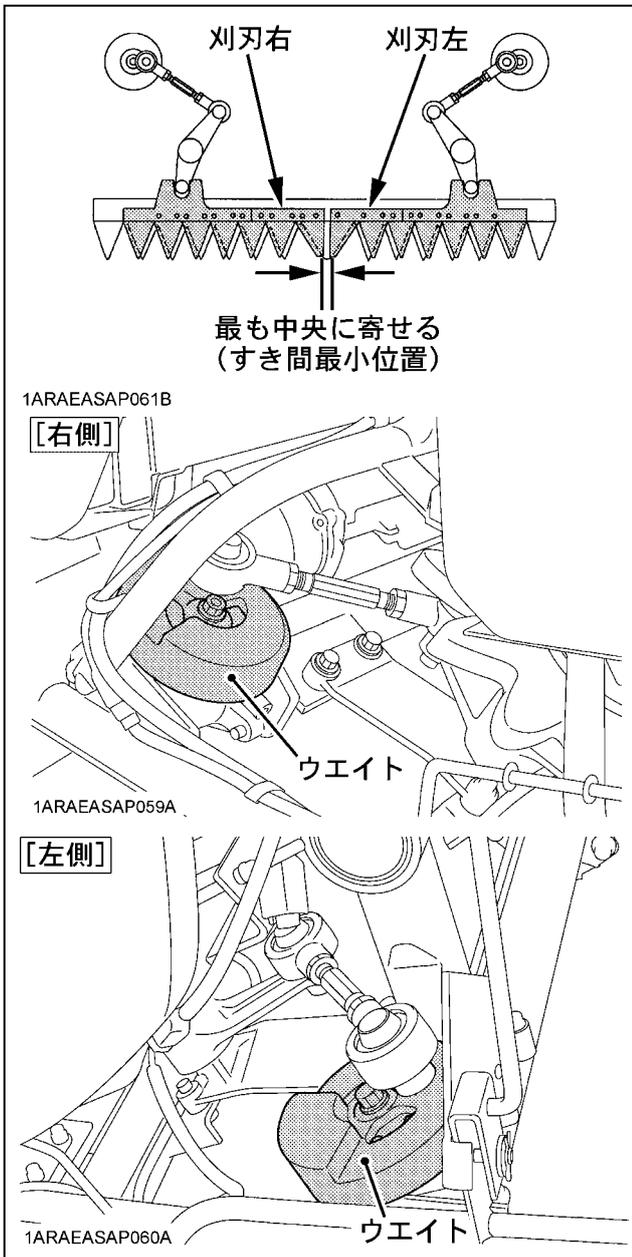
1. ボルトを取り外して刈刃クランクケース左右を取り外します。



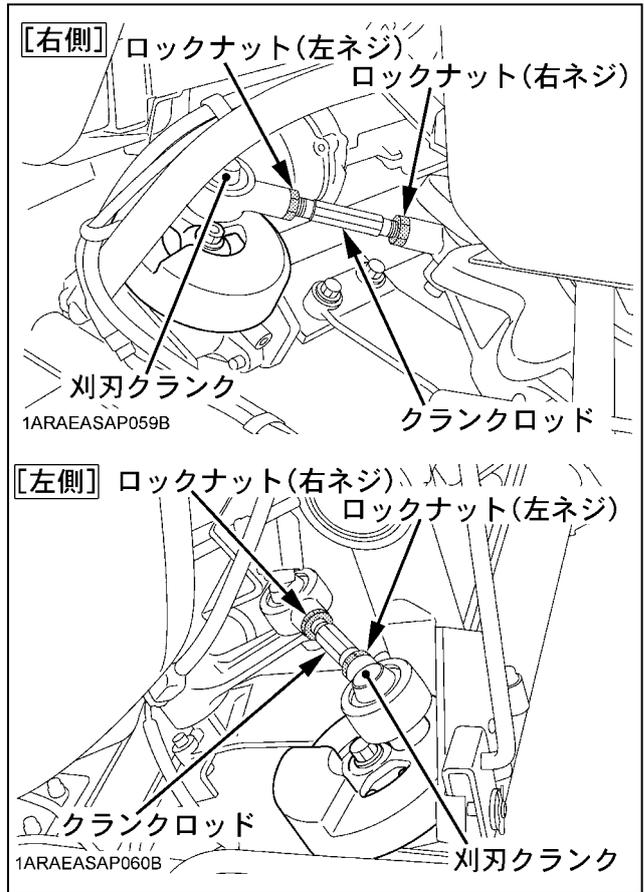
# メンテナンス



2. 左、右にある刈刃クランクのウェイトを手で回して左、右の刈刃を最も中央に寄せた状態(中央のすき間最小位置)にします。



3. クランクロッド左、右のロックナット2個をそれぞれ緩めます。

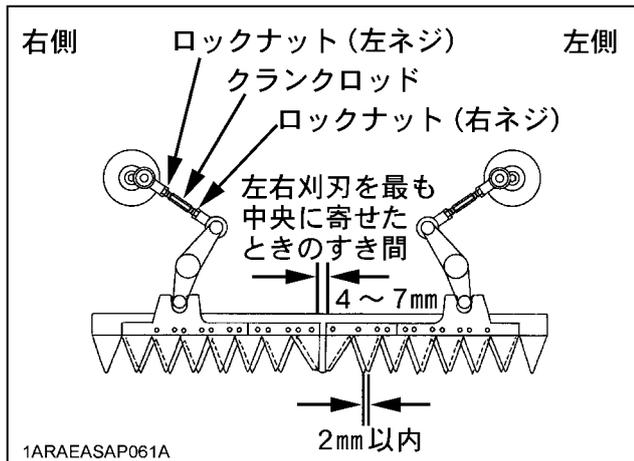


## 補足

クランクロッドには右ネジと左ネジがあります。

## メンテナンス

- クランクロッドを回して、刈刃と受刃のセンタのずれを2mm以内に調整します。
- 刈刃中央部で、左右の刈刃のすき間が4～7mmの範囲から外れているときは、再度3.の調整を行って4～7mmの範囲になるように調整します。



- クランクロッドのネジ部にネジロックを塗布したあと、ロックナットを締め付けます。

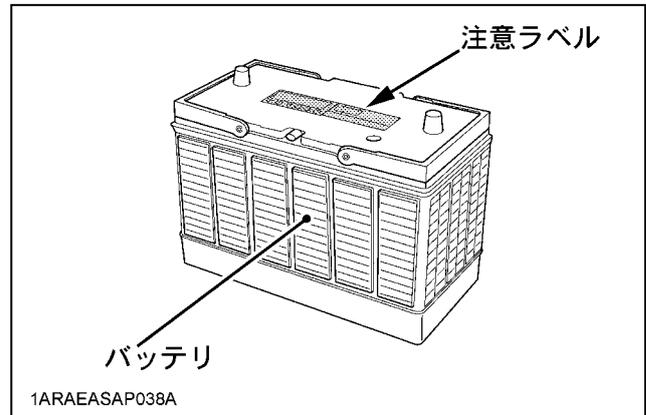
### 補足

ネジロックは、購入先に連絡して入手してください。

- 刈刃クランクカバー左、右を取り付けます。

## 30. バッテリーの点検・交換

バッテリー上面に貼ってある取扱注意ラベルをよく読んでください。



### ⚠ 危険

- \*バッテリーの近くに裸火(マッチ、ライター、タバコの火など)を近づけたり、(+)端子と(-)端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリーのガスで引火爆発するおそれがあります。
- \*バッテリーを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリーに入っている電解液(希硫酸)により、失明やヤケドの原因となります。
- \*充電器やブースターケーブルを使用するときの取り扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行ってください。取り扱いを誤ると、引火爆発するおそれがあります。
- \*この12Vバッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。
- \*急速充電は厳禁です。
- \*開封は厳禁です。(密封タイプ)

# メンテナンス

## 警告

\*バッテリーを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。

### 補足

出荷時は、補水不要のバッテリーです。

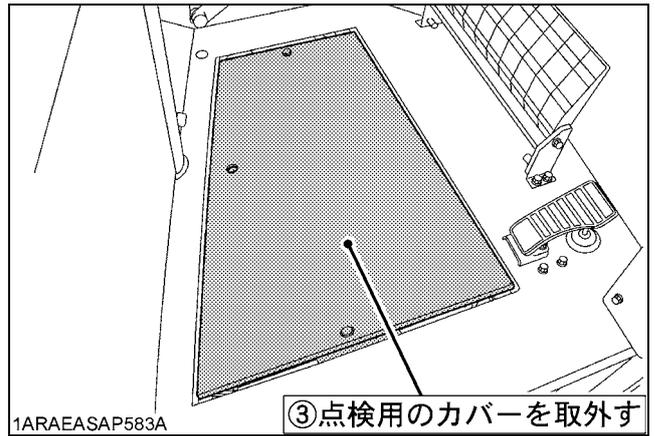
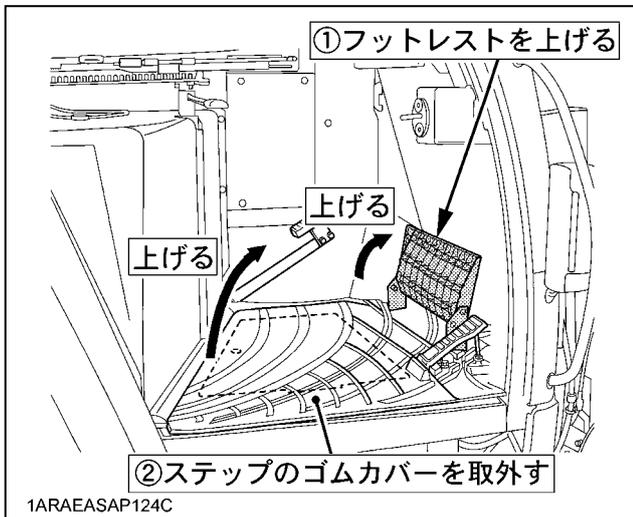
## 危険

バッテリーが破損や傾いたりして、液漏れが発生しているとき……

\*バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドをするおそれがあります。

\*バッテリーの電解液(希硫酸)が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医療機関(眼科)を受診してください。失明の原因となります。

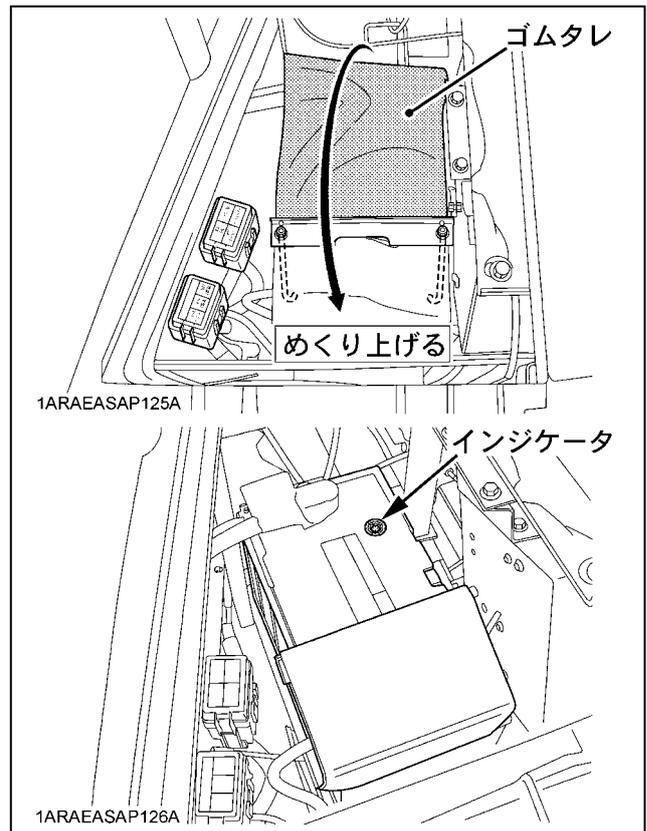
1. ステップのゴムカバーの下にある点検用カバーを取り外します。



2. ゴムタレをめくり上げてバッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

(1) バッテリー上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。下表を参照し、処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



## メンテナンス

### 補 足

インジケータは真上から確認してください。

- (2) バッテリーが破損して液もれが発生しているときは、交換してください。

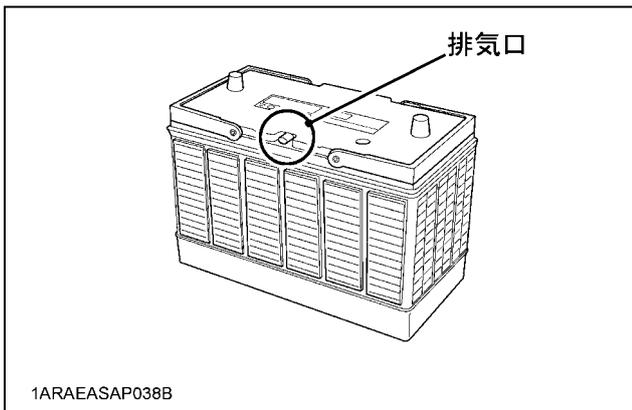
### 重 要

液もれが発生すると車体が腐食する原因となります。

- (3) ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

### 重 要

排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



- (4) バッテリーケーブルの破損や(+)端子、(-)端子に緩みや腐食がないかを確認し、ケーブルの交換や端子の増締め、掃除を行います。

3. 点検用のカバーを取り付けたあと、ゴムカバーを取り付けます。

### ◆補充電・交換

## ⚠ 危険

- \* バッテリーは、以下の順序で取り換えてください。順序を誤ると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。
- 取り外し…(-)端子側(アース側)から外す。
- 取り付け…(-)端子側(アース側)を最後に接続する。

## ⚠ 警告

- \* バッテリーを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液(希硫酸)の漏れにより、失明やヤケドをするおそれがあります。
- \* バッテリーを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリーの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。
- \* バッテリーの取り付け方向を間違えないでください。(+)と(-)が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。
- \* バッテリーを投げたり、落としたり斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリーに入っている電解液(希硫酸)により、失明やヤケドの原因となることがあります。

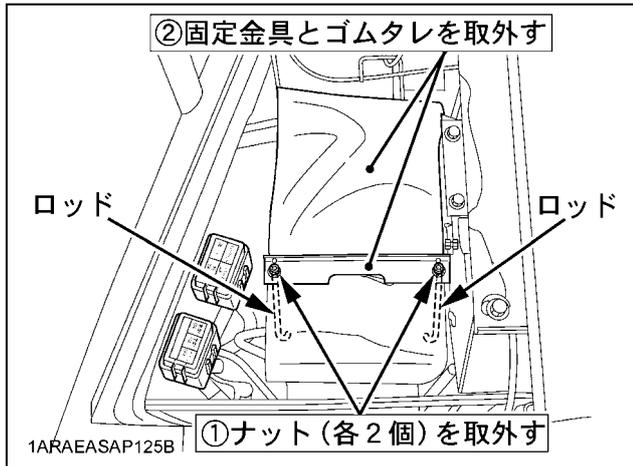
次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また、補充電を行っても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリーの寿命ですので交換を行ってください。

## メンテナンス

- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセル加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。
- ホーンの音がいつもより低い。

1. バッテリーを機体から取り外します。

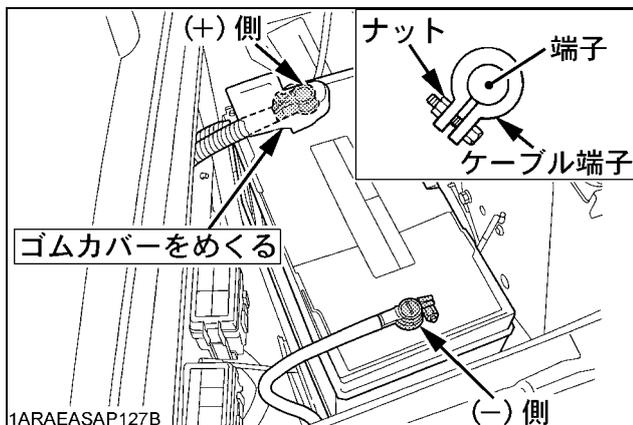
(1) 固定金具とゴムタレを取り外します。



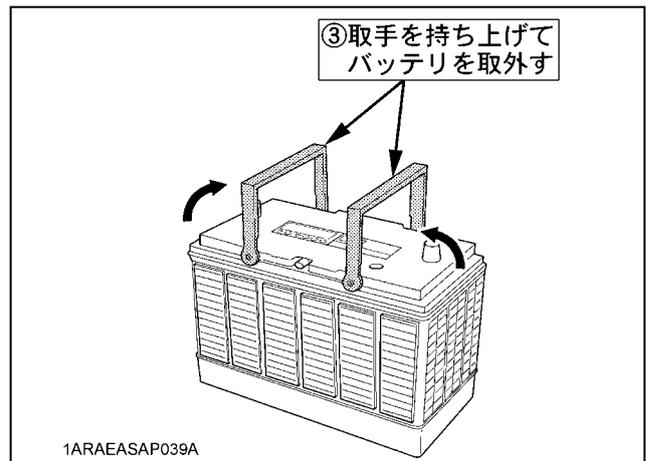
### 補足

固定金具を取り外すとき、バッテリーをバッテリー取付台に固定しているロッドも同時に取り外してください。

(2) ケーブル端子のナットを緩めて、端子からケーブル端子を取り外します。取り外すときは、必ず(-)側から取り外してください。



(3) バッテリーの両端にある取手を持ち上げてバッテリーを取り外します。



### 重要

バッテリーを斜めにしたり横倒しにして運ばないでください。電解液(希硫酸)がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。

2. 補充電を行うときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行います。また、充電は、バッテリーの(+)を充電器の(+)側に、バッテリーの(-)を充電器の(-)側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。

3. 補充電が終わると取り外したときと同様の手順で取り付けます。

### 重要

\*バッテリーを交換するとき、バッテリーは下記指定のバッテリーを使用してください。電圧や容量が違くと故障の原因となります。

バッテリー形式：105E41R

\*バッテリーはエンジン始動用です。他の用途には使用しないでください。

\*バッテリーはきちんと取り付けてください。傾いたりすると転倒や液漏れの原因となります。

\*機械にバッテリーを搭載した状態で急速充電をしないでください。

# メンテナンス

## 補水が必要なバッテリーの場合

(補水が不要なバッテリーの説明と異なる部分の説明です。)

### ◆点検・補水

#### ⚠警告

バッテリーには補水不要のタイプと補水が必要なタイプの2種類があります。補水が必要なバッテリーについては、次のことを守ってください。

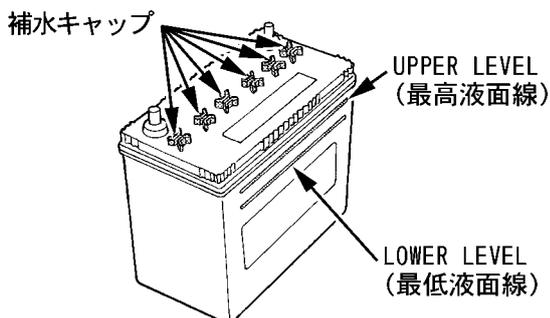
\*バッテリーは液面が[LOWER] (最低液面線) 以下になったままで使用や充電をしないでください。

[LOWER]以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリーの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに[UPPER LEVEL]と[LOWER LEVEL]の間に補水してください。

\*バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液(希硫酸)によってヤケドすることがあります。

バッテリーの状態を点検し、異常があれば処置します。

1. バッテリー液の量を点検し、[UPPER LEVEL] (最高液面線) と [LOWER LEVEL] (最低液面線) の間に液量があるか確認し、不足しているときは補水キャップを外して補水します。



1ASADACAP478A

## 重要

\*バッテリー液が不足して極板が空気中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。

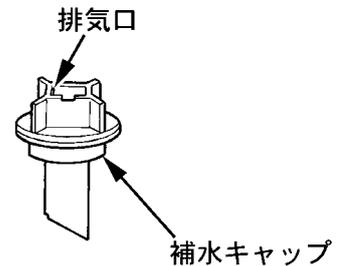
\*バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

\*バッテリーに精製水を入れ過ぎないでください。液もれして機体を傷めるおそれがあります。

2. 補水キャップの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除してください。

## 重要

排気口をふさぎますと、バッテリー内部で発生するガスによりバッテリーの内圧が上がり、破損する原因となります。



1ASADACAP479A

### ◆補充電・交換

#### ⚠警告

補充電中は補水キャップ全てを取り外して行いますので裸火は近づけないでください。引火爆発するおそれがあります。

# メンテナンス

1. 補充電を行うときは、平たんで風通しの良い場所を選んで補水キャップを全て取り外した状態で行います。また、充電は、バッテリーの(+)を充電器の(+ )側に、バッテリーの(-)を充電器の(-)側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。
2. 補充電が終わりましたら、補水キャップを全て取り付けてください。

## 3 1. 電気の各配線コード、各ヒューズの点検・交換

### 警告

配線コード被覆の損傷やコネクタ(端子)の接触不良による漏電やショート(短絡)は火災の原因となります。

#### ◆各配線コードの点検・交換

各配線コードのコネクタ(端子)の接続状態を点検し、緩みや外れがあるときは確実に挿し込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

#### ◆各ヒューズの交換

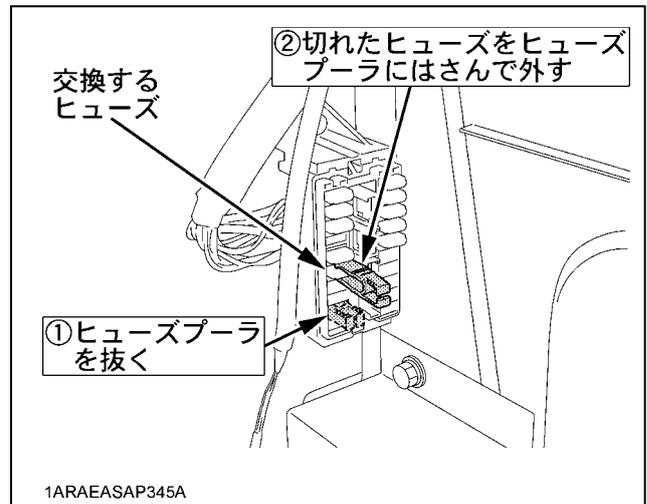
ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

### 重要

- \*新しいヒューズは必ず指定容量のヒューズを使用してください。異なる容量のヒューズを使用すると故障の原因となります。
- \*ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先へ連絡して修理を依頼してください。

### 補足

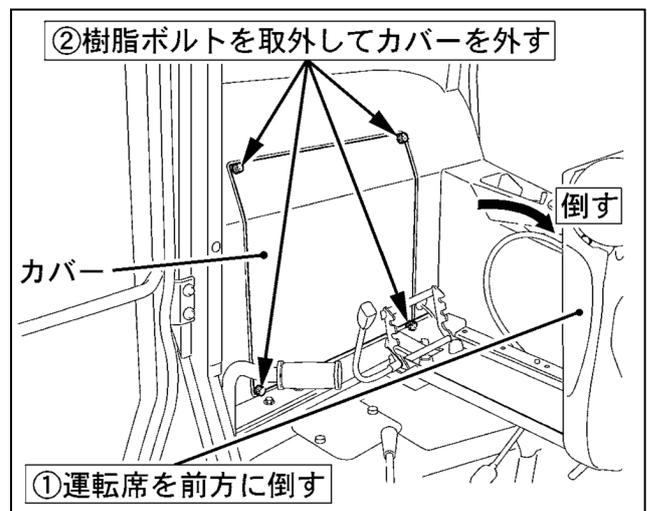
ヒューズを交換するときは、ヒューズボックスのカバーに設置しているヒューズプーラ(ヒューズ抜き)を使用してください。



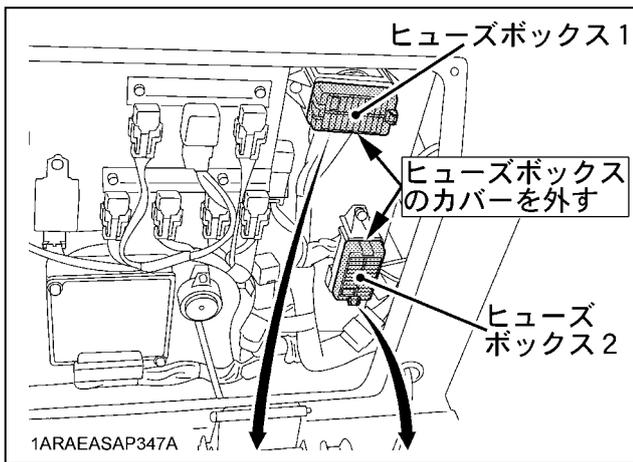
1. ヒューズボックスのカバーを外します。
2. 切れたヒューズを外します。
3. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを取り付けます。
4. ヒューズボックスのカバーを取り付けます。

#### ●運転席後部

運転席を前方に倒したあと、樹脂ボルトを取り外して運転席後部のカバーを取り外してください。交換後は、運転席後部のカバーを取り付けてください。



# メンテナンス



A		I	A		I
B		J	B	Q	J
C	S	K	C		K
D		L	D	R	L
E	T	M	E		M
F		N	F	S	N
G	U	O	G		-
H		P	H	T	O
ヒューズ 抜き	V	Q	ヒューズ 抜き		P
		R			-

## ヒューズボックス 1

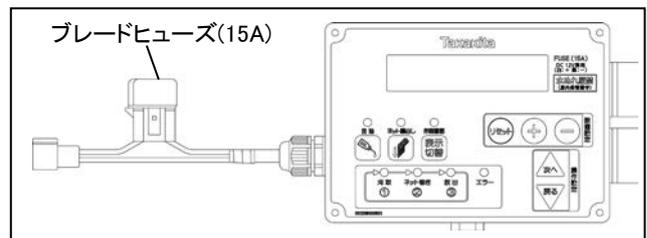
	回路	容量 (A)
A	マイコン, パネル, メータ	5
B	センサ	5
C	エンジン	10
D	オルタネータ, 燃料ポンプ	10
E	油圧バルブ	15
F	こぎ深さモータ	25
G	逆流ファンモータ	20
H	車速モータ	20
I	刈取変速モータ	20
J	モミ排出クラッチモータ	20
K	ハイサイドスイッチ	5
L	ウインカ, ブザー	10
M	脱こくクラッチモータ	25
N	分草かんオープンモータ	20
O	ベアラ, 添加器	30
P	キャビン	7.5
Q	ワイパ, ウオッシャ	20
R	プロワ	20
S	予備ヒューズ	7.5
T	予備ヒューズ	10
U	予備ヒューズ	20
V	予備ヒューズ	25

## ヒューズボックス 2

	回路	容量 (A)
A	メインスイッチ (直 B)	30
B	マイコン, メータ (直 B)	5
C	ラジオ (直 B)	5
D	本機作業灯 (直 B)	30
E	タンク作業灯	20
F	制動灯, 後退灯	10
G	前照灯	15
H	注油ポンプ	10
I	ラジオ	15
J	バックモニタ	10
K	コンデンサファン	20
L	スイッチ (エンジン始動)	5
M	モミシャッタモータ	20
N	電源ソケット	15
O	エアフロセンサ	5
P	スタータ SW 入力	5
Q	予備ヒューズ	5
R	予備ヒューズ	10
S	予備ヒューズ	15
T	予備ヒューズ	30

## ヒューズホルダー(コントロールボックス)

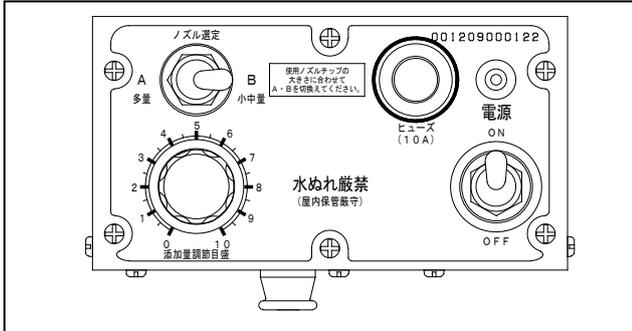
キャビン内のコントロールボックスの電源を入れても画面が表示されない場合は、ブレードヒューズ(15A)が切れていないか確認してください。



# メンテナンス

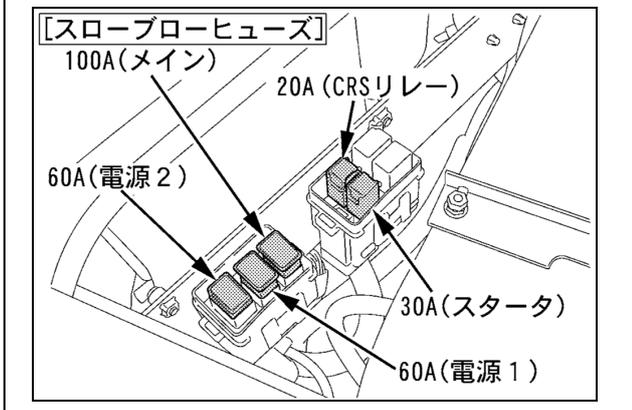
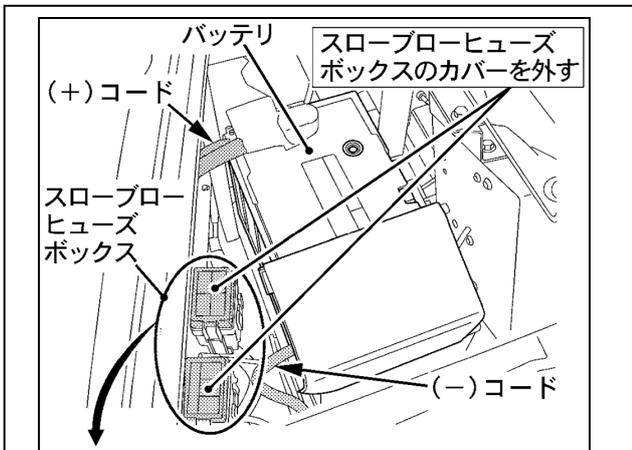
## ヒューズホルダー（添加器）

添加器のポンプが作動しない場合は、キャビン内コントローラーのヒューズ(10 A管ヒューズ)が切れていないか確認してください。



## ◆スローブローヒューズ・バッテリー(+)コードヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは新しいヒューズと交換してください。

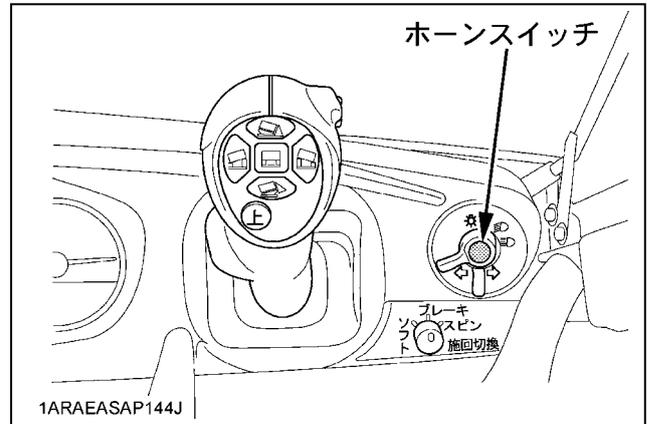


## ■ランプ（電球）の点検・交換、ホーンスイッチの点検

ランプ(電球)切れがないか点検し、切れているときは交換してください。また、ホーンスイッチを押して点検し、鳴らないときは、配線やヒューズを確認してください。

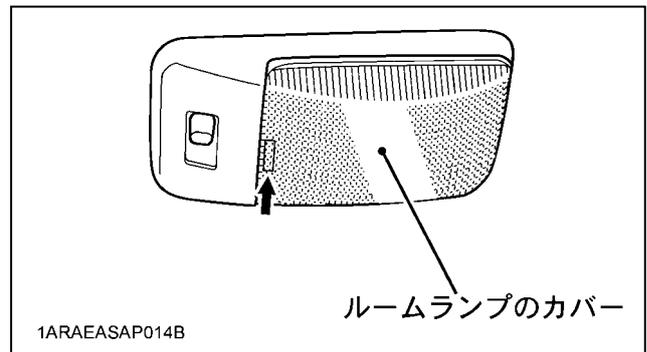
### 重要

\*ハロゲンランプ(作業灯、ヘッドランプ)の交換をしたとき、ランプの表面に指紋などの油分が付着したときは、きれいに拭き取ってください。破損する原因になります。



## ●ルームランプ[D X仕様]

カバーの凹部にマイナスドライバーなどの先端部を挿し込み、下方向に押し取り外して、電球を交換してください。



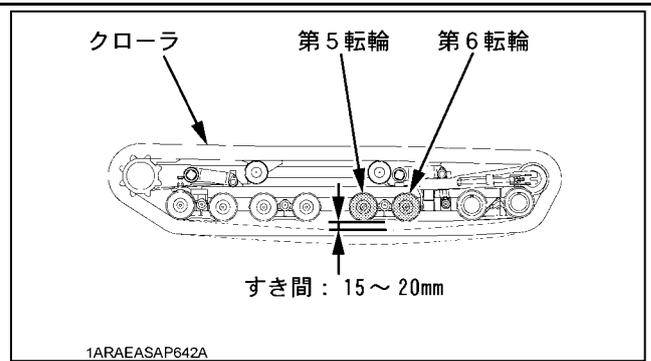
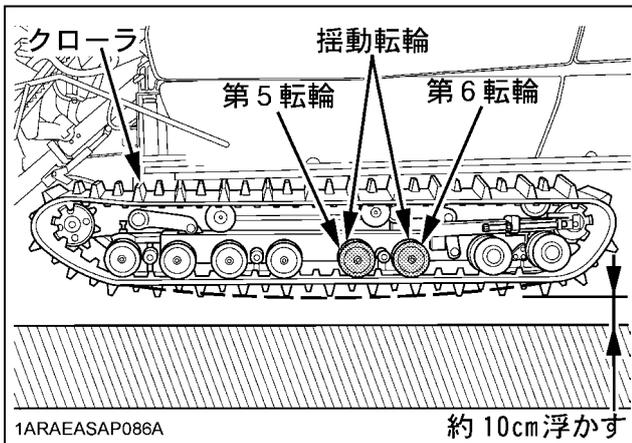
# メンテナンス

## 32. クローラの点検・調整

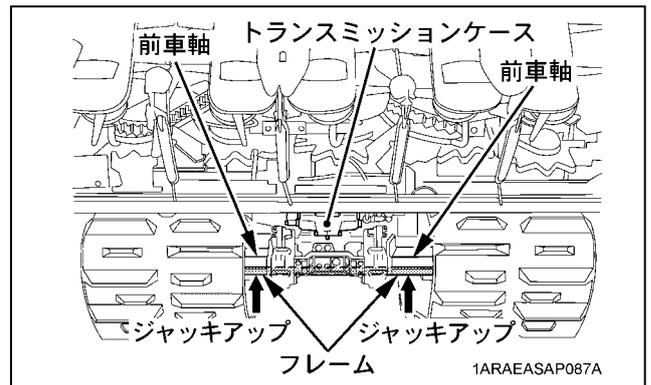
### ⚠ 注意

- \*点検・調整を行うときは、エンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- \*平坦な場所で刈取部を上げて、刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ってください。さらに、枕木などを使用して、落下防止の歯止めをしてください。
- \*ジャッキアップを行うときは、コンクリートなど地面の固い場所でバランスのとれた位置にして作業してください。
- \*ジャッキは持上荷重が2トン以上の物を使用してください。
- \*機体にセットする木材やブロックなどは、十分な強度があるもので、セットするときは機体から外れないように注意しながら行ってください。

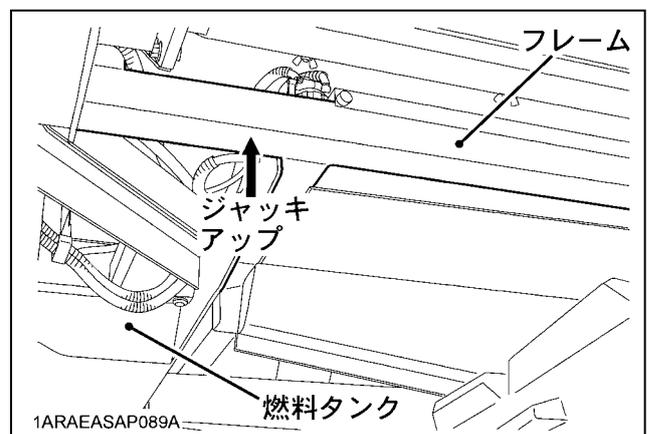
地面からクローラを約10cm浮かした状態で、機体を最下降位置にし、クローラ下側上面と第5・第6の揺動転輪下端のすき間を15~20mmに調整してください。また、調整は片側ずつ行ってください。



1. クローラを地面から10cm程度浮かせます。
  - (1) エンジンを始動したあと、刈取部を最上昇位置にします。
  - (2) 刈取下降ロックスイッチを[ロック]位置にして刈取部の下降防止を行ったあと、エンジンを停止します。
  - (3) 前部はトランスミッションケース部の前車軸後方にあるフレームに木材やブロックをセットします。



- (4) 後部は機体フレームの下図位置に、調整を行う側のフレームに木材やブロックをセットします。



## メンテナンス

(5) エンジンを始動したあと、自動車体水平制御の機体昇降手動スイッチ [下] を押して機体を最下降位置にします。

(6) エンジンを停止します。

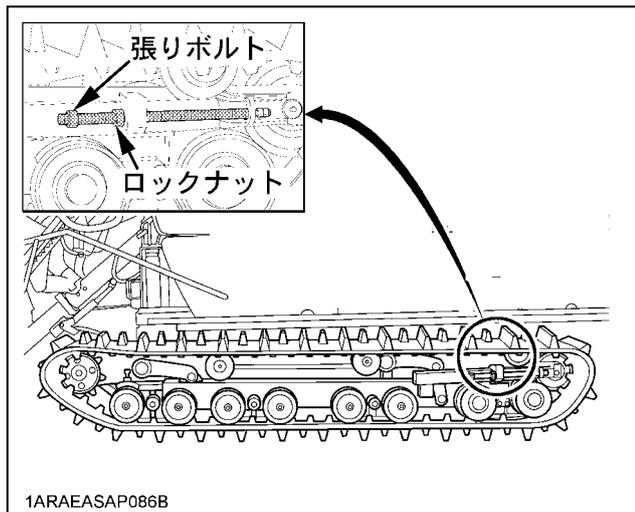
### 重要

\*燃料タンクにジャッキを当てないでください。破損し燃料漏れを起こすおそれがあります。

\*ジャッキアップを行うときは、前車軸にジャッキをセットしないでください。前車軸が変形するおそれがあります。

2. クローラ後部にある張りボルトのロックナットを緩めます。

3. 張りボルトでクローラを張りながら、すき間の調整を行います。



4. 左、右両方共に行い調整後は、回り止めのロックナットを締め付けます。

5. ジャッキおよびブロックや木材を取り外します。

### 重要

\*クローラを張り過ぎると車軸の折損の原因になります。

\*クローラが緩み過ぎると脱輪したりスプロケットおよび芯金が早期に摩耗することがあります。初期伸びがあるため初期20時間目に点検してください。

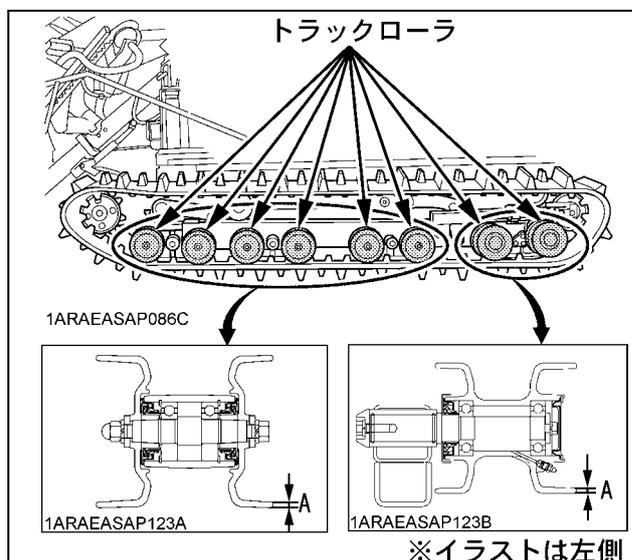
\*クローラの劣化が早くなり早期破損の原因となるため、次の事項を守ってください。

●日光や雨による劣化防止のため、屋外に長期保管しないでください。

●オイルや燃料、農薬、肥料など油脂類の付着による劣化防止のため、クローラに付着した油脂類はきれいに拭き取ってください。

### ■トラックローラ（転輪）の点検

トラックローラの下図A寸法が、2mm以下になったとき、または使用時間が800時間経過したときの早い方で交換してください。



### 補足

交換を行うときは、購入先に連絡してください。

### ■ドライブローラの点検・左右入換え・交換

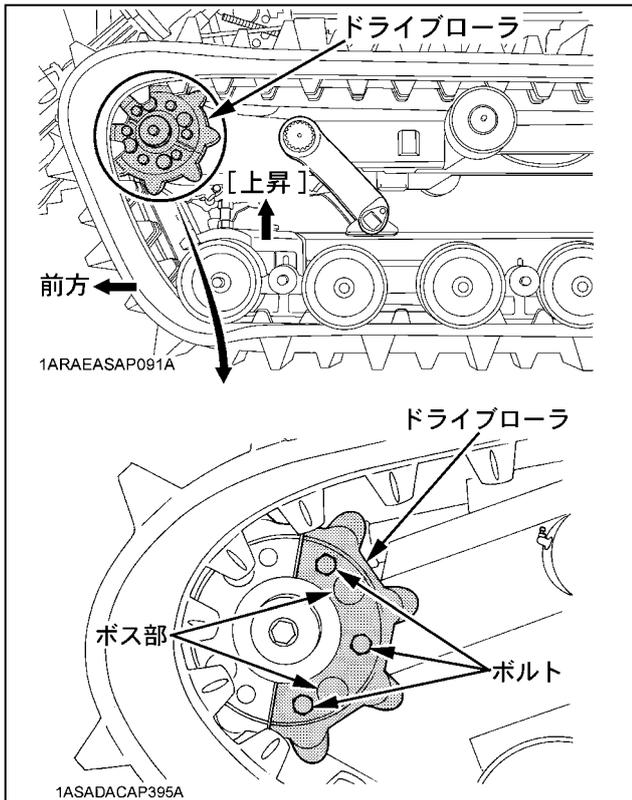
#### 警告

点検・交換を行うときには、平坦な場所でエンジンを必ず停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。

# メンテナンス

## ◆点検

1. エンジンを始動したあと、自動車体水平制御装置の機体昇降手動スイッチの[上]を押して操作して機体を最上昇位置にします。
2. 刈取部を上げ、2分割式ドライブローラの位置が次図の位置になるように機体を前進させます。



3. 刈取部を降ろしてエンジンを停止します。
4. ドライブローラを取り付けているボルトを確認し、緩みや脱落が発生しているときは、購入先に連絡してください。

## ◆左右入れ換え

1. ◆点検の手順1.～3.を行います。
2. クローラに接触していない側のドライブローラのボルト3本を外して、ドライブローラを外します。
3. 同じ要領で反対側(右側または、左側)のドライブローラを取り外します。

4. ボス部側面に泥など異物が付着しているときは、異物を取り除きます。
5. 左右のドライブローラを入れ換えたあとボルト3本でドライブローラをそれぞれ取り付けます。

## 重要

\*ボルトにはネジロック(スリーボンド#1324 Bまたは、1305)を塗布し、締付トルクは1600kgf・cmのトルクレンチで締め付けてください。またトルクレンチがないときの交換は、購入先または整備工場で行ってください。

\*ドライブローラの左側と右側を同時に交換してください。締め付けトルクが不足(締付不足)すると、ボルトやドライブローラの脱落の原因となります。

6. エンジンを再始動し、2分割式ドライブローラのもう一方の入れ換えを行うため、点検の手順1.～3.を行います。
7. 上記手順の2.～5.の要領で左右のドライブローラの入れ換えを行います。

## ◆交換

左右入れ換えと同じ要領で新しいドライブローラと交換してください。

## 3.3. 刈取作業後の手入れ

刈取作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず、翌日または翌年の刈取作業に備えてください。

## ■毎日の作業後

### 警告

機体に本機カバーをかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

## メンテナンス

1. 平たんな場所に収穫機を停めます。
2. 機体各部のわらくずを取り除いたあと、必要なときは各部に注油を行います。
3. 刈取部を地面に接地させます。
4. メインスイッチのキーを抜き取ります。
5. 本機カバーを掛けます。

### ■長期格納時

刈り取りのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないときは、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行ってください。

#### ◆各部の掃除・注油と補修

機体を平たんな場所に停めて、次の事項を行ってください。

- 各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分を拭き取ってください。
- 各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やわらくずを、完全に取り除いてください。

#### 重 要

- \*機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。
- \*作業シーズン終了後および長期格納する前には、メンテナンスの[給・注油(水)一覧表]を参照して、各部の給・注油(水)を行ってください。

#### 補 足

- \*各部にもみやわらくずが残っていると、ネズミの巣になったり配線部をかじられ故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- \*各チェーン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には、錆が発生しないように十分注油してください。
- \*塗料の剥がれた所には補修塗料を塗ってさびが発生しないようにしてください。

#### ◆ラジエータ冷却水

ラジエータ冷却水は、冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水または、不凍液(ロングライフクーラント)を清水に混ぜた冷却水を入れてください。

#### ●排水しておくとき

1. ラジエータおよびリザーブタンクの冷却水を排水します。
2. ラジエータキャップに水なしと書いた札を掛けておいてください。

#### ●不凍液を入れておくとき

冷却水の補給・交換を行って、ラジエータおよびリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れます。

#### 重 要

- \*冷却水には、不凍液(ロングライフクーラント)を適正量入れ(混合比は最高でも50%以下)、よく水と混ぜ合せてからお使いください。(ラジエータ容量……7.9L)
- \*不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。
- \*不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。
- \*クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。必ず2年で交換してください。

## メンテナンス

### ◆バッテリー

#### ⚠ 危険

保管や持運びの際に、バッテリーに火気を近付けたりショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

#### ⚠ 警告

バッテリーを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリーを機体から取り外してください。また、以下の点に注意して保管してください。

- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行ってください。(バッテリー液補水タイプは、補水してから補充電を行ってください。)
- バッテリーは保管中でも自己放電するので夏は1カ月、冬は2カ月に1回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行ってください。
- 次のような場所に保管してください。
  - (1) 直射日光が当たらない(温度が低く変化の少ない)乾燥している場所
  - (2) 雨露が少なく、水没のおそれがない場所
  - (3) バッテリーの有害なガスや液、粉じんの発生しない場所

機体に取り付けている場合は、(一)側のケーブルを必ず取り外してください。

### ◆各レバー・その他

#### 重要

\*刈取部を地面に降ろしたとき、刈取部の下に物が置かれているとトラブルの原因となります。

点検・整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは、刈取部を地面に接地させて、次の事項を行ってください。

- デバイダカバーを取り付けたあと、分草かんを収納します。
- アクセルダイヤルをいっぱい戻して停めておきます。
- 駐車ブレーキを掛けます。
- ベーラ・刈取クラッチレバーは[切]位置にします。
- 車体水平制御は、機体いっぱいまで下げます。
- メインスイッチのキーは、必ず抜き取って保管します。
- 本機カバーを掛けます。

# 収穫機の不調と処置

## 警告

\* 引起し部、運転操作部、各部を開いて作業を行うときは、下記事項を遵守してください。

- 平坦で安全な場所で、エンジンを必ず停止して、メインスイッチのキーを抜いてから行ってください。
- 傾斜地では、各部の開閉は行わないでください。
- 引起し部を開いたときは、閉じないようにストッパを必ず掛けてください。
- 各部を開いた状態で走行しないでください。
- 各部の開閉範囲内に人がいないことを確認してください。

\* 取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。

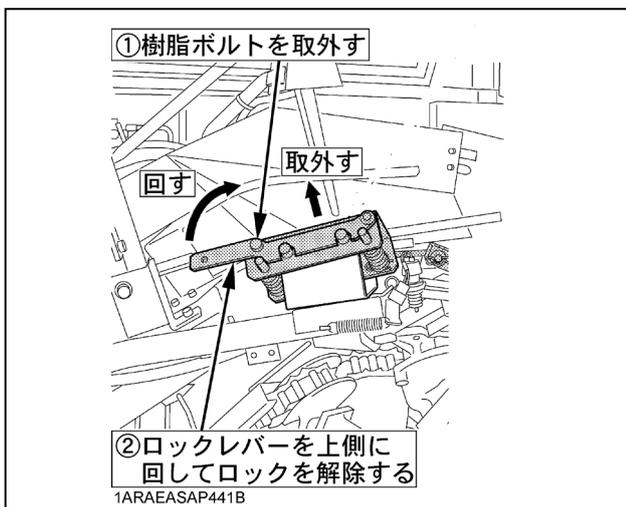
## 1. わらが詰まる

### ■ 自動エンジン停止装置がはたらいたとき

#### ◆ 供給搬送

自動エンジン停止装置がはたらき、液晶ディスプレイに[刈取][詰まりを取り除く]と表示し、警報ブザーが鳴ったときには掃除してください。

供給搬送部のチェーンにわらが詰まったときは、わら詰まり除去装置を取り外して、わらを取り除いてください。



## 補足

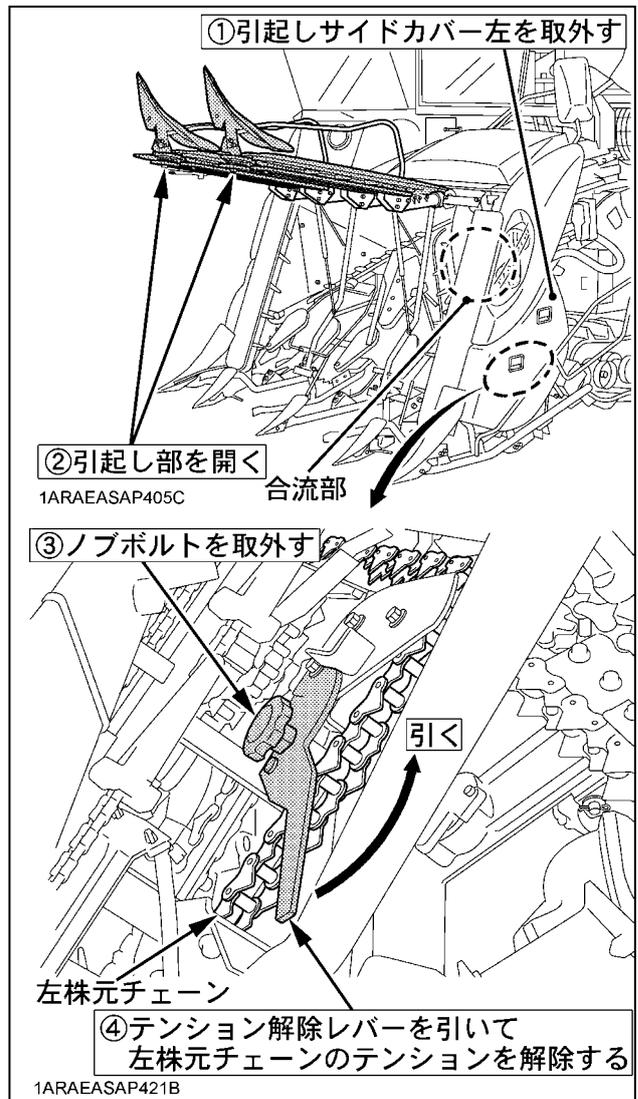
\* 必要に応じて刈取搬送部を開いてわらを取り除いてください。

\* 切断カッターの上部にも停止スイッチが装備されています。この部分のわらも取り除いてください。

## ■ わら詰まりの取り除きかた

### (左、右株元チェーン合流部)

1. 刈取部を地面に着くまで降ろしたあと、エンジンを停止します。
2. 引起しサイドカバー左を取り外したあと引起し部を開きます。
3. 左株元チェーンのテンションを緩めます。



## 収穫機の不調と処置

4. わらを取り除きます。
5. テンション解除レバーを引いて、左株元チェーンのテンションを張ったあと、ノブボルトを取り付けます。
6. 引起し部を閉じたあと、引起しサイドカバー左を取り付けます。

### ■ シャーピンが破損したとき

引起しチェーン、供給サポートチェーンが動かなくなり、わらが刈取部前面に滞留したり、供給搬送部にわら詰まりが発生したときは、各引起しチェーン、供給サポートチェーンの駆動軸に挿し込まれているシャーピンを確認し、折損しているときは購入先へ連絡して交換してください。

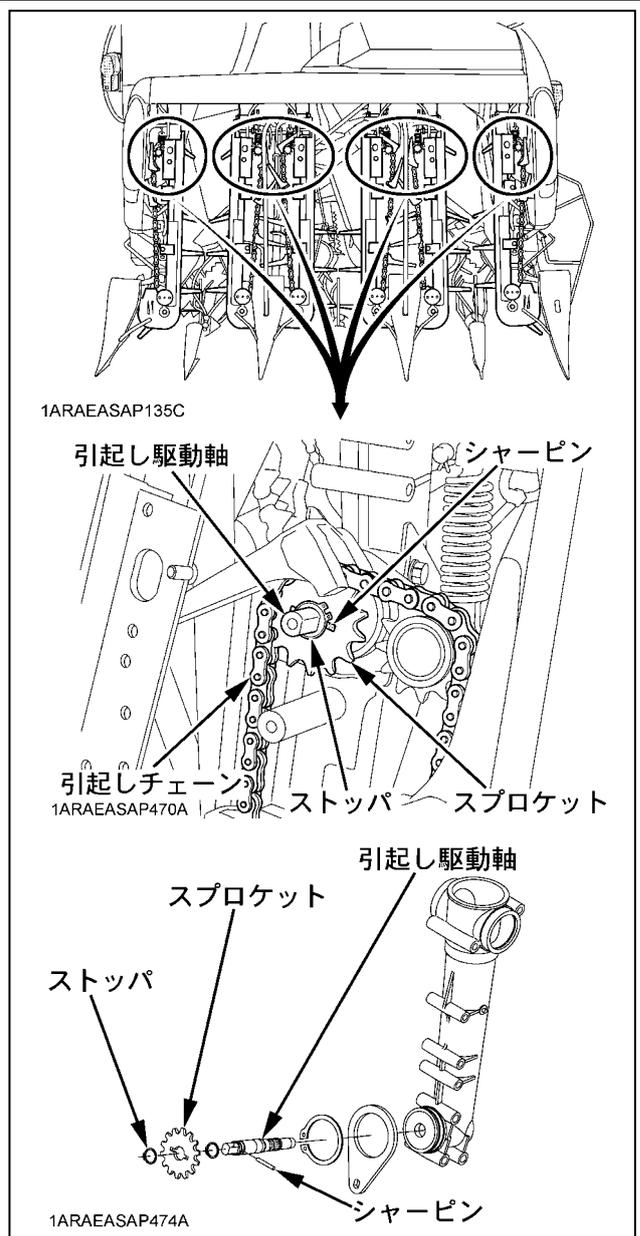
### 補 足

- \* シャーピンは予備部品で運転席（シート）裏側の収納ボックス内に3個入っています。
- \* 予備のシャーピン（品番：5H803-4695-0）がなくなったときは補充してください。
- \* 引起しチェーン用のシャーピンと供給サポートチェーン用のシャーピンは同じ部品です。

### ◆ 引起しチェーン駆動軸のシャーピン

刈取部前面にわらが滞留したときは、刈取作業をいったん中止し、シャーピンの確認を行ってください。

1. 平たんな場所に移動したあと、刈取部を地面に着くまで降ろし、エンジンを停止します。
2. 動いていない引起しチェーンの引起しカバーを取り外します。
3. シャーピンを確認します。



4. 引起しカバーを取り付けます。

### ◆ 供給サポートチェーン駆動軸

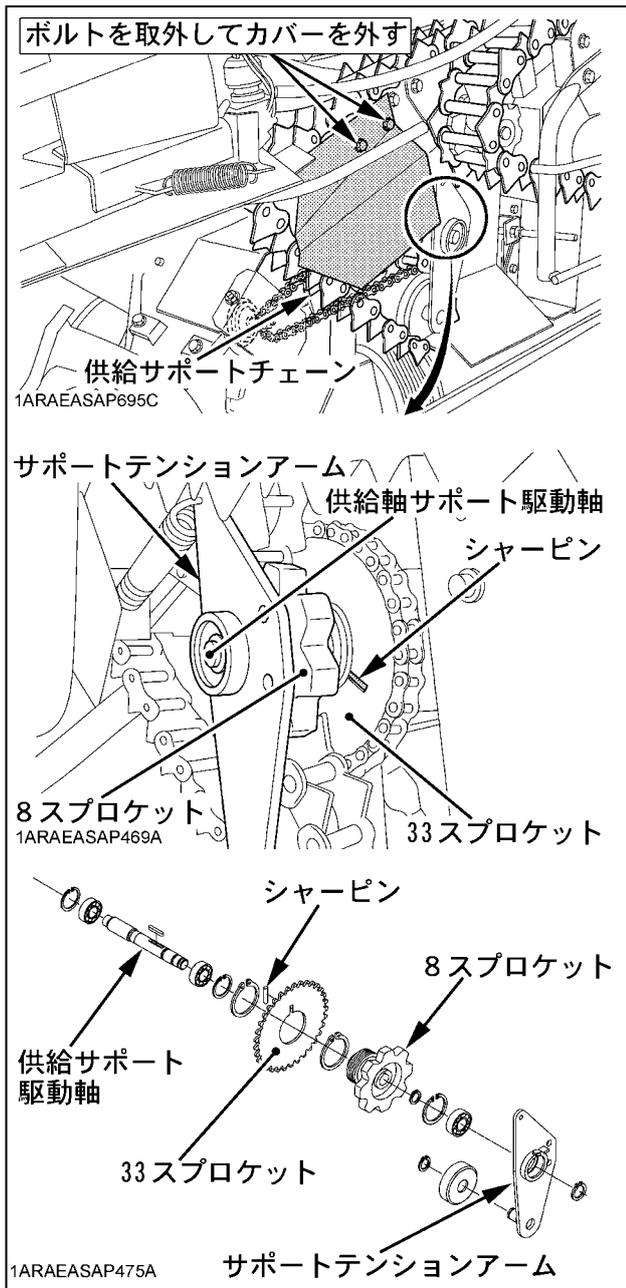
#### のシャーピン

供給搬送部にワラが滞留し、詰まりが発生したときは、刈取作業をいったん中止し、わらを取り除いたあとシャーピンの確認を行ってください。

1. エンジンを停止したあと、わらを取り除きます。
2. 左サイドカバー上1を取り外したあと、供給サポートチェーンのカバーを取り外します。

# 収穫機の不調と処置

3. シャーピンを確認します。



4. 供給サポートチェーンのカバーを取り付けたあと、左サイドカバー上1を取り付けます。

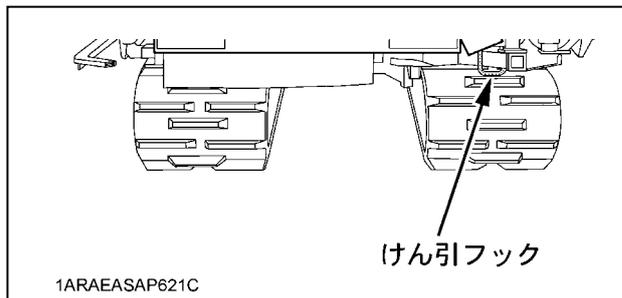
## 2. その他

### ■けん引フックについて

収穫機が自力で動けずけん引作業を必要とする場合は、機体の右側後方のけん引フックを使用してください。このとき、後方右側以外のロープ掛けフックは、けん引作業に使用しないでください。

### 重要

この収穫機を使って、けん引作業はしないでください。故障の原因になります。



# 収穫機の不調と処置

## 3. 不調診断（ロールベアラ一部電装関係）

No.	不調内容	診断	処置	参照ページ
1	コントロールボックスの電源が入らない	ヒューズが切れている	1. ネット装置部のカムが回りづらくなっていないか確認してください。 2. 配線がショートしていないか確認してください。 3. ヒューズを交換してください。	229
2	満了感知しない	1. 満了感知の設定値が高すぎる 2. チェーン張り後の調整がされていない	1. 満了感知の設定値を下げてください。 2. タイムチェーン張り後リセットボタンを長押ししてください。	84 132
3	パトライトが回転するが点灯しない	電球が切れている	電球を交換してください。	242
4	マルチナビでベールカウントしない	コネクタが抜けている	運転席後のカバーを開けて、コネクタを確認してください。	251
5	ベールの重量測定ができない	マルチナビの指示に従った操作ができていない	クラッチを切り、刈取り部を上げ、エンジン回転数上げを実施し再測定してください。	128
		ベールがチャンバー内に入っていない	ベールを作ってください。	124
6	カムの初期位置エラーが表示される	コントロールボックスのコネクタが外れている	コネクタがロックする位置まで挿し込んでください。挿し込みにくい場合は接合部のゴムにオイルを塗布してください。	—
		カムセンサが反応していない	1. ネットカムセンサ1、ネットカムセンサ2に金属を近づけて、LEDが赤く光るか確認してください。 2. 光る場合はセンサとボルトとの距離を近づけてください。 3. 光らない場合は断線が考えられるので配線を確認してください。	199
7	チャンバーが開いているとエラーが表示される	チャンバーロックがかかっていない	チャンバーを開けて、チャンバーの接合部を掃除してください。	135
		コントロールボックスのコネクタが外れている	1. コネクタがロックする位置まで挿し込んでください。 2. 挿し込みにくい場合は接合部のゴムにオイルを塗布してください。	—
		チャンバー閉センサが壊れている	1. ギボシを抜いて直結し、エラーが表示されないことを確認してください。 2. チャンバー閉センサを交換してください。	85
8	ネットが頻繁に巻き付く	ゴムローラに材料が付着しているまたは静電気を帯びている	ゴムローラ全体の付着した材料を取った後、濡れたタオルでゴムローラを拭き、乾いたタオルで水分を拭き取ってください。	80
		ゴムローラ下のスクレーパに材料が付着している	スクレーパの上を乾いたタオルで掃除してください。	80
		ゴムローラへのネットの巻き付きを取る際にカッターナイフでゴムローラを傷つけてしまった	ゴムローラを交換してください。または引っかかりそうな部分を削ってください。	80
9	作業クラッチを入れるとエンジンが止まる	緊急停止スイッチが利いている	緊急停止スイッチを解除してください。	115
		カッターツマリセンサにわらが詰まり、押されている	カッターツマリセンサを掃除してください。	199
10	シェアボルトギレと表示されるがシャボルトが切れていない	キースイッチがONのときに作業クラッチを「刈取」「ベアラ」位置にした	仕様ですので問題ありません。エンジンをかけてから作業クラッチを入れてください。	127

# 付表

## 1. 付属部品

次の部品が付属していますのでご確認ください。

*保証書	1
*取り扱い説明書	1
*パーツリスト	1
*DPF装置取り扱いのポイントシート	1
*本機カバー	1
*ほこりよけカバー	1
*分草ガイド	1
*ボルト	1
*じょうご	1
*ビニールホース	1
*シャーピン	3
*シャーボルト 6×25 (8T)	10
*シャーボルト 8×35 (8T)	15
*シャーボルト 10×35 (8T)	5
*ナイロンナット 6	10
*ナイロンナット 8	15
*ナイロンナット 10	5
*ナットオサエ (特殊スパナ)	1
*塩ビカラー (ネット用)	1
*左用カラー (ネット用)	1
*1.2m用カラー (ネット用)	1
*大量用ノズルチップ	1
*大量用ノズルキャップ	1

## 2. オプション部品 (別売品)

(純正部品を使いましょう)

### ◆刈取部

#### ■スイスイデバイダ

倒伏した作物を効率よく刈り取りできます。

品番	品名
5H817-00000	ERM587(3連)
5H818-00000	ERM587-R(右1連)

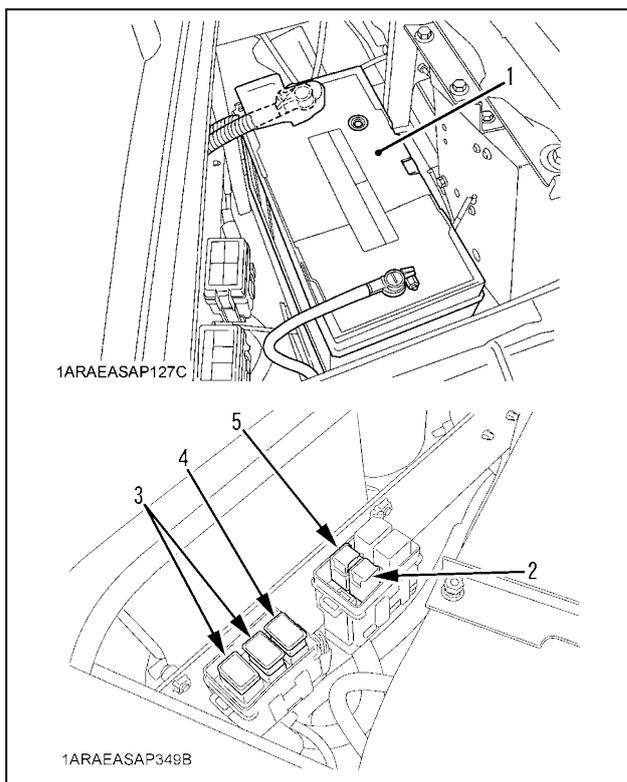
#### ■刈取スタンド

刈取部を安定した状態で取外すためのスタンドです。

品番	品名
5H803-87100	スタンド、アッシ(刈り取り)

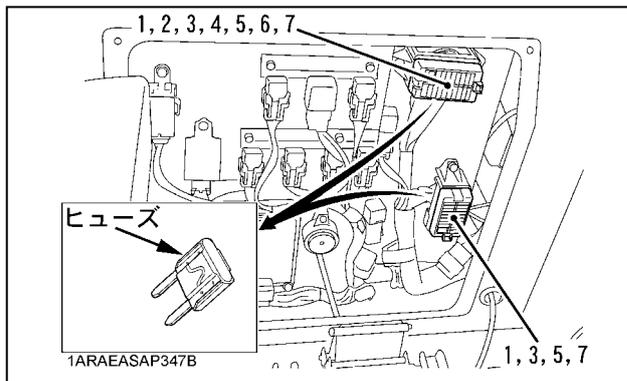
## 3. 消耗部品 (純正部品を使いましょう)

### ◆バッテリー・スローブローヒューズ

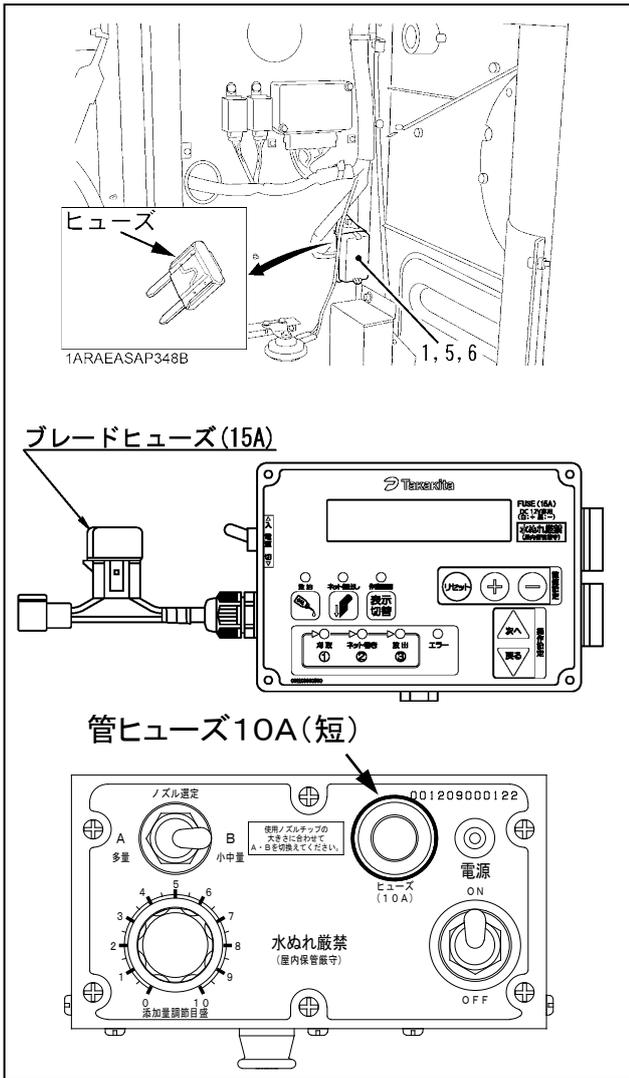


No.	品名	品番
1	バッテリー (105E41R)	07908-25090
2	スローブローヒューズ(30A)	3C581-7716-0
3	スローブローヒューズ(60A)	T1156-3050-0
4	スローブローヒューズ(100A)	5H801-4186-0
5	スローブローヒューズ(20A)	5H801-4185-0

### ◆ヒューズ

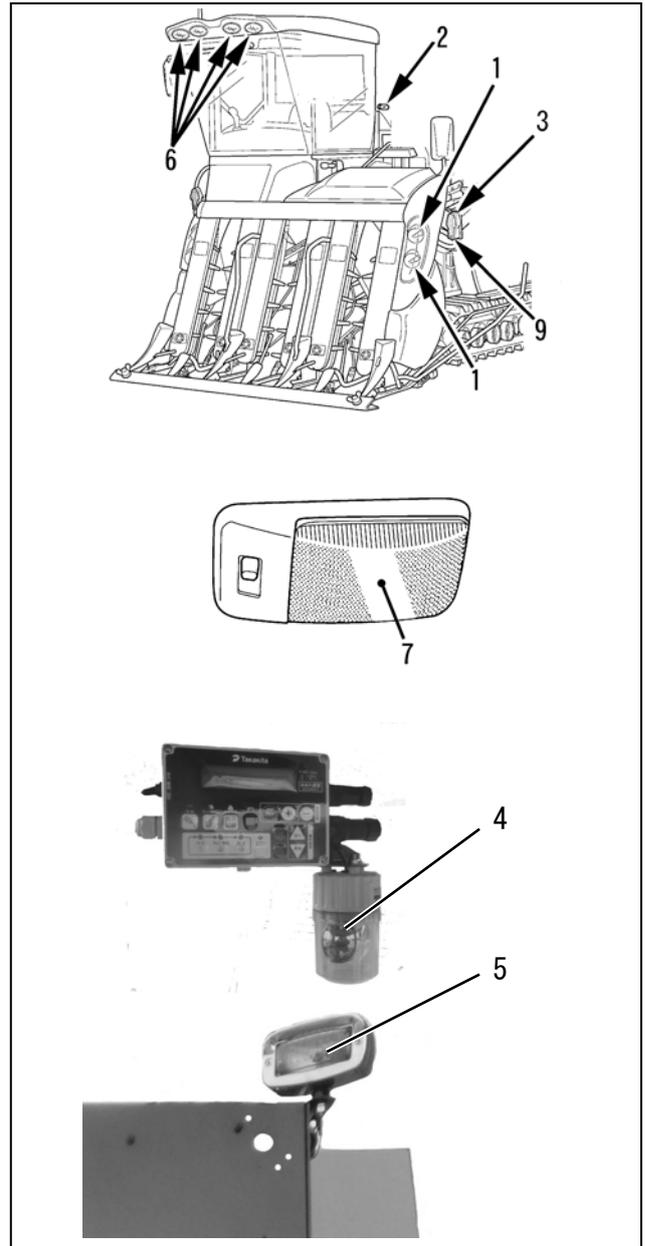


# 付表



No.	品名	品番
1	ヒューズ5A	T1065-3043-0
2	ヒューズ7.5A	T1065-3048-0
3	10A オートヒューズ	5H050-4162-0
4	15A オートヒューズ	5H050-4163-0
5	20A オートヒューズ	5H050-4164-0
6	25A オートヒューズ	5H050-4165-0
7	30A オートヒューズ	5H050-4166-0
8	ブレードヒューズ 20A	00900-0200-200
9	管ヒューズ 10A (短)	00900-0400-100

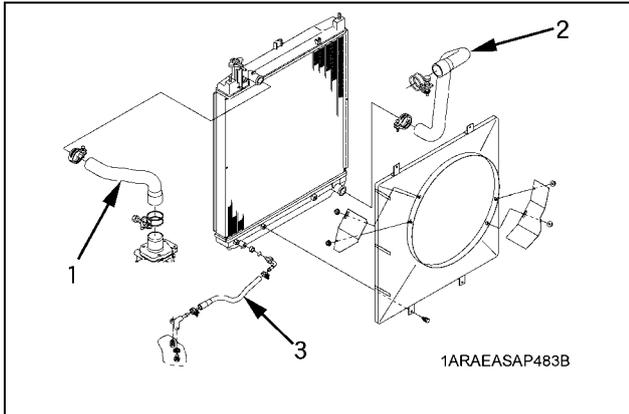
## ◆ランプ (電球)



No.	品名	品番
1	バルブ (12V35W、ハロゲン)	T1275-9106-0
2	バルブ (12V55W)	K3611-5515-0
3	バルブ (12V21W)	T1370-9911-0
4	バルブ (12V5W)	38105-9391-000
5	バルブ (12V20W)	00920-2000-090
6	バルブ (12V5W、ハロゲン)	5H802-8893-0
7	バルブ (12V5W)	3C581-5422-0
9	バルブ (12V5W)	T1370-9914-0

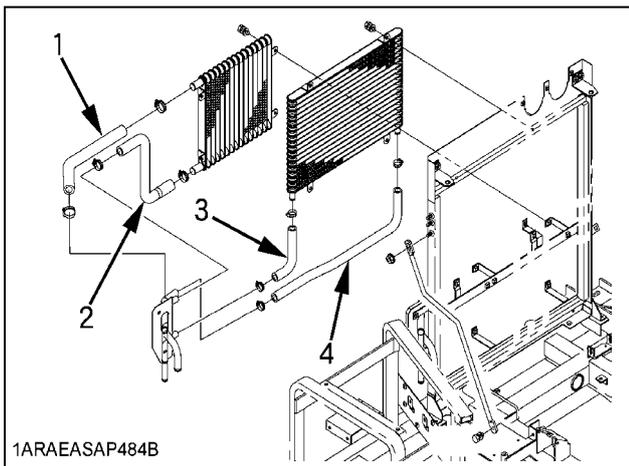
# 付表

## ◆ラジエータホース



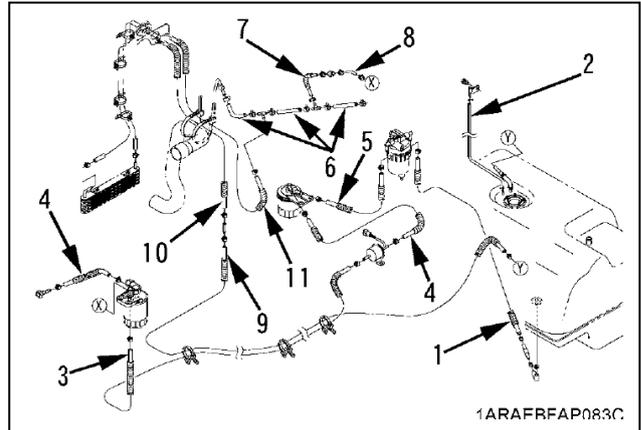
No.	品名	品番
1	ホース(1、ウォータ)	5H801-2555-0
2	ホース(2、ウォータ)	5H804-2556-0
3	ホース(ハイスイ)	5H804-2554-0

## ◆オイルクーラホース



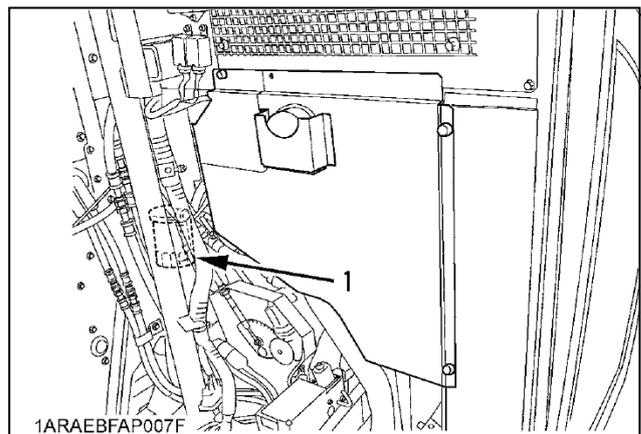
No.	品名	品番
1	ホース (TMクーラ、1)	5H801-2768-2
2	ホース (TMクーラ、2)	5H801-2769-3
3	ホース (オイルクーラ、1)	5H801-2766-2
4	ホース (オイルクーラ、2)	5H801-2771-2

## ◆燃料ホース



No.	品名	品番
1	フューエルチューブ	09661-31700
2	フューエルチューブ	09661-40875
3	フューエルチューブ	09661-82500
4	フューエルチューブ	09661-80380
5	フューエルチューブ	09661-80550
6	フューエルチューブ	5H911-2711-0
7	フューエルチューブ	5H911-2712-0
8	フューエルチューブ	5H911-2713-0
9	チューブ、アッシ (4、フューエル)	5H801-2693-0
10	フューエルチューブ	09661-71500
11	フューエルチューブ	5H881-2717-0

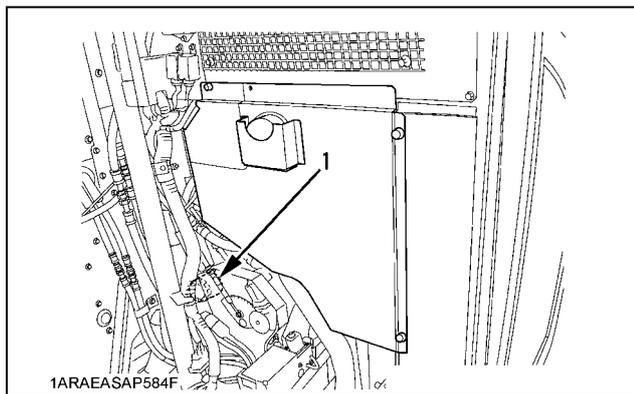
## ◆燃料フィルタカートリッジ



No.	品名	品番
1	フューエルフィルタエレメント	1663-4356-0

# 付表

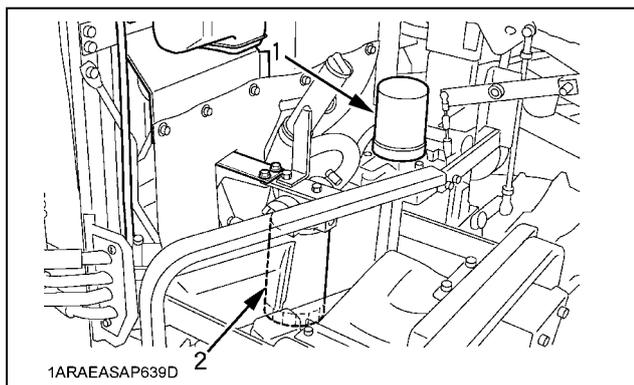
## ◆エンジンオイルフィルタカートリッジ



No.	品名	品番
1	フィルタ (オイル、カートリッジ)	1C020-3243-4

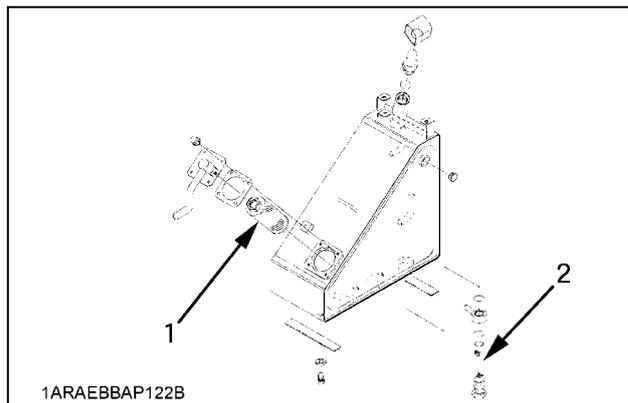
## ◆ミッションオイルフィルタカートリッジ

## ◆HSTオイルフィルタカートリッジ



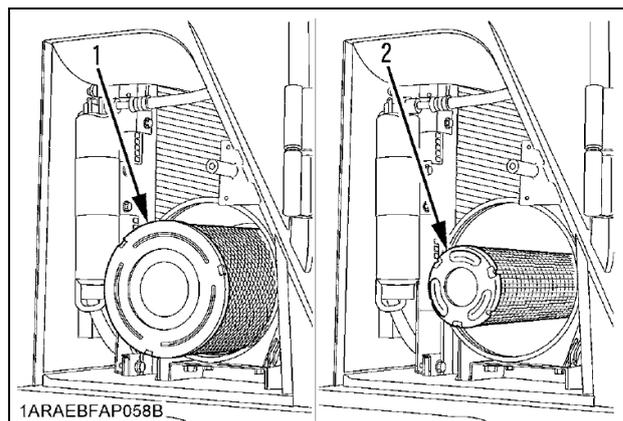
No.	品名	品番
1	フィルタ (HST)	TA240-5990-0
2	フィルタ (スイコミ、TM)	5H801-1791-0

## ◆油圧オイルタンクフィルタ



No.	品名	品番
1	サクシヨンストレーナ	63131-6211-0
2	フィルタ	5H700-2738-0

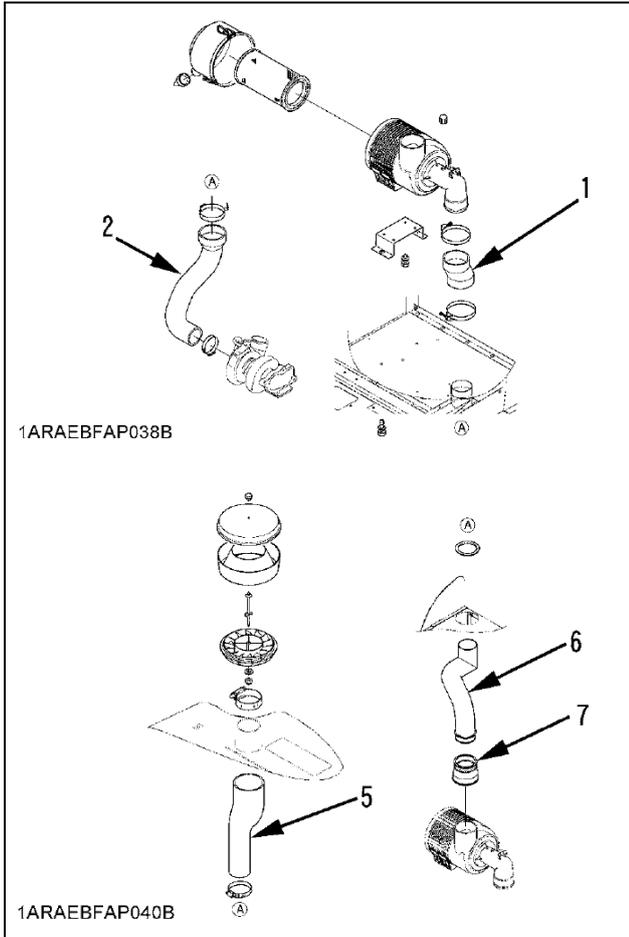
## ◆エアクリーナ



No.	品名	品番
1	エアクリーナ エレメントアツシ	59700-2611-2
2	エレメント(インナー)	55231-2615-0

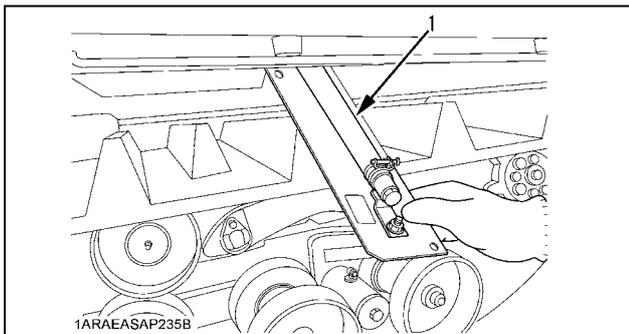
# 付表

## ◆インレットパイプ



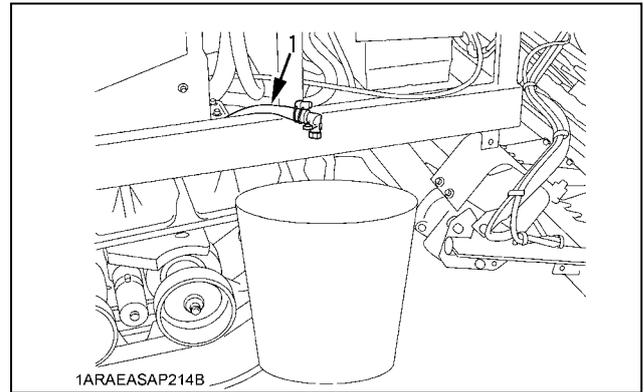
No.	品名	品番
1	ホース (1、インレット)	5H911-2668-0
2	ホース (2、インレット)	5H911-2631-0
5	ホース (4、インレット)	5H802-2624-0
6	ホース (3、インレット)	5H802-2623-0
7	ホース (90Q、インレット)	5H690-2632-0

## ◆オイルドレングムホース



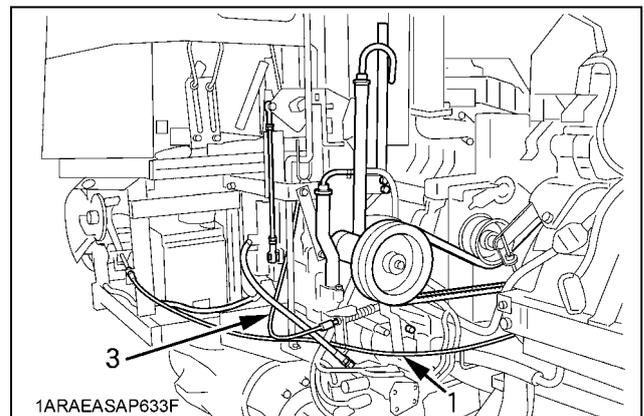
No.	品名	品番
1	ホース(オイルドレイン)	5H601-2521-0

## ◆排水ホース



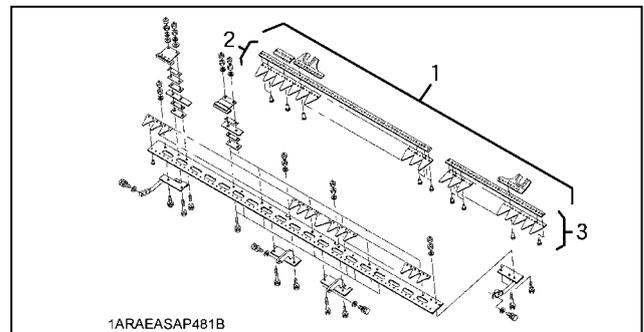
No.	品名	品番
1	ホース(ハイスイ)	5H801-2554-3

## ◆各ワイヤ



No.	品名	品番
1	ケーブル (ダッククラッチ)	5H801-3165-2
3	ケーブル (ブレーキ)	5H801-3216-3

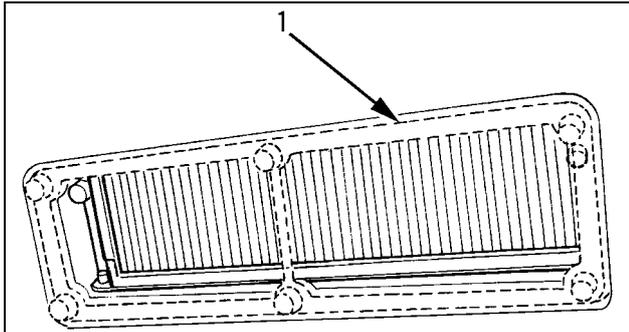
## ◆刈刃



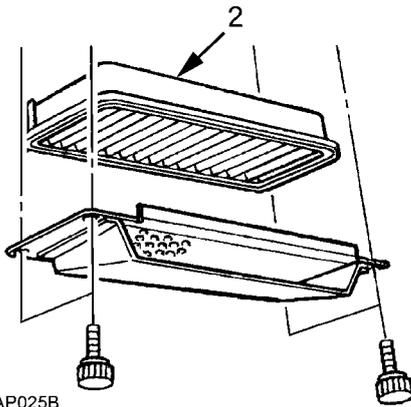
No.	品名	品番
1	刈刃アッシ	5H809-5901-7
2	刈刃コンプ(R)	5H809-5930-2
3	刈刃コンプ(L)	5H809-5920-2

# 付表

## ◆エアコンフィルタ



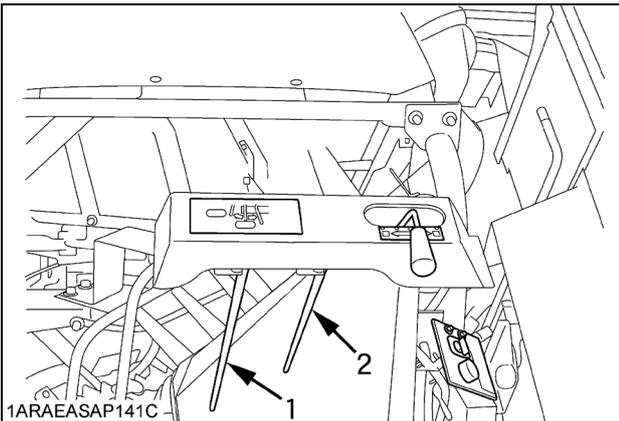
1ARAEAPAP417C



1ARAEASAP025B

No.	品名	品番
1	フィルタ(ナイキ)	6C430-7521-0
2	フィルタ (ペーパー)	TA043-7160-0

## ◆穂先センサ

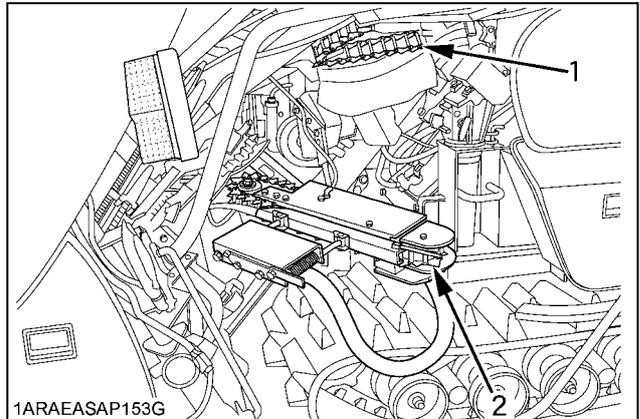


1ARAEASAP141C

No.	品名	品番
1	スイッチ、アッシ (ホサキ、250)	5H601-7560-2
2	スイッチ、アッシ (ホサキ、210)	5H601-7570-2

## ◆各チェーン

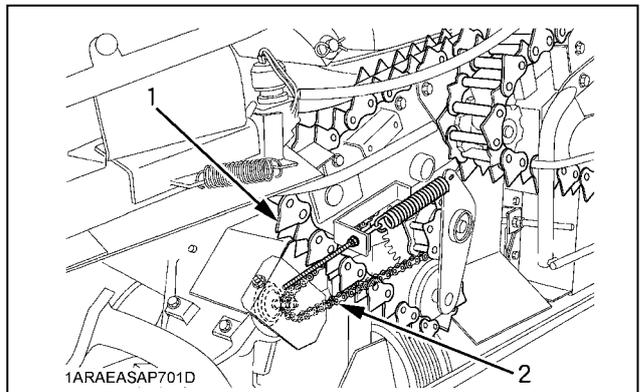
- 株元供給チェーン
- こぎ深さチェーン



1ARAEASAP153G

No.	品名	品番
1	チェーン、アッシ (37、キョウキュウ)	5H813-9610-0
2	チェーン、アッシ (39、キョウキュウ)	5H813-6610-0
3	チェーン、アッシ (46、フカサ)	5H813-7130-0

- 供給サポートチェーン
- 供給サポートチェーン駆動チェーン

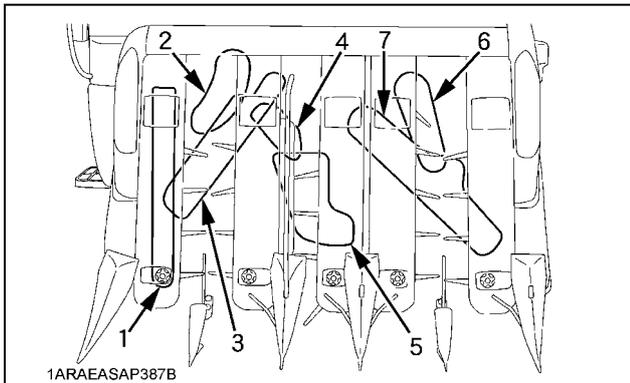


1ARAEASAP701D

No.	品名	品番
1	チェーン、アッシ (37、サポート)	5H803-6680-2
2	チェーン、アッシ (58、サポート)	5H803-6660-0

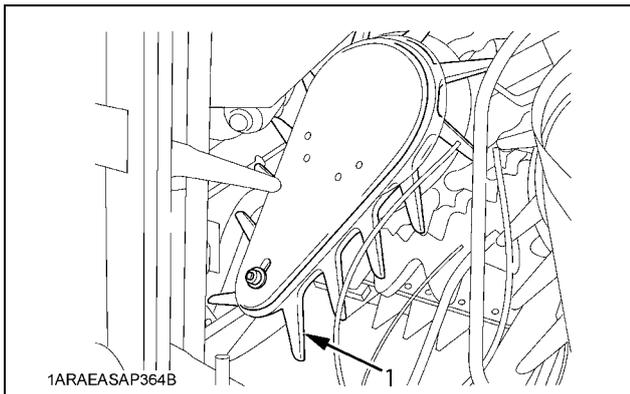
# 付表

- 引起しチェーン
- 右穂先・株元チェーン
- 中穂先・株元チェーン
- 左穂先・株元チェーン



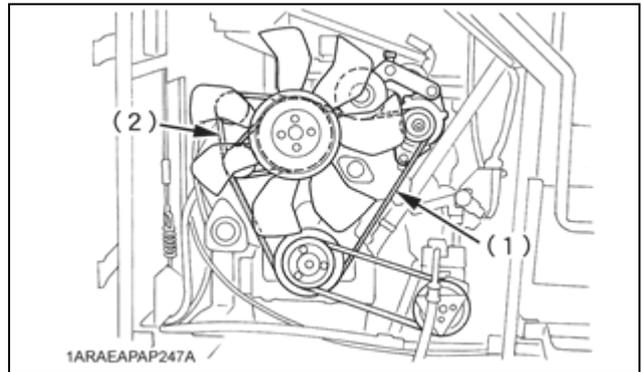
No.	品名	品番
1	引起しチェーン 爪アッシ	52200-5401-4
2	チェーン、アッシ (R、ホサキツメ)	5H809-6701-0
3	チェーン、アッシ (83、ミギ)	5H813-6360-0
4	チェーン、アッシ (C、ホサキツメ)	5H809-6905-2
5	チェーン、アッシ (39、ナカ)	5H813-6910-0
6	チェーン、アッシ (L、ホサキツメ)	5H809-6501-0
7	チェーン、アッシ (58、ヒダリ)	5H813-6320-0

## ◆突起付ベルト



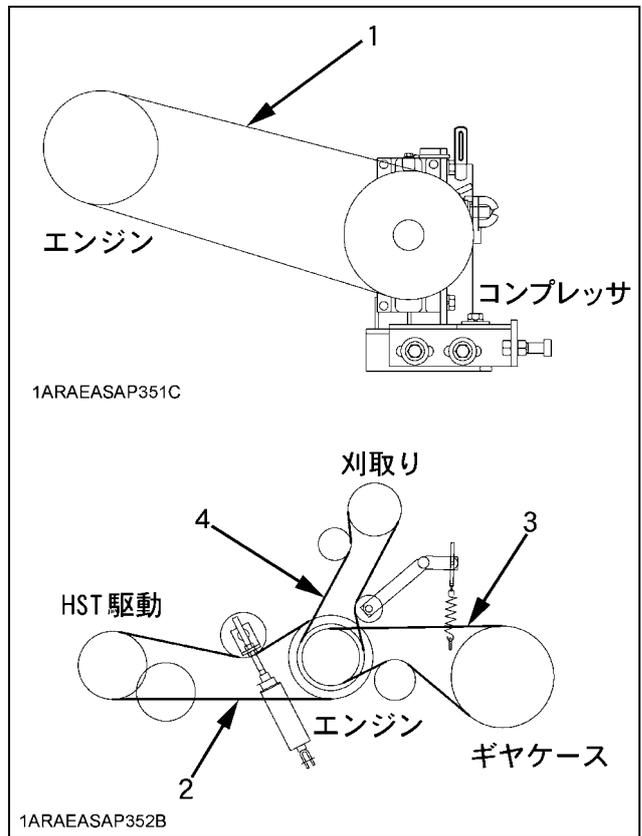
No.	品名	品番
1	ベルト(突起付)	5H601-6212-0

## ◆ファン駆動ベルト



No.	品名	品番
1	ファン駆動ベルト(1)	5H945-2598-0
2	ファン駆動ベルト(2)	5H601-2599-0

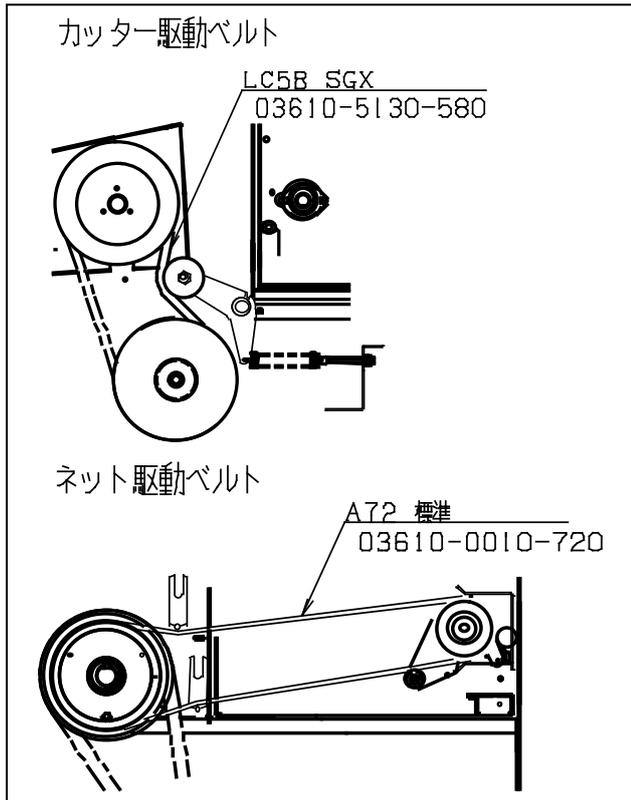
## ◆各ベルト



No.	品名	品番
1	V ベルト(A37)	5H690-3627-0
2	V ベルト、 アッシ(コグ C59)	5H602-1140-0
3	V ベルト、 アッシ(コグ B60)	5H801-1150-0
4	V ベルト、 アッシ(A49)	5H801-1170-2

# 付表

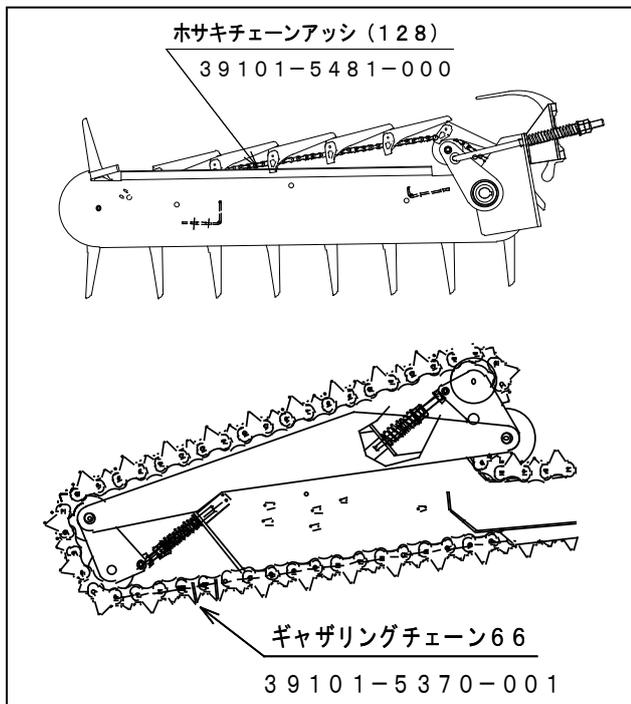
## ◆ロールベアラ駆動ベルト



## ◆ロールベアラ部コンベアベルト

37107-6420-001

## ●フィードチェーン部



## ●タイトチェーン

46101-3740-000

180リンク(ツギテ含む)

## ◆タイトバー部シャーボルトセット

細断カッター部シャーボルトセット

攪拌ディスク部シャーボルトセット

(3箇所共通)

M8×35(8T 全ネジ)

部品コード 01358-5080-35A

## ◆引き込み搬送部シャーボルトセット

M6×25(8T 全ネジ)

部品コード 01158-5060-25A

## ◆ミッション部シャーボルトセット

M10×35(8T 全ネジ)

部品コード 01158-5100-35A

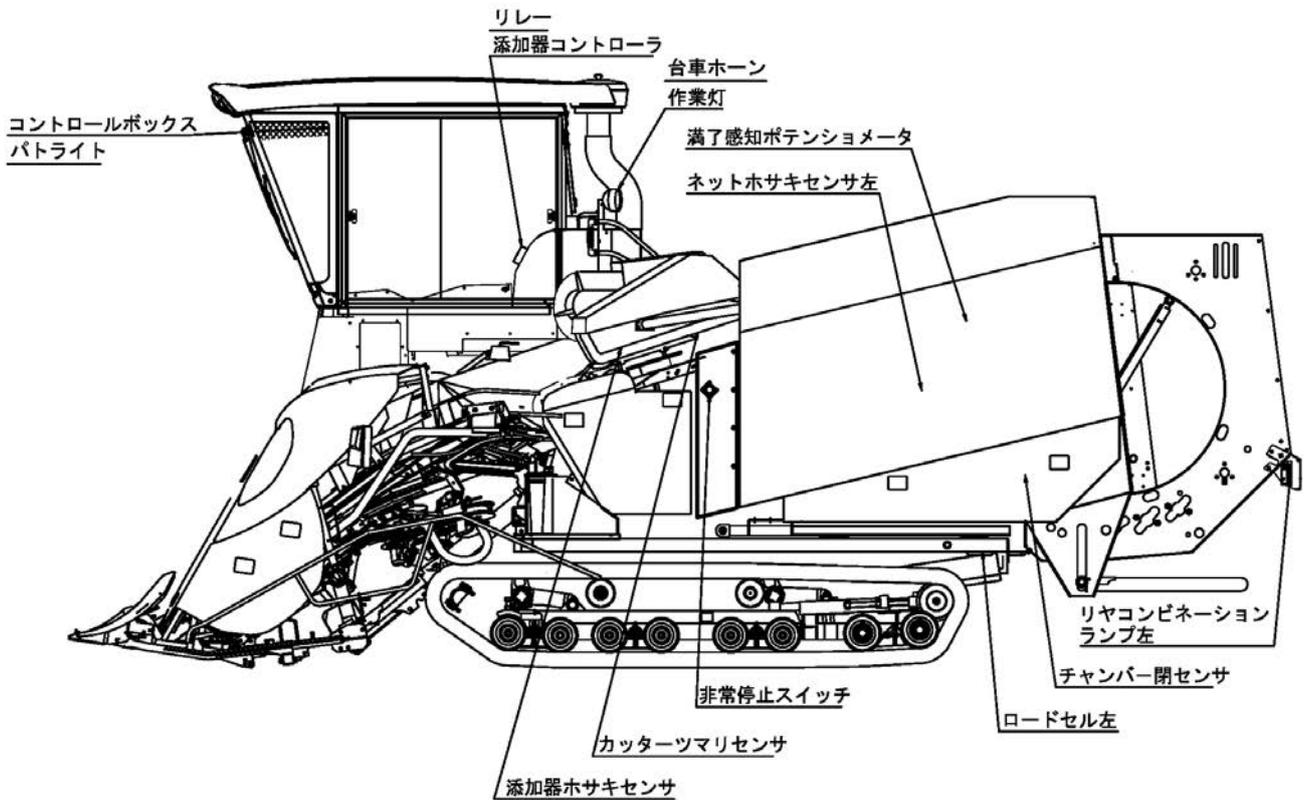
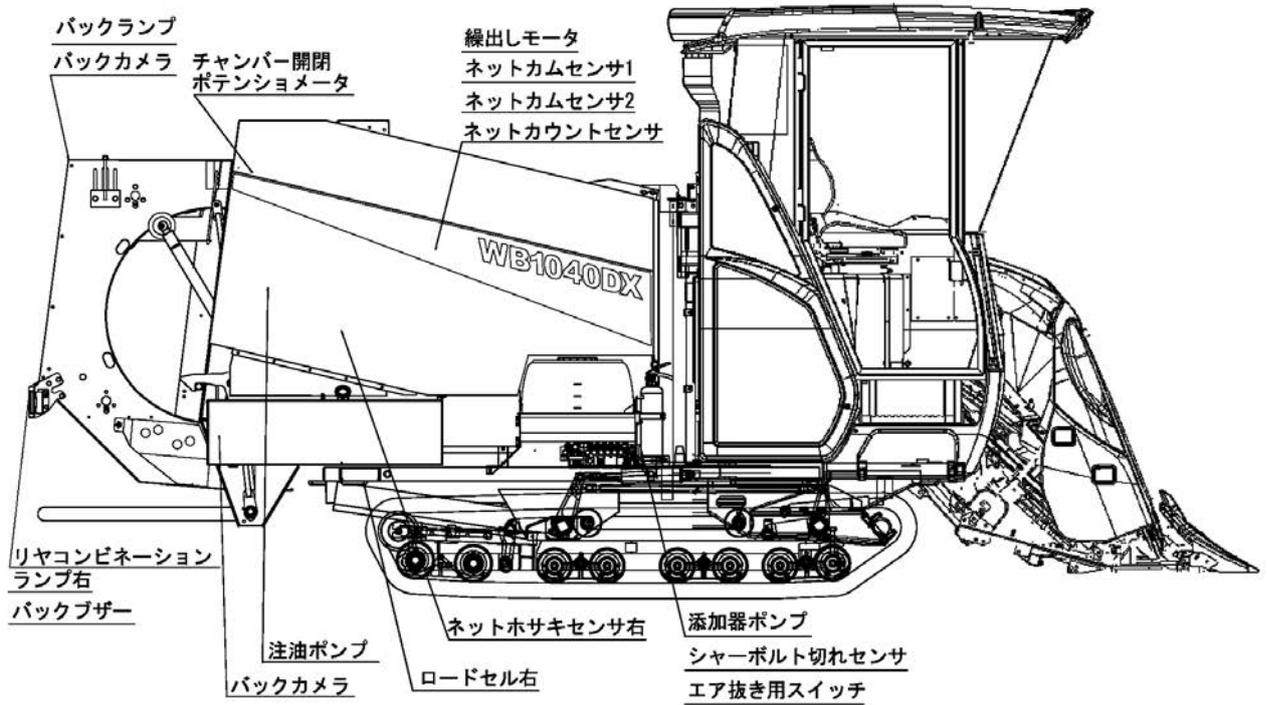
## ◆刈取部シャーピン

φ4×28

部品コード(クボタ) 5H803-4695-0

# 付 表

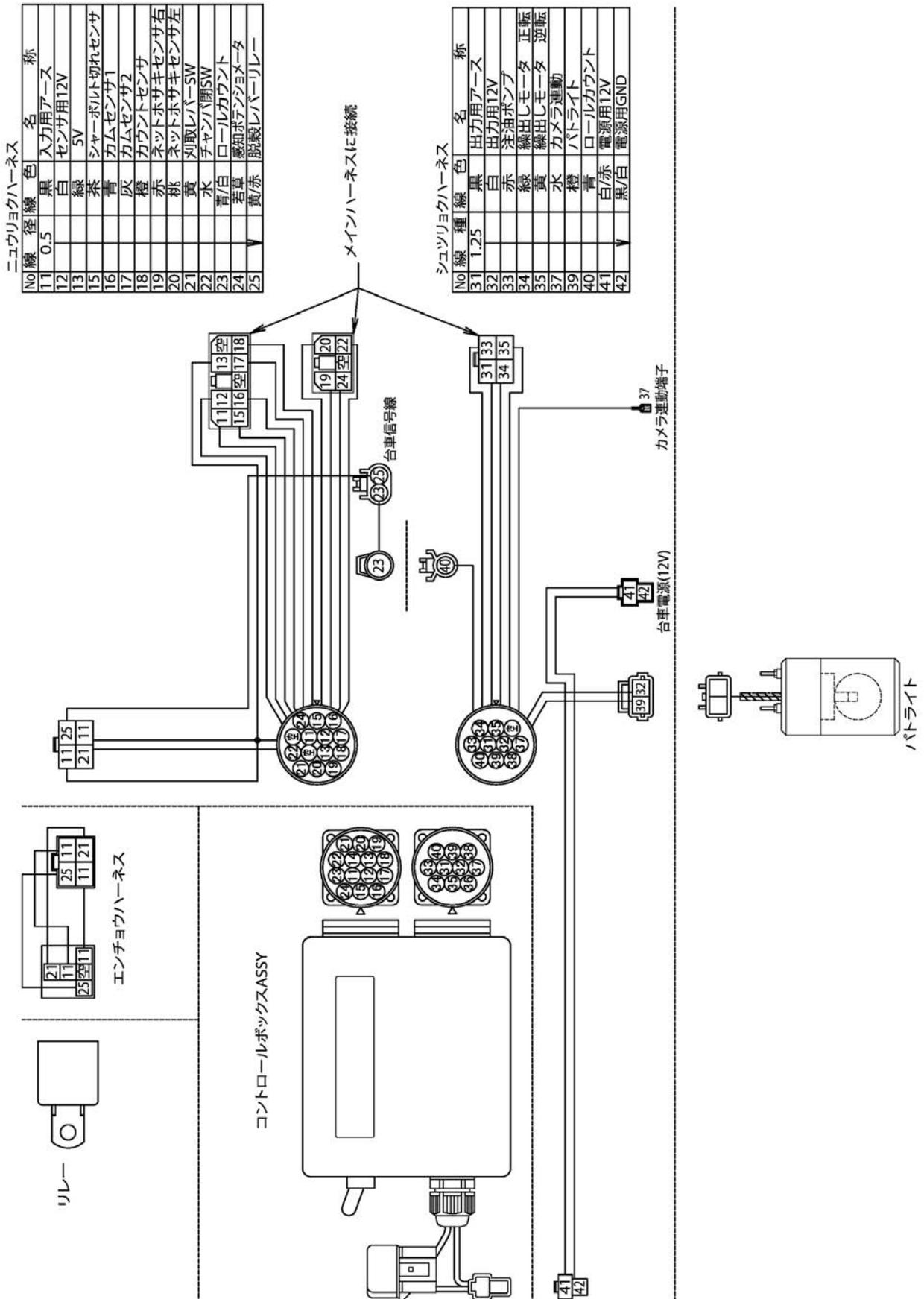
## 4. 電装の位置



# 付 表

## 5. 配線図

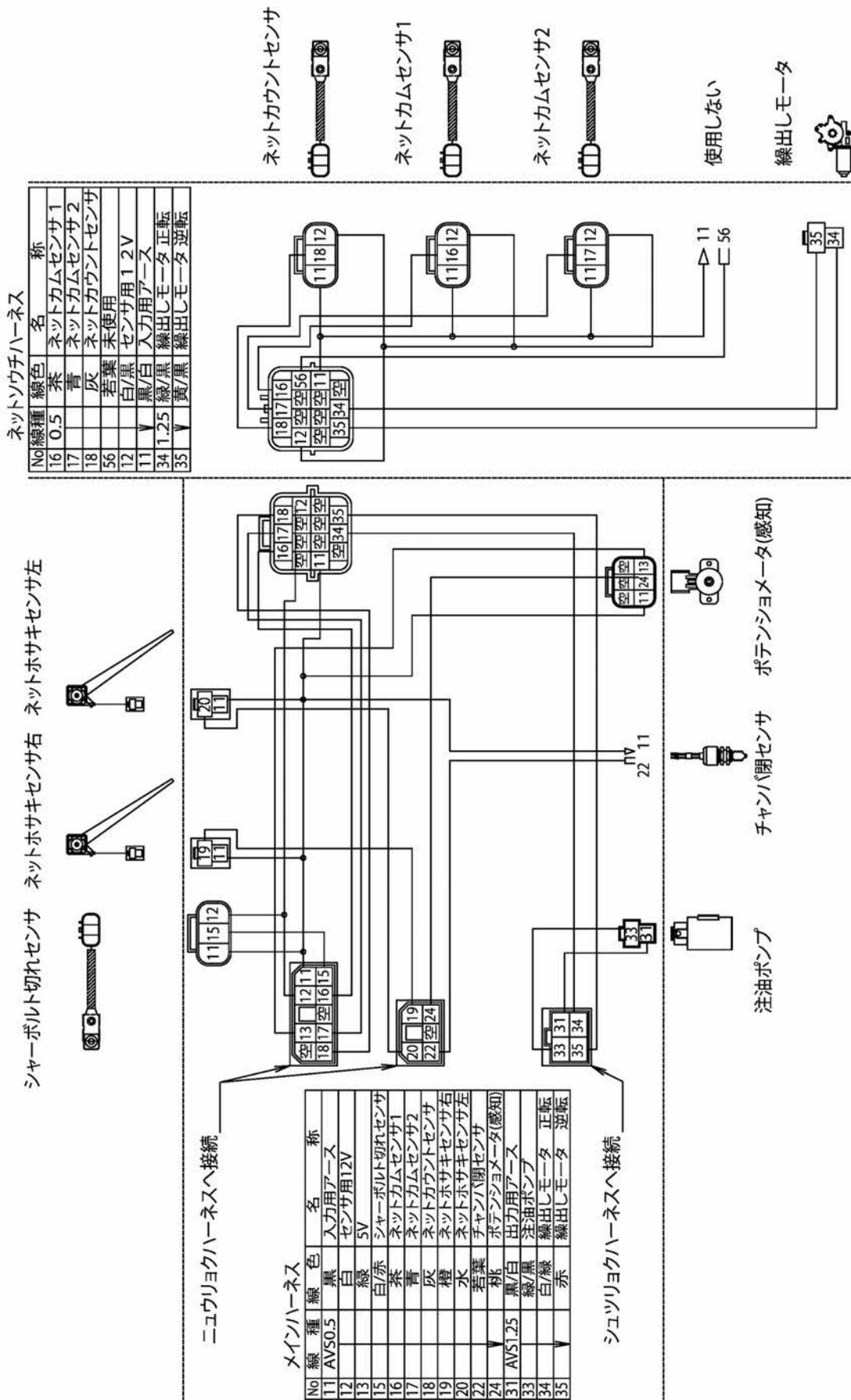
### ・キャビン内部



※各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

# 付 表

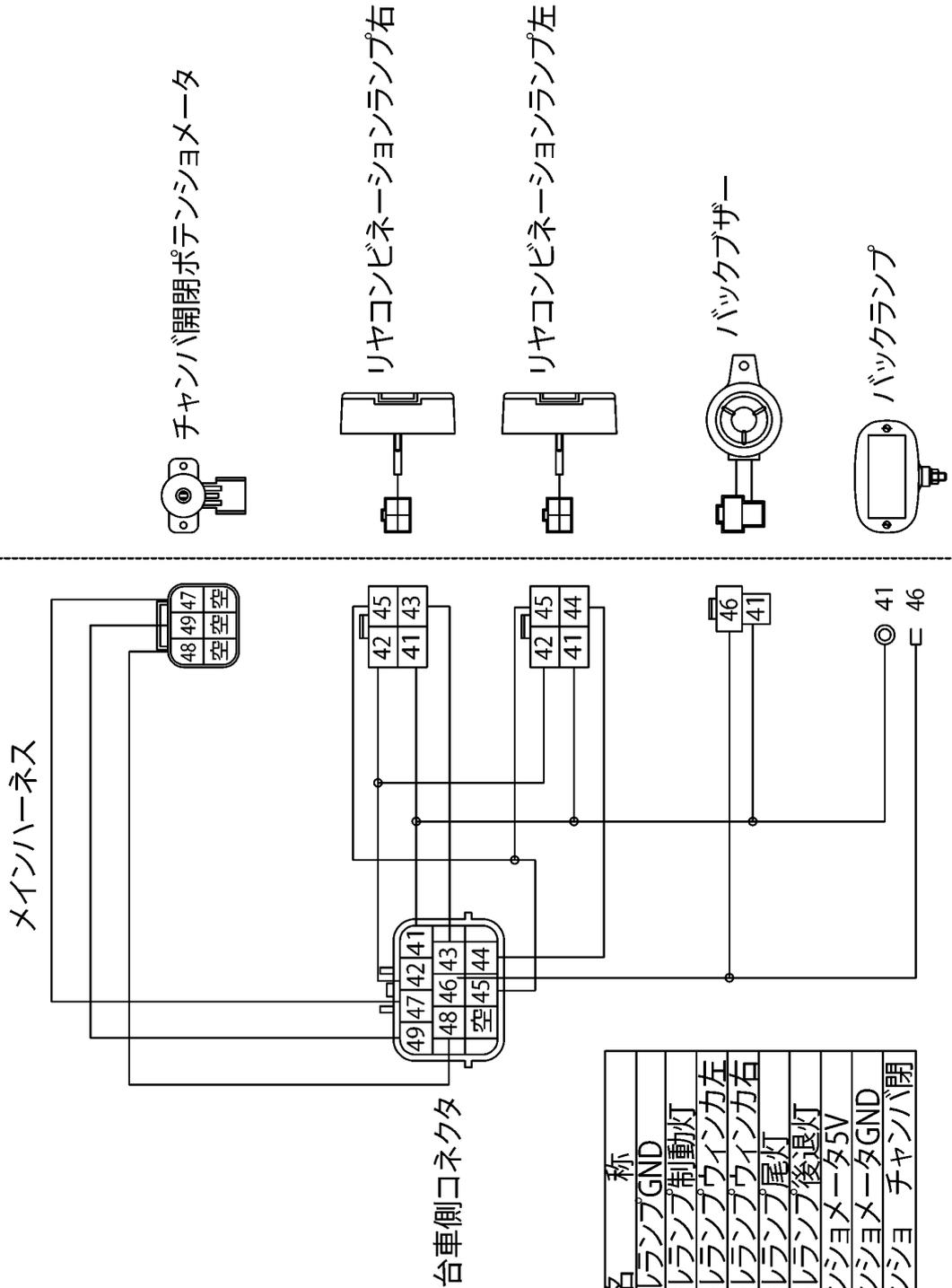
・ ロールペーラ部



※各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

# 付 表

・ 保安部

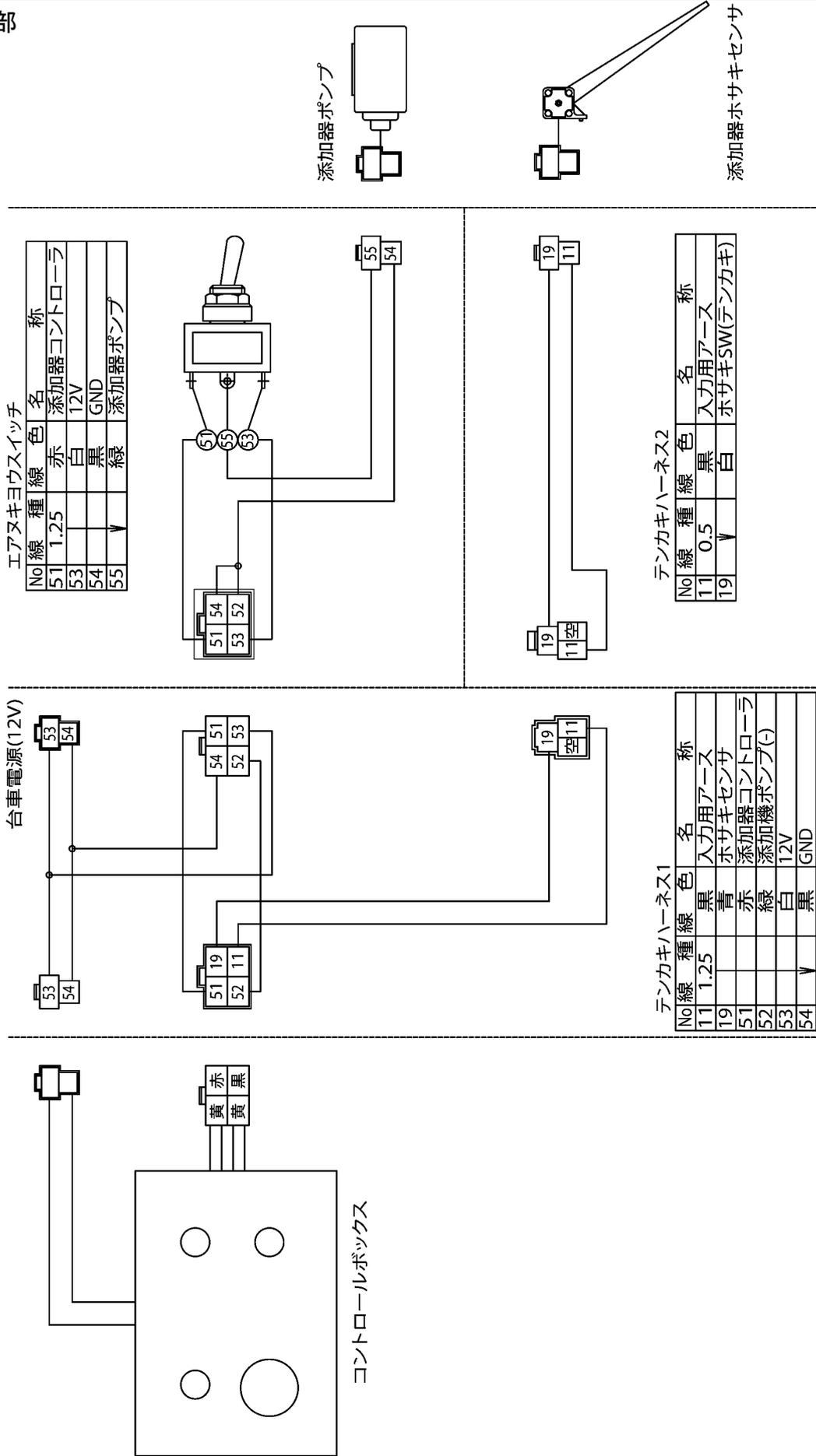


No	線種	線色	名称
41	AVS1.25	黄/黒	テールランプGND
42		黒/赤	テールランプ制御灯
43		白/黄	テールランプウインカ左
44		黄/赤	テールランプウインカ右
45		赤/白	テールランプ尾灯
46		赤/青	テールランプ後退灯
47		緑/青	ポテンシヨメータ5V
48		赤/黒	ポテンシヨメータGND
49	AVS0.5	緑/赤	ポテンシヨチャンネル開

※各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

# 付 表

## ・ 添加器部



※各配線の線色は予告なく変更になる場合があります。

# 付 表

## 6. 主要諸元

品名		自走ホールクロップ収穫機	
型式		WB1040DX	
機体の大きさ	全長 (mm)	5410	
	全幅 (mm)	2150	
	全高 (mm)	2720	
	質量 (kg)	4550	
エンジン	型式	クボタV3800-CR-TE4-CB5	
	種類	水冷4サイクル4気筒立形ディーゼルターボ(直噴)	
	出力/回転速度 (kw[PS]rpm)	55.2 {75.0} / 2600	
	始動方式	セルモーター式	
走行部	クローラー	中心距離(mm)	1205
		幅×接地長(mm)	450×1890
	平均接地圧 (kPa[kg/cm <sup>2</sup> ])		26.4 {0.27}
	変速方式		油圧モータ式(HST)
	走行速度 (m/s)	前進 後進	あぜ越え:0~0.84 作 業:0~1.60 高 速:0~2.61
	旋回方式		e-VCCT(ブレーキ・スピン・ソフトターン)
刈取部	刈幅(mm)		1720~1770
	刈取条数(条)		5
	変速段数		車速同調2段+引起し3段
切断・形成部	切断方式		ディスクカッタ方式
	切断長		理論切断長30mm
	ベール方式		定径式(チェーン・バー式)
	ベール寸法(cm)		Φ100×幅85
	ベール重量(kg)		約300(水分60%)
	使用ネット幅{mm}		1200、1000
	混合方式		ダブルディスク
	作業能率(分/10a)		20~30

注) 作業能率は圃場条件、面積によって変わりますのであくまでも参考値としてください。

燃費:約10L/H

※この主要諸元は改良などにより、予告なく変更することがあります。

# 付 表

## 7. フロン排出抑制法によるお客様点検

# お客様点検用

フロン排出抑制法に基づく  
第一種特定製品（農業機械用エアコン機器等）

## 簡易点検記録表

機 種		管理 責任者
型 式		
機 番		

点 検				項目 基準	機器の 損傷・腐食	機器の 冷媒のもれ	冷媒量 サイトグラスの 状態・点検	機器の騒音	機器の振動	機器の 温度調整機能	気づいたこと
点検者	年	月	日		損傷・ 著しい腐食	油もれ・にじみ		異常な音	異常な振動	温度変化が あること	
				3ヶ月に1回以上点検すること	有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	
					有・無	有・無	正常・異常	有・無	有・無	有・無	



### ■冷媒量チェック表

エアコンの状態	異常なし		異常あり	
サイトグラスの状態	ほとんど透明 泡の流れが見えてもエンジン回転を 上げると透明になる 	気泡の流れるのが見える。 透明または白泡のときもある 	霧のようなものが流れているのが わずかに見える 	ファンを最大で回し、窓を 全開にしてアイドリングで回しても 気泡が見えない 

※不具合や不明なことがあった場合は、販売店にお問い合わせください。

冷媒の漏えいを発見した場合は、速やかに漏えい箇所の特定および修理を依頼してください。漏えい箇所が不明の場合は充填しないでください。

※〔記録の保管〕機械・機器を廃棄したあとも3年間保管する必要があります。

※点検記録表は、この用紙を複写してお使いください。

## 補修用部品の供給年限について

---

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

## 純正部品を使いましょう

---

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をご使用になりますと機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

## 純正アタッチメントを使いましょう

---

純正アタッチメントは一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

# 株式会社 **クキク**

- 本社工場 〒 518-0441 三重県名張市夏見 2828 番地  
TEL 0595-63-3111(代) FAX 0595-64-0857
- 札幌工場 〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠 2 条 3 丁目 1 番 20 号  
TEL 011-781-1111(代) FAX 011-781-1113
- 札幌 〒 007-0882 北海道札幌市東区北丘珠 2 条 3 丁目 1 番 20 号  
TEL 011-781-1111(代) FAX 011-781-1113
- 豊富 〒 098-4110 北海道天塩郡豊富町大通り 12 丁目  
TEL 0162-82-1245(代) FAX 0162-82-1885
- 北見 〒 099-2103 北海道北見市端野町 3 区 305-1  
TEL 0157-56-3326(代) FAX 0157-56-3674
- 中標津 〒 086-1001 北海道標津郡中標津町東 1 条南 10 丁目  
TEL 0153-72-2983(代) FAX 0153-72-3080
- 帯広 〒 082-0005 北海道河西郡芽室町東芽室基線 13-3  
TEL 0155-62-3311(代) FAX 0155-65-3312
- 東北 〒 020-0891 岩手県柴波郡矢巾町流通センター南 3 丁目 2 番 6 号  
TEL 0196-37-2841(代) FAX 0196-38-7225
- 南東北 〒 981-3602 宮城県黒川郡大衡村大衡字尾西 373 番 8 号  
TEL 022-345-6951(代) FAX 022-345-6952
- 関東 〒 323-0012 栃木県小山市大字羽川字下田 66  
TEL 0285-24-4481(代) FAX 0285-24-3791
- 関西 〒 518-0441 三重県名張市夏見 2828 番地  
TEL 0595-63-3111(代) FAX 0595-64-0857
- 中国 〒 708-1123 岡山県津山市下高倉西 845-1  
TEL 0868-29-3131(代) FAX 0868-29-3132
- 九州 〒 834-0115 福岡県八女郡広川町大字新代 1389-163  
TEL 0943-33-1311(代) FAX 0943-33-1312
- 南九州 〒 885-0003 宮崎県都城市高木町 4917 番 1  
TEL 0986-38-4321(代) FAX 0986-38-4342

部 品 コ ー ド

4 7 1 0 2 9 9 1 0 0 1 2